
「新潟県総合計画」
成果指標に関する県民満足度調査
報告書

令和8年2月

新潟県 知事政策局 政策企画課

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査の設計	1
2. 調査項目	1
3. 回収結果	3
4. 集計・分析方法	3
5. 回答者の構成	6
II. 調査結果の解説	10
1. 人口減少問題について	10
(1) 人口減少問題に対する意識	10
(2) 人口減少問題への対応	12
2. これまでの居住の状況等について	14
(1) これまでの居住状況	14
(2) U・I ターンした（予定する）理由	16
(3) 転入時点の年齢	18
(4) 転入前の住居	20
3. 危機管理体制について	25
(1) 令和4年度以降の災害・危機対応への評価	25
(2) 評価のもととなった情報源	27
(3) 的確に行われていなかった事案	29
(4) 的確に行われていなかった部分	31
4. 災害や危機への備えについて	33
(1) 災害や危機への対策状況	33
(2) 災害や危機への対策内容	35
(3) 対策を講じていない主な理由	37
5. 消費者被害について	39
(1) 消費者被害の経験	39
(2) 被害やトラブルに遭ったときの対処方法	52
(3) 県や市町村の消費生活センター（相談窓口）の認知度	54
6. 環境について	56
(1) 地域の環境に関する満足度	56
(2) 自然環境に満足している理由	64
(3) 自然環境に満足していない理由	66
(4) 身近な生活環境に満足している理由	68

(5) 身近な生活環境に満足していない理由	70
(6) 気になる気候変動の影響	72
(7) 自然環境の継承に関して行政に望むこと	74
7. 拉致問題について	76
(1) 拉致問題についての関心	76
(2) 政府の拉致問題啓発についての取組の評価	78
(3) 県の拉致問題啓発についての取組の認知	80
(4) 県の拉致問題啓発の取組についての評価	82
8. 子育て環境について	84
(1) 地域の子育て環境に対する評価	84
(2) 特に力を入れてほしい施策	86
(3) ①理想の子どもの数	88
(3) ②現実的に考えた時の子どもの数	90
(4) 理想と現実の差が生じている理由	92
9. 人権問題について	95
(1) 人権問題や人権侵害のニュースや報道が気になった経験の有無	95
(2) 人権を尊重することに対する考え方	97
(3) 人権問題を感じた経験の有無	99
(4) 人権の問題があると思う分野	101
10. 家事・育児等について	103
(1) 家事に費やす時間	103
(2) 家事に費やす時間／一人暮らしを除く	106
11. 社会活動について	109
(1) 社会活動への参加状況	109
(2) 団体などへの加入状況	111
(3) 社会活動に参加した理由	113
(4) 社会活動に参加しなかった理由	115
12. 魅力的な生活環境の創出に向けたまちづくりについて	117
(1) 居住市区町村の魅力	117
(2) 居住市町村の魅力を感じる場所	119
(3) 居住市町村の魅力を高めるために力を入れるべきこと	121
13. 定住意向について	123
(1) 現居住地域への定住意向	123
(2) 現居住地域への定住意向（条件不利地域）	126
(3) 移りたい地域	129
(4) 移りたい理由	131
(5) 新潟県への愛着や誇り	133
(6) 現居住地域への愛着や誇り	135
(7) 現居住地域への若者の定住希望	137

(8) 住み続けて（戻って来て）ほしいとは思わない理由	139
(9) 現居住地において改善してほしいこと	141
14. 積雪時の対応について	143
(1) 積雪時の安心感	143
(2) 積雪時でも、より安心して暮らすために必要な取り組み	145
15. 雪イベント等について	147
(1) 雪イベント等の参加・利用状況	147
16. 移動手段の確保について	155
(1) 移動手段の確保状況	155
(2) 公共交通機関の利便性	157
17. 教育について	159
(1) 「一人一人の個性や能力を伸ばす教育」に関する取組について	159
(2) 十分であると感じた取組	161
(3) 不十分であると感じた取組	163
(4) 教育に関する取組への関心	165
18. 生涯学習について	167
(1) この1年間の学習状況	167
(2) 学習した場所・形態	169
(3) 学習成果の活用状況	171
(4) 学んでいない理由	173
Ⅲ. 調査票様式	175

◇ 本報告書の利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は、規正標本数を基に算出した百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。そのため、個々の内訳の和と、複数の内訳の小計及び総計（100％）が一致しない場合がある。
2. 図表中の「n（number of cases の略）」とは、回答者総数（該当者質問では該当者数）のことで、100％が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
3. 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

I. 調査の概要

1. 調査の設計

- (1) 調査目的：新潟県の最上位の行政計画である「新潟県総合計画～住んでよし、訪れてよしの新潟県～」に掲げた達成目標（成果指標）のうち、県民の意識や満足度を設定した指標について、毎年度の状況把握・分析及び計画見直し時の適切な評価の実施に資するため、県民を対象にした意識・満足度の一括調査を実施する。
- (2) 調査地域：新潟県全域
- (3) 調査対象：新潟県内に居住する18歳以上の男女個人
- (4) 標本数：3,000（人）
- (5) 抽出方法：層化二段無作為抽出法（市町村の保有する選挙人名簿抄本より抽出）
県内6地域別（4ページ参照）の分析を行うにあたり、地域ごとの標本誤差のバラつきを抑えるため、全3,000標本のうち、1,080標本を各地域に均等に配分（180標本×6地域）し、1,920標本を各地域の推定母集団数（令和2年国勢調査結果）に比例させて配分した。
なお、調査結果は推定母集団数と回収結果から算出した「集計ウェイト」により標本数を規正してある。
- (6) 調査方法：郵送による調査票の配布・郵送又はwebによる回収
- (7) 調査期間：令和7年11月14日（金）～12月5日（金）

2. 調査項目

- (1) 人口減少問題について
 - ・人口減少問題に対する意識
 - ・人口減少問題への対応
- (2) これまでの居住の状況等について
 - ・これまでの居住状況
 - ・U・Iターンした（予定する）理由
 - ・転入時点の年齢
 - ・転入前の住居
- (3) 危機管理体制について
 - ・令和4年度以降の災害・危機対応への評価
 - ・評価のもととなった情報源
 - ・的確に行われていなかった事案
 - ・的確に行われていなかった部分
- (4) 災害や危機への備えについて
 - ・災害や危機への対策状況
 - ・災害や危機への対策内容
 - ・対策を講じていない主な理由
- (5) 消費者被害について
 - ・消費者被害の経験
 - ・被害やトラブルに遭ったときの対処方法
 - ・県や市町村の消費生活センター（相談窓口）の認知度
- (6) 環境について
 - ・地域の環境に関する満足度
 - ・自然環境に満足している理由
 - ・自然環境に満足していない理由
 - ・身近な生活環境に満足している理由
 - ・身近な生活環境に満足していない理由
 - ・気になる気候変動の影響
 - ・自然環境の継承に関して行政に望むこと
- (7) 拉致問題について
 - ・拉致問題についての関心
 - ・政府の拉致問題啓発についての取組の評価

- ・ 県の拉致問題啓発についての取組の認知
- ・ 県の拉致問題啓発の取組についての評価
- (8) 子育て環境について
 - ・ 地域の子育て環境に対する評価
 - ・ 特に力を入れてほしい施策
 - ・ 理想の子どもの数
 - ・ 現実的に考えた時の子どもの数
 - ・ 理想と現実の差が生じている理由
- (9) 人権問題について
 - ・ 人権問題や人権侵害のニュースや報道が気になった経験の有無
 - ・ 人権を尊重することに対する考え方
 - ・ 人権問題を感じた経験の有無
 - ・ 人権の問題があると思う分野
- (10) 家事・育児等について
 - ・ 家事に費やす時間（1日平均）
 - ・ 家事に費やす時間／一人暮らしを除く（1日平均）
- (11) 社会活動について
 - ・ 社会活動への参加状況
 - ・ 団体などへの加入状況
 - ・ 社会活動に参加した理由
 - ・ 社会活動に参加しなかった理由
- (12) 魅力的な生活環境の創出に向けたまちづくりについて
 - ・ 居住市区町村の魅力
 - ・ 居住市町村の魅力を感じるどころ
 - ・ 居住市町村の魅力を高めるために力を入れるべきこと
- (13) 定住意向について
 - ・ 現居住地への定住意向
 - ・ 現居住地への定住意向（条件不利地域）
 - ・ 移りたい地域
 - ・ 移りたい理由
 - ・ 新潟県への愛着や誇り
 - ・ 現居住地への愛着や誇り
 - ・ 現居住地への若者の定住希望
 - ・ 住み続けて（戻って来て）ほしいとは思わない理由
 - ・ 現居住地において改善してほしいこと
- (14) 積雪時の対応について
 - ・ 積雪時の安心感
 - ・ 積雪時でも、より安心して暮らすために必要な取り組み
- (15) 雪イベント等について
 - ・ 雪イベント等の参加・利用状況
- (16) 移動手段の確保について
 - ・ 移動手段の確保状況
 - ・ 公共交通機関の利便性
- (17) 教育について
 - ・ 「一人一人の個性や能力を伸ばす教育」に関する取組について
 - ・ 十分であると感じた取組
 - ・ 不十分であると感じた取組
 - ・ 教育に関する取組への関心
- (18) 生涯学習について
 - ・ この1年間の学習状況
 - ・ 学習した場所・形態
 - ・ 学習成果の活用状況
 - ・ 学んでいない理由
- (19) 回答者の属性（性別、年齢、居住地、職業等）

3. 回収結果

回収数 2,017 (回収率67.2%)

(うち地域・性別・年齢のいずれかが不明80)

有効回収数(集計対象数) 1,937 (有効回収率56.1%)

【回答方法の内訳】

	合計	郵送	WEB
全体	1,937	1,369 (70.7%)	568 (29.3%)
18～19歳	27	16 (59.3%)	11 (40.7%)
18～29歳	101	39 (38.6%)	62 (61.4%)
30～39歳	167	73 (43.7%)	94 (56.3%)
40～49歳	272	145 (53.3%)	127 (46.7%)
50～59歳	339	200 (59.0%)	139 (41.0%)
60～69歳	382	294 (77.0%)	88 (23.0%)
70歳以上	649	602 (92.8%)	47 (7.2%)

4. 集計・分析方法

集計・分析にあたり、回答者の居住地域・性別・年齢階層の偏りを補正し、回答者の構成が県全体の縮図となるよう、地域別及び性・年齢別の集計ウェイト(地域ウェイト×性・年齢ウェイト)を乗じて標本数を規正した(条件不利地域に係る集計設問は除く)。(地域の区分は4ページ参照。)

集計結果は、この規正標本数を基に回答者の割合(百分比%)等を算出している。

なお、規正標本数は、乗算結果の小数点以下第1位を四捨五入して表示しているため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。

「集計ウェイト」(地域ウェイト×性・年齢ウェイト)

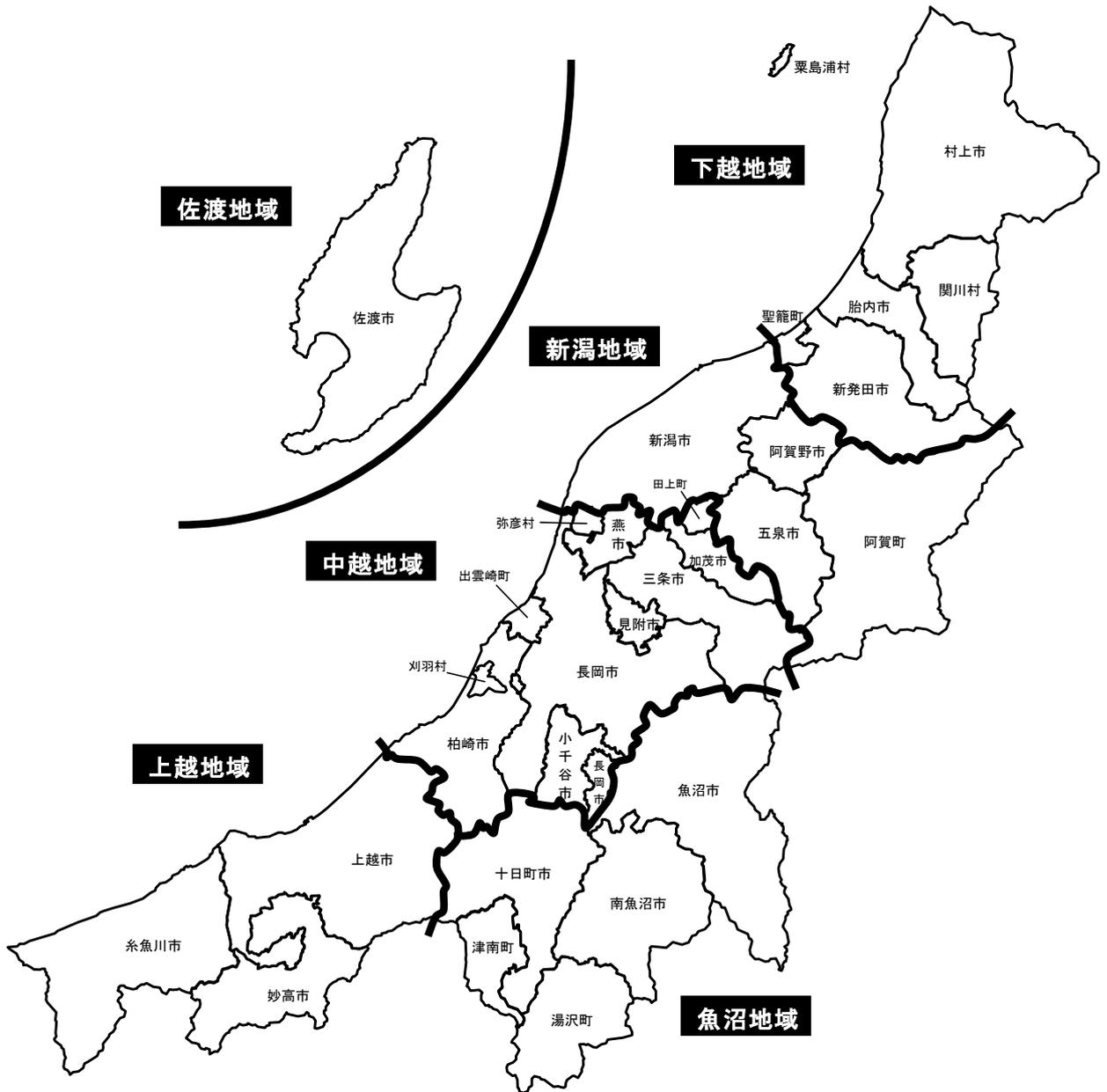
地 域	性 別	年 齢					
		18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上
下越地域	男 性	1.750	0.813	1.109	0.661	0.601	0.465
	女 性	1.282	0.969	0.699	0.402	0.697	0.631
新潟地域	男 性	4.459	2.212	1.356	1.093	1.050	0.997
	女 性	1.729	1.678	1.283	1.130	1.032	1.322
中越地域	男 性	2.087	1.255	1.681	0.961	1.104	0.946
	女 性	2.112	2.020	1.239	0.984	1.183	1.163
魚沼地域	男 性	0.921	1.281	0.781	0.723	0.562	0.567
	女 性	0.604	1.003	0.642	0.803	0.452	0.965
上越地域	男 性	0.966	1.923	1.055	0.912	0.850	0.873
	女 性	1.530	0.725	0.941	0.668	0.852	0.671
佐渡地域	男 性	0.449	0.250	0.272	0.382	0.364	0.415
	女 性	0.321	0.665	0.458	0.209	0.208	0.299

「規正標本数」(個々の回答者に「集計ウェイト」を乗じて規正した標本数)

上段：構成比(%) / 下段：規正標本数

地 域	合 計	性 別		年 齢					
		男 性	女 性	18～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70 歳 以上
全 体	100.0	48.0	52.0	11.3	11.9	15.8	14.9	16.8	29.3
	1,937	929	1,008	219	230	307	289	325	568
下越地域	100.0	46.8	53.2	4.9	8.6	11.2	19.5	18.4	37.5
	267	125	142	13	23	30	52	49	100
新潟地域	100.0	47.0	53.0	6.6%	8.6%	16.6%	17.7%	19.9%	30.6%
	592	278	314	39	51	98	105	118	181
中越地域	100.0	50.1	49.9	6.4%	9.4%	13.7%	18.8%	18.0%	33.6%
	467	234	233	30	44	64	88	84	157
魚沼地域	100.0	49.5	50.5	8.6%	6.6%	14.1%	13.1%	26.8%	30.8%
	198	98	100	17	13	28	26	53	61
上越地域	100.0	42.6	57.4	7.5%	9.1%	13.2%	16.6%	17.4%	36.2%
	265	113	152	20	24	35	44	46	96
佐渡地域	100.0	42.6	57.4d	6.1%	8.1%	11.5%	16.2%	21.6%	36.5%
	148	63	85	9	12	17	24	32	54

【地域区分】



下越地域
新発田市
村上市
胎内市
聖籠町
関川村
粟島浦村

新潟地域
新潟市
五泉市
阿賀野市
阿賀町

中越地域
長岡市
三條市
柏崎市
小千谷市
加茂市
見附市
燕市
弥彦村
田上町
出雲崎町
刈羽村

魚沼地域
十日町市
魚沼市
南魚沼市
湯沢町
津南町

上越地域
糸魚川市
妙高市
上越市

佐渡地域
佐渡市

5. 回答者の構成

問 19-1 性別

凡例：



全体
(n=1937)



【年齢別】

18～19歳
(n=40)



20～29歳
(n=179)



30～39歳
(n=230)



40～49歳
(n=307)



50～59歳
(n=289)



60～69歳
(n=325)



70歳以上
(n=568)



【地域別】

下越地域
(n=155)



新潟地域
(n=674)



中越地域
(n=496)



魚沼地域
(n=121)



上越地域
(n=199)



佐渡地域
(n=41)

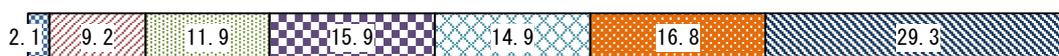


問 19-2 年齢別

凡例：

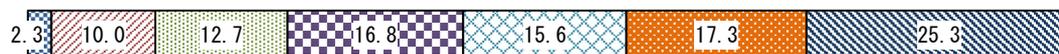


全体
(n=1937)



【性別】

男性
(n=929)

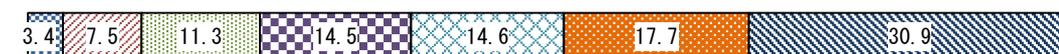


女性
(n=1008)

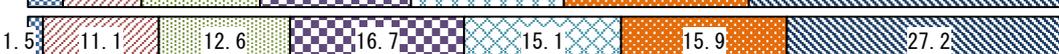


【地域別】

下越地域
(n=178)



新潟地域
(n=774)



中越地域
(n=570)



魚沼地域
(n=139)



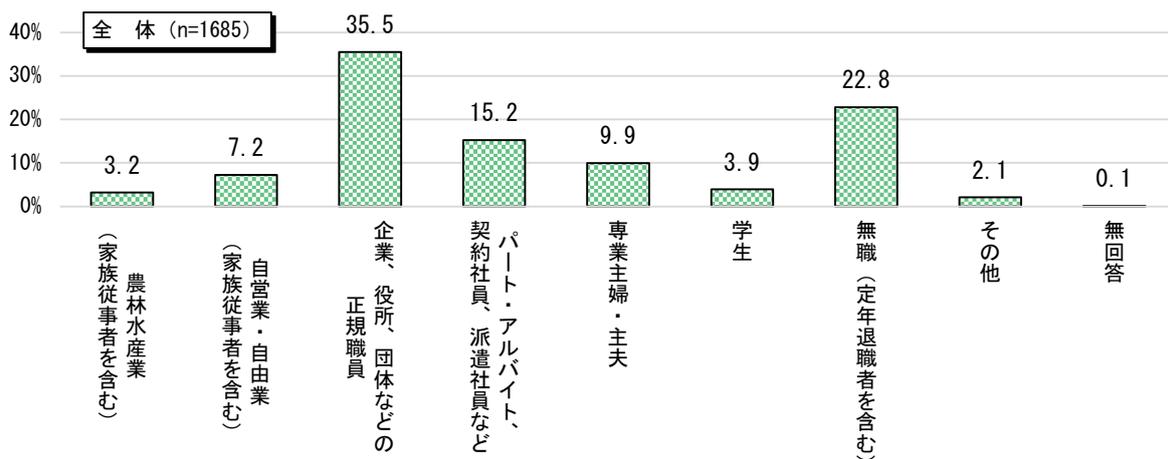
上越地域
(n=228)



佐渡地域
(n=41)



問 19-3 職業別



割合 (%)	農林水産業 (家族従事者を含む)	自営業・自由業 (家族従事者を含む)	企業、役所、団体などの正規職員	パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など	専業主婦・主夫	学生	無職 (定年退職者を含む)	その他	無回答
全体 (n=1937)	3.2	7.2	35.5	15.2	9.9	3.9	22.8	2.1	0.1

【性別】

男性 (n=929)	5.4	8.9	47.6	6.9	0.5	4.0	23.2	3.3	0.2
女性 (n=1008)	1.2	5.7	24.4	23.0	18.5	3.9	22.3	1.0	0.0

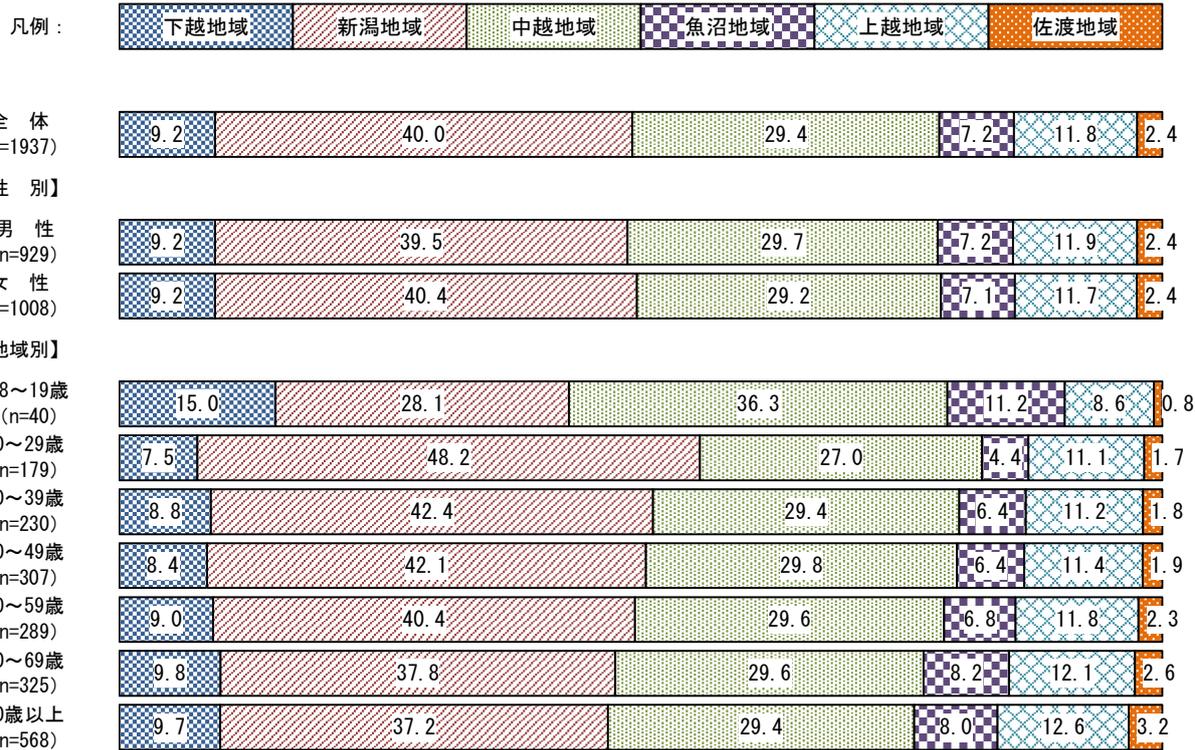
【年齢別】

18~19歳 (n=40)	11.0	0.0	3.8	0.0	0.0	85.2	0.0	0.0	0.0
20~29歳 (n=179)	0.0	0.5	55.1	10.6	1.9	22.0	3.2	6.7	0.0
30~39歳 (n=230)	1.1	8.3	65.1	16.3	3.1	1.0	4.0	1.1	0.1
40~49歳 (n=307)	1.9	8.0	60.9	21.3	3.2	0.0	2.2	2.5	0.0
50~59歳 (n=289)	2.2	9.4	60.3	19.2	4.0	0.0	2.9	2.0	0.0
60~69歳 (n=325)	3.1	8.2	20.5	29.0	14.5	0.0	22.4	2.1	0.1
70歳以上 (n=568)	5.7	7.3	1.9	4.2	19.8	0.0	59.6	1.2	0.3

【地域別】

下越地域 (n=178)	3.6	6.5	32.8	17.8	7.8	6.8	23.1	1.3	0.3
新潟地域 (n=774)	3.0	6.0	36.0	15.4	11.1	3.9	21.9	2.6	0.1
中越地域 (n=570)	1.8	6.8	37.8	13.5	9.9	4.0	23.3	2.8	0.0
魚沼地域 (n=139)	7.4	14.9	33.8	12.1	8.4	3.7	18.7	1.0	0.0
上越地域 (n=228)	4.4	6.7	34.3	18.7	8.5	1.9	24.4	1.0	0.0
佐渡地域 (n=47)	4.2	14.4	21.0	16.5	8.2	2.3	31.9	0.0	1.4

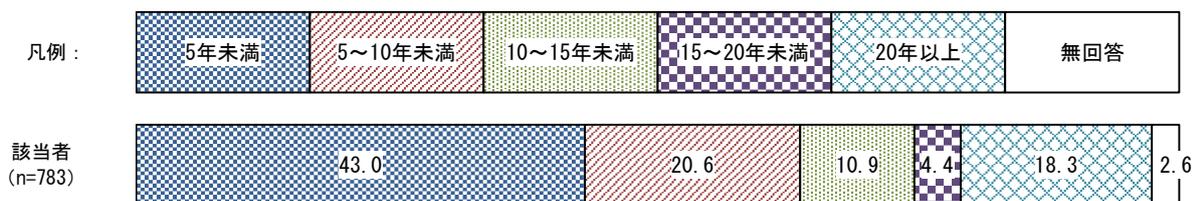
問 19-4 居住地域別



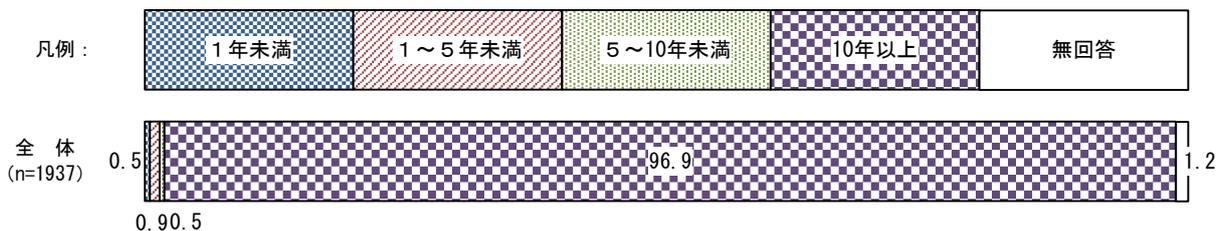
問 19-5 新潟県外の居住経験別



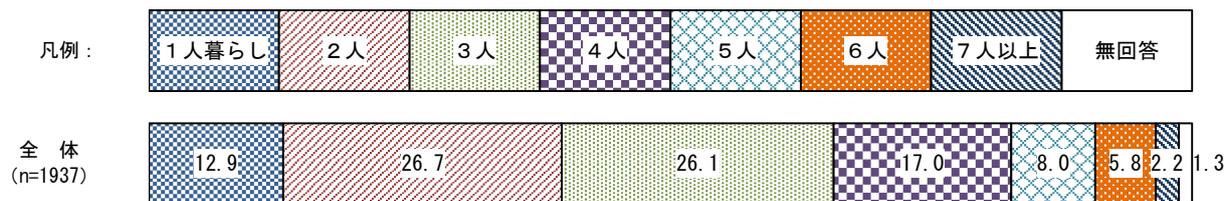
問 19-5-補問 新潟県外の居住年数別



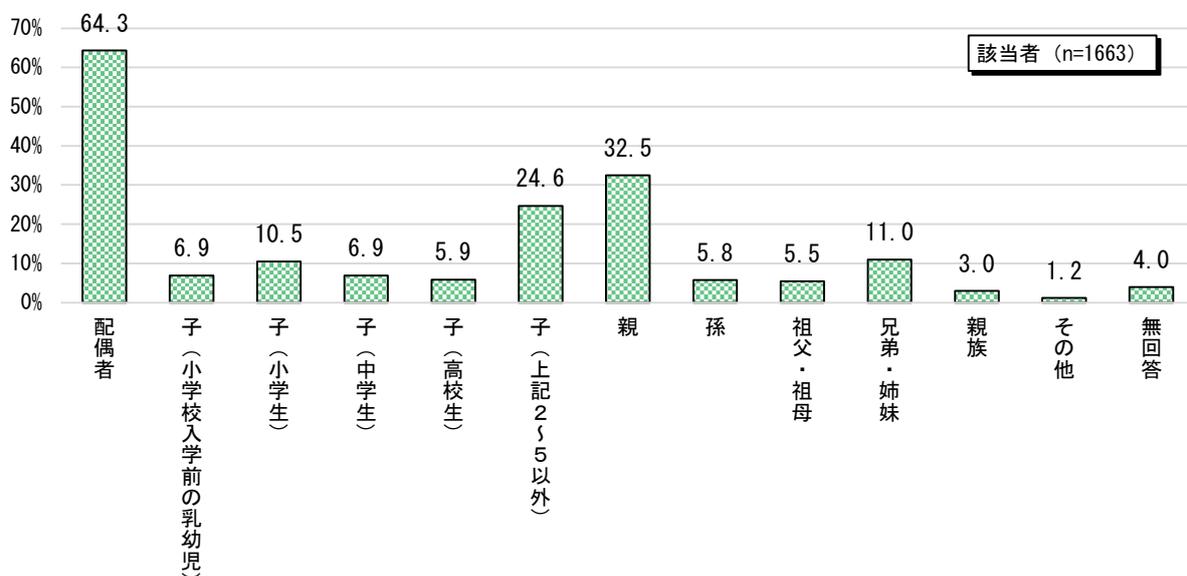
問 19-6 新潟県内の居住年数別



問 19-7 同居家族人数別



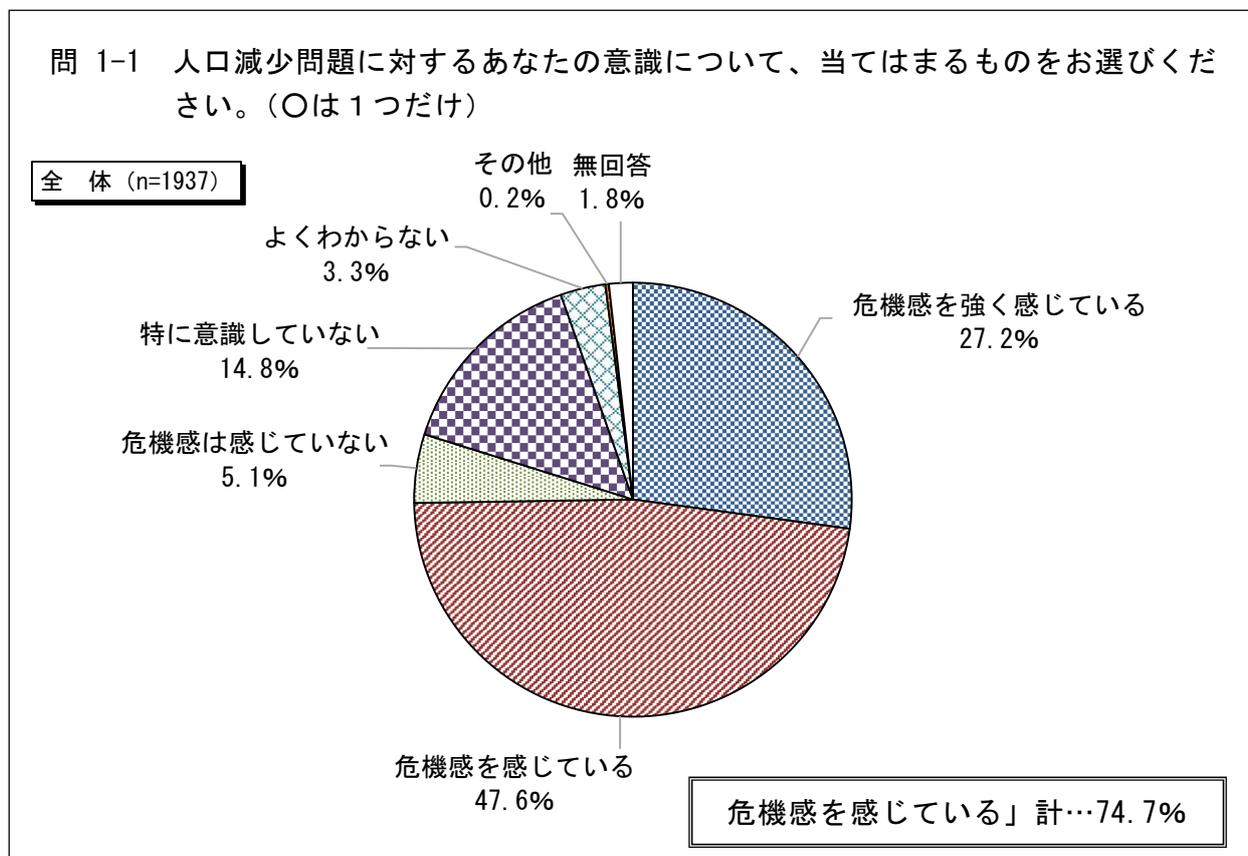
問 19-8 同居家族の続柄別 ※「1人暮らし」以外の人への該当質問



Ⅱ. 調査結果の解説

1. 人口減少問題について

(1) 人口減少問題に対する意識



【全体結果】

「危機感を強く感じている」(27.2%)が3割弱、「危機感を感じている」(47.6%)が5割弱、合計した『危機感を感じている』計(74.7%)が7割半ばとなっている。一方で、「危機感を感じていない」は5.1%、「特に意識はしていない」は14.8%となっている。

【性別】

『危機感を感じている』計(男性76.3%、女性73.3%)の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

『危機感を感じている』計の割合は、60代(79.4%)と70歳以上(79.0%)で約8割と高い水準となっている。一方で20代(66.6%)が最も低く、10代(67.5%)や30代(68.1%)も7割弱にとどまっている。また、40代(71.7%)、50代(75.8%)と年代が上がるにつれて割合が高まる傾向がみられる。

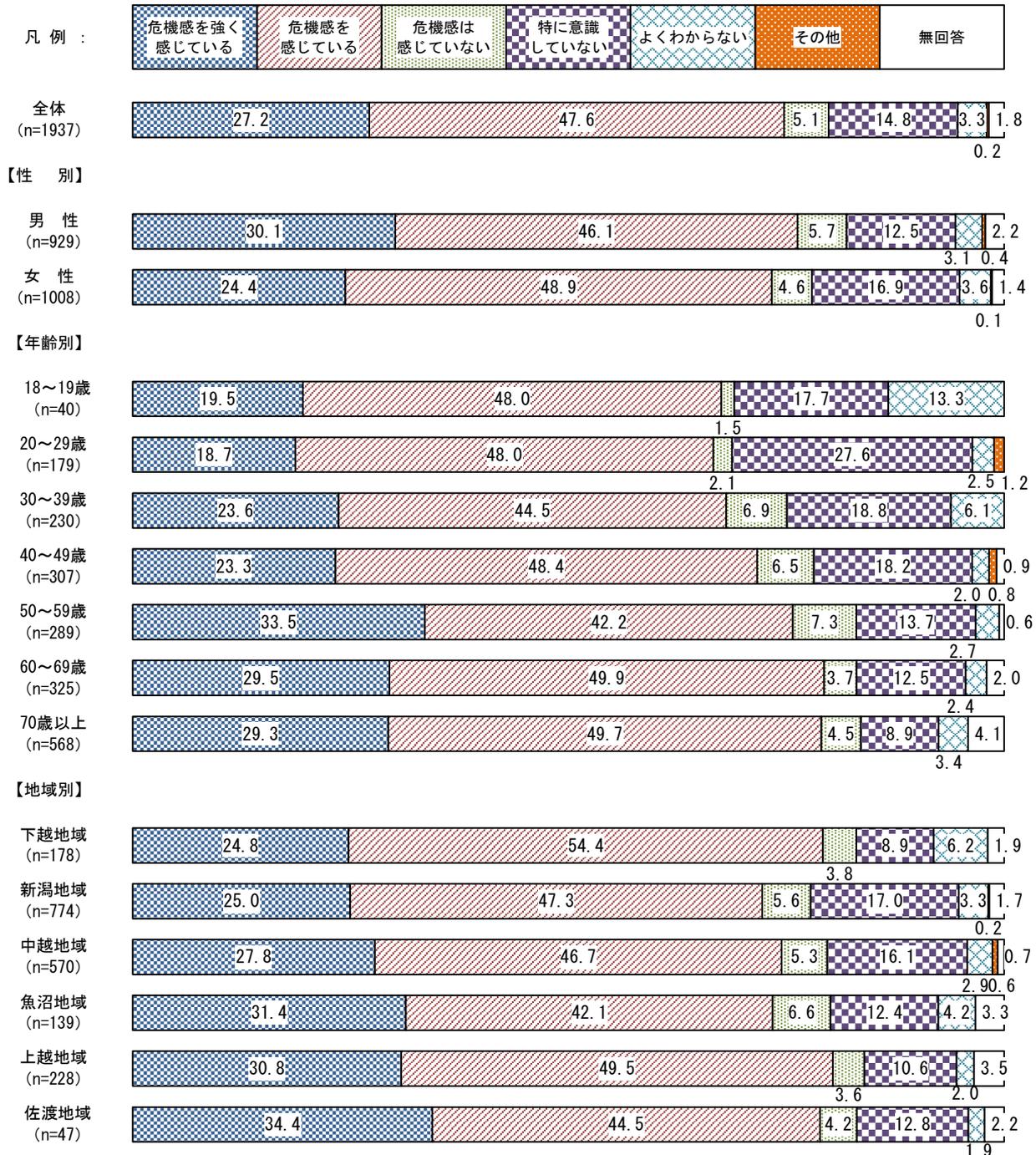
【地域別】

『危機感を感じている』計の割合は、上越地域(80.3%)が高く、8割を超えている。

	『危機感を感じている』計
全体 (n=1937)	74.7%
【性別】 男性 (n=929)	76.3%
女性 (n=1008)	73.3%
【年齢別】 18～19歳 (n=40)	67.5%
20～29歳 (n=179)	66.6%
30～39歳 (n=230)	68.1%
40～49歳 (n=307)	71.7%
50～59歳 (n=289)	75.8%
60～69歳 (n=325)	79.3%
70歳以上 (n=568)	79.0%

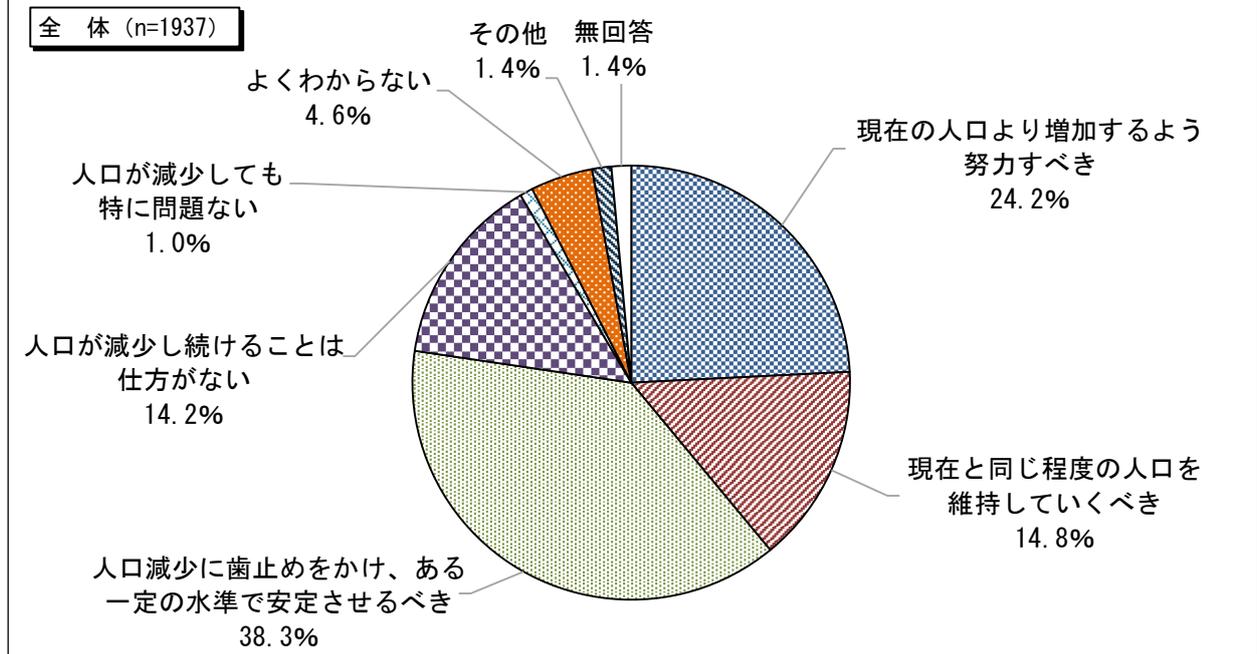
【地域別】	『危機感を感じている』計
下越地域 (n=178)	79.2%
新潟地域 (n=774)	72.3%
中越地域 (n=570)	74.5%
魚沼地域 (n=139)	73.5%
上越地域 (n=228)	80.3%
佐渡地域 (n=47)	78.9%

(1) 人口減少問題に対する意識 (全体／属性別)



(2) 人口減少問題への対応

問 1-2 人口減少問題についてどのように対応していけばよいか、当てはまるものをお選びください。(〇は1つだけ)



【全体結果】

「人口減少に歯止めをかけ、ある一定の水準で安定させるべき」(38.3%)と答えた割合が4割弱で最も高い。以下「現在の人口より増加するよう努力すべき」(24.2%)が2割半ば、「現在と同じ程度の人口を維持していくべき」(14.8%)が1割半ば、「人口が減少し続けることは仕方がない」(14.2%)が順に続いている。

【性別】

「現在の人口より増加するよう努力すべき」(男性 27.4%、女性 21.3%)と答えた割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

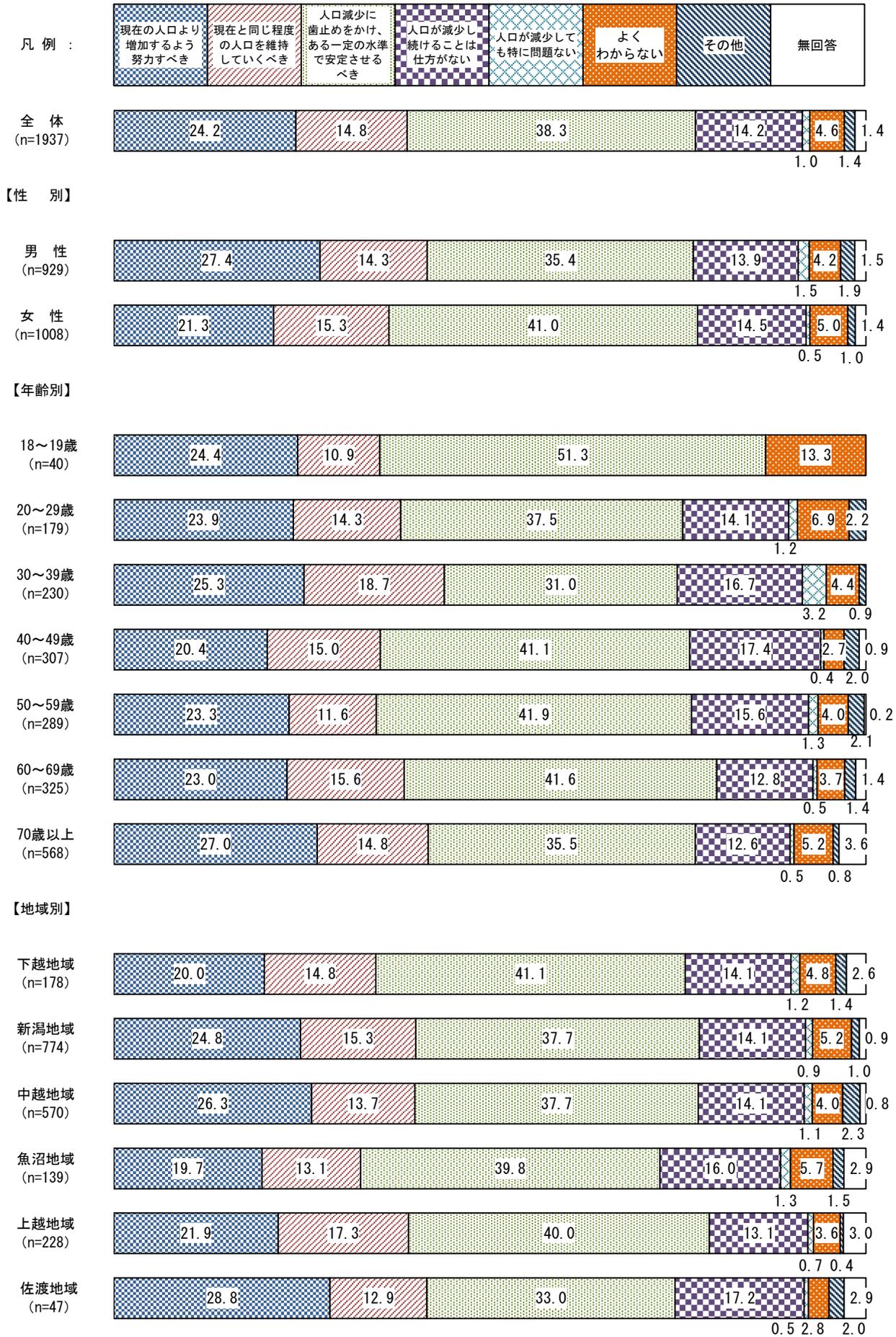
どの年代でも「人口減少に歯止めをかけ、ある一定の水準で安定させるべき」と答えた割合が最も高くなっている。

【地域別】

「人口減少に歯止めをかけ、ある一定の水準で安定させるべき」と答えた割合は、下越地域(41.1%)が最も高く4割を超えている。

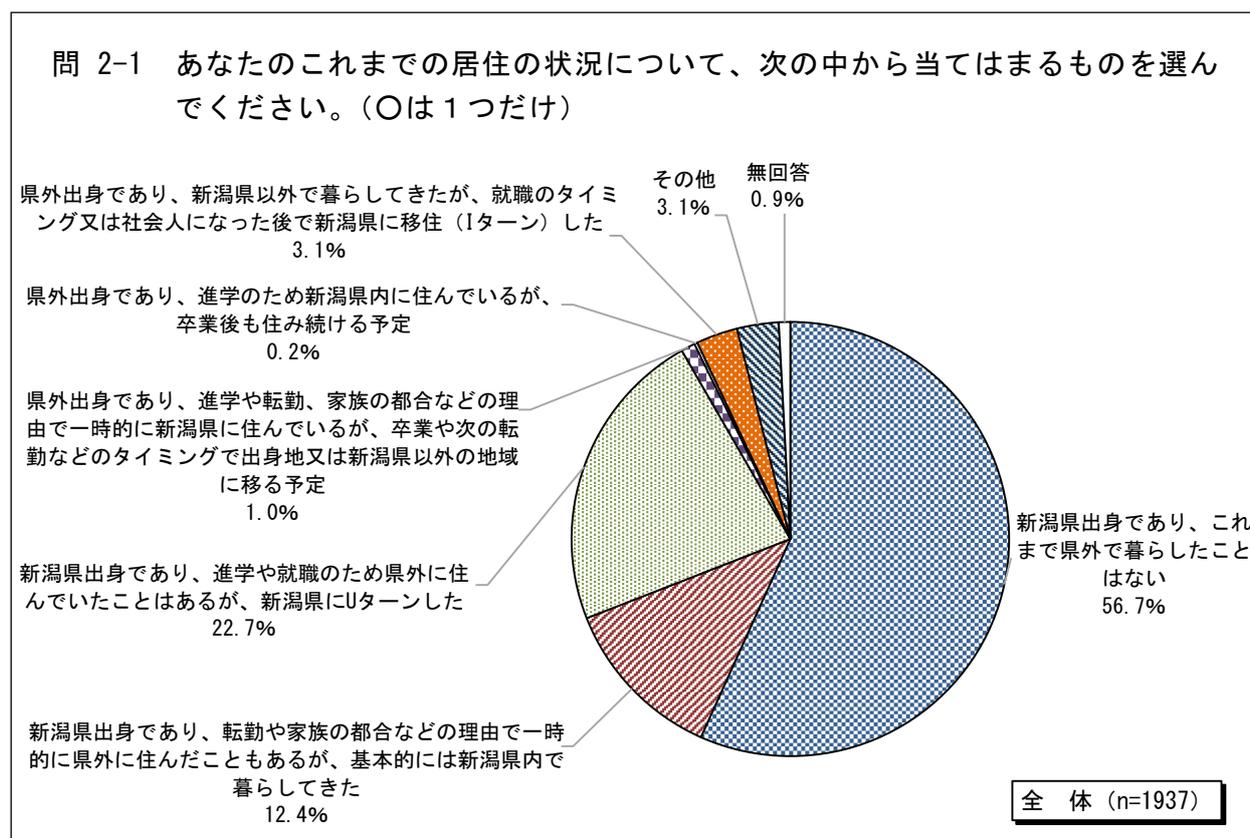
「現在の人口より増加するよう努力すべき」は、佐渡地域(28.8%)が最も高く3割近くになっている。

(2) 人口減少問題への対応 (全体/属性別)



2. これまでの居住の状況等について

(1) これまでの居住状況



【全体結果】

「新潟県出身であり、これまで県外で暮らしたことはない」(56.7%)と答えた割合が5割半ばで最も高く、以下「新潟県出身であり、進学や就職のため県外に住んでいたことはあるが、新潟県にUターンした」(22.7%)が2割強、「新潟県出身であり、転勤や家族の都合などの理由で一時的に県外に住んだこともあるが、基本的には新潟県内で暮らしてきた」(12.4%)が1割強で続く。他は1割未満となっている。

【性別】

「新潟県出身であり、これまで県外で暮らしたことはない」(男性51.8%、女性61.2%)の割合は、女性の方が高く、「新潟県出身であり、進学や就職のため県外に住んでいたことはあるが、新潟県にUターンした」(男性24.8%、女性20.7%)、「新潟県出身であり、転勤や家族の都合などの理由で一時的に県外に住んだこともあるが、基本的には新潟県内で暮らしてきた」(男性14.9%、女性10.0%)の割合は男性の方が高くなっている。

【年齢別】

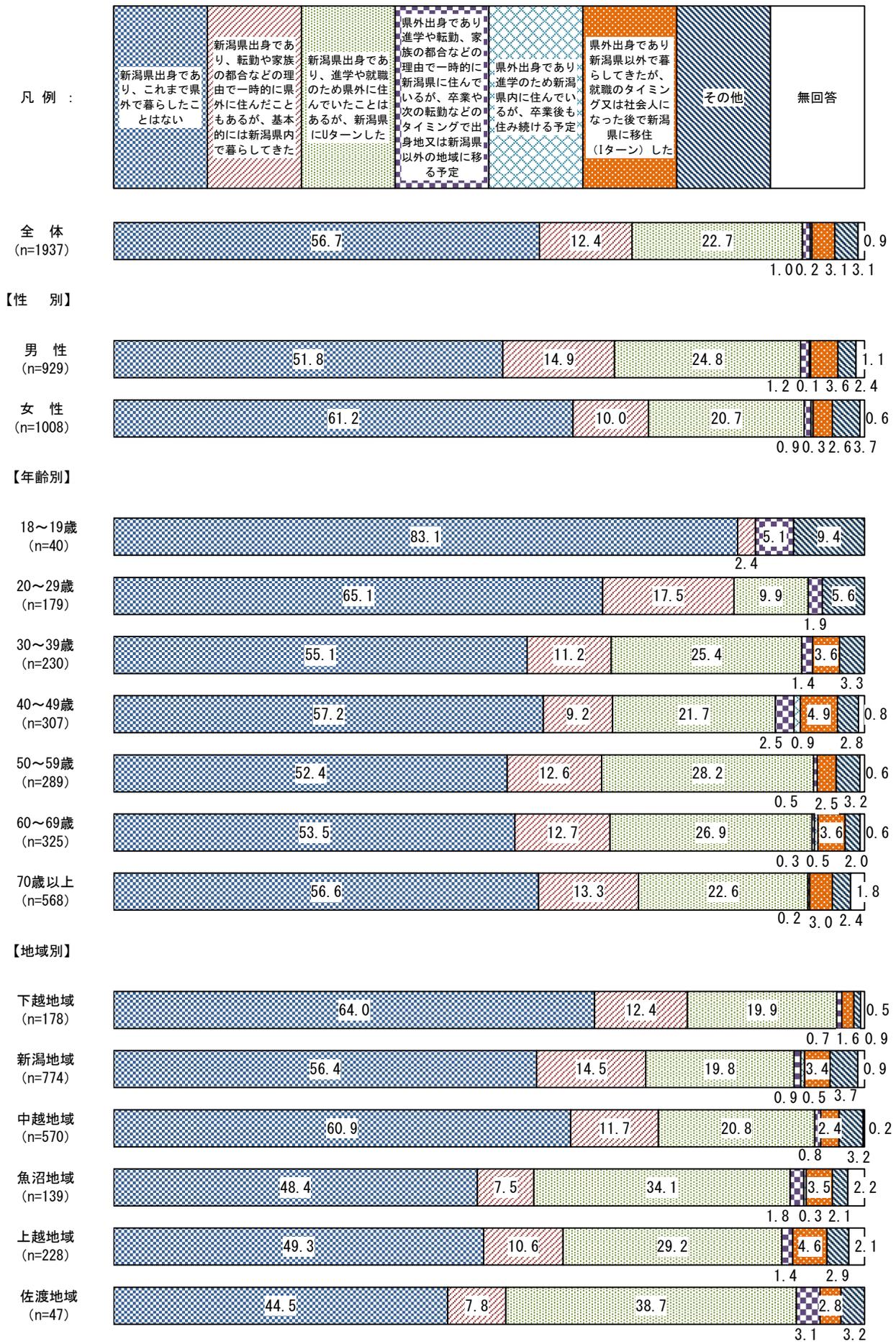
「新潟県出身であり、進学や就職のため県外に住んでいたことはあるが、新潟県にUターンした」と答えた割合は、50代(28.2%)が最も高く3割弱となっている。

60代(26.9%)、30代(25.4%)、70歳以上(22.6%)、40代(21.7%)でも2割台となっており、30代以上で高くなっている。

【地域別】

「新潟県出身であり、これまで県外で暮らしたことはない」の割合は、下越地域(64.0%)で6割半ばと最も高く、佐渡地域(44.5%)で4割半ばと最も低くなっている。

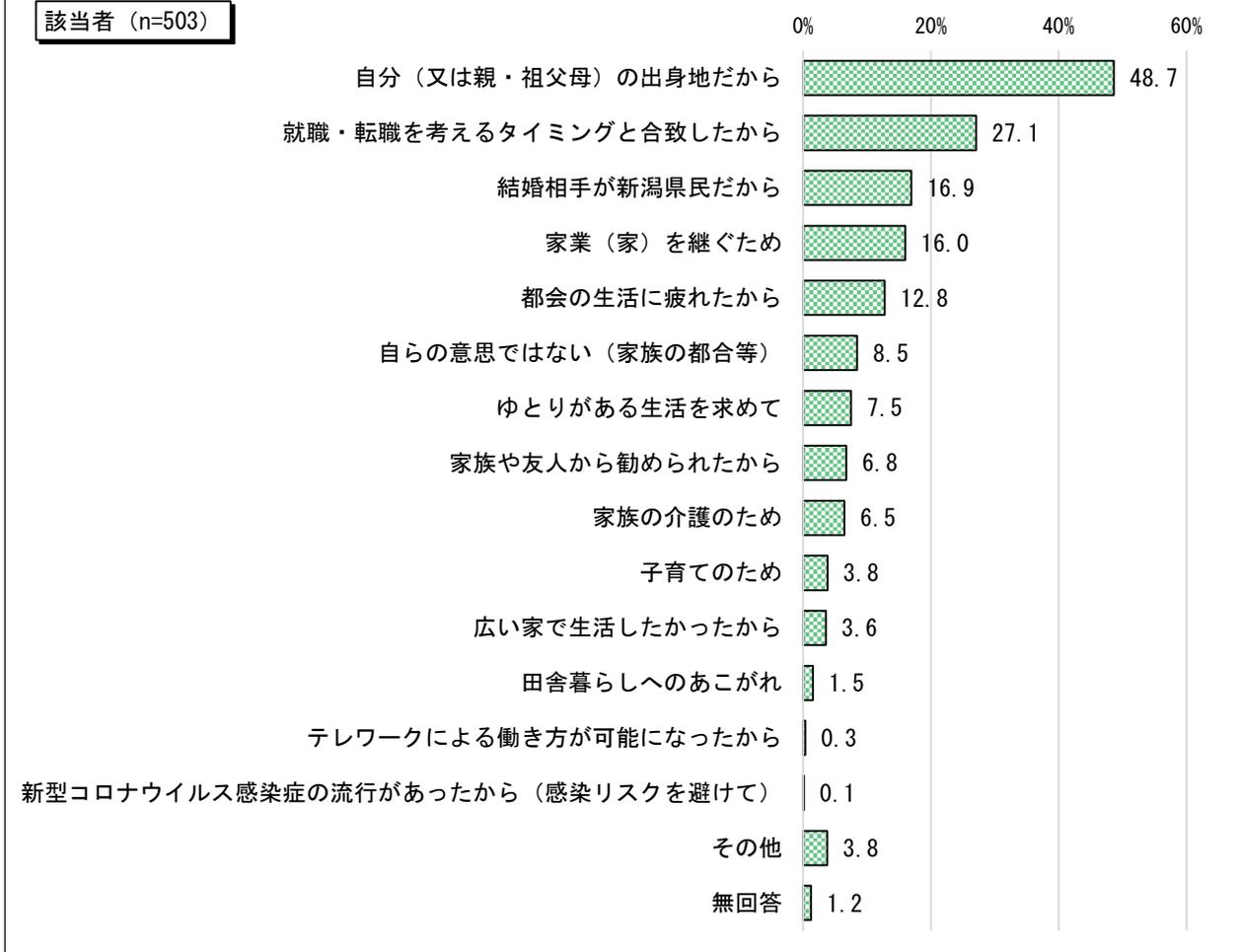
(1) これまでの居住状況 (全体／属性別)



(2) U・Iターンした(予定する)理由

(問2-1で、選択肢「3」「5」「6」と回答した方だけにお聞きします。)

問2-2 新潟県にU・Iターンした(予定する)理由は何ですか。(〇は3つまで)



【全体結果】

「自分(又は親・祖父母)の出身地だから」(48.7%)の割合が5割弱と最も高く、他との差が大きい。以下、「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」(27.1%)が2割半ば、「結婚相手が新潟県民だから」(16.9%)、「家業(家)を継ぐため」(16.0%)、「都会の生活に疲れたから」(12.8%)が1割台で続いている。

【性別】

「自分(又は親・祖父母)の出身地だから」(男性54.4%、女性42.3%)、「家業(家)を継ぐため」(男性24.4%、女性6.6%)、「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」(男性29.5%、女性24.4%)の割合はいずれも男性の方が高い。

一方で、「結婚相手が新潟県民だから」(男性11.9%、女性22.6%)は女性の方が高く、男女で理由に違いがみられる結果となっている。

【年齢別】

回答者数が少ない10代以外は、「自分(又は親・祖父母)の出身地だから」の割合が最も高くなっている。「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」は40代(40.6%)で最も高く、約4割となっている。

【地域別】

どの地域でも「自分（又は親・祖父母）の出身地だから」の割合が最も高い。2番目に高いのは、魚沼地域以外は、「就職・転職を考えるタイミングと合致したから」であったが、魚沼地域では「家業（家）を継ぐため」（20.8%）で、地域での違いがみられた。

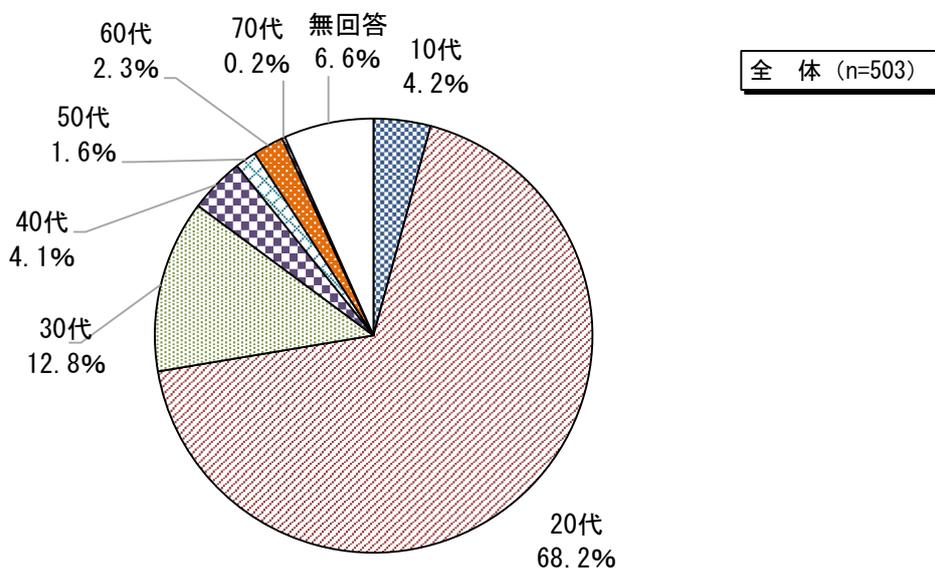
(2) U・Iターンした（予定する）理由（全体／属性別）

割合 (%)	自分（又は親・祖父母）の出身地だから	就職・転職を考えるタイミングと合致したから	結婚相手が新潟県民だから	家業（家）を継ぐため	都会の生活に疲れたから	自らの意思ではない（家族の都合等）	ゆとりがある生活を求めて	家族や友人から勧められたから	家族の介護のため	子育てのため	広い家で生活しなかったから	田舎暮らしへのあこがれ	テレワークによる働き方が可能になったから	新型コロナウイルス感染症の流行があったから（感染リスクを避けて）	その他	無回答
全体 (n=503)	48.7	27.1	16.9	16.0	12.8	8.5	7.5	6.8	6.5	3.8	3.6	1.5	0.3	0.1	3.8	1.2
【性別】																
男性 (n=266)	54.4	29.5	11.9	24.4	12.0	7.1	7.5	7.0	6.9	4.2	4.3	2.2	0.0	0.0	3.9	0.0
女性 (n=238)	42.3	24.4	22.6	6.6	13.6	9.9	7.5	6.5	5.9	3.4	2.7	0.8	0.7	0.3	3.6	2.6
【年齢別】																
18～19歳 (n=00)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20～29歳 (n=18)	66.7	1.8	11.6	15.0	25.3	5.2	0.0	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	0.0
30～39歳 (n=67)	53.0	28.6	14.9	18.2	17.8	7.3	3.0	5.9	4.8	7.8	5.4	0.0	0.0	1.1	1.1	0.0
40～49歳 (n=84)	50.7	40.6	23.7	8.3	12.0	5.0	11.2	9.9	3.5	7.1	4.0	2.4	0.0	0.0	4.2	1.1
50～59歳 (n=89)	53.2	26.1	13.3	17.6	11.7	8.0	11.6	5.3	3.9	2.7	2.3	4.0	0.8	0.0	3.8	0.0
60～69歳 (n=101)	46.9	26.6	10.4	20.7	10.7	9.3	6.8	6.0	9.3	3.6	3.1	0.2	1.0	0.0	4.0	1.5
70歳以上 (n=145)	41.7	22.5	21.3	15.4	11.5	11.0	6.4	7.0	9.3	1.4	4.0	1.3	0.0	0.0	3.5	2.6
【地域別】																
下越地域 (n=38)	47.9	35.2	9.7	15.2	13.5	6.8	11.0	6.0	8.4	1.8	6.2	1.8	0.0	0.0	7.4	0.0
新潟地域 (n=183)	48.8	26.8	18.0	14.5	9.3	13.6	8.1	5.9	7.2	4.6	1.9	0.0	0.6	0.0	1.7	2.0
中越地域 (n=133)	48.5	32.0	18.9	16.9	13.1	3.4	7.5	8.2	4.8	1.6	6.0	1.4	0.0	0.0	3.8	0.9
魚沼地域 (n=53)	47.2	17.8	15.0	20.8	16.7	9.5	3.7	8.3	9.8	7.1	1.7	4.3	0.0	0.0	7.4	0.9
上越地域 (n=77)	48.5	22.8	16.8	15.6	16.8	5.1	6.1	7.1	3.1	5.2	3.4	2.6	0.9	0.9	4.5	1.2
佐渡地域 (n=19)	55.0	22.5	13.4	14.4	15.6	8.3	11.2	1.5	11.1	1.5	3.5	4.6	0.0	0.0	3.1	0.0

(3) 転入時点の年齢

(問 2-1 で、選択肢「5」「6」と回答した方だけにお聞きします。)

問 2-3 新潟県に転入した時点の年齢を教えてください。



【全体結果】

新潟県に転入した時点の年齢は「20代」(68.2%)の割合が最も多く、7割弱と他との差が大きくなっている。以下、「30代」(12.8%)、「10代」(4.2%)、「40代」(4.1%)と続いている。

【性別】

「30代」(男性 14.6%、女性 10.8%)、「40代」(男性 5.7%、2.3%)、「50代」(男性 1.9%、女性 1.3%)の割合は女性より男性の方が高くなっている。それ以外は女性の方が高い割合となっている。また、男性・女性どちらも「20代」(男性 66.5%、女性 70.0%)の割合が最も高くなっている。

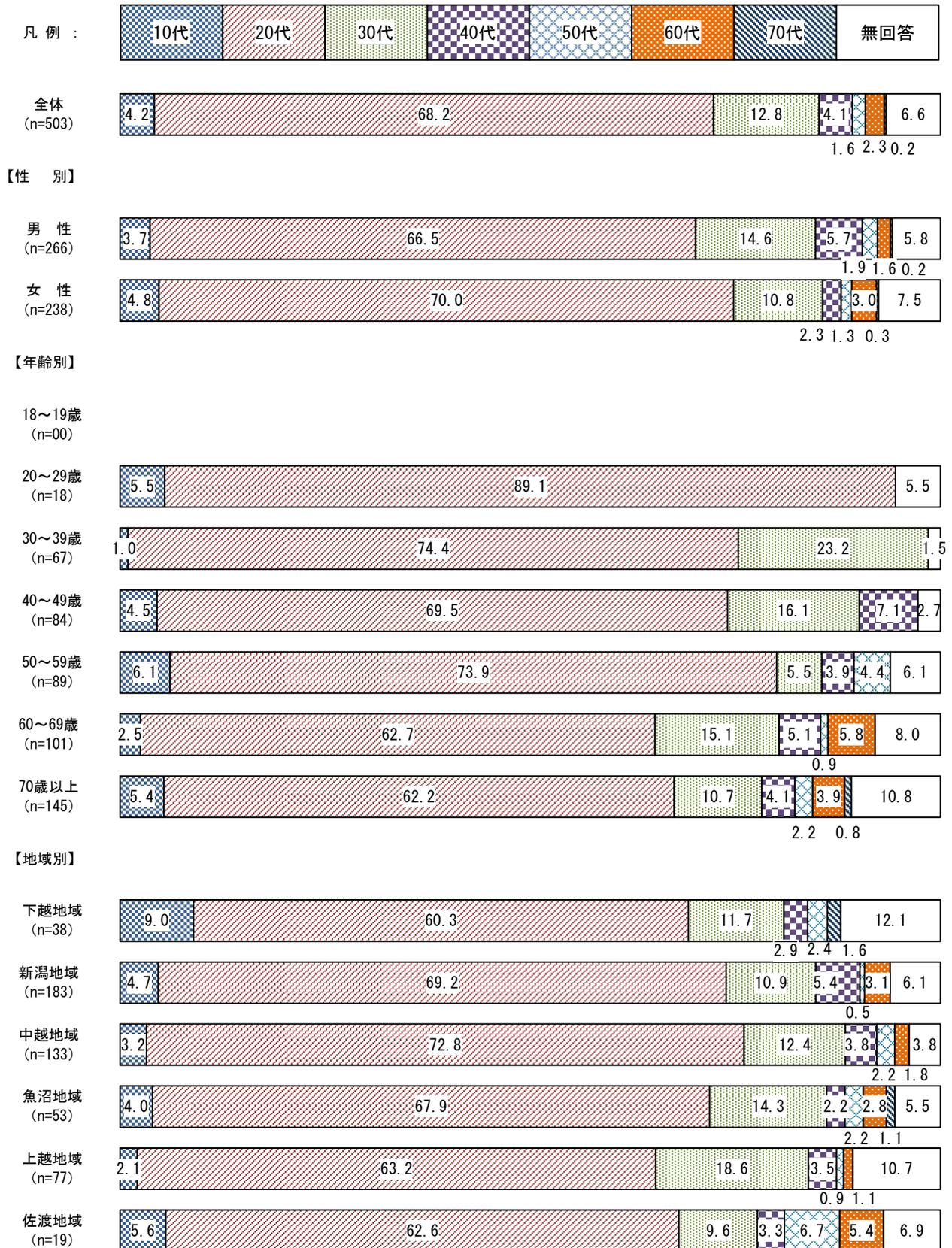
【年齢別】

回答者数が少ないため、参考に図のみ表示する。

【地域別】

回答者数が少ないため、参考に図のみ表示する。

(3) 転入時点の年齢（全体／属性別）



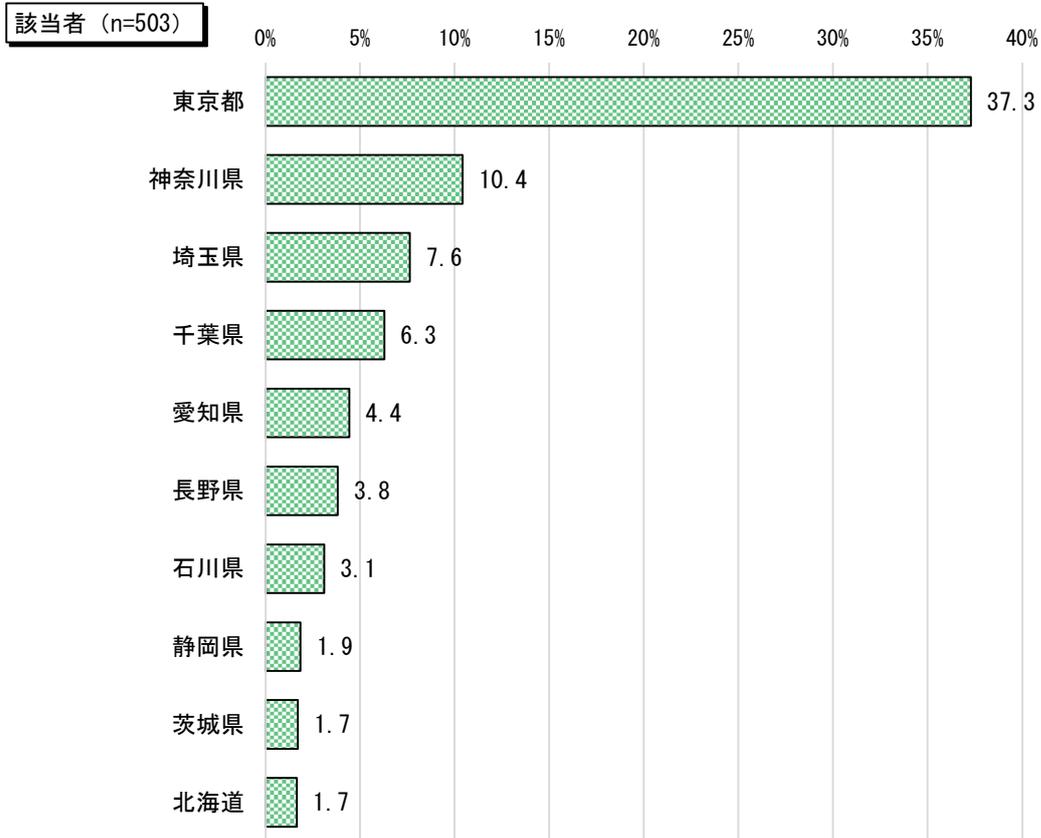
(4) 転入前の住居

(問 2-1 で、選択肢「5」「6」と回答した方だけにお聞きします。)

問 2-4 新潟県へ転入する直前にお住まいだった都道府県を教えてください。

※国外からの転入の場合は「国外」に○をつけてください。

<上位 10 都道府県をグラフ化>



【全体結果】

新潟県へ転入する直前に住んでいた都道府県は「東京都」(37.3%)の割合が最も多く、4割弱となっている。他の都道府県は「神奈川県」(10.4%)を除き、1割台を下回った結果となっている。

【性別】

回答者数が少ないため、参考に図のみ表示する。

【年齢別】

回答者数が少ないため、参考に図のみ表示する。

【地域別】

回答者数が少ないため、参考に図のみ表示する。

(4) 転入前の住居 (全体/属性別)

【北海道・東北エリア～関東エリア】

割合 (%)	北海道・東北エリア							関東エリア						
	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
全体 (n=503)	1.7	0.6	0.4	1.0	0.4	1.3	0.0	1.7	1.4	1.1	7.6	6.3	37.3	10.4
【性別】														
男性 (n=266)	2.1	0.8	0.0	0.7	0.7	1.7	0.0	3.0	1.6	1.4	8.2	8.6	33.8	11.6
女性 (n=238)	1.2	0.3	0.8	1.3	0.0	0.9	0.0	0.3	1.2	0.8	7.0	3.7	41.2	9.2
【年齢別】														
18～19歳 (n=00)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20～29歳 (n=18)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.5	12.5	30.3	23.5	0.0
30～39歳 (n=67)	2.9	1.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	3.0	1.1	0.0	7.8	6.4	37.7	17.1
40～49歳 (n=84)	1.5	2.0	1.5	2.4	2.0	1.3	0.0	2.0	3.8	3.2	8.6	6.5	30.6	8.1
50～59歳 (n=89)	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	1.7	2.4	1.1	8.3	3.3	40.3	11.2
60～69歳 (n=101)	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0	1.9	1.0	0.0	10.4	5.7	35.0	12.1
70歳以上 (n=145)	2.7	0.4	0.5	1.6	0.0	1.2	0.0	1.1	0.0	0.7	4.1	5.5	42.4	8.4
【地域別】														
下越地域 (n=38)	2.9	0.0	0.0	3.4	0.0	1.6	0.0	0.0	2.9	1.8	7.2	13.5	25.3	12.4
新潟地域 (n=183)	1.2	0.0	0.7	1.5	0.0	1.2	0.0	1.1	1.2	0.5	7.7	5.4	44.4	10.0
中越地域 (n=133)	1.4	1.3	0.0	0.0	1.3	0.7	0.0	3.0	0.7	1.7	9.1	7.8	37.0	7.6
魚沼地域 (n=53)	2.4	1.1	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	1.5	8.5	7.2	37.2	14.6
上越地域 (n=77)	1.2	0.9	0.9	0.0	0.0	3.6	0.0	2.0	3.7	1.3	4.6	2.3	24.2	10.3
佐渡地域 (n=19)	4.5	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	7.5	3.4	48.1	19.3

(4) 転入前の住居 (全体/属性別)

【北陸・甲信エリア～中京・近畿エリア】

割合 (%)	北陸・甲信エリア							中京・近畿エリア								
	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
全体 (n=503)	0.1	1.1	3.1	0.7	0.9	3.8	0.2	1.9	4.4	0.4	0.0	0.7	1.5	0.7	0.2	0.1
【性別】																
男性 (n=266)	0.0	1.6	3.9	1.0	0.5	2.2	0.0	0.4	4.4	0.0	0.0	0.0	2.2	0.8	0.0	0.0
女性 (n=238)	0.3	0.4	2.2	0.4	1.2	5.6	0.4	3.5	4.5	0.9	0.0	1.4	0.6	0.7	0.5	0.3
【年齢別】																
18～19歳 (n=00)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20～29歳 (n=18)	0.0	0.0	14.1	0.0	0.0	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39歳 (n=67)	0.0	1.9	0.0	0.0	2.5	7.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0
40～49歳 (n=84)	0.0	0.8	4.2	2.0	1.8	4.1	0.0	1.5	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
50～59歳 (n=89)	0.0	0.5	3.4	0.0	0.0	5.3	0.0	1.9	4.3	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	1.3	0.0
60～69歳 (n=101)	0.7	2.2	4.0	1.1	1.1	1.7	0.2	2.3	4.8	0.0	0.0	2.2	2.3	2.6	0.0	0.0
70歳以上 (n=145)	0.0	0.6	1.7	0.7	0.0	2.2	0.4	2.8	6.7	1.5	0.0	0.0	2.0	0.7	0.0	0.0
【地域別】																
下越地域 (n=38)	0.0	1.0	1.6	0.0	0.0	1.6	1.6	1.8	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0
新潟地域 (n=183)	0.0	0.0	3.8	0.0	1.6	1.1	0.0	1.2	4.3	0.0	0.0	1.2	2.3	1.1	0.6	0.0
中越地域 (n=133)	0.0	2.6	2.3	2.1	0.8	2.2	0.0	2.5	5.9	0.9	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0
魚沼地域 (n=53)	0.9	1.2	1.5	1.8	0.0	1.2	0.0	4.5	3.4	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
上越地域 (n=77)	0.0	1.1	5.6	0.0	0.0	16.8	0.0	0.9	5.1	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0
佐渡地域 (n=19)	1.1	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0

(4) 転入前の住居（全体／属性別）

【中国・四国エリア】

割合（％）	中国・四国エリア								
	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県
全体 (n=503)	0.0	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【性別】									
男性 (n=266)	0.0	0.0	0.6	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性 (n=238)	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【年齢別】									
18～19歳 (n=00)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20～29歳 (n=18)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30～39歳 (n=67)	0.0	0.0	1.1	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～49歳 (n=84)	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50～59歳 (n=89)	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60～69歳 (n=101)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上 (n=145)	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【地域別】									
下越地域 (n=38)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新潟地域 (n=183)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中越地域 (n=133)	0.0	0.0	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
魚沼地域 (n=53)	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
上越地域 (n=77)	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
佐渡地域 (n=19)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(4) 転入前の住居（全体／属性別）

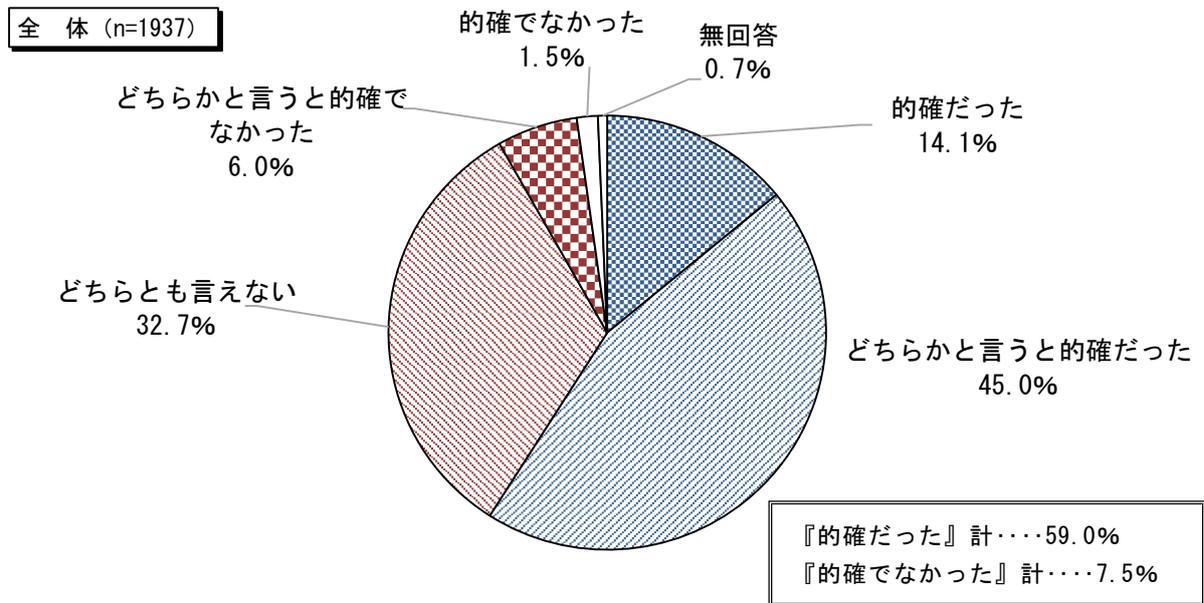
【九州・沖縄エリア～その他】

割合 (%)	九州・沖縄エリア								その他	
	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	国外	無回答
全体 (n=503)	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	7.3
【性別】										
男性 (n=266)	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	6.0
女性 (n=238)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	8.7
【年齢別】										
18～19歳 (n=00)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20～29歳 (n=18)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.5
30～39歳 (n=67)	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
40～49歳 (n=84)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	4.3
50～59歳 (n=89)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	7.4
60～69歳 (n=101)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.6
70歳以上 (n=145)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5
【地域別】										
下越地域 (n=38)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	13.9
新潟地域 (n=183)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
中越地域 (n=133)	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8
魚沼地域 (n=53)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4
上越地域 (n=77)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	11.5
佐渡地域 (n=19)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8

3. 危機管理体制について

(1) 令和4年度以降の災害・危機対応への評価

問 3-1 令和4年4月以降、現在までに発生した県民の生命・身体・財産にとって重大と思われる災害・危機※に際して、被災者救助、避難所運営、応急復旧、県民への情報提供など、本県の対応は的確に行われていたと思いますか。
(○は1つだけ)



※風水害・土砂災害、地震、雪害等の自然災害のほか、大規模な事故・火災等、弾道ミサイル・テロ、新型コロナウイルス感染症等を含む

【全体結果】

「的確だった」と「どちらかと言うと的確だった」を合計した『的確だった』計が6割弱（59.0%）となっている。

一方で、「的確でなかった」と「どちらかと言うと的確でなかった」を合計した『的確でなかった』計は7.5%となっている。また、「どちらとも言えない」は32.7%となっている。

【性別】

性別で大きな差はみられない。

【年齢別】

『的確だった』計の割合は、20代（67.6%）と70歳以上（62.2%）で高く、6割を超えている。

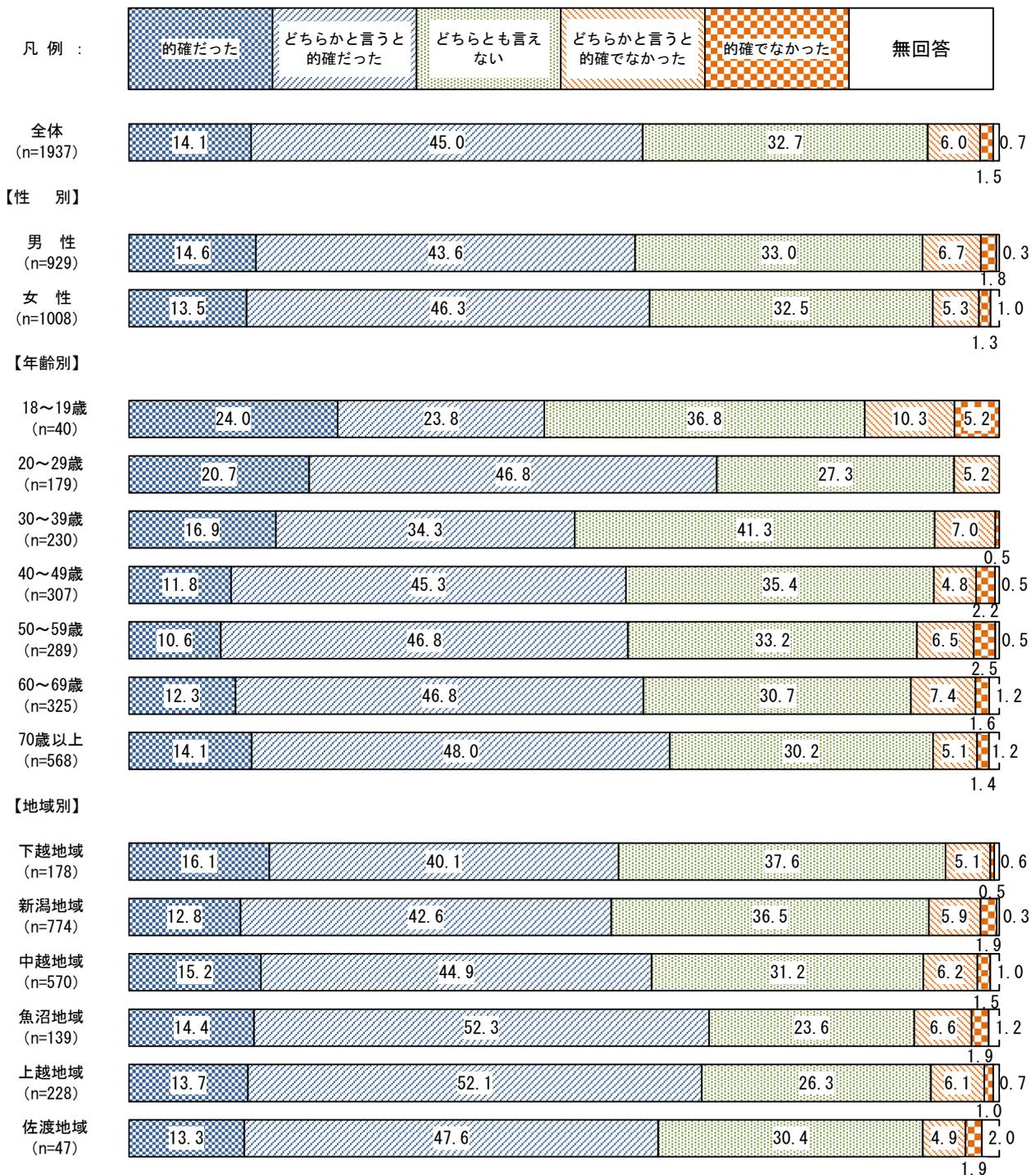
【地域別】

『的確だった』計の割合は、魚沼地域（66.7%）と上越地域（65.8%）で高く、6割半ばとなっている。

	『的確だった』計	『的確でなかった』計
全体 (n=1937)	59.0%	7.5%
【性別】 男性 (n=929)	58.2%	8.5%
女性 (n=1008)	59.8%	6.6%
【年齢別】 18～19歳 (n=40)	47.8%	15.5%
20～29歳 (n=179)	67.6%	5.2%
30～39歳 (n=230)	51.2%	7.4%
40～49歳 (n=307)	57.1%	7.0%
50～59歳 (n=289)	57.4%	9.0%
60～69歳 (n=325)	59.1%	9.0%
70歳以上 (n=568)	62.2%	6.4%

	『的確だった』計	『的確でなかった』計
【地域別】 下越地域 (n=178)	56.3%	5.6%
新潟地域 (n=774)	55.4%	7.8%
中越地域 (n=570)	60.1%	7.7%
魚沼地域 (n=139)	66.7%	8.5%
上越地域 (n=228)	65.8%	7.2%
佐渡地域 (n=47)	60.8%	6.8%

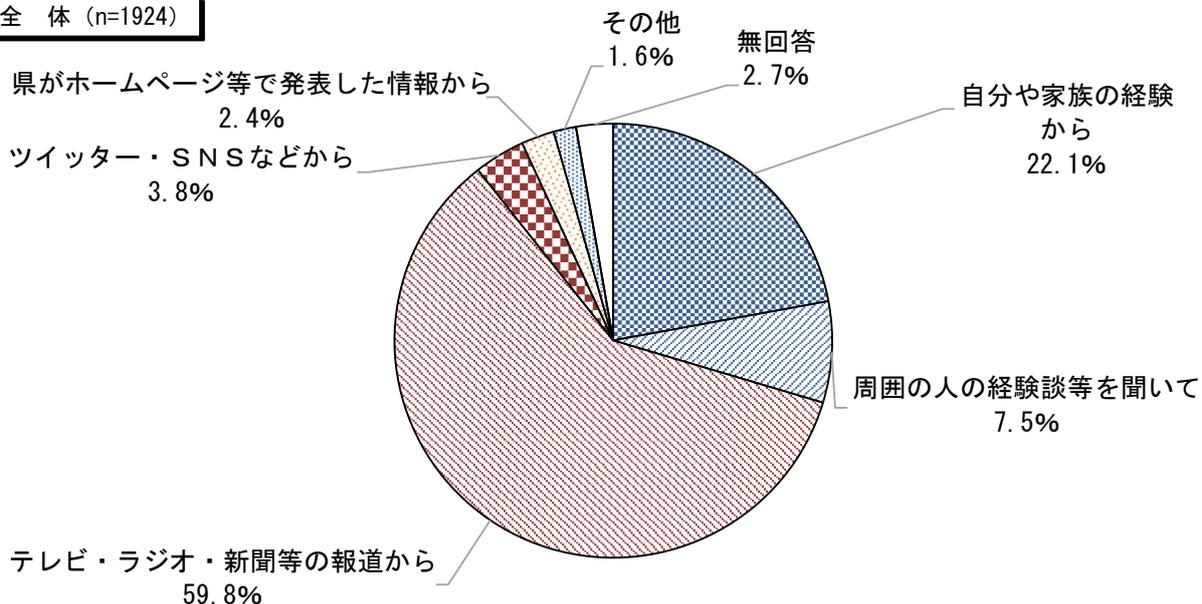
(1) 令和4年度以降の災害・危機対応への評価 (全体/属性別)



(2) 評価のもととなった情報源

問 3-2 前問で、主にどのような情報をもとに、そのように感じましたか。
次の中から最もあてはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

全 体 (n=1924)



【全体結果】

「テレビ・ラジオ・新聞等の報道から」が59.8%と多数を占めている。

【性別】

性別で大きな差はみられない。

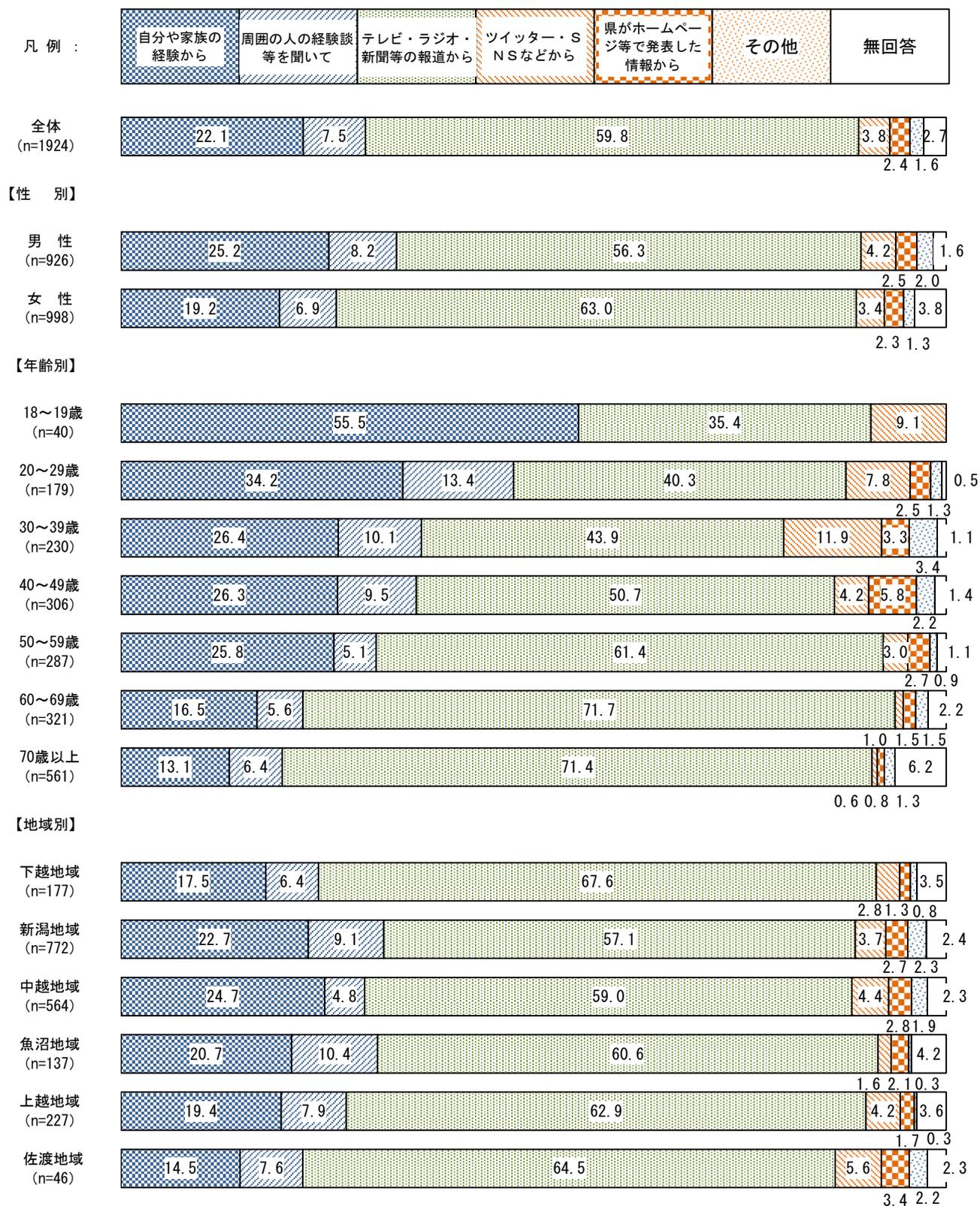
【年齢別】

高年齢層ほど「テレビ・ラジオ・新聞等の報道から」の割合が高くなる傾向がみられる。一方、低年齢層では「自分や家族の経験から」、「ツイッター・SNSなどから」の割合が高い傾向にある。

【地域別】

いずれの地域においても「テレビ・ラジオ・新聞等の報道から」が最も高い割合となっている。特に、下越地域(67.6%)や佐渡地域(64.5%)で他の地域と比べて高くなっている。「自分や家族の経験から」の割合は、中越地域(24.7%)や新潟地域(22.7%)で高く、佐渡地域(14.5%)で最も低くなっている。

(2) 評価のもととなった情報源 (全体/属性別)

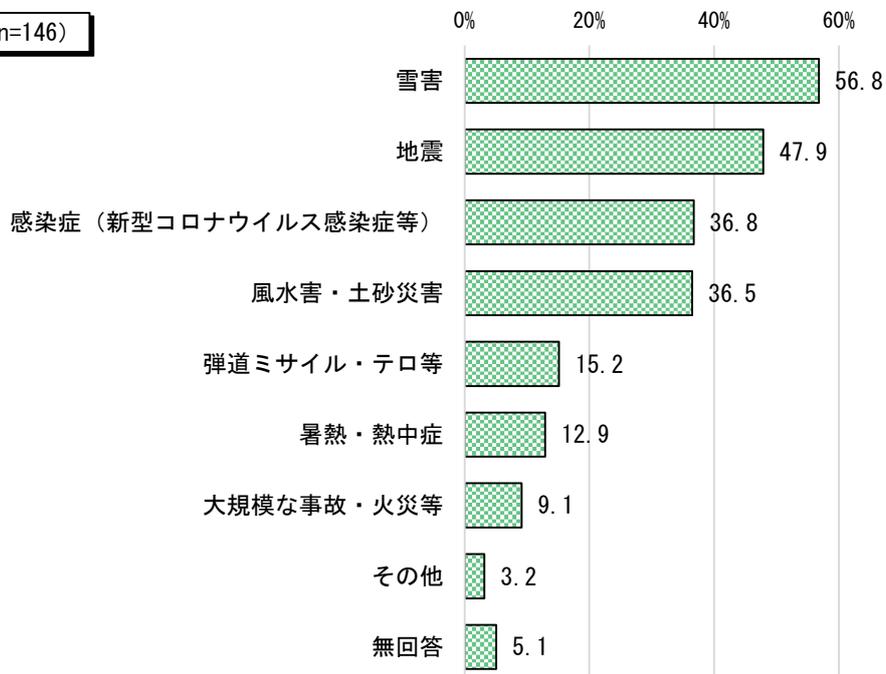


(3) 的確に行われていなかった事案

(前問で「どちらかと言うと的確でなかった」「的確でなかった」と回答した方への該当質問)
問 3-3 的確に行なわれていなかったと思うのはどのような事案についてですか。

(○はいくつでも)

該当者 (n=146)



【全体結果】

令和 4 年度以降の本県の災害・危機対応について、「どちらかと言うと的確でなかった」または「的確でなかった」と回答した方に、的確に行われていなかった事案について尋ねたところ、「雪害」(56.8%) が特に高くなっており、以下、「地震」(47.9%)、「感染症 (新型コロナウイルス感染症等)」(36.8%)、「風水害、土砂災害」(36.5%) と続いている。

【性別】

男女とも「雪害」(男性 57.5%、女性 56.0%)、「地震」(男性 50.3%、女性 45.1%) の割合が高くなっている。

また、「弾道ミサイル・テロ等」(男性 22.9%、女性 6.1%) や「風水害、土砂災害」(男性 41.2%、女性 31.0%) については、男性の方が高くなっている。

【年齢別】【地域別】

各区分の該当者数が少ないため、図表のみの掲載とする。

(3) 的確に行われていなかった事案（全体／属性別）

割合 (%)	雪害	地震	感染症等 (新型コロナウイルス感 染症等)	風水害・土砂災害	弾道ミサイル・テロ等	暑熱・熱中症	大規模な事故・火災等	その他	無回答
全体 (n=146)	56.8	47.9	36.8	36.5	15.2	12.9	9.1	3.2	5.1

【性別】

男性 (n=79)	57.5	50.3	36.3	41.2	22.9	16.8	13.2	5.0	1.2
女性 (n=67)	56.0	45.1	37.3	31.0	6.1	8.3	4.3	1.0	9.6

【年齢別】

18～19歳 (n=6)	66.2	33.4	66.2	61.1	5.1	61.1	33.4	0.0	33.8
20～29歳 (n=9)	89.5	70.8	100.0	48.3	48.3	22.6	0.0	0.0	0.0
30～39歳 (n=17)	46.2	37.0	35.1	60.0	13.6	13.6	18.3	0.0	9.8
40～49歳 (n=22)	49.5	48.7	45.7	22.1	26.4	12.3	6.3	11.2	0.0
50～59歳 (n=26)	63.8	48.1	41.3	25.8	15.0	18.8	6.6	0.0	0.0
60～69歳 (n=29)	52.8	46.9	15.0	34.9	5.5	3.6	9.9	0.0	4.0
70歳以上 (n=36)	54.4	49.8	25.4	35.7	10.4	5.5	5.9	6.1	6.6

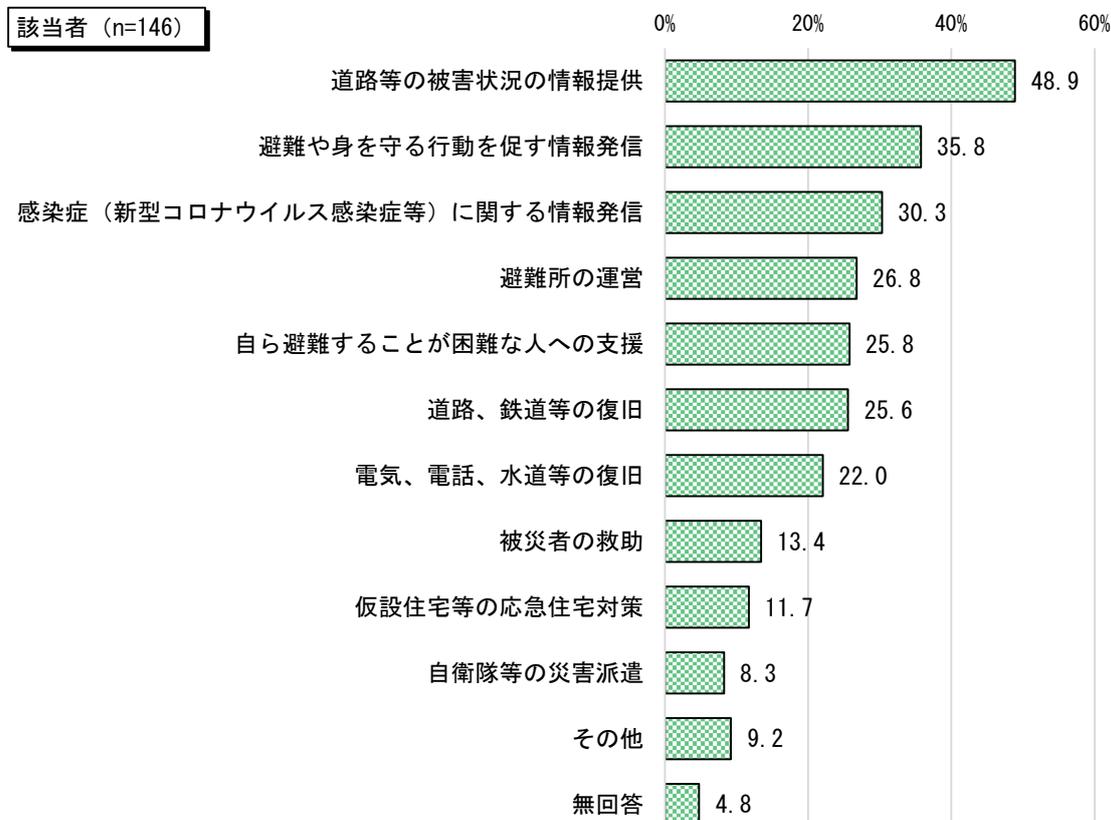
【地域別】

下越地域 (n=10)	40.4	52.7	36.2	62.2	12.8	12.8	26.9	0.0	0.0
新潟地域 (n=60)	52.7	54.1	45.3	33.6	24.9	10.8	7.3	3.9	2.8
中越地域 (n=44)	68.0	43.7	33.0	31.8	8.9	19.0	9.9	0.0	12.3
魚沼地域 (n=12)	58.4	40.1	15.2	37.8	10.8	0.0	6.1	4.8	0.0
上越地域 (n=16)	49.7	42.8	32.0	41.3	0.0	13.5	4.1	10.5	0.0
佐渡地域 (n=3)	62.3	27.6	33.2	47.3	18.0	14.5	14.5	0.0	9.4

(4) 的確に行われていなかった部分

(前問で「どちらかと言うと的確でなかった」「的確でなかった」と回答した方への該当質問)
 問 3-4 的確に行なわれていなかったのはどの部分だと思いますか。

(○はいくつでも)



【全体結果】

令和 4 年度以降の本県の災害・危機対応について、「どちらかと言うと的確でなかった」または「的確でなかった」と回答した方に、的確に行われていなかった対応について尋ねたところ、「道路等の被害状況の情報提供」（48.9%）が最も高くなっており、以下「避難や身を守る行動を促す情報発信」（35.8%）、「感染症（新型コロナウイルス感染症等）に関する情報発信」（30.3%）が 3 割台、「避難場所の運営」（26.8%）、「自ら避難することが困難な人への支援」（25.8%）、「道路、鉄道等の復旧」（25.6%）「電気、電話、水道等の復旧」（22.0%）が 2 割台で続いている。

【性別】

全体結果の上位 3 つの理由についてみると、「道路等の被害状況の情報提供」（男性 55.8%、女性 40.8%）と「避難や身を守る行動を促す情報発信」（男性 41.3%、女性 29.3%）の割合は、男性の方が高くなっている。

一方、「感染症（新型コロナウイルス感染症等）に関する情報発信」（男性 27.7%、女性 33.4%）の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】【地域別】

各区分の該当者数が少ないため、図表のみの掲載とする。

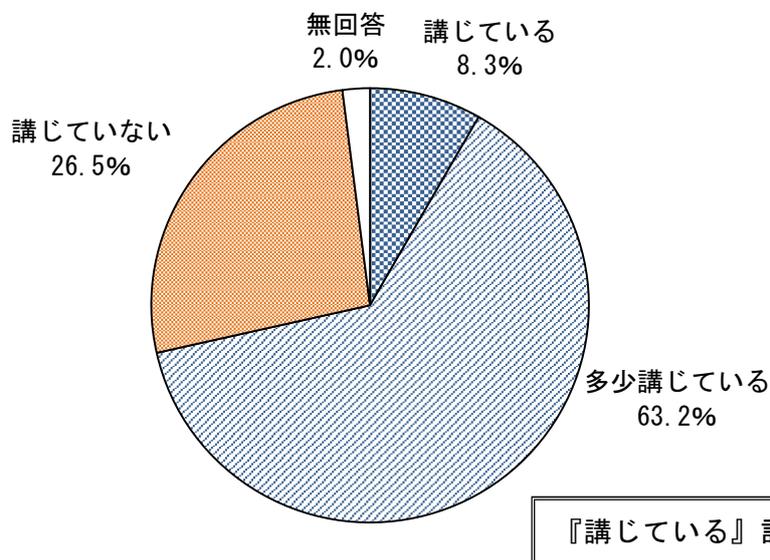
(4) 的確に行われていなかった対応 (全体/属性別)

割合 (%)	道路等の被害状況の情報提供	避難や身を守る行動を促す情報発信	感染症(新型コロナウイルス感染症等)に関する情報発信	避難所の運営	自ら避難することが困難な人への支援	道路、鉄道等の復旧	電気、電話、水道等の復旧	被災者の救助	仮設住宅等の応急住宅対策	自衛隊等の災害派遣	その他	無回答
全体 (n=146)	48.9	35.8	30.3	26.8	25.8	25.6	22.0	13.4	11.7	8.3	9.2	4.8
【性別】												
男性 (n=79)	55.8	41.3	27.7	27.4	29.6	26.0	20.6	12.4	13.7	7.5	6.6	1.2
女性 (n=67)	40.8	29.3	33.4	26.0	21.3	25.1	23.7	14.6	9.4	9.1	12.4	9.0
【年齢別】												
18～19歳 (n=6)	61.1	38.5	66.2	38.5	33.4	27.7	27.7	0.0	0.0	33.4	0.0	33.8
20～29歳 (n=9)	70.8	48.3	51.7	48.3	48.3	48.3	0.0	0.0	22.6	0.0	0.0	0.0
30～39歳 (n=17)	39.7	34.1	35.1	36.8	45.6	42.8	58.5	4.8	28.2	4.8	5.9	9.8
40～49歳 (n=22)	45.5	37.0	33.4	16.2	25.0	11.5	12.3	14.1	6.3	14.1	9.6	0.0
50～59歳 (n=26)	37.8	36.7	36.1	25.5	20.8	33.6	26.4	19.8	2.6	3.4	10.8	0.0
60～69歳 (n=29)	58.5	34.7	13.4	22.8	12.1	17.3	14.3	8.8	6.2	9.3	7.3	7.6
70歳以上 (n=36)	47.8	32.2	24.1	24.9	24.5	20.6	18.4	22.0	17.4	6.8	14.9	2.6
【地域別】												
下越地域 (n=10)	56.3	14.1	46.8	50.1	47.9	27.4	35.8	27.4	17.4	8.1	4.6	0.0
新潟地域 (n=60)	46.9	39.1	29.9	27.0	21.2	34.1	20.5	14.2	8.4	7.9	7.3	4.5
中越地域 (n=44)	49.4	37.8	30.8	20.0	23.5	18.8	9.6	15.3	16.5	11.2	10.1	9.7
魚沼地域 (n=12)	57.0	39.3	15.2	35.8	14.7	12.4	34.6	0.0	4.7	3.8	29.3	0.0
上越地域 (n=16)	45.2	29.6	32.0	24.0	46.3	22.0	40.5	5.3	13.8	4.1	4.1	0.0
佐渡地域 (n=3)	44.3	29.8	26.6	23.3	9.4	19.7	37.7	19.7	6.6	13.2	0.0	0.0

4. 災害や危機への備えについて (1) 災害や危機への対策状況

問 4-1 あなたは、災害や危機に対して何か対策を講じていますか。
(○は1つだけ)

全 体 (n=1937)



【全体結果】

災害や危機への対策について、「講じている」と「多少講じている」を合計した割合は71.5%と約7割の人は何らかの対策を講じている。一方、残りの2割半ばの人は、「講じていない」(26.5%)となっていることに留意が必要である。

【性別】

「講じている」、「多少講じている」を合計した割合(男性71.6%、女性71.3%)と「講じていない」(男性26.8%、女性26.2%)ともに男性、女性で大きな差は見受けられなかった。

【年齢別】

「講じている」と「多少講じている」を合計した割合は、50代が77.5%で最も高く、次いで30代(75.6%)、60代(74.1%)、10代(73.4%)、40代(71.9%)と続いている。一方で、20代(66.8%)および70歳以上(66.4%)では、他の年齢層と比較して低く、7割を下回っている。

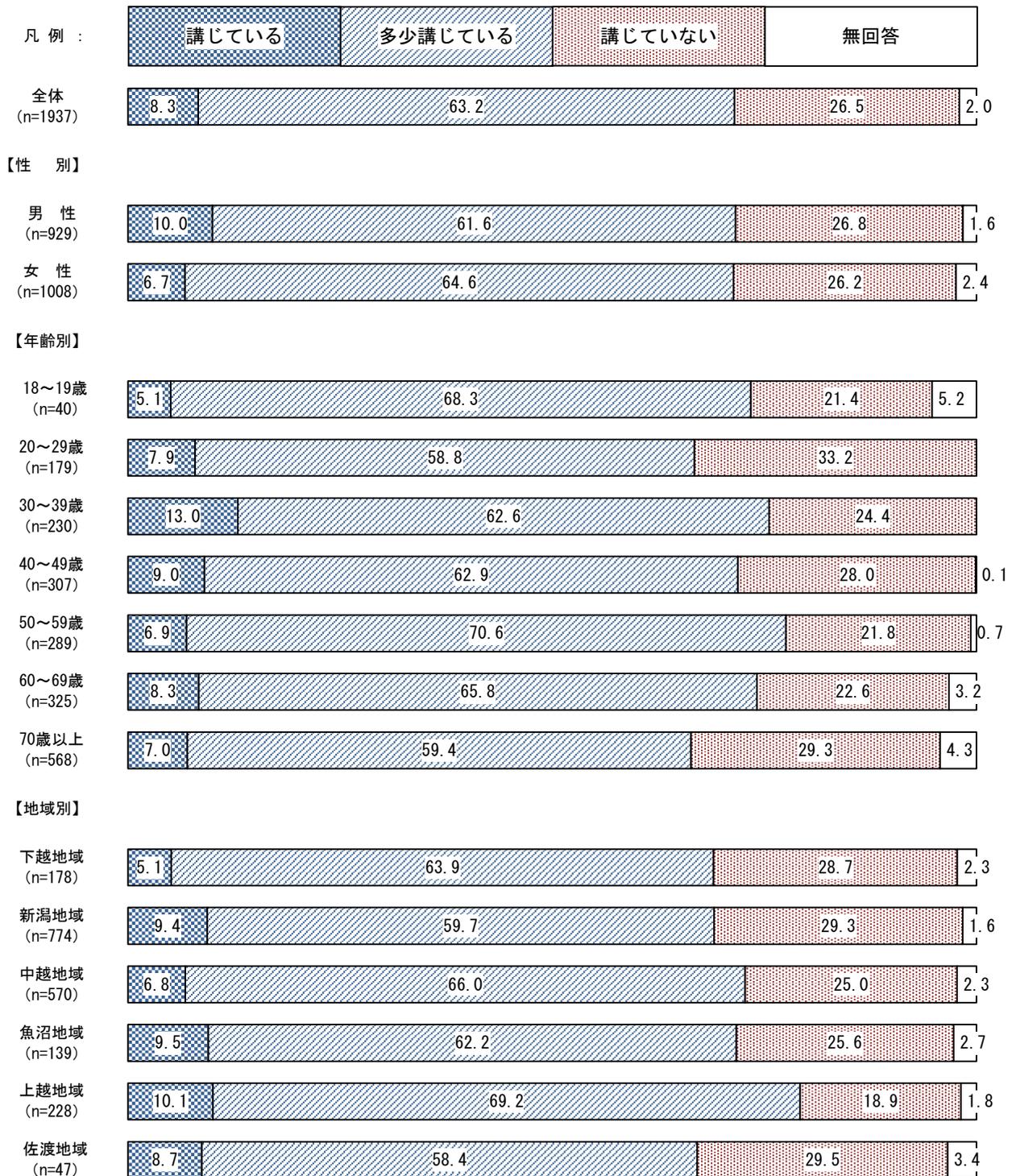
【地域別】

「講じている」と「多少講じている」を合計した割合は、上越地域(79.2%)が最も高くなっている。

(1) 災害や危機への対策状況（全体/属性別）

		『講じている』 計
全体 (n=1937)		71.5%
【性別】	男性 (n=929)	71.6%
	女性 (n=1008)	71.4%
【年齢別】	18～19歳 (n=40)	73.4%
	20～29歳 (n=179)	66.8%
	30～39歳 (n=230)	75.6%
	40～49歳 (n=307)	71.9%
	50～59歳 (n=289)	77.5%
	60～69歳 (n=325)	74.1%
	70歳以上 (n=568)	66.4%

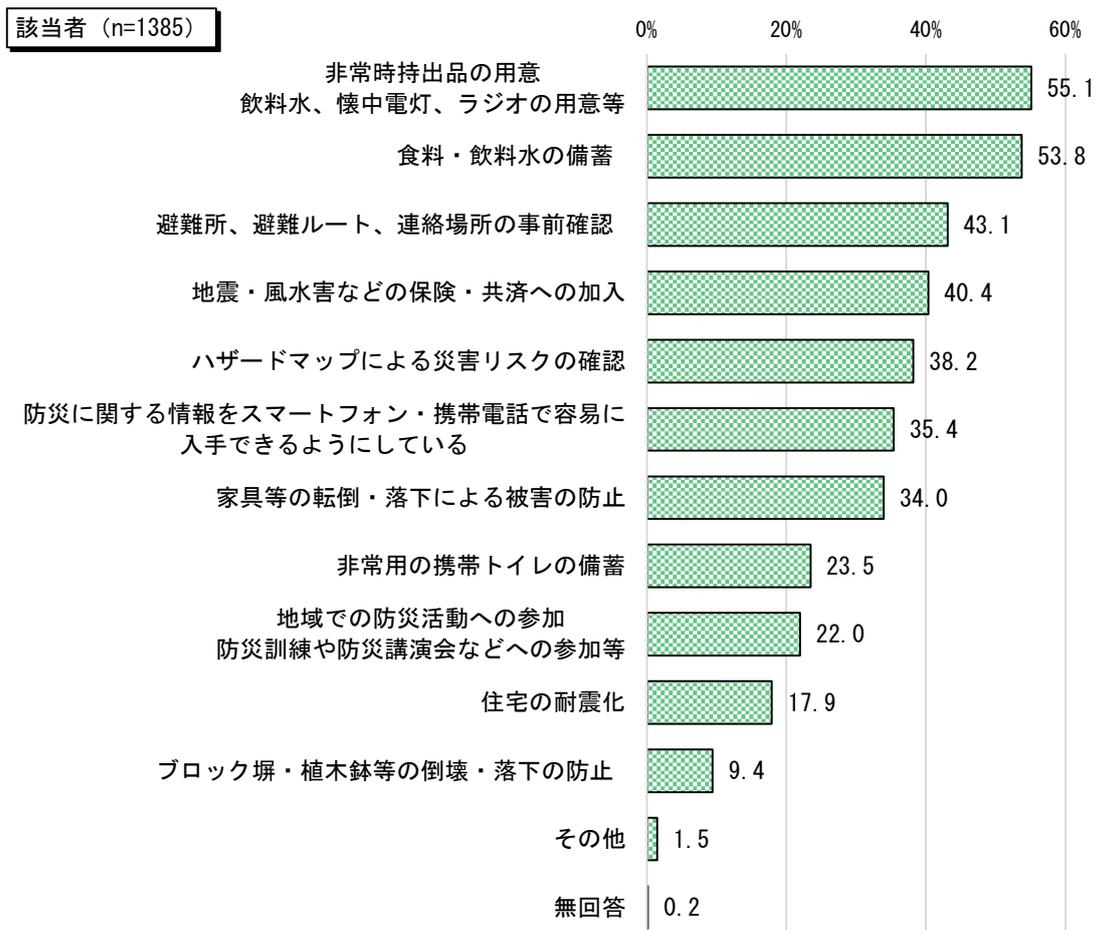
		『講じている』 計
【地域別】	下越地域 (n=178)	69.0%
	新潟地域 (n=774)	69.1%
	中越地域 (n=570)	72.8%
	魚沼地域 (n=139)	71.7%
	上越地域 (n=228)	79.2%
	佐渡地域 (n=47)	67.1%



(2) 災害や危機への対策内容

(前問で「講じている」「多少講じている」と回答した方への該当質問)

問 4-2 具体的にどのような対策を講じていますか。(〇はいくつでも)



【全体結果】

災害や危機への対策を「講じている」または「多少講じている」と回答した方にその内容について尋ねたところ、「非常時持出品の用意」(55.1%)が最も高くなっており、以下「食料・飲料水の備蓄」(53.8%)、「避難所、避難ルート、連絡場所の事前確認」(43.1%)、「地震・風水害などの保険・共済への加入」(40.4%)、「ハザードマップによる災害リスクの確認」(38.2%)、「防災に関する情報をスマートフォン・携帯電話で容易に入手できるようにしている」(35.4%)と続いている。

【性別】

全体結果の上位3つについてみると、「非常時持出品の用意」(男性 51.3%、女性 58.6%)の割合は女性の方が高くなっている。「食料・飲料水の備蓄」(男性 53.9%、女性 53.6%)と「避難所、避難ルート、連絡場所の事前確認」(男性 42.5%、女性 43.7%)は、性別で大きな差はみられなかった。

【年齢別】

「非常時持出品の用意」の割合は60代(59.5%)、「食料・飲料水の備蓄」の割合は70代以上(59.1%)が最も高くなっている。

【地域別】

「非常時持出品の用意」の割合は、魚沼地域（48.3%）では5割未満と低くなっている。「食料・飲料水の備蓄」の割合については、下越地域（45.7%）と魚沼地域（48.5%）で5割未満と低くなっている。「地域での防災活動への参加 防災訓練や防災講演会などへの参加等」の割合は、上越地域（38.3%）が高くなっている。

(2) 災害や危機への対策内容（全体/属性別）

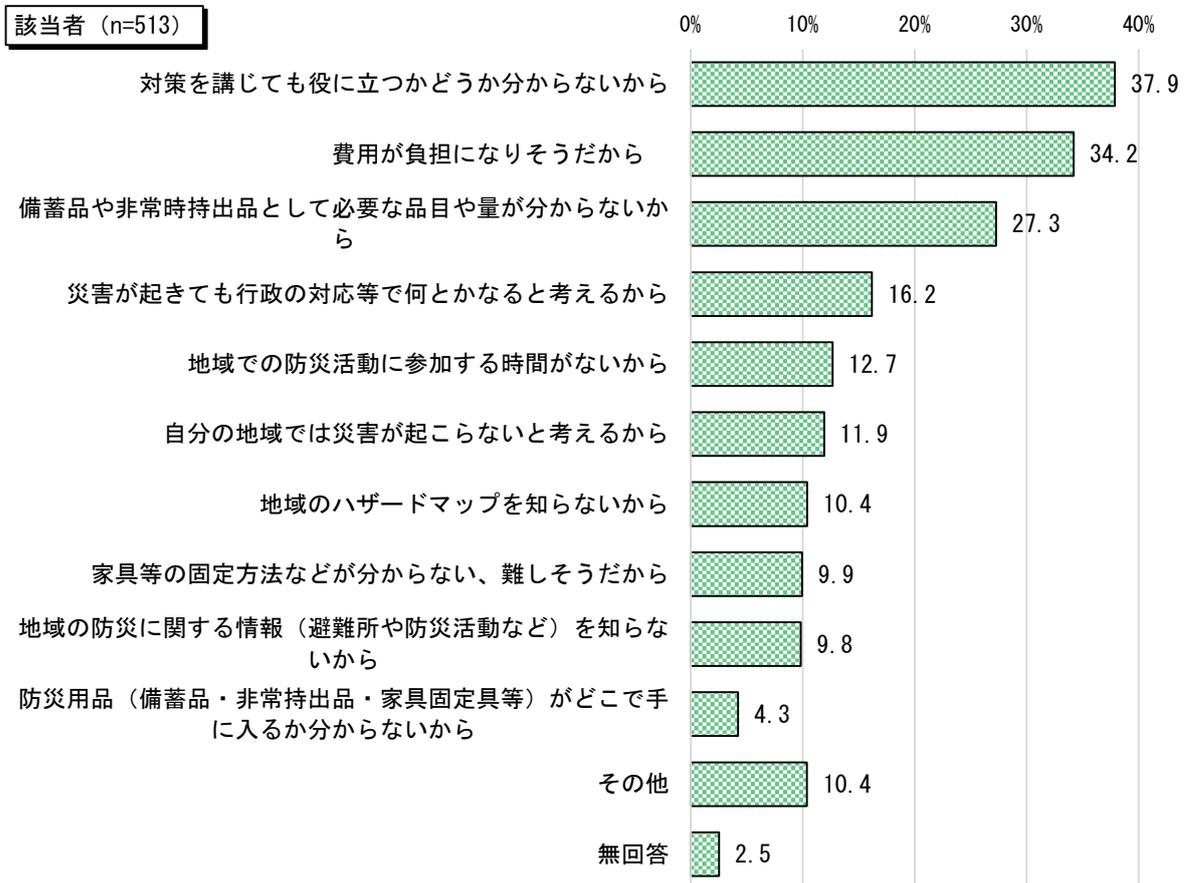
割合 (%)	非常時持出品の用意 飲料水、懐中電灯、ラジオの用意	食料・飲料水の備蓄 最低3日分（ご飯・レトルト食品） 飲料水1人当たり1日3ℓ	避難所、避難ルート、連絡場所の事前確認	地震・風水害などの保険・共済への加入	ハザードマップによる災害リスクの確認	防災に関する情報をスマートフォン・携帯電話で容易に入手できるようにしている	家具等の転倒・落下による被害の防止	非常用の携帯トイレの備蓄 最低3日分（大人1人当たり1日5回分）	地域での防災活動への参加への参加 防災訓練や防災講演会などへの参加	住宅の耐震化	ブロック塀・植木鉢等の倒壊・落下の防止	その他	無回答
全体 (n=1385)	55.1	53.8	43.1	40.4	38.2	35.4	34.0	23.5	22.0	17.9	9.4	1.5	0.2
【性別】													
男性 (n=665)	51.3	53.9	42.5	40.8	41.3	36.3	31.5	20.5	24.6	17.1	8.5	0.8	0.3
女性 (n=719)	58.6	53.6	43.7	40.0	35.3	34.6	36.2	26.3	19.6	18.7	10.3	2.2	0.1
【年齢別】													
18～19歳 (n=30)	45.8	47.1	47.0	24.2	39.1	41.5	19.2	26.1	18.7	19.2	7.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=119)	38.9	44.8	43.2	21.7	39.4	50.1	23.2	22.9	12.1	13.2	4.0	0.0	0.0
30～39歳 (n=174)	49.6	45.9	42.6	30.3	42.1	36.7	33.4	25.4	14.8	26.6	5.3	1.9	0.0
40～49歳 (n=221)	54.5	55.9	44.3	36.3	37.2	36.4	29.2	23.8	14.1	23.8	6.7	2.0	0.0
50～59歳 (n=224)	58.4	52.0	40.2	38.9	43.8	37.8	36.8	28.0	21.5	16.5	8.0	1.4	0.5
60～69歳 (n=241)	59.5	56.0	38.6	49.2	34.3	36.6	37.6	23.9	26.1	11.3	10.7	1.6	0.2
70歳以上 (n=377)	59.1	59.1	47.0	49.8	35.7	27.0	37.5	19.5	31.0	17.1	14.9	1.6	0.2
【地域別】													
下越地域 (n=123)	51.6	45.7	35.1	39.4	34.6	41.4	30.5	19.4	26.7	13.1	6.7	1.4	0.5
新潟地域 (n=535)	57.5	55.7	48.5	38.4	43.9	35.3	34.8	26.7	16.8	19.3	10.2	1.5	0.2
中越地域 (n=415)	52.1	53.0	39.4	40.3	35.0	38.1	35.2	21.9	19.6	21.7	10.5	2.0	0.0
魚沼地域 (n=99)	48.3	48.5	39.4	50.3	32.8	32.9	30.9	18.0	26.7	18.7	5.3	0.0	0.0
上越地域 (n=181)	58.9	58.0	43.4	42.1	34.3	28.0	32.5	24.1	38.3	9.8	9.3	1.4	0.4
佐渡地域 (n=31)	67.9	54.5	43.0	37.4	37.6	28.3	34.8	19.7	15.5	8.1	6.5	0.7	0.0

(3) 対策を講じていない主な理由

(前問で「講じていない」と回答した方への該当質問)

問 4-3 対策を講じていない主な理由は、どのようなことですか。

(〇はいくつでも)



【全体結果】

災害や危機への対策を「講じていない」と回答した方に、その理由を尋ねたところ、「対策を講じても役に立つかどうか分からないから」(37.9%)が最も高く、「費用が負担になりそうだから」(34.2%)、「備蓄品や非常時持出品として必要な品目や量が分からないから」(27.3%)が続いている。

【性別】

全体結果の上位3つの理由についてみると、「対策を講じても役に立つかどうか分からないから」(男性 47.1%、女性 29.2%)の割合は、男性の方が高くなっている。「費用が負担になりそうだから」(男性 34.3%、女性 34.1%)は、性別で大きな差はみられない。「備蓄品や非常時持出品として必要な品目や量が分からないから」(男性 24.8%、女性 29.7%)の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】

同じく全体結果の上位3つの理由についてみると、「対策を講じても役に立つかどうか分からないから」は20代（48.5%）で割合が最も高くなっている。「費用が負担になりそうだから」、「備蓄品や非常時持出品として必要な品目や量が分からないから」は、40代（45.7%、38.7%）で割合が最も高くなっている。

【地域別】

「対策を講じても役に立つかどうか分からないから」は下越地域（44.1%）で割合が最も高くなっている。「費用が負担になりそうだから」の割合は新潟地域（36.3%）、「備蓄品や非常時持出品として必要な品目や量が分からないから」の割合は上越地域（33.7%）が最も高くなっている（回答者数の少ない佐渡地域を除く）。

(3) 対策を講じていない主な理由（全体/属性別）

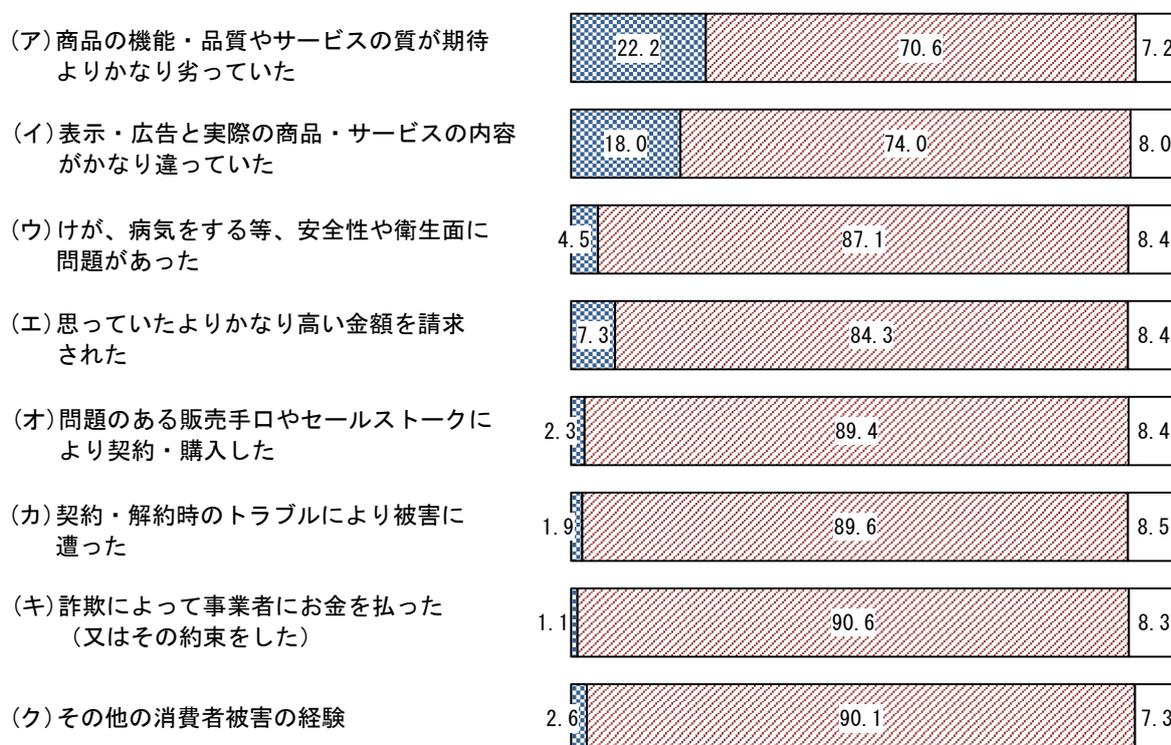
割合 (%)	対策を講じても役に立つかどうか分からないから	費用が負担になりそうだから	備蓄品や非常時持出品として必要な品目や量が分からないから	災害が起きて行政の対応等と考えると考えるから	地域での防災活動に参加する時間がないから	自分の地域では災害が起こらないから	地域のハザードマップを知らないから	家具等の固定方法などが分からない、難しそうだから	地域の防災に関する情報（避難所や防災活動など）を知らないから	家具固定具（備蓄品・非常時持出品）がどこで手に入るか分からないから	その他	無回答
全体 (n=513)	37.9	34.2	27.3	16.2	12.7	11.9	10.4	9.9	9.8	4.3	10.4	2.5
【性別】												
男性 (n=249)	47.1	34.3	24.8	15.7	13.6	10.8	10.2	10.6	10.2	3.9	8.3	2.2
女性 (n=264)	29.2	34.1	29.7	16.6	11.8	12.9	10.6	9.4	9.5	4.5	12.3	2.9
【年齢別】												
18～19歳 (n=9)	30.7	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	69.3	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=59)	48.5	29.6	25.4	5.7	23.7	3.8	20.3	19.9	15.2	4.5	8.0	7.5
30～39歳 (n=56)	36.5	45.3	37.2	5.7	21.8	3.6	16.1	5.5	18.8	4.5	22.1	0.0
40～49歳 (n=86)	37.0	45.7	38.7	12.3	24.4	5.0	11.1	10.8	12.8	4.4	6.4	1.5
50～59歳 (n=63)	33.6	37.6	37.4	17.3	12.5	9.2	7.4	7.2	5.7	0.6	13.4	0.0
60～69歳 (n=73)	33.1	27.9	29.1	12.6	7.9	18.2	10.1	8.4	10.7	2.8	12.9	2.2
70歳以上 (n=166)	39.1	28.4	15.5	27.5	2.5	20.1	6.4	6.1	5.1	6.2	7.7	3.4
【地域別】												
下越地域 (n=51)	44.1	27.2	31.1	20.4	5.5	15.4	8.3	6.1	6.6	5.1	10.3	2.1
新潟地域 (n=227)	37.8	36.3	28.6	15.9	16.7	10.3	11.3	11.7	10.2	5.6	8.1	4.7
中越地域 (n=142)	36.9	34.9	26.1	15.3	11.4	10.9	9.5	5.9	10.4	2.4	14.7	0.0
魚沼地域 (n=35)	23.9	29.2	15.8	15.4	10.4	11.3	11.2	10.8	12.3	0.0	16.0	2.7
上越地域 (n=43)	43.7	33.2	33.7	14.4	8.1	17.7	11.6	18.1	10.1	5.3	1.6	0.0
佐渡地域 (n=14)	43.7	35.4	14.1	22.3	7.8	19.8	6.9	10.0	3.8	5.2	17.3	2.2

5. 消費者被害について
 (1) 消費者被害の経験

問 5-1 あなたは、この1年以内に、商品・サービスの購入（店舗販売、インターネット販売等、販売形態は問わない）について次のような経験がありますか。
 (ア)～(ク)のそれぞれについて、当てはまるものをお選びください。
 ((ア)～(ク)それぞれに○は1つだけ)



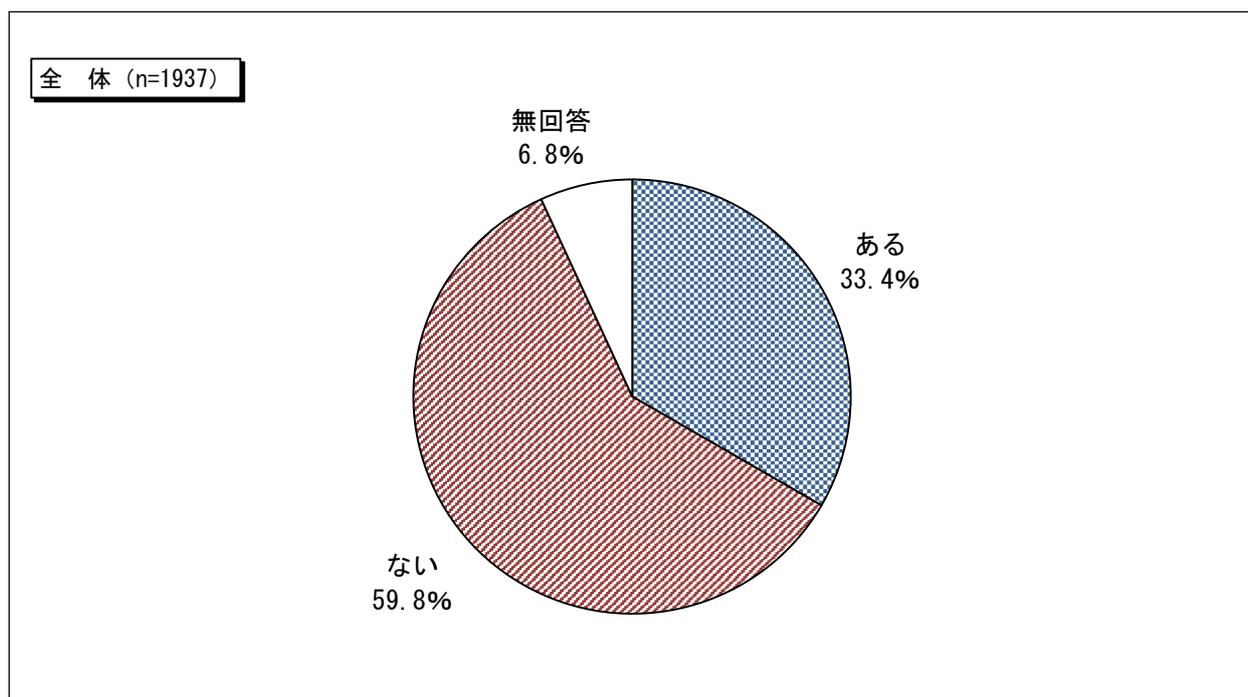
全体 (n=1937)



【全体結果】

「ある」と答えた割合は、「(ア)商品の機能・品質やサービスの質が期待よりかなり劣っていた」(22.2%)が2割強で最も高く、次に「(イ)表示・広告と実際の商品・サービスの内容がかなり違っていた」(18.0%)が2割弱となっている。他は1割未満となっている。

① (ア) ~ (ク) のいずれか1つでも経験がある割合



【全体結果】

(ア) ~ (ク) のいずれか1つでも「ある」(33.4%) と答えた割合は3割強となっている。

【性別】

「ある」(男性 35.8%、女性 31.1%) の割合は、男性の方が高く3割半ばとなっている。

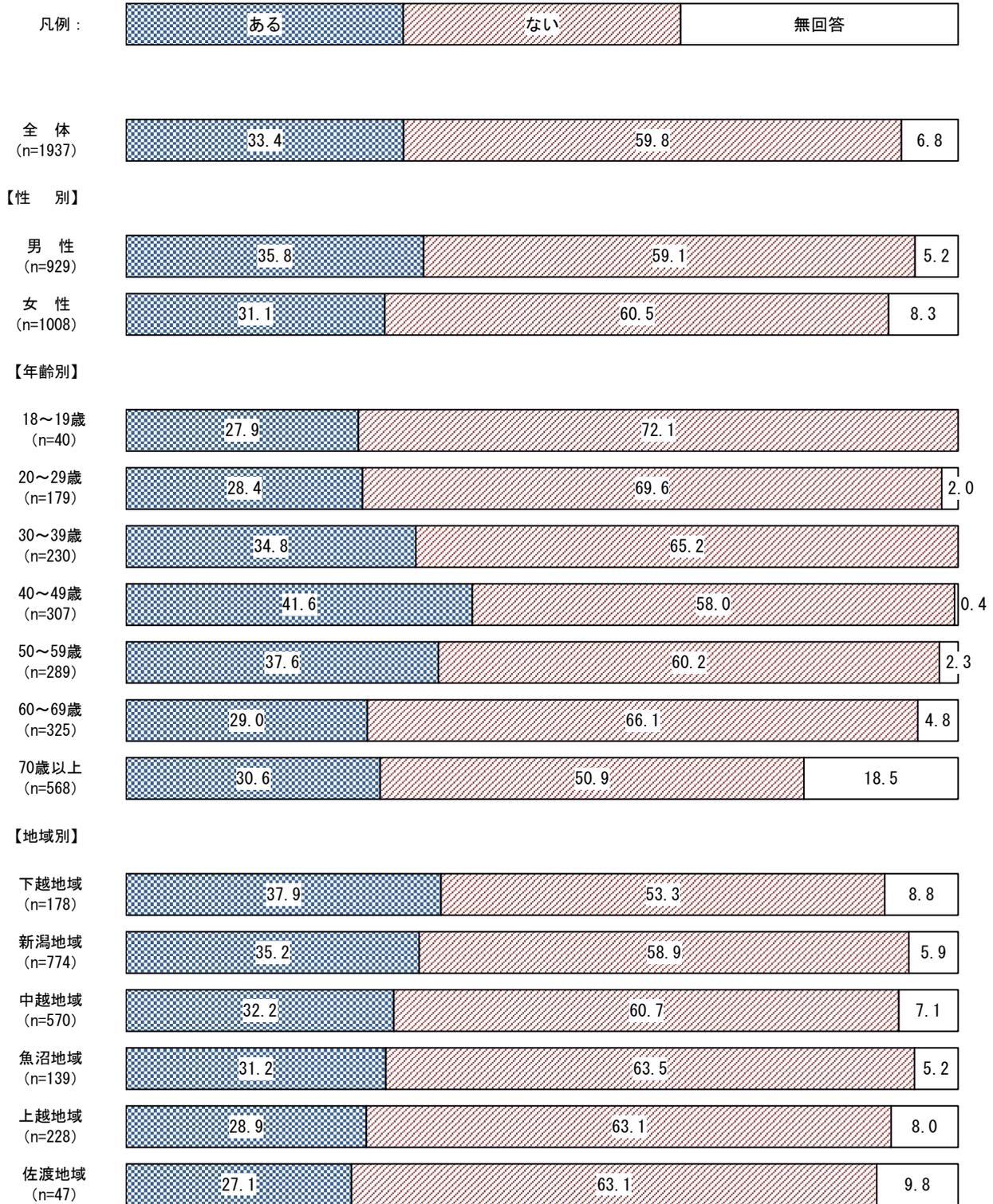
【年齢別】

「ある」の割合は、40代(41.6%)が最も高く、約4割となった。また、30代(34.8%)と50代(37.6%)も高く3割半ばとなっている。

【地域別】

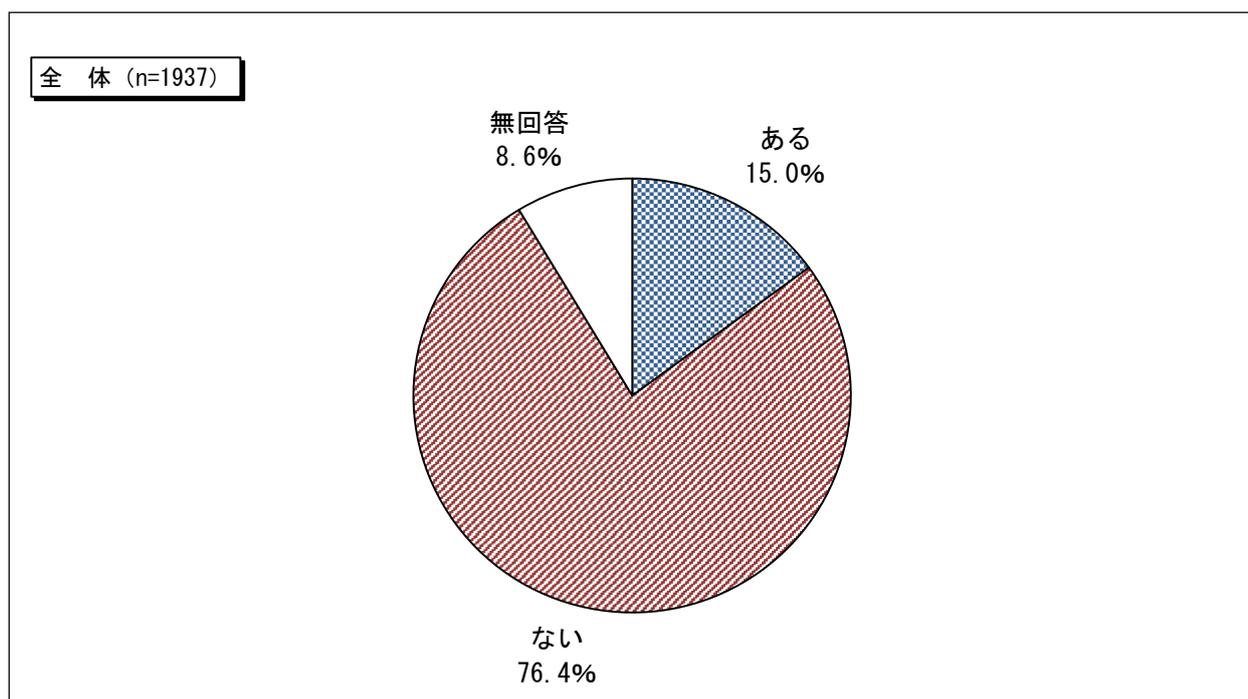
「ある」の割合は、下越地域(37.9%)、新潟地域(35.2%)、中越地域(32.2%)の順に高くなっている。

① (ア) ~ (ク) のいずれか1つでも当てはまる割合 (全体/属性別)



② (ウ)～(ク)※のいずれか1つでも経験がある割合

※新潟県総合計画における達成目標（成果指標）で「消費者被害」の範囲としている項目



【全体結果】

(ウ)～(ク)のいずれか1つでも「ある」(15.0%)と答えた割合は1割半ばとなっている。

【性別】

「ある」(男性 18.2%、女性 12.0%)の割合は、男性の方が高く2割弱となっている。

【年齢別】

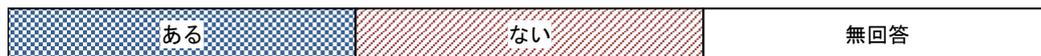
「ある」の割合は、40代(18.8%)、30代(16.9%)、20代(15.9%)の順に高くなっている。

【地域別】

「ある」の割合は、下越地域(17.4%)、新潟地域(15.9%)、中越地域(15.2%)の順に高くなっている。

② (ウ) ~ (ク) のいずれか1つでも当てはまる割合 (全体/属性別)

凡例 :



【性別】



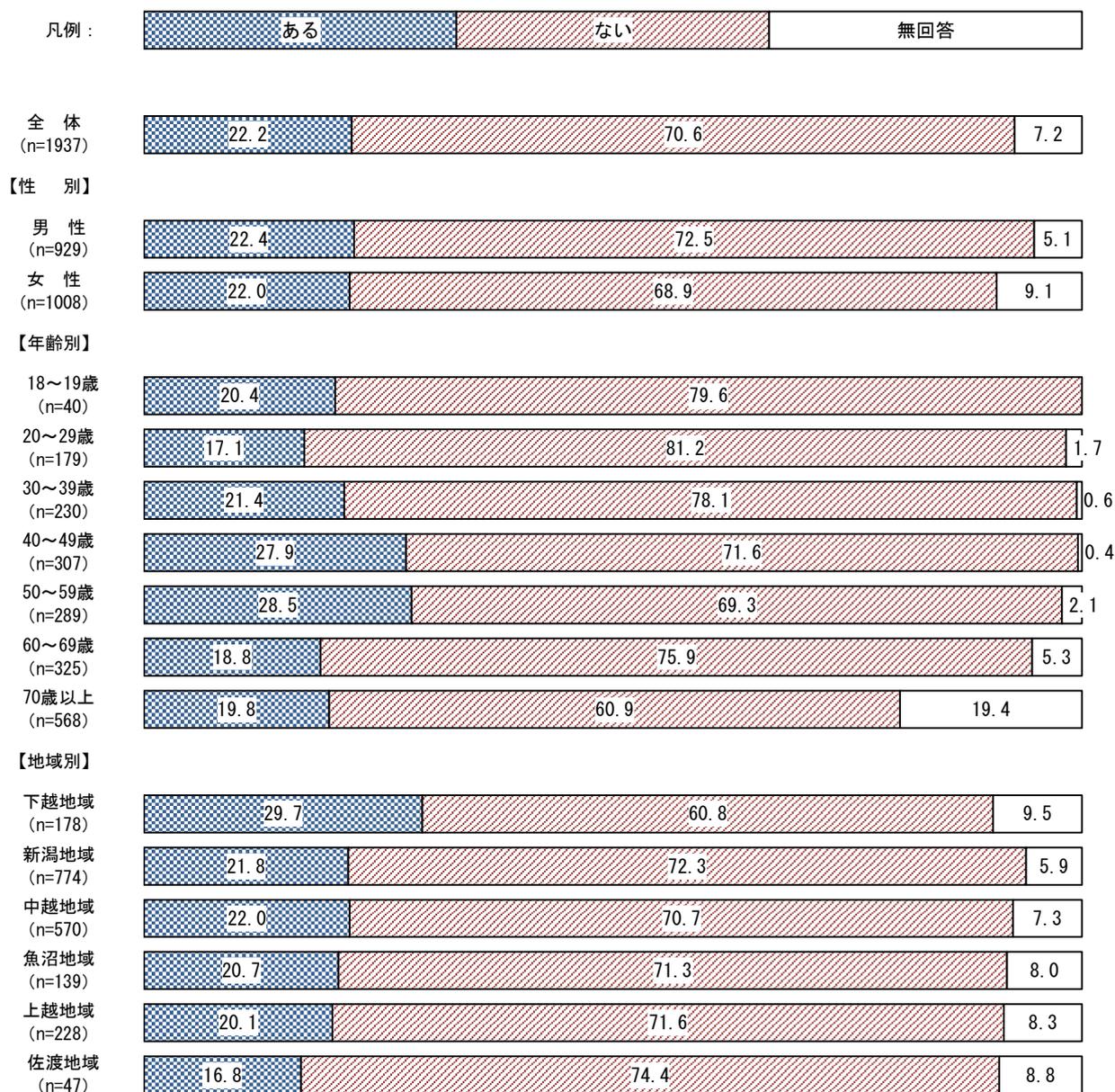
【年齢別】



【地域別】



(ア) 商品の機能・品質やサービスの質が期待よりかなり劣っていた



【全体結果】

「ある」(22.2%)と答えた割合は2割強となっている。

【性別】

性別で大きな差はみられない。

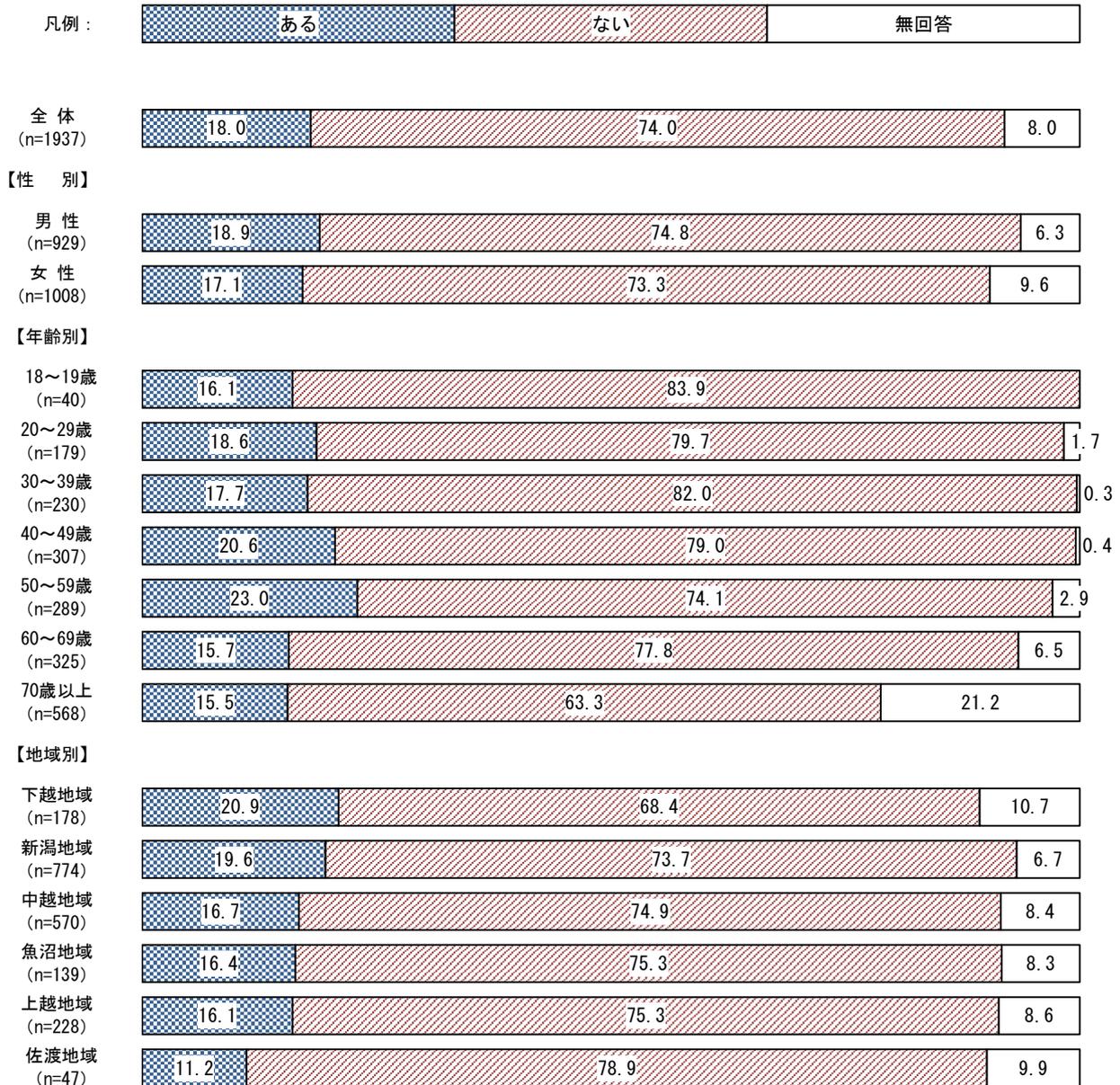
【年齢別】

「ある」の割合は、50代(28.5%)が最も高く、約3割となっている。

【地域別】

「ある」の割合は、下越地域(29.7%)、中越地域(22.0%)、新潟地域(21.8%)の順に高くなっている。

(イ) 表示・広告と実際の商品・サービスの内容がかなり違っていた



【全体結果】

「ある」(18.0%)と答えた割合は2割弱となっている。

【性別】

性別で大きな差はみられない。

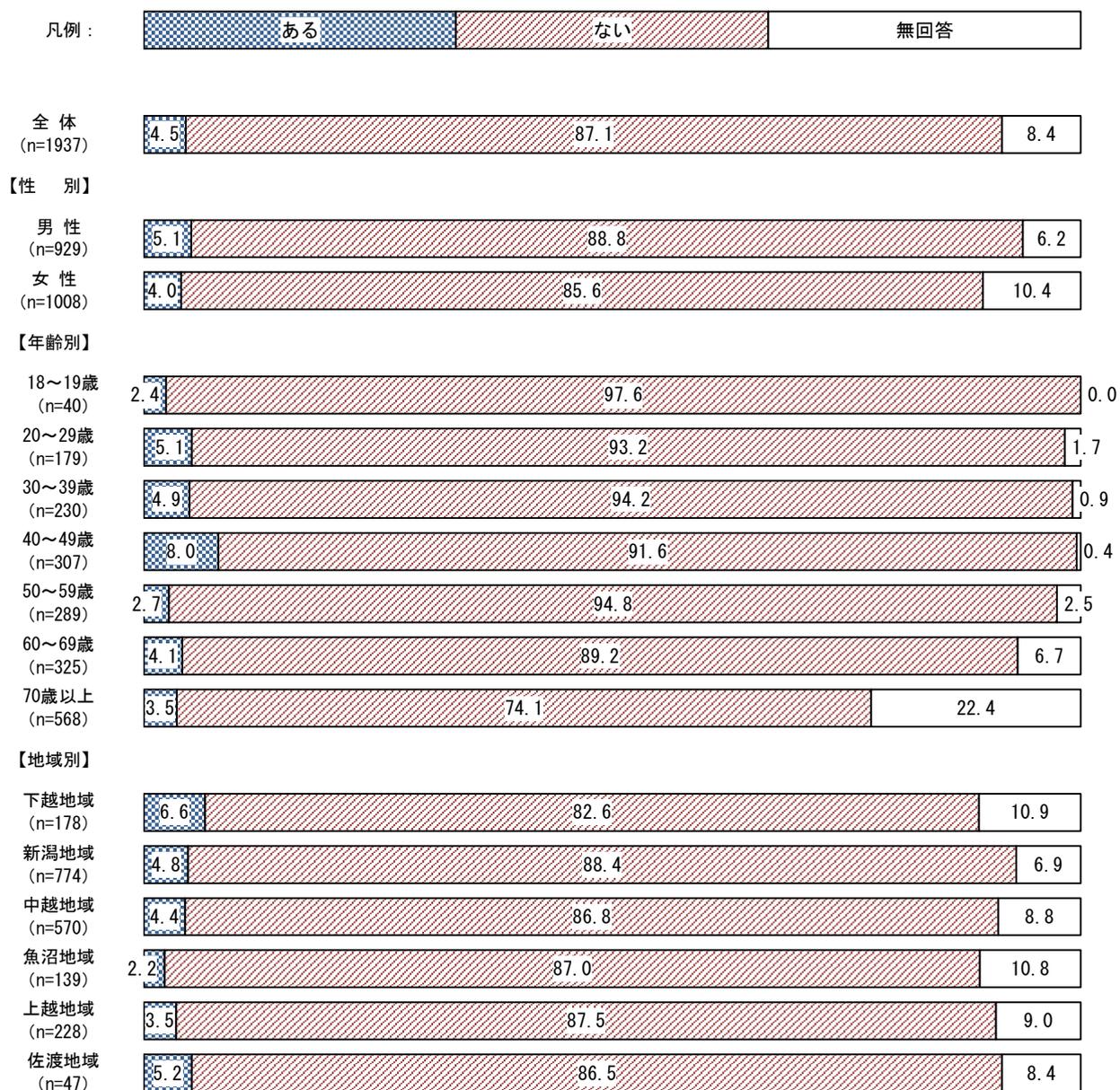
【年齢別】

「ある」の割合は、50代(23.0%)が最も高く、2割半ばとなっている。

【地域別】

「ある」の割合は、下越地域(20.9%)、新潟地域(19.6%)、中越地域(16.7%)の順に高くなっている。

(ウ) けが、病気をする等、安全性や衛生面に問題があった



【全体結果】

「ある」と答えた割合は4.5%となっている。

【性別】

性別で大きな差はみられない。

【年齢別】

「ある」の割合は、40代（8.0%）が最も高くなっている。

【地域別】

「ある」の割合は、下越地域（6.6%）、佐渡地域（5.2%）、新潟地域（4.8%）の順に高くなっている。

(エ) 思っていたよりかなり高い金額を請求された

凡例：

全体 (n=1937)

【性別】

男性 (n=929)

女性 (n=1008)

【年齢別】

18～19歳 (n=40)

20～29歳 (n=179)

30～39歳 (n=230)

40～49歳 (n=307)

50～59歳 (n=289)

60～69歳 (n=325)

70歳以上 (n=568)

【地域別】

下越地域 (n=178)

新潟地域 (n=774)

中越地域 (n=570)

魚沼地域 (n=139)

上越地域 (n=228)

佐渡地域 (n=47)

【全体結果】

「ある」と答えた割合は7.3%となっている。

【性別】

性別で大きな差は見られない。

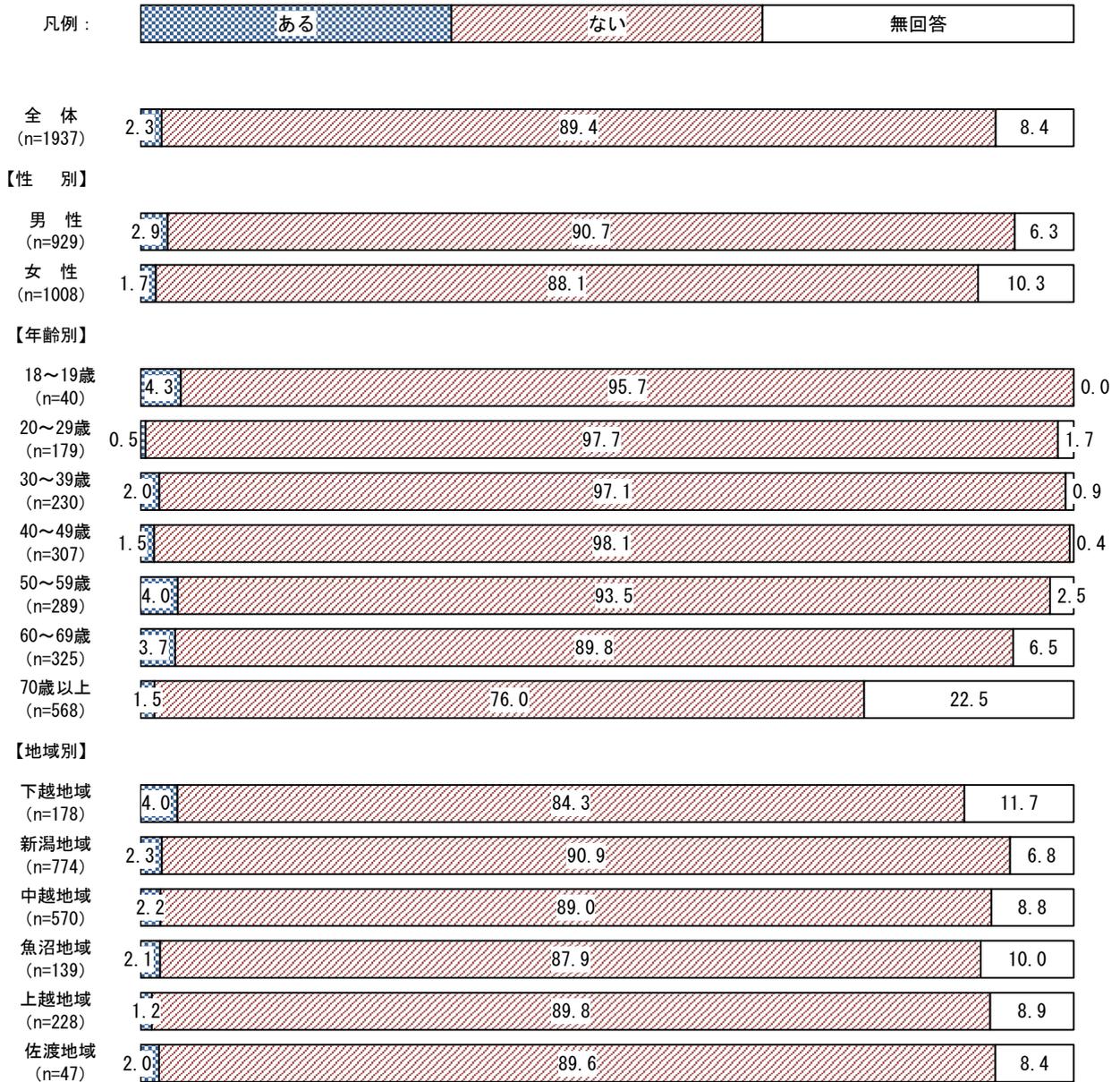
【年齢別】

「ある」の割合は、40代（12.2%）が最も高くなっている。

【地域別】

「ある」の割合は、魚沼地域（8.4%）、新潟地域（8.2%）、中越地域（7.6%）の順に高くなっている。

(オ) 問題のある販売手口やセールストークにより契約・購入した



【全体結果】

「ある」と答えた割合は2.3%となっている。

【性別】

性別で大きな差はみられない。

【年齢別】

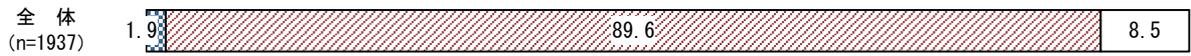
「ある」の割合は、10代（4.3%）が最も高くなっている。

【地域別】

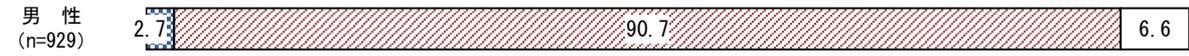
「ある」の割合は、下越地域（4.0%）、新潟地域（2.3%）の順に高くなっている。

(カ) 契約・解約時のトラブルにより被害に遭った

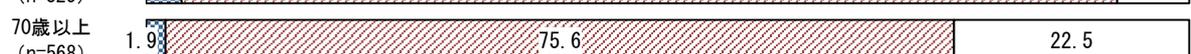
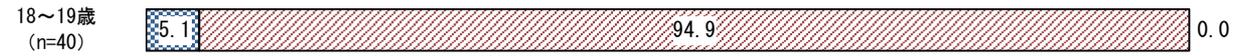
凡例：



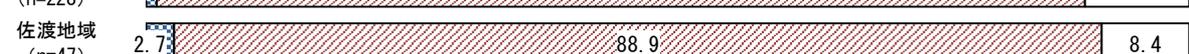
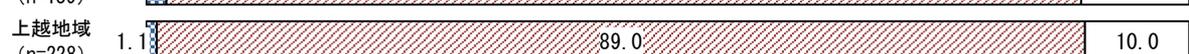
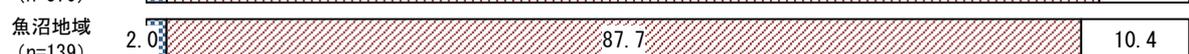
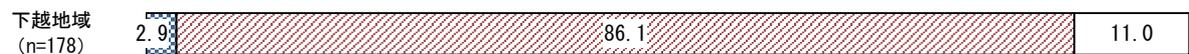
【性別】



【年齢別】



【地域別】



【全体結果】

「ある」と答えた割合は1.9%となっている。

【性別】

性別で大きな差はみられない。

【年齢別】

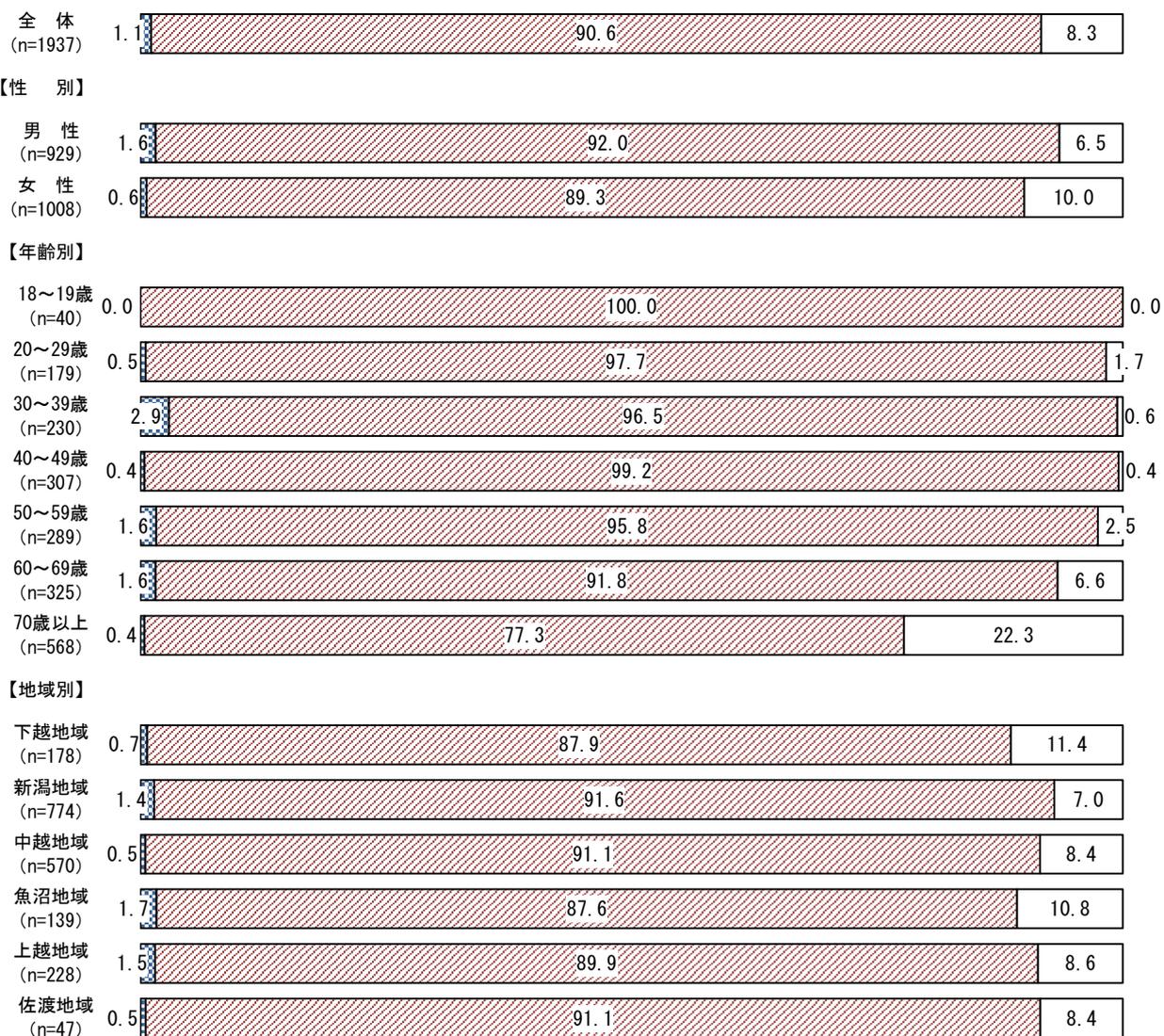
「ある」の割合は、10代（5.1%）が最も高くなっている。

【地域別】

「ある」の割合は、いずれの地域でも3%未満となっている。

(キ) 詐欺によって事業者にお金を払った（又はその約束をした）

凡例：



【全体結果】

「ある」と答えた割合は1.1%となっている。

【性別】

性別で大きな差はみられない。

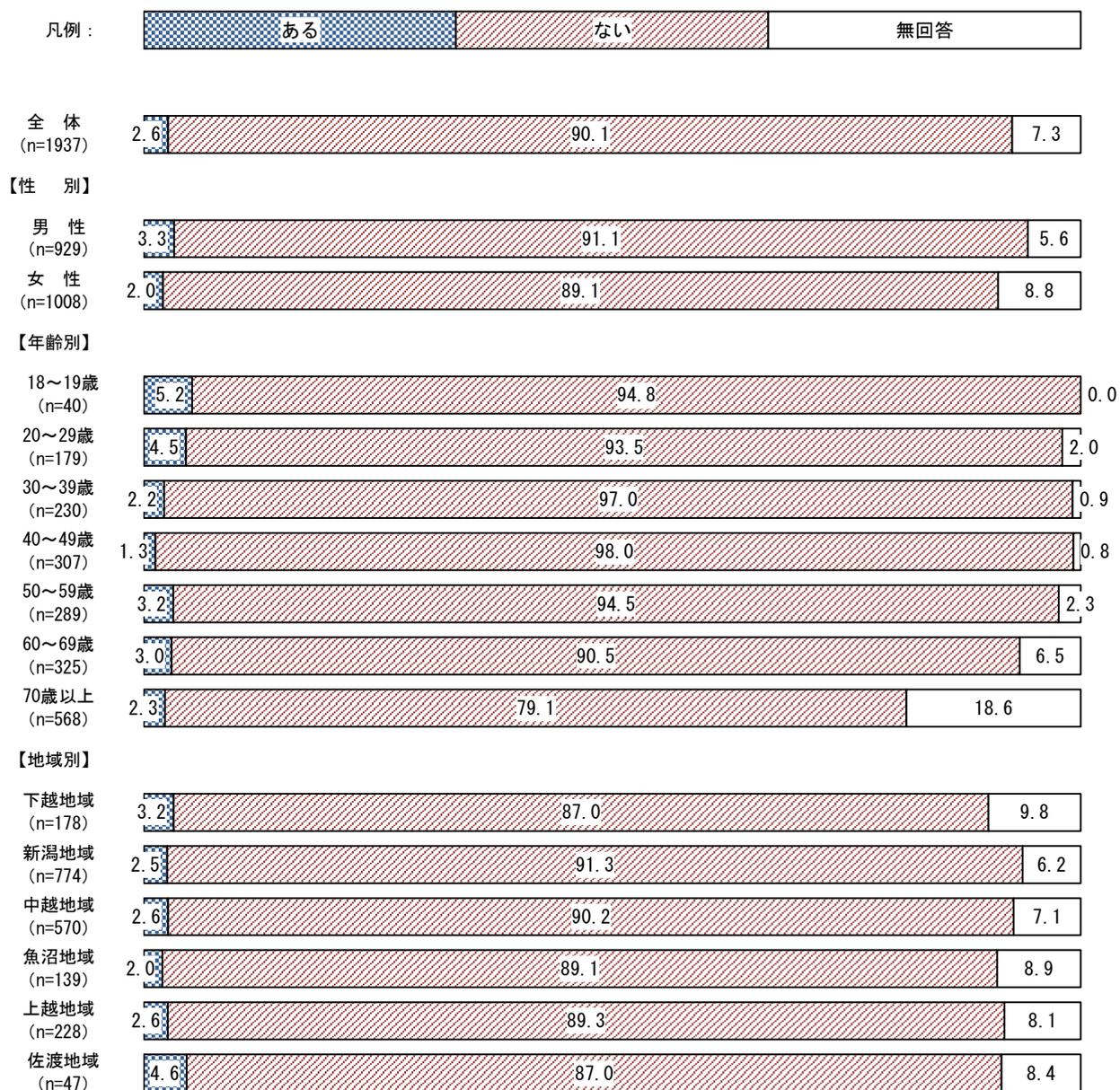
【年齢別】

「ある」の割合は、30代（2.9%）が最も高くなっている。

【地域別】

「ある」の割合は、いずれの地域でも2%未満となっている。

(ク) その他の消費者被害の経験



【全体結果】

「ある」と答えた割合は2.6%となっている。

【性別】

性別で大きな差はみられない。

【年齢別】

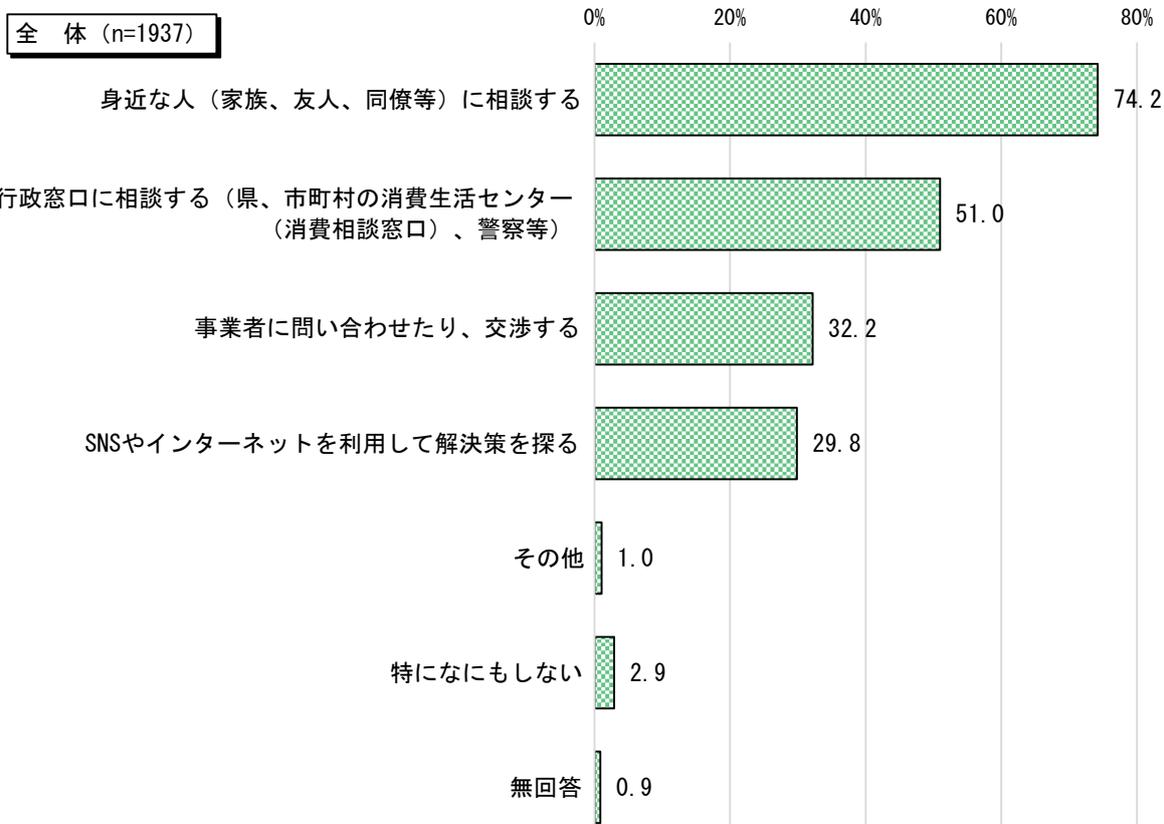
「ある」の割合は、10代（5.2%）が最も高くなっている。

【地域別】

「ある」の割合は、佐渡地域（4.6%）、下越地域（3.2%）、中越地域・上越地域（共に2.6%）の順に高くなっている。

（２）被害やトラブルに遭ったときの対処方法

問 5-2 あなたは、消費生活に関して被害やトラブルに遭ったとき、どう対処しますか。（○はいくつでも）



【全体結果】

「身近な人（家族、友人、同僚等）に相談する」（74.2%）の割合が7割半ばと最も高く他との差が大きい。以下「行政窓口相談する（県、市町村の消費生活センター（消費相談窓口）、警察等）」（51.0%）、「事業者にお問い合わせたり、交渉する」（32.2%）、「SNSやインターネットを利用して解決策を探る」（29.8%）の順が続いている。

【性別】

「身近な人（家族、友人、同僚等）に相談する」（男性 64.7%、女性 83.0%）の割合は、女性の方が高く、「行政窓口相談する（県、市町村の消費生活センター（消費相談窓口）、警察等）」（男性 53.4%、女性 48.7%）の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

どの年代も「身近な人（家族、友人、同僚等）に相談する」の割合が最も高い。「行政窓口相談する（県、市町村の消費生活センター（消費相談窓口）、警察等）」の割合は、60代（58.9%）が最も高くなっている。

【地域別】

どの地域でも「身近な人（家族、友人、同僚等）に相談する」の割合が最も高い。「行政窓口（県、市町村の消費生活センター（消費相談窓口）、警察等）」の割合は、佐渡地域（56.1%）で最も高く、魚沼地域（42.6%）で最も低くなっている。

（２）被害やトラブルに遭ったときの対処方法（全体／属性別）

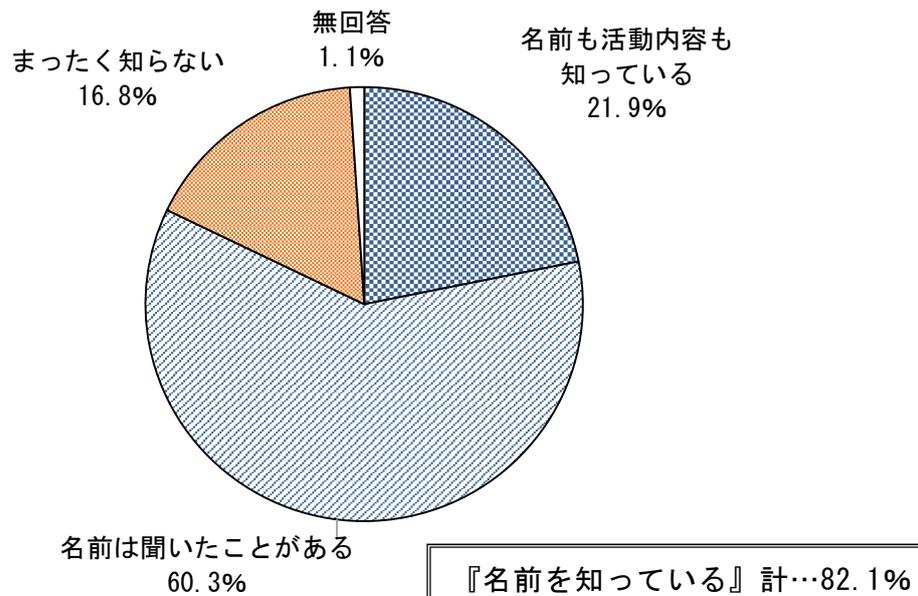
割合（％）	身近な人（家族、友人、同僚等）に相談する	行政窓口（県、市町村の消費生活センター（消費相談窓口）、警察等）に相談する	SNSやインターネットを利用して解決策を探る	事業者にお問い合わせたり、交渉する	その他	特になにもしない	無回答
全体 (n=1937)	74.2	51.0	29.8	32.2	1.0	2.9	0.9
【性別】							
男性 (n=929)	64.7	53.4	32.5	33.2	1.2	3.8	0.6
女性 (n=1008)	83.0	48.7	27.4	31.2	0.9	2.0	1.1
【年齢別】							
18～19歳 (n=40)	69.9	29.3	19.9	29.4	0.0	12.5	0.0
20～29歳 (n=179)	79.8	36.7	47.5	22.6	1.0	0.0	0.0
30～39歳 (n=230)	78.5	50.2	51.3	36.1	0.5	1.0	0.1
40～49歳 (n=307)	73.2	53.9	48.6	32.5	1.2	2.5	0.1
50～59歳 (n=289)	75.6	51.8	36.1	35.9	1.3	0.9	0.5
60～69歳 (n=325)	70.8	58.9	23.5	41.5	0.7	3.0	0.9
70歳以上 (n=568)	72.8	50.6	6.5	26.3	1.3	5.0	2.1
【地域別】							
下越地域 (n=178)	74.9	53.6	27.4	33.4	0.6	2.5	1.9
新潟地域 (n=774)	72.4	49.1	30.9	33.8	0.9	3.2	0.6
中越地域 (n=570)	73.8	52.5	32.4	34.2	1.4	2.7	1.0
魚沼地域 (n=139)	75.6	42.6	22.6	25.4	2.3	4.0	0.0
上越地域 (n=228)	80.7	55.3	27.3	25.4	0.0	1.5	1.0
佐渡地域 (n=47)	70.5	56.1	24.2	28.2	2.1	4.6	2.8

(3) 県や市町村の消費生活センター（相談窓口）の認知度

問 5-3 あなたは、県消費生活センターもしくは市町村の消費生活センター（市町村の消費相談窓口を含む）※を知っていますか。

※消費生活に関するトラブルなどの相談窓口であり、専門相談員や行政職員が相談に応じるほか、事業者間のあっせん（交渉）、啓発講座なども行うことがあります。（○は1つだけ）

全 体 (n=1937)



【全体結果】

「名前も活動内容も知っている」（21.9％）の割合が2割強、「名前は聞いたことがある」（60.3％）が約6割、合わせた『名前を知っている』計（82.1％）は8割強となった、一方で、「まったく知らない」（16.8％）は1割半ばとなっている。

【性別】

性別で大きな差は見られない。

【年齢別】

10代を除き、高齢層ほど「名前も活動内容も知っている」の割合が高い傾向がみられる。

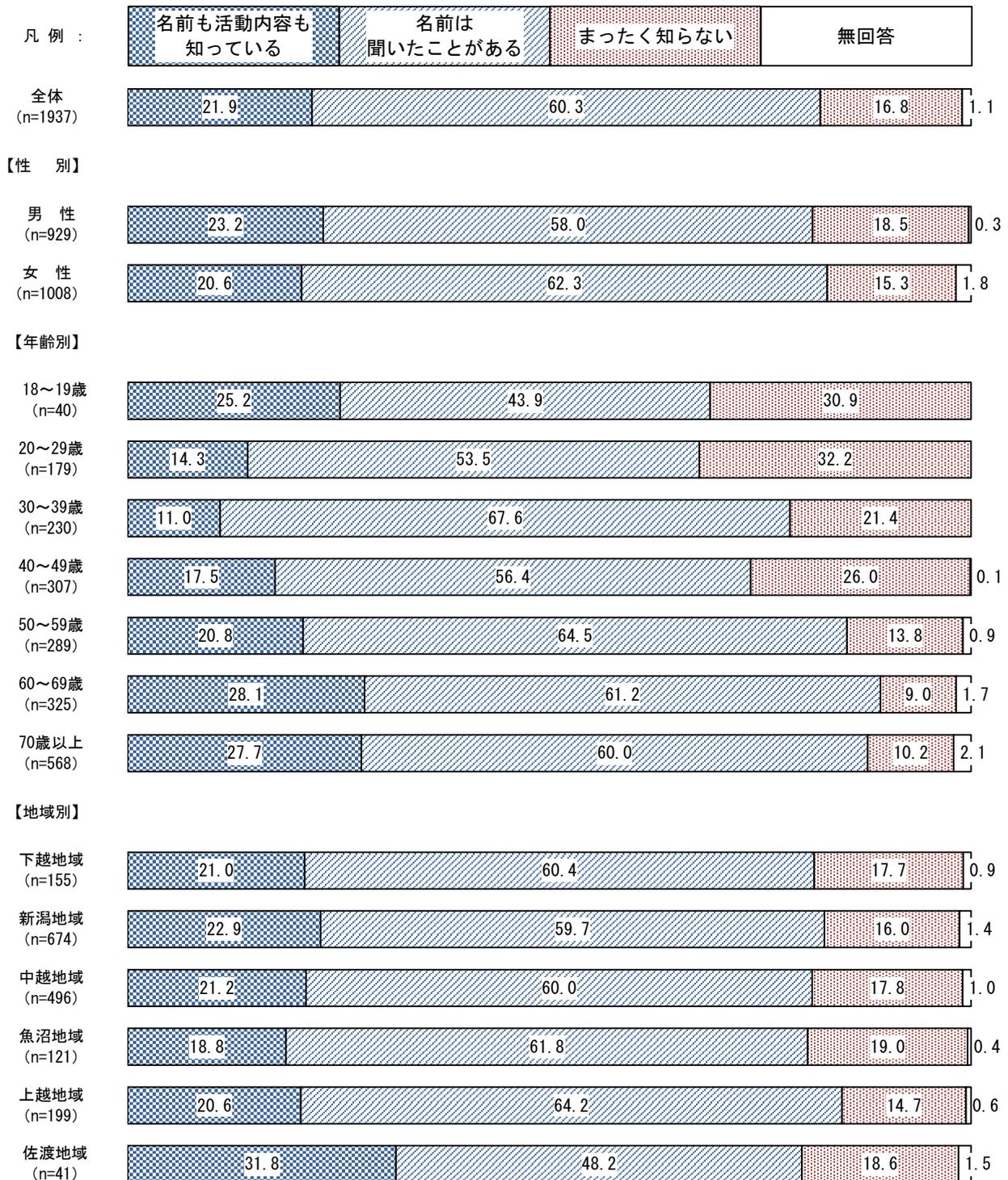
【地域別】

『名前を知っている』計の割合は、上越地域（84.7％）が最も高く、佐渡地域（80.0％）が最も低くなっている。

	『名前を知っている』計
全体 (n=1937)	82.1%
【性別】 男性 (n=929)	81.2%
女性 (n=1008)	82.9%
【年齢別】 18～19歳 (n=40)	69.1%
20～29歳 (n=179)	67.8%
30～39歳 (n=230)	78.6%
40～49歳 (n=307)	73.9%
50～59歳 (n=289)	85.3%
60～69歳 (n=325)	89.3%
70歳以上 (n=568)	87.8%

	『名前を知っている』計
【地域別】 下越地域 (n=178)	81.4%
新潟地域 (n=774)	82.6%
中越地域 (n=570)	81.2%
魚沼地域 (n=139)	80.6%
上越地域 (n=228)	84.7%
佐渡地域 (n=47)	80.0%

(3) 県や市町村の消費生活センター（相談窓口）の認知度（全体／属性別）



6. 環境について

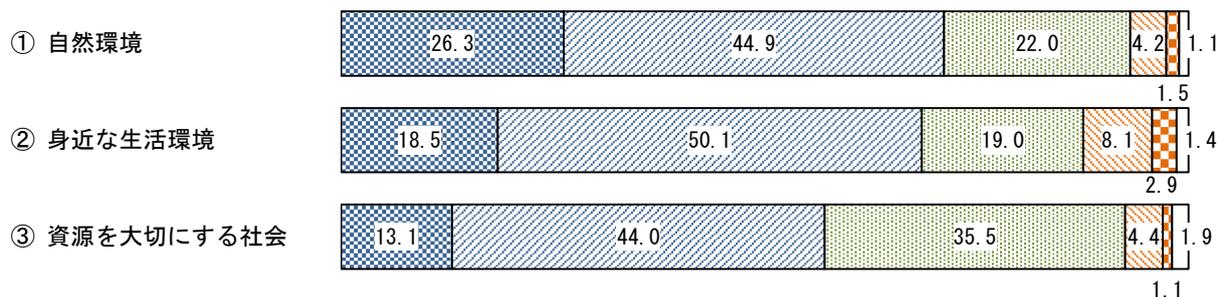
(1) 地域の環境に関する満足度

問 6-1 あなたは、現在住んでいる地域の環境に関する次の①から③の項目について、満足していますか、それとも不満ですか。それぞれの項目ごとに一番近いものをお選びください。(①～③それぞれに○は1つだけ)

凡例：



全 体 (n=1937)



※1「自然環境」とは、海、河川、湖沼などの豊かさや、山、森林の豊かさ、動植物の多様さ、自然との親しみやすさ、自然景観の美しさなどを指しています。

※2「身近な生活環境」とは、空気のきれいさや、水（海、河川、湖沼）のきれいさ、まちの静けさや清潔さ、不快なおいのなさ、公園などの公共施設の緑の豊富さなどを指しています。

※3「資源を大切に作る社会」とは、日常生活や産業活動の中で、ごみをできるだけ出さず、もの（資源）を繰り返し使用したり、分別してリサイクルを進めたりする状況を指しています。

	『満足』計	『不満』計
① 自然環境	71.2%	5.8%
② 身近な生活環境	68.5%	11.0%
③ 資源を大切に作る社会	57.1%	5.5%

【全体結果】

「満足している」と「ほぼ満足している」を合計した『満足』計の割合をみると、[①自然環境] (71.2%) は7割強、[②身近な生活環境] (68.5%) は7割弱、[③資源を大切に作る社会] (57.1%) は6割弱となっている。

割合 (%)	『満足』計		
	① 自然環境	② 身近な生活環境	③ 資源を大切に する社会
全体 (n=1937)	71.2	68.5	57.1

『不満』計		
① 自然環境	② 身近な生活環境	③ 資源を大切に する社会
5.8	11.0	5.5

【性別】

男性 (n=929)	72.0	68.3	56.3
女性 (n=1008)	70.4	68.7	57.8

5.4	11.1	6.3
6.1	10.9	4.8

【年齢別】

18～19歳 (n=40)	75.7	78.7	60.2
20～29歳 (n=179)	73.1	69.8	63.0
30～39歳 (n=230)	73.0	76.7	53.1
40～49歳 (n=307)	73.5	68.2	51.1
50～59歳 (n=289)	71.3	63.6	53.8
60～69歳 (n=325)	68.3	64.9	57.1
70歳以上 (n=568)	69.8	68.9	61.5

0.0	0.8	5.1
2.8	9.7	3.1
10.7	7.6	8.7
3.9	14.3	6.3
6.6	12.8	5.9
5.6	13.4	5.3
5.7	9.4	4.6

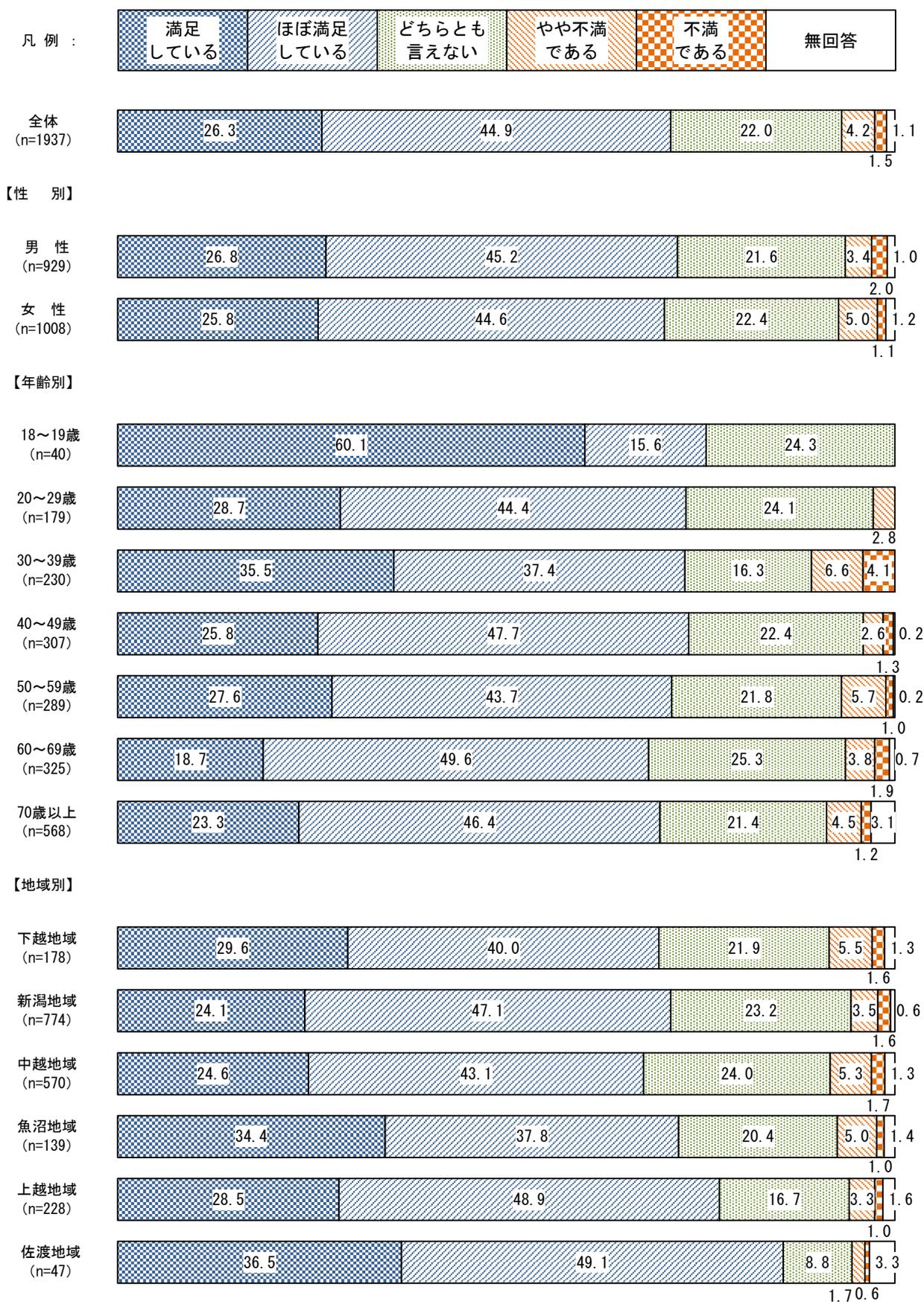
【地域別】

下越地域 (n=178)	69.6	62.8	53.9
新潟地域 (n=774)	71.1	68.3	59.7
中越地域 (n=570)	67.7	67.6	53.0
魚沼地域 (n=139)	72.2	72.2	53.8
上越地域 (n=228)	77.4	73.0	62.0
佐渡地域 (n=47)	85.6	72.2	61.9

7.1	15.6	9.1
5.1	10.8	3.4
7.0	12.4	7.7
6.0	10.9	7.6
4.3	5.5	3.6
2.3	8.2	4.8

(1) 地域の環境に関する満足度

①自然環境（全体/属性別）



※「自然環境」とは、海、河川、湖沼などの豊かさや、山、森林の豊かさ、動植物の多様さ、自然との親しみやすさ、自然景観の美しさなどを指しています。

		『満足』計	『不満』計
全体 (n=1937)		71.2%	5.8%
【性別】	男性 (n=929)	72.0%	5.4%
	女性 (n=1008)	70.4%	6.1%
【年齢別】	18～19歳 (n=40)	75.7%	0.0%
	20～29歳 (n=179)	73.1%	2.8%
	30～39歳 (n=230)	73.0%	10.7%
	40～49歳 (n=307)	73.5%	3.9%
	50～59歳 (n=289)	71.3%	6.6%
	60～69歳 (n=325)	68.3%	5.6%
	70歳以上 (n=568)	69.8%	5.7%
【地域別】	下越地域 (n=178)	69.6%	7.1%
	新潟地域 (n=774)	71.1%	5.1%
	中越地域 (n=570)	67.7%	7.0%
	魚沼地域 (n=139)	72.2%	6.0%
	上越地域 (n=228)	77.4%	4.3%
	佐渡地域 (n=47)	85.6%	2.3%

【性別】

性別に大きな差は見られない。

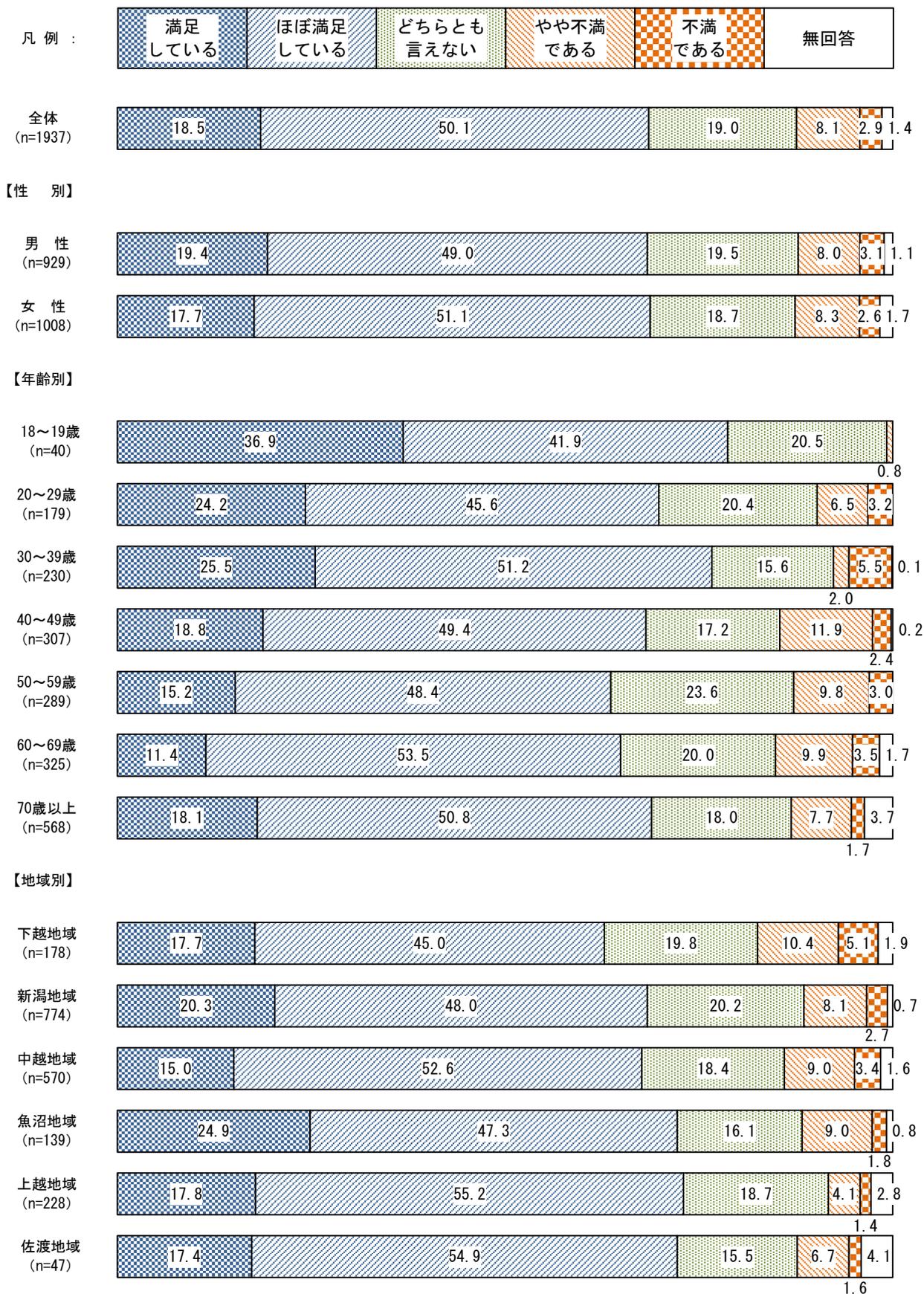
【年齢別】

『満足』計の割合は、10代（75.7%）が最も高くなっている。

【地域別】

『満足』計の割合は、佐渡地域（85.6%）が最も高くなっている。

②身近な生活環境（全体/属性別）



※「身近な生活環境」とは、空気のきれいさや、水（海、河川、湖沼）のきれいさ、まちの静けさや清潔さ、不快なおいのなさ、公園などの公共施設の緑の豊富さなどを指しています。

		『満足』計	『不満』計
全体 (n=1937)		68.5%	11.0%
【性別】	男性 (n=929)	68.3%	11.1%
	女性 (n=1008)	68.7%	10.9%
【年齢別】	18～19歳 (n=40)	78.7%	0.8%
	20～29歳 (n=179)	69.8%	9.7%
	30～39歳 (n=230)	76.7%	7.6%
	40～49歳 (n=307)	68.2%	14.3%
	50～59歳 (n=289)	63.6%	12.8%
	60～69歳 (n=325)	64.9%	13.4%
	70歳以上 (n=568)	68.9%	9.4%
【地域別】	下越地域 (n=178)	62.8%	15.6%
	新潟地域 (n=774)	68.3%	10.8%
	中越地域 (n=570)	67.6%	12.4%
	魚沼地域 (n=139)	72.2%	10.9%
	上越地域 (n=228)	73.0%	5.5%
	佐渡地域 (n=47)	72.2%	8.2%

【性別】

性別で大きな差はみられない。

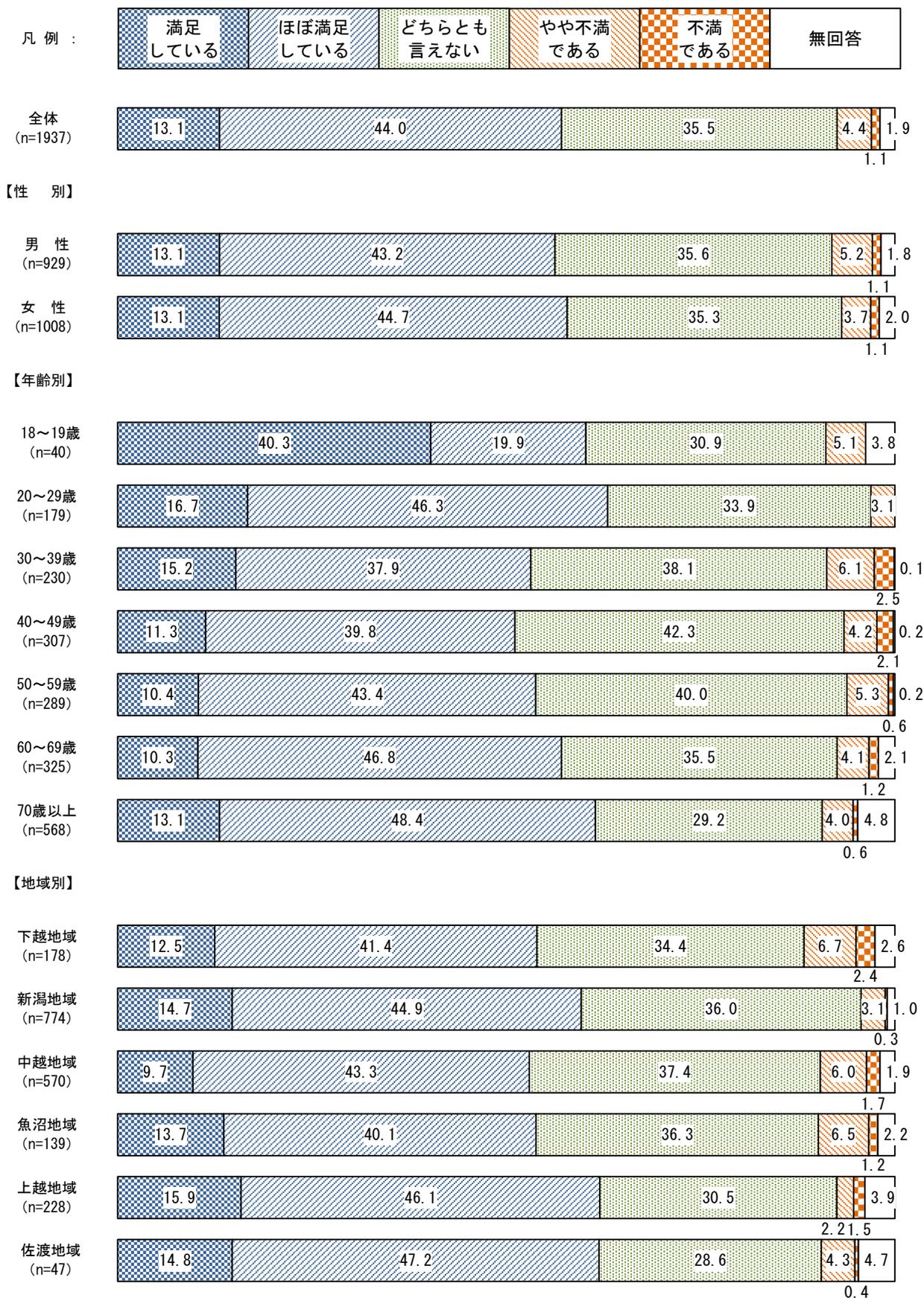
【年齢別】

『満足』計の割合は、10代（78.7%）が最も高くなっている。

【地域別】

『満足』計の割合は、上越地域（73.0%）が最も高くなっている。

③資源を大切にする社会（全体/属性別）



※「資源を大切にする社会」とは、日常生活や産業活動の中で、ごみをできるだけ出さず、もの（資源）を繰り返し使用したり、分別してリサイクルを進めたりする状況を指しています。

		『満足』計	『不満』計
全体 (n=1937)		57.1%	5.5%
【性別】	男性 (n=929)	56.3%	6.3%
	女性 (n=1008)	57.8%	4.8%
【年齢別】	18～19歳 (n=40)	60.2%	5.1%
	20～29歳 (n=179)	63.0%	3.1%
	30～39歳 (n=230)	53.1%	8.7%
	40～49歳 (n=307)	51.1%	6.3%
	50～59歳 (n=289)	53.8%	5.9%
	60～69歳 (n=325)	57.1%	5.3%
	70歳以上 (n=568)	61.5%	4.6%
	【地域別】	下越地域 (n=178)	53.9%
新潟地域 (n=774)		59.7%	3.4%
中越地域 (n=570)		53.0%	7.7%
魚沼地域 (n=139)		53.8%	7.6%
上越地域 (n=228)		62.0%	3.6%
佐渡地域 (n=47)		61.9%	4.8%

【性別】

性別で大きな差はみられない。

【年齢別】

『満足』計の割合は、20代（63.0%）が最も高くなっている。

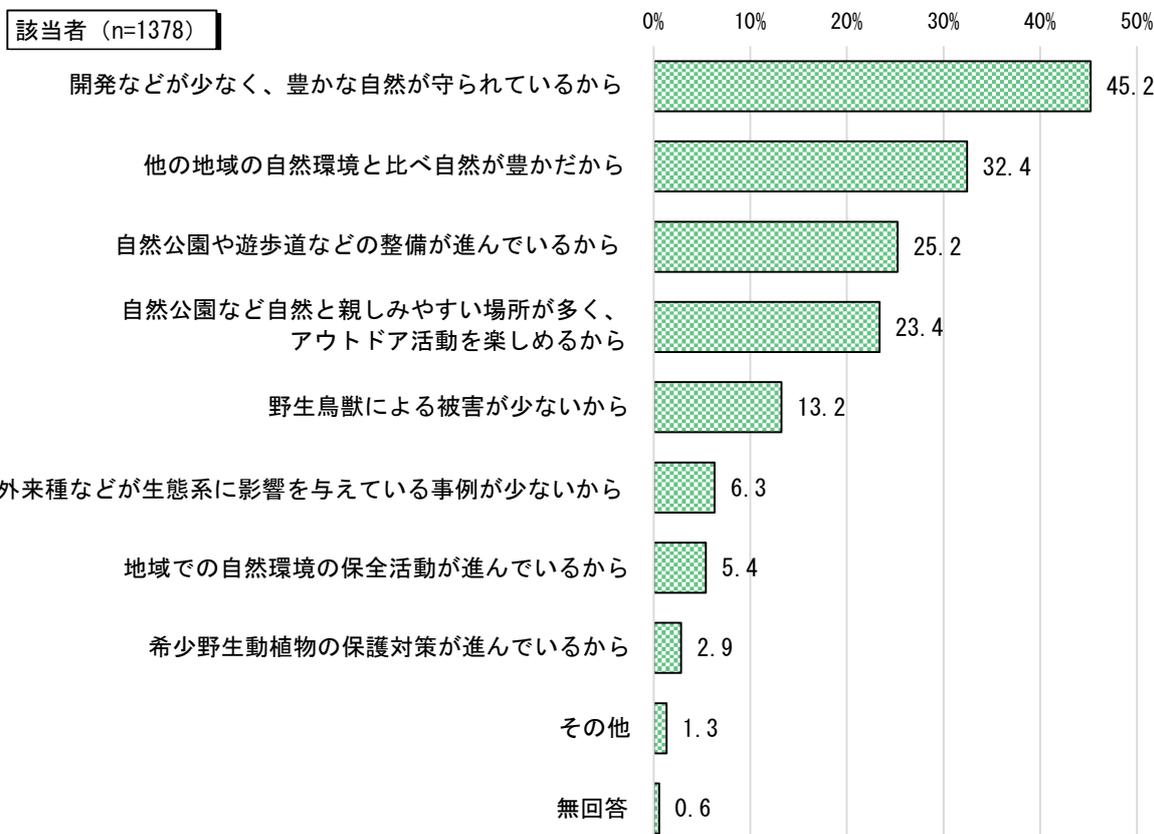
【地域別】

『満足』計の割合は、上越地域（62.0%）が最も高くなっている。

(2) 自然環境に満足している理由

(問 6-1 の「①自然環境」において、「1 満足している」、「2 ほぼ満足している」と回答した方だけにお聞きします。)

問 6-2 特に満足している理由は何ですか。(〇は2つまで)



【全体結果】

「開発などが少なく、豊かな自然が守られているから」(45.2%)の割合が最も高く、以下「他の地域の自然環境と比べ自然が豊かだから」(32.4%)、「自然公園や遊歩道などの整備が進んでいるから」(25.2%)、「自然公園など自然と親しみやすい場所が多く、アウトドア活動を楽しめるから」(23.4%)と続いている。

【性別】

「自然公園など自然と親しみやすい場所が多く、アウトドア活動を楽しめるから」(男性 26.8%、女性 20.2%)の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

「開発などが少なく、豊かな自然が守られているから」の割合は 10 代 (58.7%) が最も高くなっている。「他の地域の自然環境と比べ自然が豊かだから」の割合は 50 代 (39.2%)、「自然公園や遊歩道などの整備が進んでいるから」の割合は 30 代 (37.7%) が最も高くなっている。

【地域別】

「開発などが少なく、豊かな自然が守られているから」の割合は中越地域（45.7%）と新潟地域（36.4%）を除くと5割半ばとなっている。また、「自然公園や遊歩道などの整備が進んでいるから」の割合は新潟地域（40.4%）が最も高くなっている。

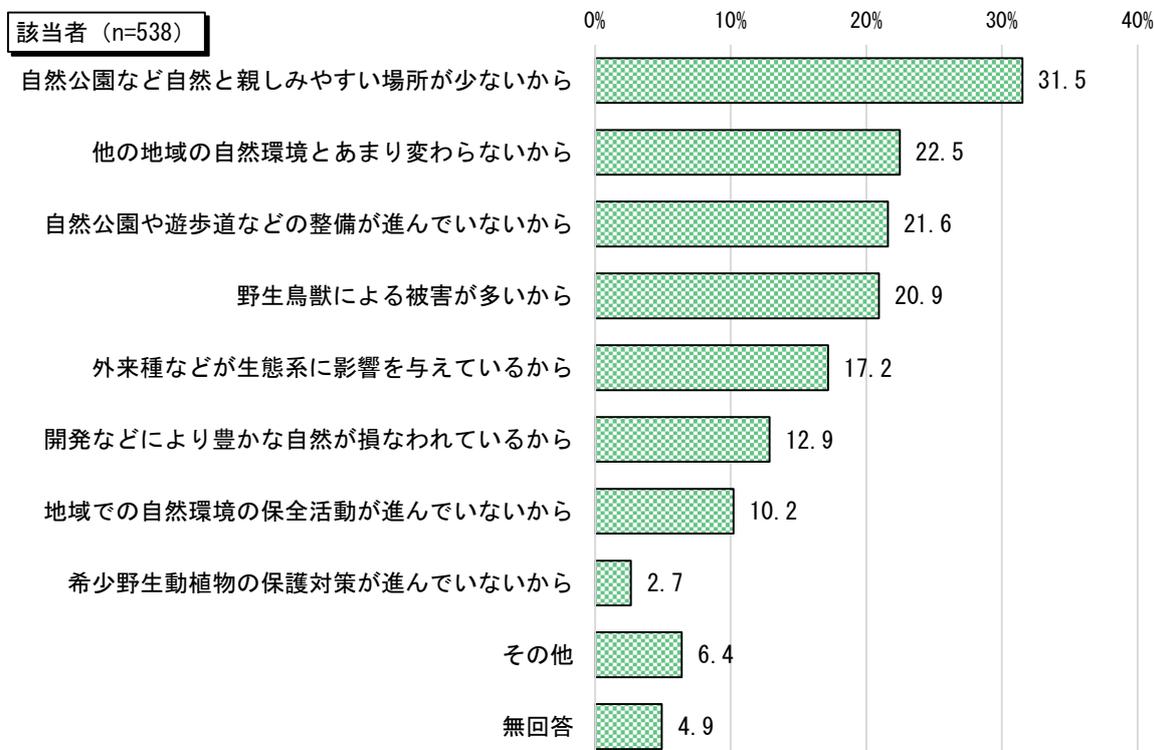
（2）自然環境に満足している理由（全体／属性別）

割合（%）	開発などが少なく、豊かな自然が守られているから	他の地域の自然環境と比べ自然が豊かだから	自然公園や遊歩道などの整備が進んでいるから	自然公園など自然と親しみやすい場所が多く、アウトドア活動を楽しめるから	野生鳥獣による被害が少ないから	外来種などが生態系に影響を与えている事例が少ないから	地域での自然環境の保全活動が進んでいるから	希少野生動植物の保護対策が進んでいるから	その他	無回答
全体 (n=1378)	45.2	32.4	25.2	23.4	13.2	6.3	5.4	2.9	1.3	0.6
【性別】										
男性 (n=669)	45.9	31.8	25.2	26.8	12.5	4.5	6.8	3.1	0.2	0.6
女性 (n=709)	44.6	33.0	25.3	20.2	13.9	8.0	4.1	2.6	1.0	1.1
【年齢別】										
18～19歳 (n=31)	58.7	26.9	14.4	40.9	6.9	0.0	6.8	1.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=131)	46.0	26.1	21.3	38.8	5.9	4.9	3.2	5.6	0.0	0.0
30～39歳 (n=168)	33.2	31.4	37.7	37.7	3.4	6.6	3.4	3.3	1.9	0.0
40～49歳 (n=226)	39.1	34.0	26.3	31.1	8.7	4.5	5.0	1.6	2.7	0.3
50～59歳 (n=206)	46.4	39.2	24.8	19.6	8.9	3.0	3.9	3.5	0.9	0.5
60～69歳 (n=222)	47.0	34.4	21.8	21.8	16.2	5.7	7.4	2.0	1.7	0.6
70歳以上 (n=396)	50.8	29.9	23.6	9.3	23.5	10.3	6.9	2.8	0.9	1.2
【地域別】										
下越地域 (n=124)	56.5	44.6	16.3	18.6	7.8	5.5	5.4	2.3	3.2	1.8
新潟地域 (n=551)	36.4	21.9	40.4	27.5	15.2	5.4	4.9	2.9	0.6	0.7
中越地域 (n=386)	45.7	38.8	18.3	21.5	13.5	6.9	5.6	1.9	2.0	0.3
魚沼地域 (n=100)	55.7	44.9	7.6	19.2	2.7	8.4	5.1	1.4	1.8	0.0
上越地域 (n=177)	55.6	35.4	14.3	23.3	12.2	6.7	7.0	1.9	0.9	0.4
佐渡地域 (n=40)	53.6	34.0	4.5	9.9	31.3	9.0	5.2	21.3	0.0	0.5

(3) 自然環境に満足していない理由

(問6-1の「①自然環境」において、「3どちらとも言えない」、「4やや不満である」または「5 不満である」と回答した方だけにお聞きします。)

問6-3 特に満足していない理由は何ですか。(〇は2つまで)



【全体結果】

「自然公園など自然と親しみやすい場所が少ないから」(31.5%)の割合が最も高くなっている。以下、「他の地域の自然環境とあまり変わらないから」(22.5%)、「自然公園や遊歩道などの整備が進んでいないから」(21.6%)、「野生鳥獣による被害が多いから」(20.9%)と続いている。

【性別】

「他の地域の自然環境とあまり変わらないから」(男性23.8%、女性21.3%)、「開発などにより豊かな自然が損なわれているから」(男性16.0%、女性10.1%)は男性の方が、「自然公園など自然と親しみやすい場所が少ないから」(男性28.3%、女性34.3%)、「野生鳥獣による被害が多いから」(男性16.2%、女性25.0%)は、女性の方が割合が高くなっている。

【年齢別】

「自然公園など自然と親しみやすい場所が少ないから」の割合は、20代(40.9%)が高く4割を超えている。

【地域別】

「自然公園など自然と親しみやすい場所が少ないから」の割合は、上越地域(39.1%)が最も高く、約4割となっている。

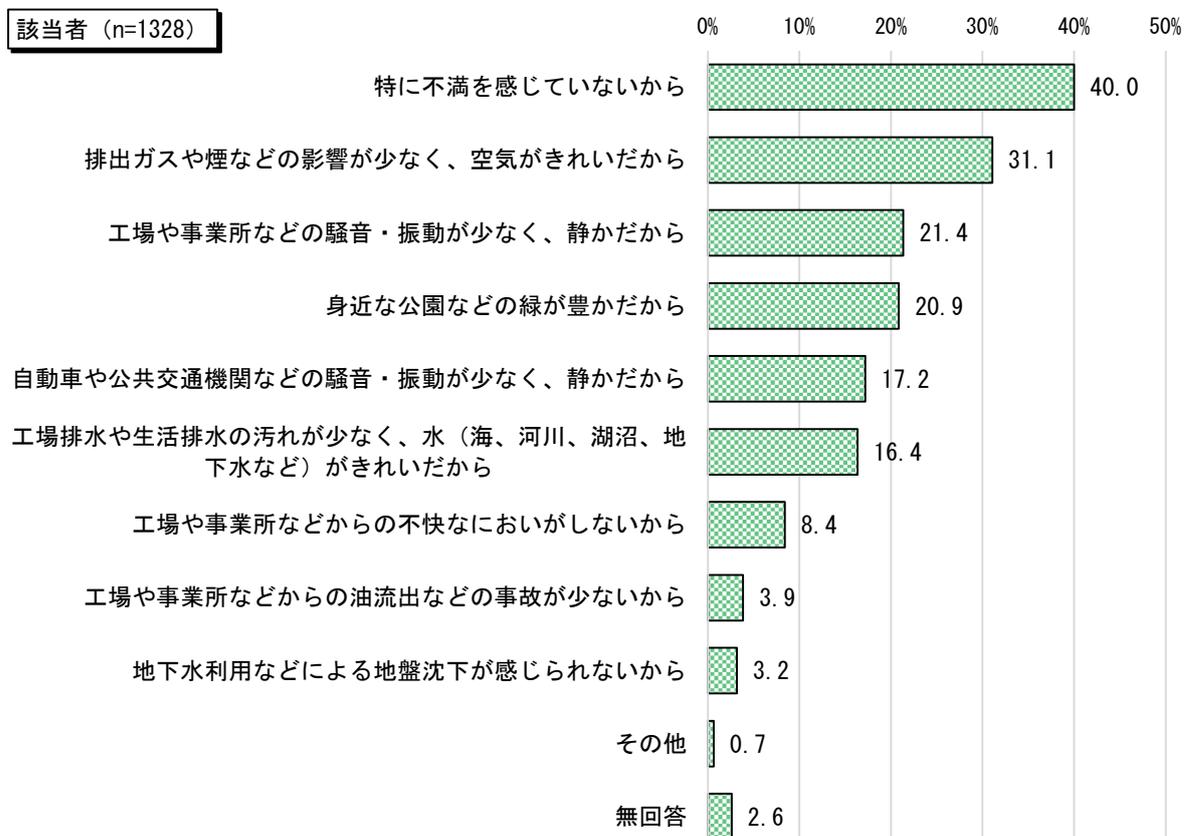
(3) 自然環境に満足していない理由(全体/属性別)

割合(%)	自然公園など自然と親しみやすい場所が少ないから	他の地域の自然環境とあまり変わらないから	自然公園や遊歩道などの整備が進んでいないから	野生鳥獣による被害が多いから	外来種などが生態系に影響を与えているから	開発などにより豊かな自然が損なわれているから	地域での自然環境の保全活動が進んでいないから	希少野生動植物の保護対策が進んでいないから	その他	無回答
全体 (n=538)	31.5	22.5	21.6	20.9	17.2	12.9	10.2	2.7	6.4	4.9
【性別】										
男性 (n=251)	28.3	23.8	18.6	16.2	17.9	16.0	9.4	1.5	10.1	6.7
女性 (n=287)	34.3	21.3	24.2	25.0	16.5	10.1	10.9	3.6	3.2	3.4
【年齢別】										
18~19歳 (n=10)	0.0	37.1	0.0	0.0	0.0	35.5	0.0	0.0	27.4	0.0
20~29歳 (n=48)	40.9	20.1	20.1	17.9	19.8	16.8	3.6	0.0	9.3	3.6
30~39歳 (n=62)	21.3	21.7	32.3	22.8	13.6	13.4	4.7	2.7	6.9	12.3
40~49歳 (n=81)	33.0	31.1	27.0	16.0	23.0	10.5	4.3	1.3	4.7	2.8
50~59歳 (n=82)	28.5	23.8	21.7	18.4	16.0	14.2	9.7	2.9	8.2	4.5
60~69歳 (n=100)	33.4	21.3	27.8	23.9	16.7	7.8	12.5	3.8	3.5	3.0
70歳以上 (n=154)	34.3	18.1	12.2	24.5	16.8	13.8	17.0	3.4	5.8	5.2
【地域別】										
下越地域 (n=52)	20.4	16.4	16.2	31.5	24.2	11.7	14.4	5.7	2.3	9.6
新潟地域 (n=219)	36.8	25.4	23.3	11.3	11.9	16.0	8.5	2.4	8.8	3.5
中越地域 (n=177)	29.6	23.0	24.5	22.7	20.5	11.9	10.1	1.3	4.6	3.9
魚沼地域 (n=37)	15.5	13.3	15.3	52.0	23.6	6.2	12.0	0.0	8.0	8.1
上越地域 (n=48)	39.1	22.7	13.4	24.1	15.4	8.9	10.7	7.9	5.1	7.7
佐渡地域 (n=05)	24.9	4.8	25.2	14.7	27.0	10.5	26.1	0.0	9.8	5.8

(4) 身近な生活環境に満足している理由

(問 6-1 の「②身近な生活環境」において、「1 満足している」、「2 ほぼ満足している」と回答した方だけにお聞きします。)

問 6-4 満足しているとした理由は何ですか。(〇は2つまで)



【全体結果】

「特に不満を感じていないから」(40.0%)の割合が最も高くなっている。以下、「排出ガスや煙などの影響が少なく、空気がきれいだから」(31.1%)、「工場や事業所などの騒音・振動が少なく、静かだから」(21.4%)、「身近な公園などの緑が豊かだから」(20.9%)と続いている。

【性別】

「特に不満を感じていないから」(男性 37.1%、42.7%)は女性の方が、「工場や事業所などの騒音・振動が少なく、静かだから」(男性 22.9%、19.9%)の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

「特に不満を感じていないから」の割合は、70代(42.8%)が最も高くなっている。「排出ガスや煙などの影響が少なく、空気がきれいだから」の割合は10代(44.4%)、「工場や事業所などの騒音・振動が少なく、静かだから」の割合は60代(26.9%)が最も高くなっている。

【地域別】

上位3つの割合を見ると、「特に不満を感じていないから」の割合は、魚沼地域(43.2%)、「排出ガスや煙などの影響が少なく、空気がきれいだから」の割合は、佐渡地域(52.5%)、「工場や事業所などの騒音・振動が少なく、静かだから」の割合は中越地域(26.7%)が最も高くなっている。

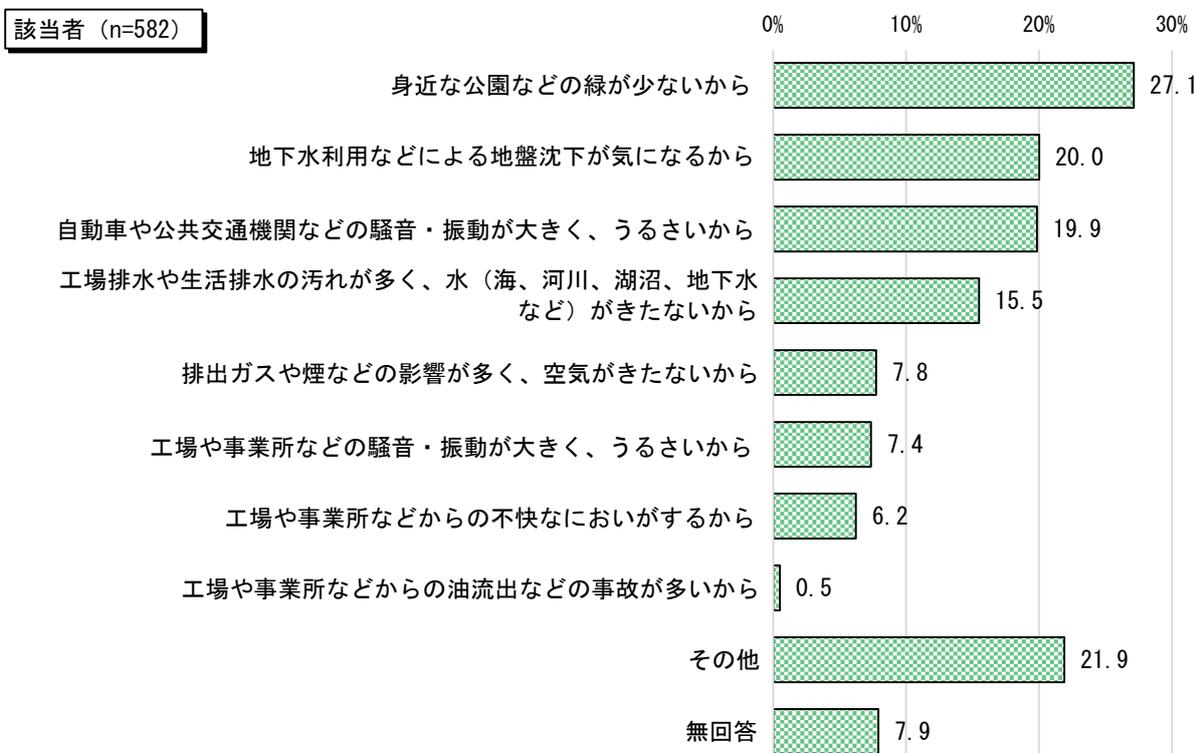
(4) 身近な生活環境に満足している理由(全体/属性別)

割合(%)	特に不満を感じていないから	排出ガスや煙などの影響が少なく、空気がきれいだから	工場や事業所などの騒音・振動が少なく、静かだから	身近な公園などの緑が豊かだから	自動車や公共交通機関などの騒音・振動が少なく、静かだから	工場排水や生活排水の汚れが少なく、水(海、河川、湖沼、地下水など)がきれいだから	工場や事業所などからの不快なおいがしないから	工場や事業所などからの油流出などの事故が少ないから	地下水利用などによる地盤沈下が感じられないから	その他	無回答
全体 (n=1328)	40.0	31.1	21.4	20.9	17.2	16.4	8.4	3.9	3.2	0.7	2.6
【性別】											
男性 (n=635)	37.1	31.1	22.9	20.1	18.0	19.3	7.2	4.6	3.8	0.3	2.4
女性 (n=693)	42.7	31.0	19.9	21.6	16.4	13.7	9.5	3.2	2.6	1.0	2.8
【年齢別】											
18～19歳 (n=32)	18.7	44.4	22.4	16.0	27.0	17.1	1.9	8.5	6.6	0.0	0.0
20～29歳 (n=125)	41.6	29.2	19.8	23.1	22.3	11.1	7.9	1.5	0.0	0.0	0.0
30～39歳 (n=176)	33.1	17.7	23.9	28.9	17.6	16.7	9.6	4.6	1.4	0.0	2.8
40～49歳 (n=209)	40.1	20.6	20.6	25.2	17.0	16.5	11.0	4.8	3.0	0.6	1.6
50～59歳 (n=184)	41.1	34.5	21.5	20.1	15.3	17.2	5.7	4.2	3.4	0.4	0.8
60～69歳 (n=211)	41.8	27.7	26.9	18.7	17.8	15.4	12.8	4.7	3.9	0.1	4.0
70歳以上 (n=391)	42.8	42.4	18.0	16.1	15.3	17.9	6.1	2.7	4.3	1.7	4.2
【地域別】											
下越地域 (n=112)	34.5	40.6	16.8	22.5	16.3	23.6	6.9	5.0	6.4	0.4	5.0
新潟地域 (n=529)	40.2	26.0	22.1	27.4	17.7	9.9	9.0	3.0	2.5	0.5	2.5
中越地域 (n=386)	39.4	27.8	26.7	17.7	16.6	18.6	9.2	3.9	4.1	0.6	2.1
魚沼地域 (n=100)	43.2	40.3	11.0	10.5	17.8	27.6	6.1	3.0	2.1	0.7	3.1
上越地域 (n=167)	42.9	38.3	17.8	15.2	16.0	19.2	7.7	5.7	1.7	1.3	1.7
佐渡地域 (n=34)	38.3	52.5	12.9	9.5	22.6	20.1	4.4	6.0	2.4	1.5	6.0

(5) 身近な生活環境に満足していない理由

(問 6-1 の「②身近な生活環境」において、「3 どちらとも言えない」、「4 やや不満である」または「5 不満である」と回答した方だけにお聞きします。)

問 6-5 満足していないとした理由は何ですか。(〇は2つまで)



【全体結果】

「身近な公園などの緑が少ないから」(27.1%)の割合が最も高くなっている。以下、「地下水利用などによる地盤沈下が気になるから」(20.0%)、「自動車や公共交通機関などの騒音・振動が大きく、うるさいから」(19.9%)、「工場排水や生活排水の汚れが多く、水（海、河川、湖沼、地下水など）がきたないから」(15.5%)と続いている。

【性別】

「身近な公園などの緑が少ないから」(男性 24.2%、女性 30.0%)の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】

「身近な公園などの緑が少ないから」は、30代(34.2%)が、「地下水利用などによる地盤沈下が気になるから」は、50代(28.7%)と「自動車や公共交通機関などの騒音・振動が大きく、うるさいから」は、40代(28.4%)が最も割合が高くなっている。

【地域別】

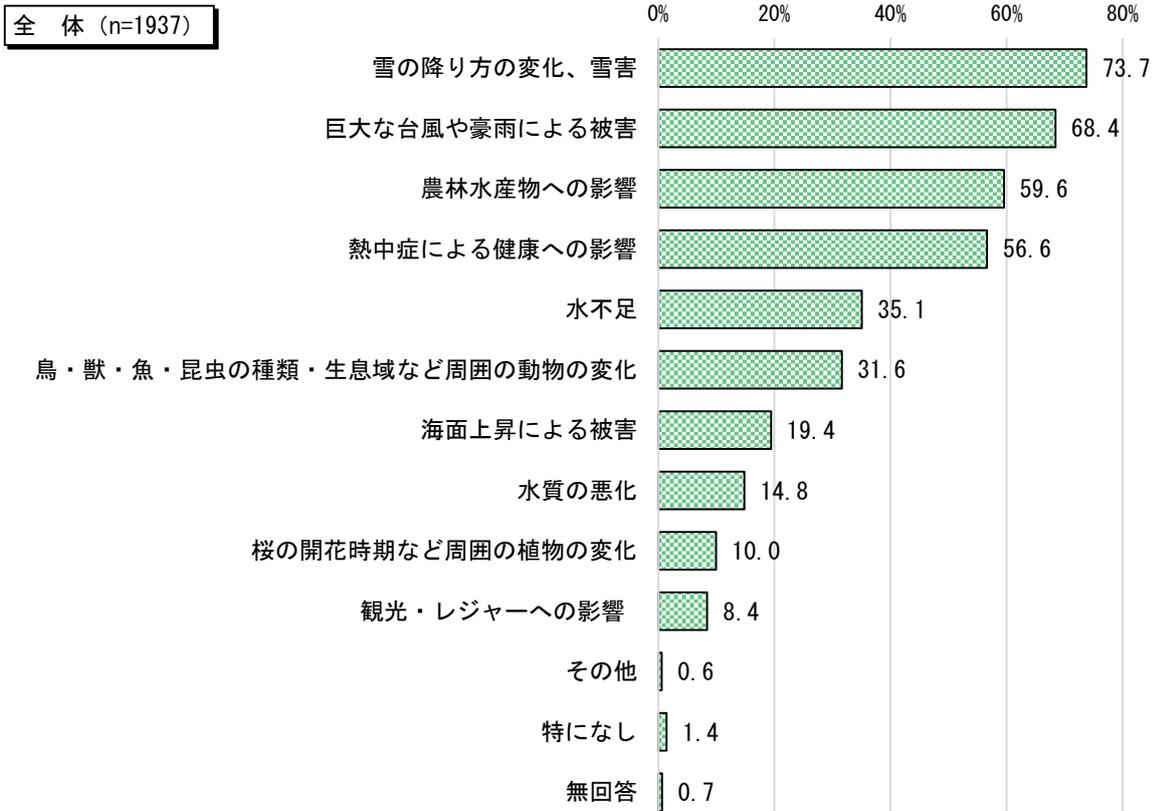
該当者数が少ない地域が多いため、図表のみの掲載とする。

(5) 身近な生活環境に満足していない理由（全体／属性別）

割合 (%)	身近な公園などの緑が少ないから	地下水利用などによる地盤沈下が気になるから	自動車や公共交通機関などの騒音・振動が大きく、うるさいから	工場排水や生活排水の汚れが多く、水（海、河川、湖沼、地下水など）がきたないから	排出ガスや煙などの影響が多く、空気がきたないから	工場や事業所などの騒音・振動が大きく、うるさいから	工場や事業所などからの不快なおいがするから	工場や事業所などからの油流出などの事故が多いから	その他	無回答
全体 (n=582)	27.1	20.0	19.9	15.5	7.8	7.4	6.2	0.5	21.9	7.9
【性別】										
男性 (n=284)	24.2	20.5	19.4	17.9	7.7	8.7	5.9	0.8	22.1	7.7
女性 (n=298)	30.0	19.6	20.3	13.3	7.8	6.1	6.6	0.2	21.7	8.2
【年齢別】										
18～19歳 (n=09)	20.1	3.7	0.0	7.0	20.3	0.0	0.0	0.0	48.8	0.0
20～29歳 (n=54)	21.8	27.2	22.8	30.0	15.0	22.1	0.0	0.0	19.6	0.0
30～39歳 (n=53)	34.2	21.9	15.0	18.9	6.5	10.5	12.7	0.0	26.4	3.0
40～49歳 (n=97)	29.7	22.4	28.4	17.2	8.9	7.2	5.2	0.0	14.0	3.1
50～59歳 (n=105)	27.5	28.7	19.3	17.5	7.1	4.1	5.4	1.0	18.5	5.7
60～69歳 (n=108)	20.5	18.6	22.1	14.8	1.7	3.9	8.6	0.8	31.1	6.2
70歳以上 (n=156)	29.7	11.5	15.1	7.9	9.0	6.3	6.1	0.7	20.5	18.4
【地域別】										
下越地域 (n=63)	23.9	13.1	11.3	12.5	9.1	2.7	9.5	1.7	30.1	13.0
新潟地域 (n=240)	30.9	20.0	23.7	19.4	7.7	9.6	5.1	0.5	17.3	5.8
中越地域 (n=176)	26.9	20.4	16.1	14.1	8.7	6.5	5.8	0.0	28.3	7.4
魚沼地域 (n=37)	24.2	25.1	11.5	5.8	2.1	2.1	4.2	0.0	22.6	12.7
上越地域 (n=55)	16.9	24.5	31.1	13.2	8.4	9.1	11.0	1.5	11.7	10.8
佐渡地域 (n=11)	30.0	16.2	16.6	14.9	3.4	7.9	1.9	0.0	23.7	2.7

(6) 気になる気候変動の影響

問 6-6 あなたが気になる気候変動の影響は何ですか。(○はいくつでも)



【全体結果】

「雪の降り方の変化、雪害」(73.7%)の割合が最も高くなっている。以下、「巨大な台風や豪雨による被害」(68.4%)、「農林水産物への影響」(59.6%)、「熱中症による健康への影響」(56.6%)と続いている。

【性別】

「水不足」、「水質の悪化」、「観光・レジャーへの影響」以外の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】

「雪の降り方の変化、雪害」の割合は、30代(79.3%)で、「巨大な台風や豪雨による被害」の割合は60代(76.0%)が、「農林水産物への影響」の割合は50代(64.0%)が最も高くなっている。

【地域別】

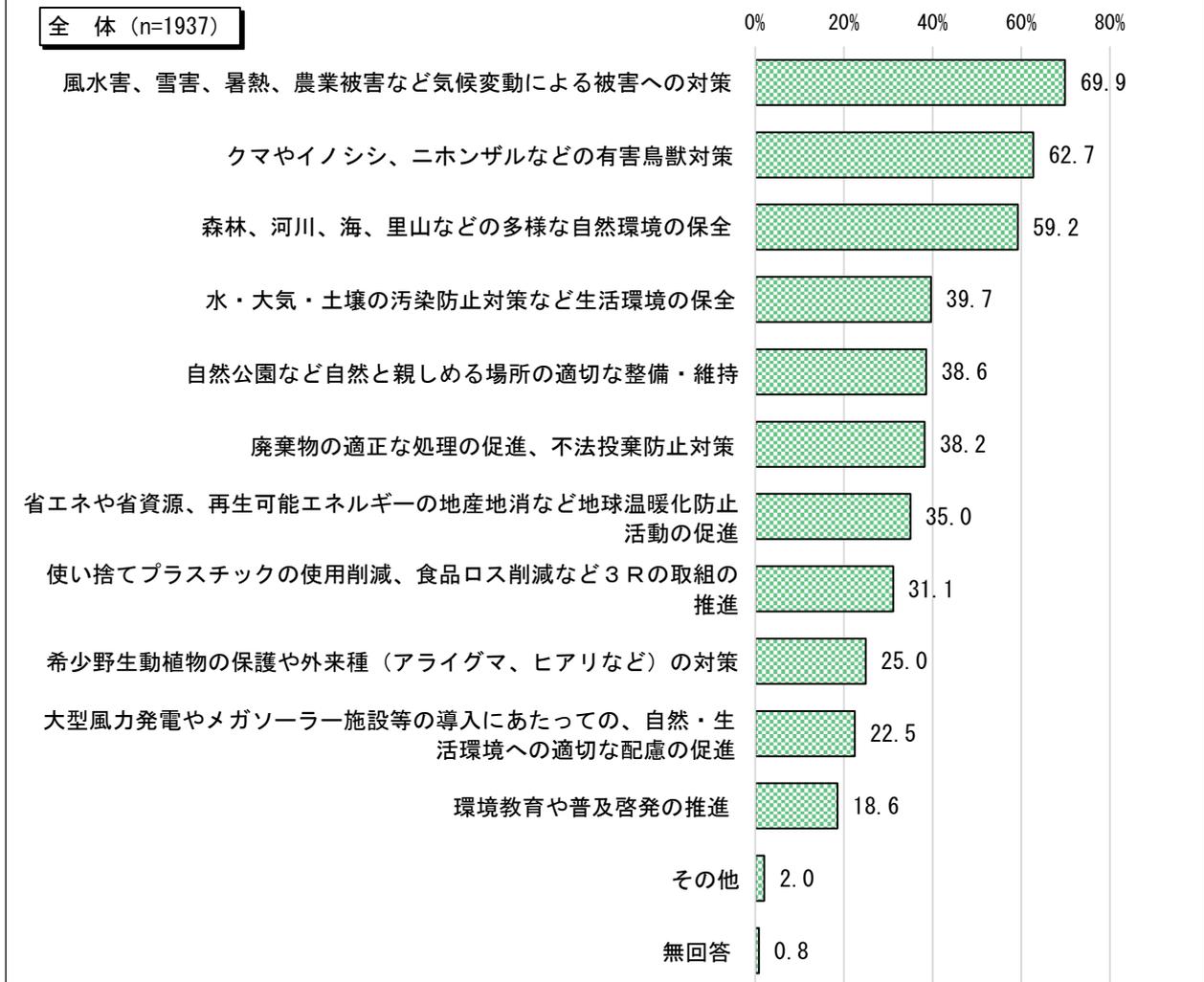
「雪の降り方の変化、雪害」の割合は魚沼地域(80.9%)で、「巨大な台風や豪雨による被害」の割合は佐渡地域(75.0%)が、「農林水産物への影響」の割合は下越地域(62.6%)が最も高くなっている。

(6) 気になる気候変動の影響 (全体/属性別)

割合 (%)	雪の降り方の変化、雪害	巨大な台風や豪雨による被害	農林水産物への影響	熱中症による健康への影響	水不足	鳥・獣・魚・昆虫の種類・生息域など周囲の動物の変化	海面上昇による被害	水質の悪化	桜の開花時期など周囲の植物の変化	観光・レジャーへの影響	その他	特になし	無回答
全体 (n=1937)	73.7	68.4	59.6	56.6	35.1	31.6	19.4	14.8	10.0	8.4	0.6	1.4	0.7
【性別】													
男性 (n=929)	71.7	67.6	56.8	55.9	35.6	30.0	17.0	15.3	9.0	9.3	1.0	1.3	0.7
女性 (n=1008)	75.6	69.2	62.1	57.3	34.6	33.1	21.6	14.4	10.9	7.6	0.3	1.5	0.7
【年齢別】													
18～19歳 (n=40)	61.3	56.3	54.1	68.1	15.1	38.5	29.4	23.6	18.4	22.8	0.0	2.4	0.0
20～29歳 (n=179)	75.1	65.6	50.7	58.7	35.4	30.4	23.9	18.2	5.4	16.3	0.0	1.9	0.0
30～39歳 (n=230)	79.3	60.7	52.7	61.5	45.0	31.3	22.3	18.2	12.0	15.2	0.0	0.7	0.0
40～49歳 (n=307)	75.8	67.0	62.4	63.8	41.8	40.3	26.3	22.6	13.9	8.7	0.7	0.5	0.4
50～59歳 (n=289)	79.2	74.2	64.0	56.5	36.1	34.1	18.6	13.8	8.6	6.9	0.3	0.5	0.0
60～69歳 (n=325)	76.3	76.0	62.4	55.4	32.0	32.9	18.9	10.7	8.0	5.8	1.6	1.3	0.3
70歳以上 (n=568)	66.6	66.8	60.1	50.1	29.9	25.0	13.2	10.5	9.7	4.2	0.7	2.5	1.9
【地域別】													
下越地域 (n=178)	69.7	63.2	62.6	55.9	35.6	39.7	19.5	15.5	11.0	9.0	0.7	1.1	0.0
新潟地域 (n=774)	71.4	72.1	62.1	57.9	31.7	28.3	24.1	17.2	9.5	9.6	0.2	1.5	0.6
中越地域 (n=570)	76.6	70.5	58.5	61.0	32.2	33.3	15.4	13.2	11.5	6.8	0.9	0.8	0.4
魚沼地域 (n=139)	80.9	47.6	54.0	48.0	34.4	39.6	10.2	9.0	7.5	7.6	0.0	1.8	0.8
上越地域 (n=228)	77.7	65.8	54.1	47.8	53.5	29.1	19.6	13.4	8.0	7.8	1.8	2.2	2.1
佐渡地域 (n=47)	53.2	75.0	61.3	54.9	36.8	24.1	18.6	17.2	12.3	10.6	0.0	3.6	1.0

(7) 自然環境の継承に関して行政に望むこと

問 6-7 本県の豊かな環境を将来世代に引き継ぐために、行政の役割として重要だと思うことは何ですか。(○はいくつでも)



【全体結果】

「風水害、雪害、暑熱、農業被害など気候変動による被害への対策」(69.9%)の割合が最も高くなっている。以下、「クマやイノシシ、ニホンザルなどの有害鳥獣対策」(62.7%)、「森林、河川、海、里山などの多様な自然環境の保全」(59.2%)、「水・大気・土壌の汚染防止対策など生活環境の保全」(39.7%)「自然公園など自然と親しめる場所の適切な整備・維持」(38.6%)が続いている。

【性別】

「クマやイノシシ、ニホンザルなどの有害鳥獣対策」(男性 62.3%、女性 63.1%)、「省エネや省資源、再生可能エネルギーの地産地消など地球温暖化防止活動の促進」(男性 33.2%、女性 36.7%)の割合は女性の方が、「森林、河川、海、里山などの多様な自然環境の保全」(男性 62.2%、女性 56.6%)、「廃棄物の適正な処理の促進、不法投棄防止対策」(男性 43.0%、女性 33.8%)の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

「風水害、雪害、暑熱、農業被害など気候変動による被害への対策」の割合は、40代・50代（各73.9%）が、「クマやイノシシ、ニホンザルなどの有害鳥獣対策」の割合は、50代（66.2%）が最も高くなっている。

【地域別】

「風水害、雪害、暑熱、農業被害など気候変動による被害への対策」の割合は、佐渡地域（73.3%）が、「クマやイノシシ、ニホンザルなどの有害鳥獣対策」の割合は、下越地域（74.2%）が最も高くなっている。

（7）自然環境の継に関して行政に望むこと（全体／属性別）

割合 (%)	風水害、雪害、暑熱、農業被害など気候変動による被害への対策	クマやイノシシ、ニホンザルなどの有害鳥獣対策	森林、河川、海、里山などの多様な自然環境の保全	水・大気・土壌の汚染防止対策など生活環境の保全	自然公園など自然と親しめる場所の適切な整備・維持	廃棄物の適正な処理の促進、不法投棄防止対策	省エネや省資源、再生可能エネルギー活動の促進	食品ロス削減など3Rの取組の推進	使い捨てプラスチックの使用削減、	希少野生動植物の保護や外来種（アライグマ、ヒアリなど）の対策	大型風力発電やメガソーラー施設等の導入にあたっての、自然・生活環境への適切な配慮の促進	環境教育や普及啓発の推進	その他	無回答
全体 (n=1937)	69.9	62.7	59.2	39.7	38.6	38.2	35.0	31.1	25.0	22.5	18.6	2.0	0.8	
【性別】														
男性 (n=929)	68.1	62.3	62.2	39.0	38.4	43.0	33.2	31.2	27.6	24.0	21.7	3.0	0.6	
女性 (n=1008)	71.6	63.1	56.6	40.3	38.8	33.8	36.7	31.0	22.5	21.1	15.7	1.2	1.1	
【年齢別】														
18～19歳 (n=40)	66.6	58.4	65.7	40.3	31.4	40.5	38.7	28.8	25.1	20.0	16.1	0.8	0.0	
20～29歳 (n=179)	66.1	62.4	67.7	37.3	51.2	37.0	26.6	29.2	24.1	20.6	19.2	3.6	0.0	
30～39歳 (n=230)	59.7	61.1	62.3	46.1	43.7	35.1	28.7	23.9	28.5	25.8	17.4	2.1	0.4	
40～49歳 (n=307)	73.9	65.1	61.7	44.6	41.0	34.3	35.2	26.3	29.7	20.1	20.8	2.9	0.4	
50～59歳 (n=289)	73.9	66.2	53.6	41.5	38.6	37.4	40.4	27.0	28.3	25.4	19.7	1.5	0.0	
60～69歳 (n=325)	71.5	61.4	57.2	40.2	33.9	43.9	39.4	32.6	24.1	23.6	18.0	2.2	0.3	
70歳以上 (n=568)	70.3	61.5	57.6	33.9	34.4	39.0	34.6	38.7	20.1	21.0	17.6	1.3	2.3	
【地域別】														
下越地域 (n=178)	69.0	74.2	62.2	37.7	30.1	37.5	33.1	28.7	20.8	18.9	16.4	1.4	0.5	
新潟地域 (n=774)	71.8	56.3	62.0	44.6	46.8	40.4	38.0	33.0	25.7	25.5	19.8	1.9	0.6	
中越地域 (n=570)	68.6	67.8	57.1	37.8	36.0	39.3	32.0	31.3	27.3	23.1	20.1	2.6	0.6	
魚沼地域 (n=139)	70.5	66.6	54.9	28.7	25.2	27.8	26.3	25.8	20.2	9.2	14.1	2.2	0.8	
上越地域 (n=228)	66.4	66.1	54.2	36.1	31.1	33.2	38.8	29.0	22.2	21.2	15.3	1.1	2.4	
佐渡地域 (n=47)	73.3	37.5	65.0	38.2	41.7	48.1	37.0	33.9	29.1	23.8	17.1	2.8	1.0	

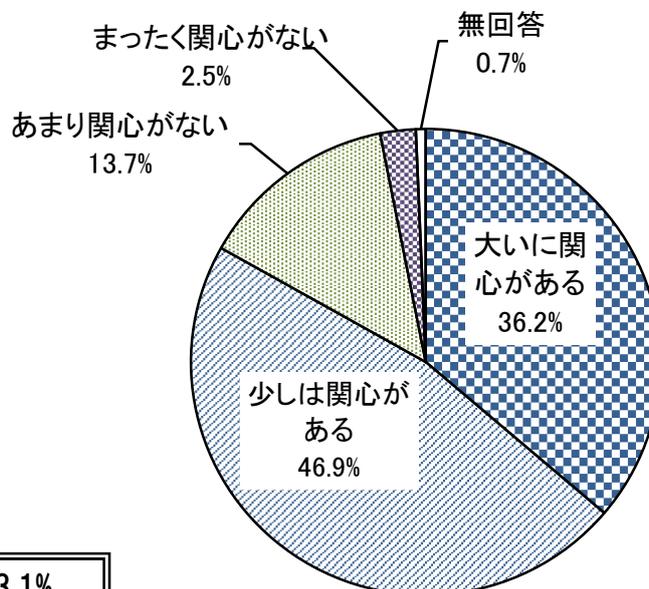
7. 拉致問題について

(1) 拉致問題についての関心

問 7-1 あなたは、拉致問題について、どの程度関心をお持ちですか。

(○は1つだけ)

全体(n=1937)



「関心がある」計…83.1%

【全体結果】

「大いに関心がある」(36.2%)と「少しは関心がある」(46.9%)を合計した約8割(83.1%)が拉致問題について関心を持っている。一方、「あまり関心がない」(13.7%)、「まったく関心がない」(2.5%)を合計した割合は16.2%となっている。

【性別】

「大いに関心がある」と「少しは関心がある」を合計した割合(男性77.9%、女性88.0%)は、男性より女性の方が高く9割弱となっている。

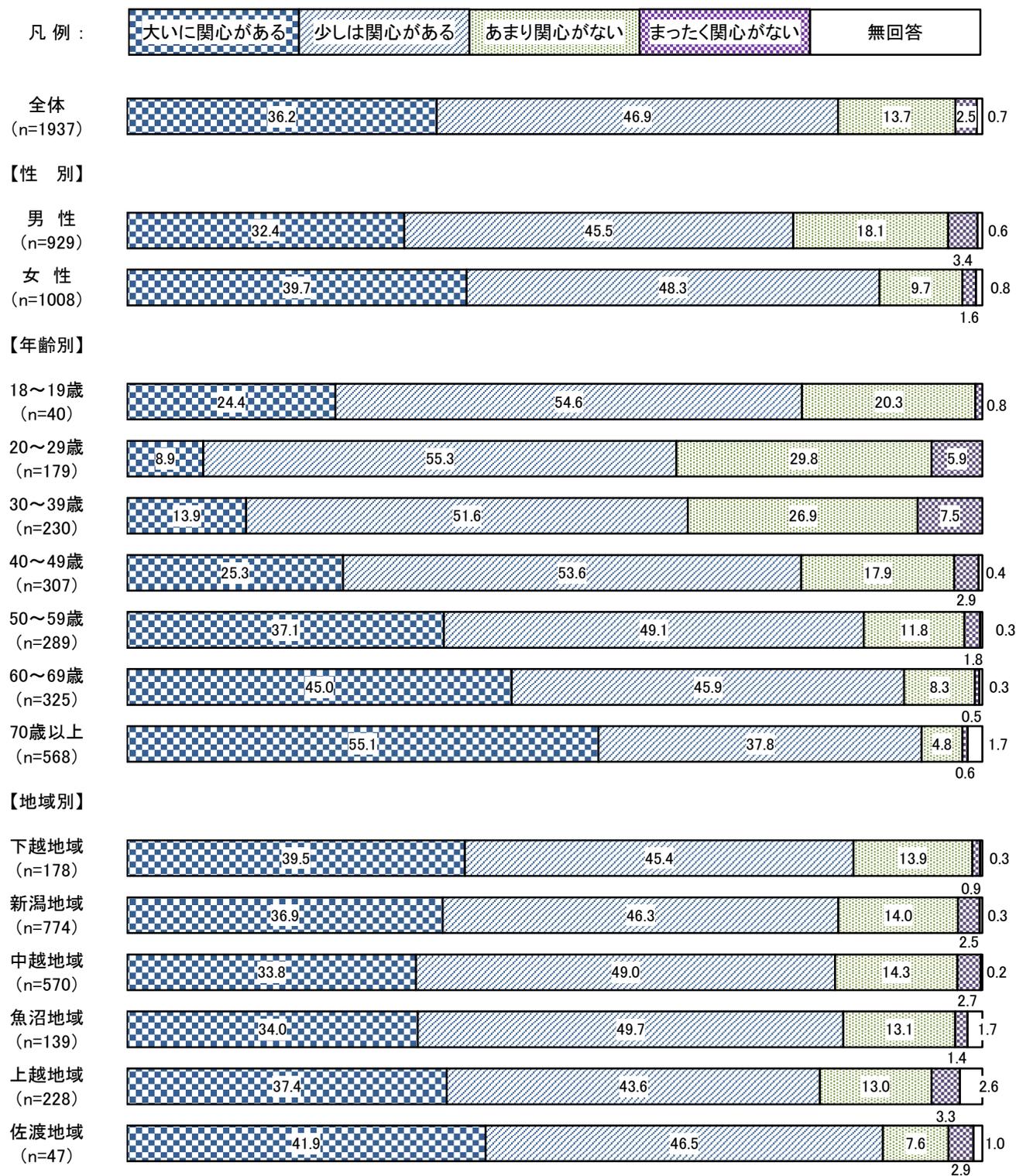
【年齢別】

「大いに関心がある」と「少しは関心がある」を合計した割合は、70歳以上(92.9%)が最も高く、次いで60代(90.9%)、50代(86.1%)の順となっている。全体として、年齢が高くなるにつれて関心が高まる傾向がみられる。

【地域別】

「大いに関心がある」と「少しは関心がある」を合計した割合は、佐渡地域(88.4%)が最も高くなっている。なお、いずれの地域においても8割以上が関心を示している。

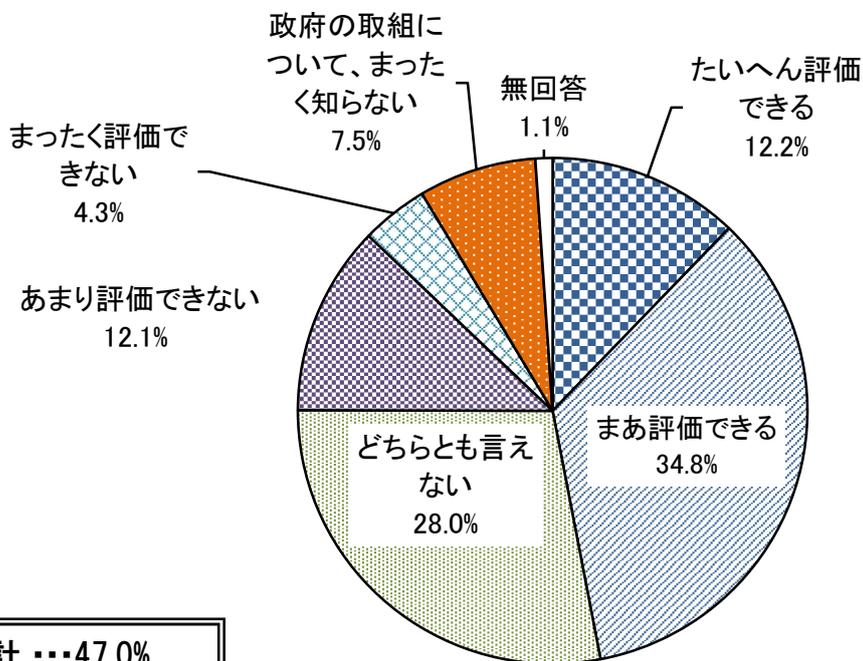
(1) 拉致問題についての関心 (全体/属性別)



(2) 政府の拉致問題啓発についての取組の評価

問 7-2 政府では、拉致問題啓発のために「国民の集い」の開催やパンフレット・ポスターの作成配布など様々な取組を行っていますが、このような政府の取組をどのように思いますか。 (○は1つだけ)

全体(n=1937)



【全体結果】

「たいへん評価できる」(12.2%)と「まあ評価できる」(34.8%)を合計した約5割(47.0%)が、政府の拉致問題啓発の取組について評価している。一方、「あまり評価できない」(12.1%)、「まったく評価できない」(4.3%)を合計した割合は16.4%となっている。

【性別】

「たいへん評価できる」と「まあ評価できる」を合計した割合(男性41.2%、女性52.3%)は、男性より女性の方が高くなっている。

【年齢別】

「たいへん評価できる」と「まあ評価できる」を合計した割合は、20代(52.3%)が最も高く、次いで70歳以上(51.3%)、60代(49.5%)、50代(48.9%)の順となっている。

【地域別】

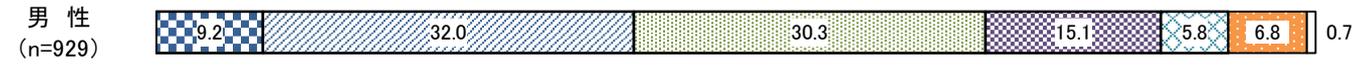
「たいへん評価できる」と「まあ評価できる」を合計した割合は、佐渡地域(52.1%)が最も高く、次いで下越地域(49.6%)、上越地域(49.5%)となっている。

(2) 政府の拉致問題啓発についての取組（全体/属性別）

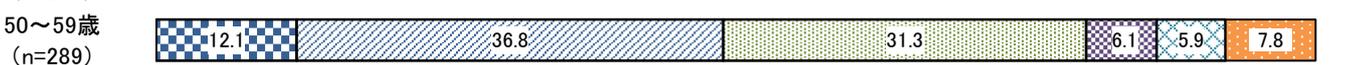
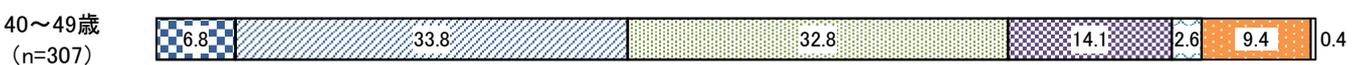
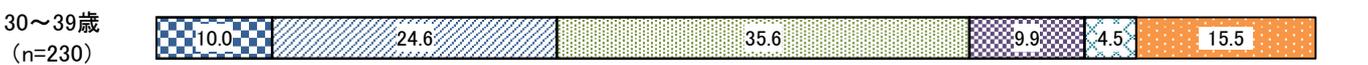
凡例：



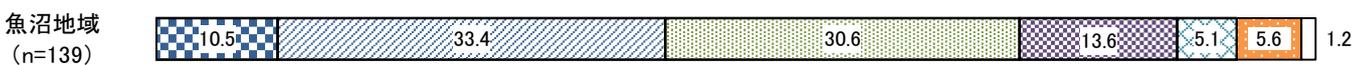
【性別】



【年齢別】

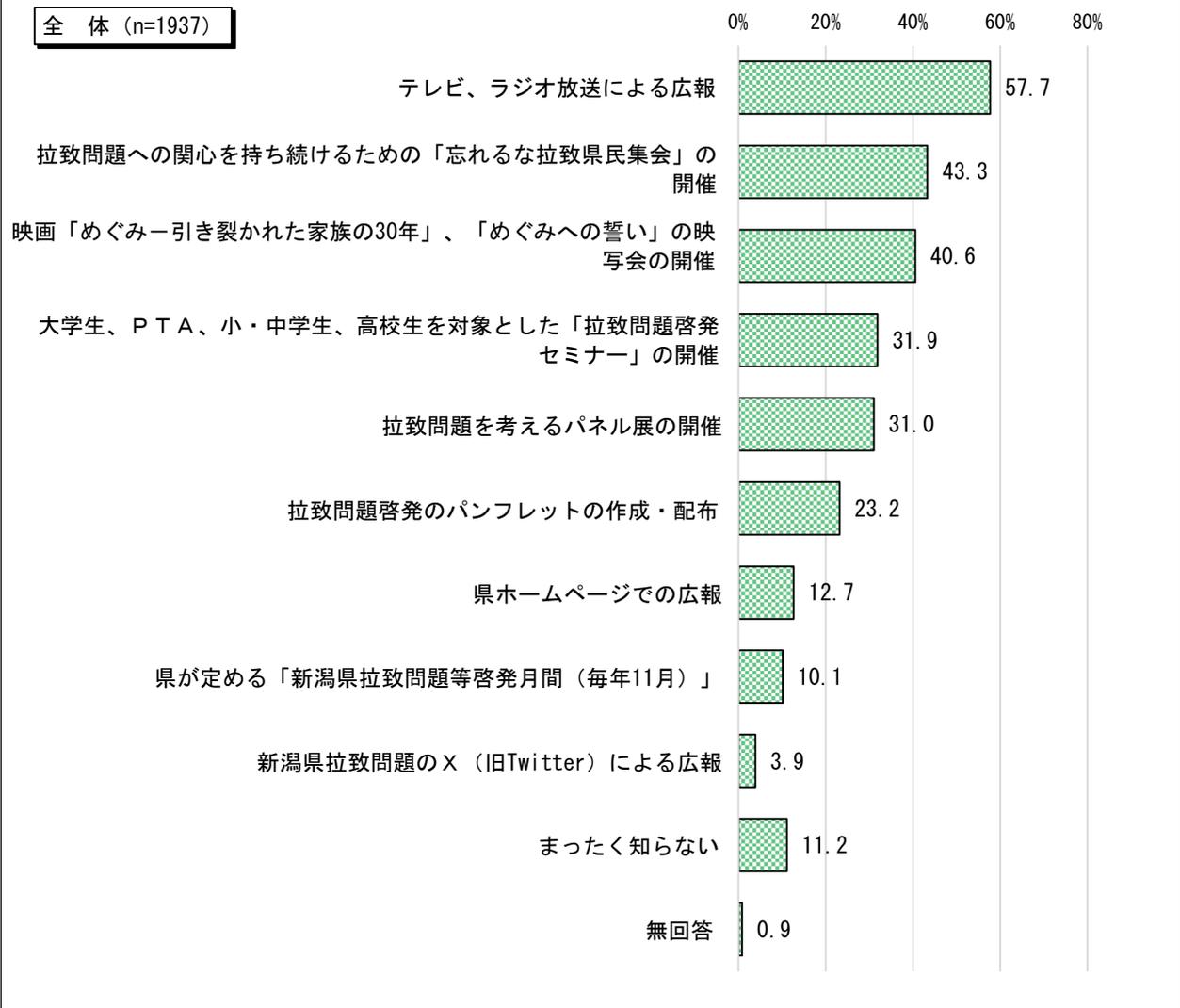


【地域別】



(3) 県の拉致問題啓発についての取組の認知

問 7-3 県では、拉致問題啓発のために次のような取組を行っていますが、知っているものをお選びください。(○はいくつでも)



【全体結果】

「テレビ、ラジオ放送による広報」(57.7%)の割合が最も高くなっている。以下、「拉致問題への関心を持ち続けるための『忘れるな拉致県民集会』の開催」(43.3%)、「映画『めぐみー引き裂かれた家族の30年』、『めぐみへの誓い』の映写会の開催」(40.6%)、「大学生、PTA、小・中学生、高校生を対象とした『拉致問題啓発セミナー』の開催」(31.9%)「拉致問題を考えるパネル展の開催」(31.0%)が続いている。

【性別】

「テレビ、ラジオ放送による広報」(男性56.1%、女性59.2%)、「映画『めぐみー引き裂かれた家族の30年』、『めぐみへの誓い』の映写会の開催」(男性35.9%、女性44.9%)は、男性より女性の方が高くなっている。

【年齢別】

「テレビ、ラジオ放送による広報」、「拉致問題への関心を持ち続けるための『忘れるな拉致県民集会』の開催」の割合は、70歳以上(各70.9%、55.2%)が、「映画『めぐみー

引き裂かれた家族の30年』、『めぐみへの誓い』の映写会の開催」の割合は、50代（52.1%）が最も高くなっている。

【地域別】

「テレビ、ラジオ放送による広報」の割合は、中越地域（62.9%）が、「拉致問題への関心を持ち続けるための『忘れるな拉致県民集会』の開催」の割合は、新潟地域（48.0%）が、「映画『めぐみー引き裂かれた家族の30年』、『めぐみへの誓い』の映写会の開催」の割合は、下越地域（46.4%）が最も高くなっている。

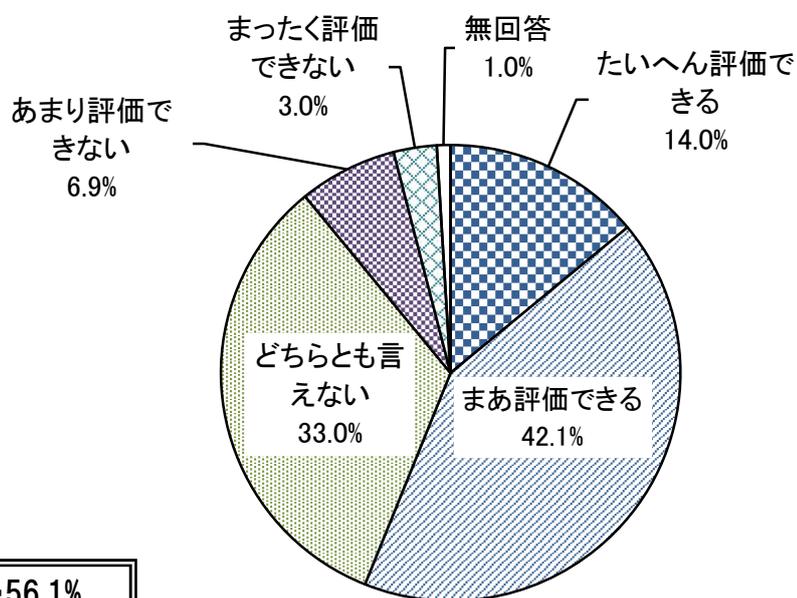
（3）県の拉致問題啓発についての取組（全体/属性別）

割合 (%)	テレビ、ラジオ放送による広報	の「忘れるな拉致県民集会」の開催	映画『めぐみー引き裂かれた家族の30年』、『めぐみへの誓い』の映写会の開催	大学生、PTA、小・中学生、高校生を対象とした「拉致問題啓発セミナー」の開催	拉致問題を考えるパネル展の開催	成・配布	県ホームページでの広報	県が定める「新潟県拉致問題等啓発月間（毎年11月）」	新潟県拉致問題のX（旧Twitter）による広報	まったく知らない	無回答
全体 (n=1937)	57.7	43.3	40.6	31.9	31.0	23.2	12.7	10.1	3.9	11.2	0.9
【性別】											
男性 (n=929)	56.1	42.0	35.9	27.6	27.8	23.8	16.7	8.7	4.8	13.8	0.9
女性 (n=1008)	59.2	44.5	44.9	35.8	34.0	22.6	8.9	11.5	3.0	8.7	0.8
【年齢別】											
18～19歳 (n=40)	53.8	33.8	37.5	45.9	26.5	29.5	10.9	20.0	9.4	13.5	0.0
20～29歳 (n=179)	51.1	30.1	25.1	29.7	9.7	21.3	9.1	12.4	7.6	16.4	0.0
30～39歳 (n=230)	47.6	23.7	29.2	23.3	16.3	20.3	11.2	2.9	3.0	21.0	0.0
40～49歳 (n=307)	45.7	33.3	41.6	30.4	27.9	22.6	14.1	9.6	4.9	16.3	1.0
50～59歳 (n=289)	49.6	52.0	52.1	28.1	36.8	26.2	15.4	10.3	1.5	11.7	0.0
60～69歳 (n=325)	64.6	46.7	46.8	33.5	37.9	26.1	14.7	7.7	2.7	7.3	0.3
70歳以上 (n=568)	70.9	55.2	40.3	36.8	39.0	21.7	11.2	13.3	4.0	4.4	2.2
【地域別】											
下越地域 (n=178)	59.6	38.6	46.4	32.2	29.1	21.3	11.7	10.1	4.6	7.2	0.5
新潟地域 (n=774)	54.7	48.0	43.6	30.7	36.4	25.0	12.2	12.1	4.3	10.7	0.4
中越地域 (n=570)	62.9	41.8	38.2	32.7	27.5	22.5	13.2	8.9	3.7	11.8	0.9
魚沼地域 (n=139)	53.9	39.7	37.1	31.1	26.6	22.7	16.4	8.3	1.1	9.2	1.9
上越地域 (n=228)	55.7	37.1	34.8	31.7	25.3	17.9	11.3	7.7	4.0	14.7	1.8
佐渡地域 (n=47)	58.0	42.6	36.1	42.1	33.2	36.8	13.0	10.9	4.2	14.1	1.0

(4) 県の拉致問題啓発の取組についての評価

問 7-4 拉致問題啓発のために県が実施している取組（問 7-3 参照）について、どのように思いますか。（〇は1つだけ）

全体(n=1937)



【全体結果】

「たいへん評価できる」（14.0%）と「まあ評価できる」（42.1%）を合計した約6割（56.1%）が、県の拉致問題啓発の取組についての評価している。一方、「あまり評価できない」（6.9%）、「まったく評価できない」（3.0%）を合計した割合は9.9%となっている。

【性別】

「たいへん評価できる」と「まあ評価できる」を合計した割合（男性49.1%、女性62.5%）は、男性より女性の方が高くなっている。

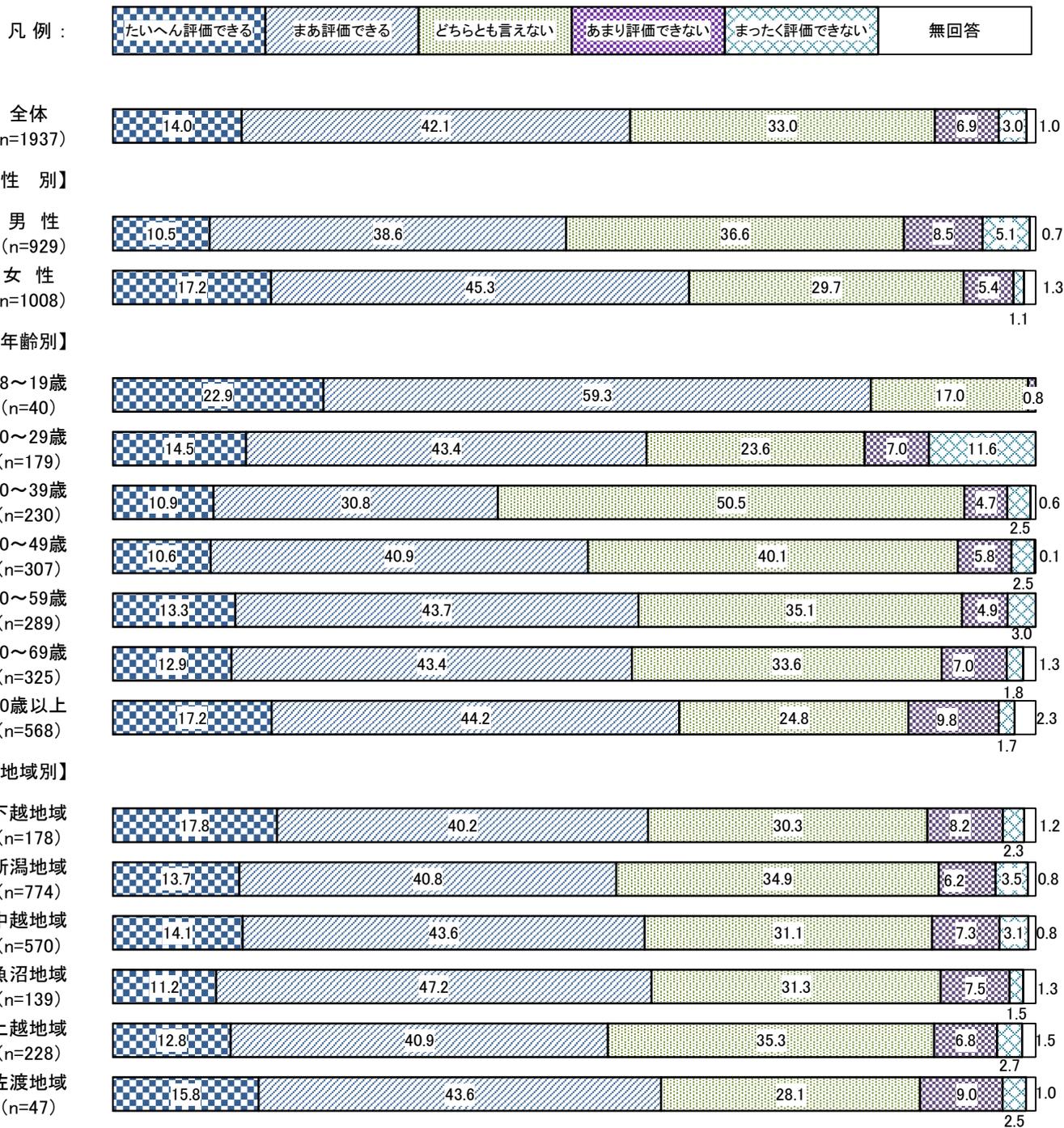
【年齢別】

「たいへん評価できる」と「まあ評価できる」を合計した割合は、10代（82.2%）が最も高く、次いで70歳以上（61.4%）、20代（57.8%）、50代（57.0%）となっている。

【地域別】

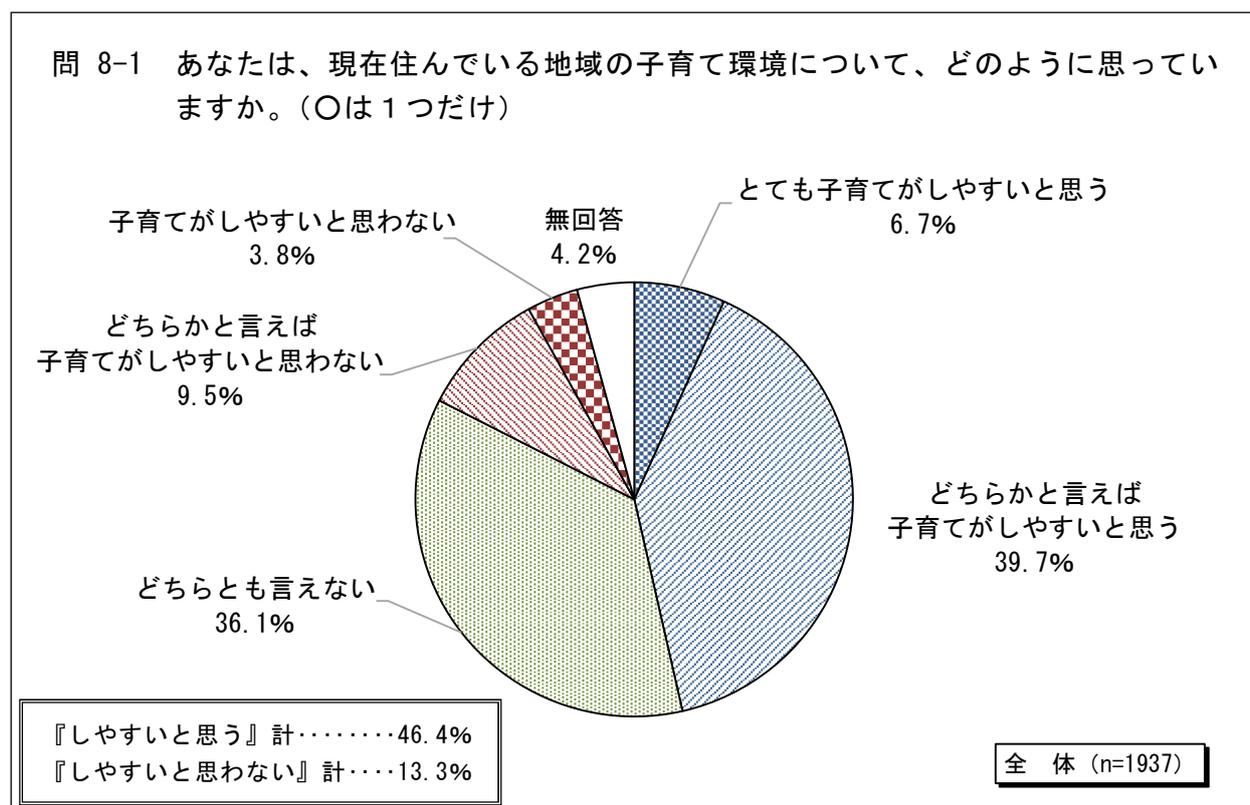
「たいへん評価できる」と「まあ評価できる」を合計した割合は、佐渡地域（59.4%）が最も高くなっている。どの地域も5割半ばの割合となっている。

(4) 県の拉致問題啓発の取組についての評価 (全体/属性別)



8. 子育て環境について

(1) 地域の子育て環境に対する評価



【全体結果】

現在住んでいる地域の子育て環境について、「とても子育てがしやすいと思う」と「どちらかと言えば子育てがしやすいと思う」を合計した『しやすいと思う』計は 46.4%となり、4割台半ばとなっている。

一方、「子育てがしやすいと思わない」と「どちらかと言えば子育てがしやすいと思わない」を合計した『しやすいと思わない』計は 13.3%となっている。

【性別】

性別での大きな差はみられない。

【年齢別】

『しやすいと思う』計の割合は、10代（57.1%）が最も高くなっている。

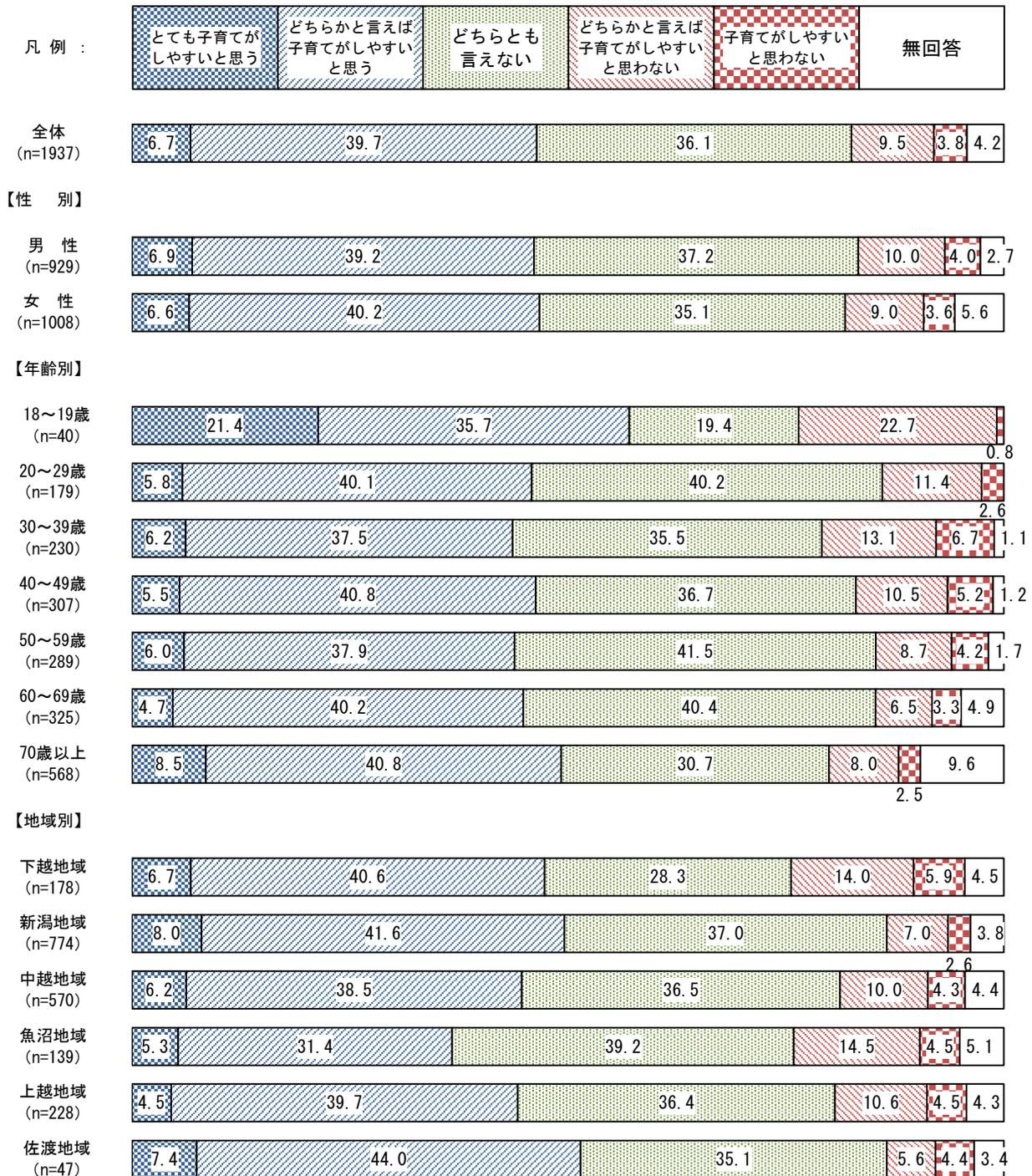
【地域別】

『しやすいと思う』計の割合は、佐渡地域（51.5%）が最も高く、魚沼地域（36.7%）が最も低くなっている。

	『しやすい と思う』計	『しやすいと 思わない』計
全体 (n=1937)	46.4%	13.3%
【性別】		
男性 (n=929)	46.1%	14.0%
女性 (n=1008)	46.7%	12.6%
【年齢別】		
18～19歳 (n=40)	57.1%	23.5%
20～29歳 (n=179)	45.9%	13.9%
30～39歳 (n=230)	43.7%	19.8%
40～49歳 (n=307)	46.3%	15.7%
50～59歳 (n=289)	43.9%	12.9%
60～69歳 (n=325)	44.9%	9.8%
70歳以上 (n=568)	49.3%	10.5%

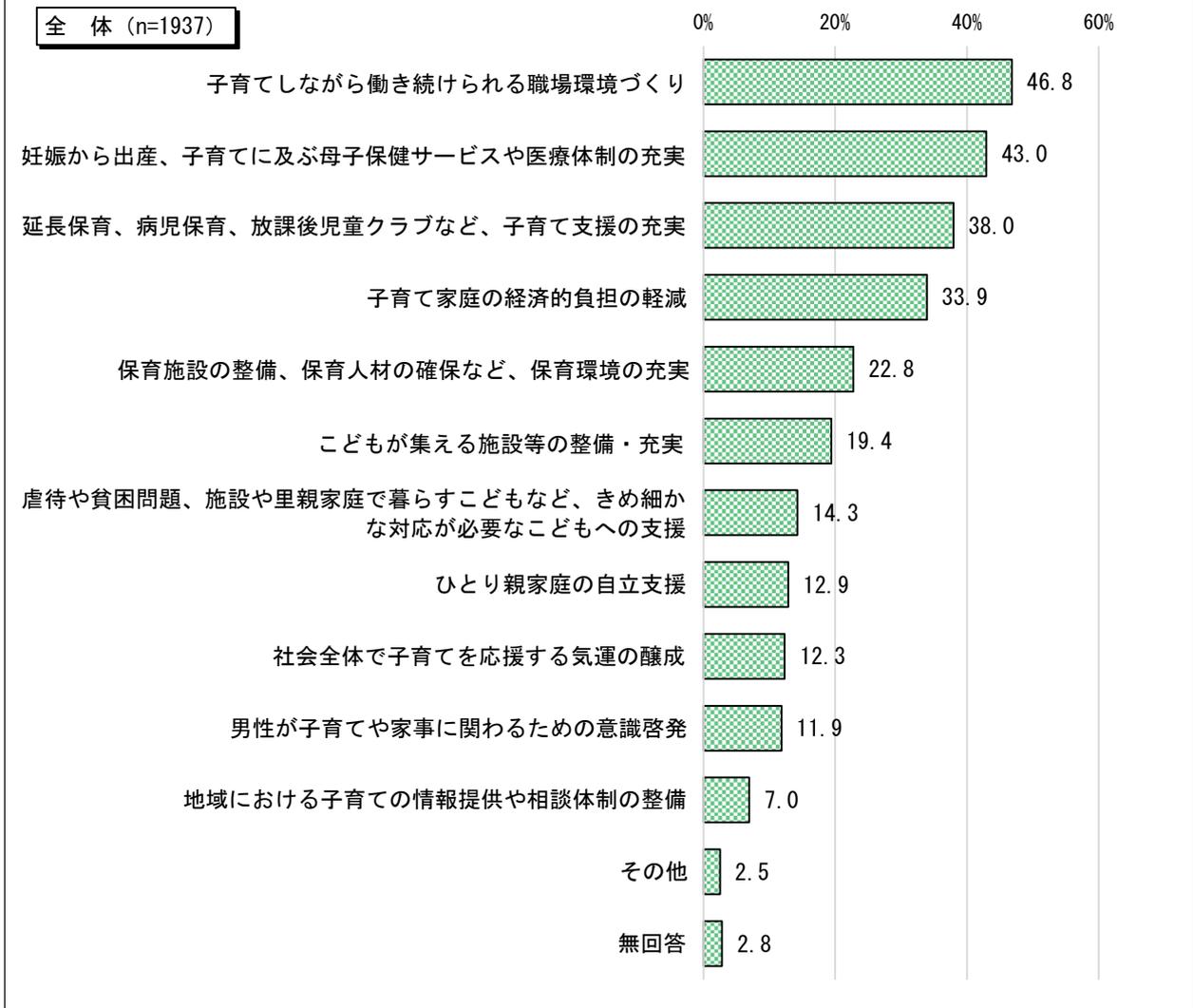
	『しやすい と思う』計	『しやすいと 思わない』計
【地域別】		
下越地域 (n=178)	47.3%	19.9%
新潟地域 (n=774)	49.6%	9.6%
中越地域 (n=570)	44.7%	14.3%
魚沼地域 (n=139)	36.7%	19.0%
上越地域 (n=228)	44.2%	15.1%
佐渡地域 (n=47)	51.5%	10.0%

(1) 地域の子育て環境に対する評価 (全体/属性別)



(2) 特に力を入れてほしい施策

問 8-2 伸び伸びと子どもを生き育てられる環境の実現に向け、あなたが特に力を入れてほしいものを、次の中から3つ選んでください。(〇は3つまで)



【全体結果】

「子育てしながら働き続けられる職場環境づくり」(46.8%)が最も高くなっている。以下、「妊娠から出産、子育てに及ぶ母子保健サービスや医療体制の充実」(43.0%)、「延長保育、病児保育、放課後児童クラブなど、子育て支援の充実」(38.0%)、「子育て家庭の経済的負担の軽減」(33.9%)、「保育施設の整備、保育人材の確保など、保育環境の充実」(22.8%)と続いている。

【性別】

「妊娠から出産、子育てに及ぶ母子保健サービスや医療体制の充実」(男性 45.9%、女性 40.3%)、「子育て家庭の経済的負担の軽減」(男性 37.1%、女性 31.0%)の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

「子育てしながら働き続けられる職場環境づくり」の割合は、60代（51.3%）が最も高くなっている。「妊娠から出産、子育てに及ぶ母子保健サービスや医療体制の充実」の割合は、20代（56.7%）、「延長保育、病児保育、放課後児童クラブなど、子育て支援の充実」の割合は、50代（43.0%）が最も高くなっている。

【地域別】

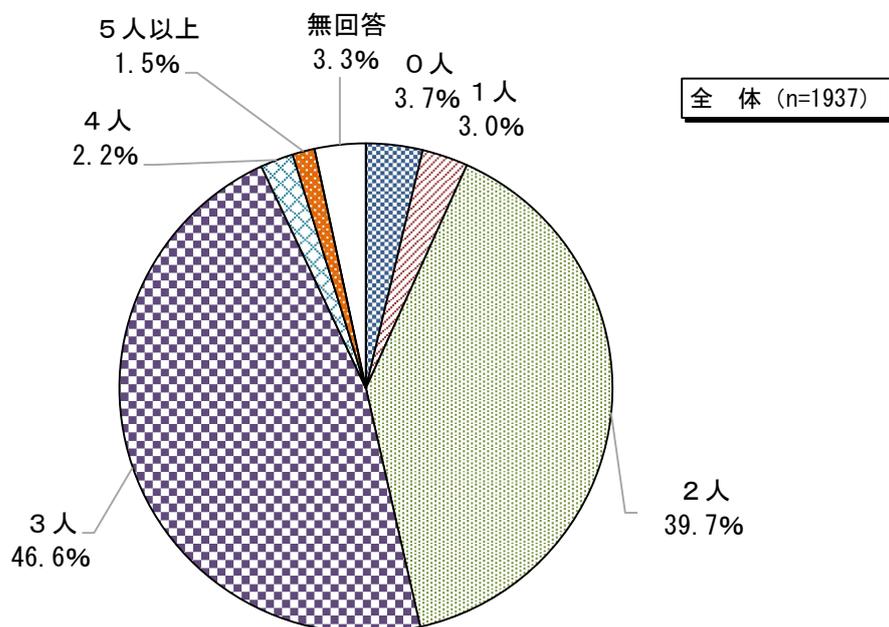
「子育てしながら働き続けられる職場環境づくり」の割合は、下越地域（51.3%）が最も高くなっている。「妊娠から出産、子育てに及ぶ母子保健サービスや医療体制の充実」は魚沼地域（47.8%）、「延長保育、病児保育、放課後児童クラブなど、子育て支援の充実」の割合は、上越地域（40.6%）の割合が最も高くなっている。

(2) 特に力を入れてほしい施策（全体／属性別）

割合 (%)	子育てしながら働き続けられる職場環境づくり	妊娠から出産、子育てに及ぶ母子保健サービスや医療体制の充実	延長保育、病児保育、放課後児童クラブなど、子育て支援の充実	子育て家庭の経済的負担の軽減	保育施設の整備、保育人材の確保など、保育環境の充実	こどもが集える施設等の整備・充実	暮らしやすさや貧困問題、施設や里親家庭で必要なこどもへのきめ細かな対応	ひとり親家庭の自立支援	社会全体で子育てを応援する気運の醸成	男性が子育てや家事に関わるための意識啓発	地域における子育ての情報提供や相談体制の整備	その他	無回答
全体 (n=1937)	46.8	43.0	38.0	33.9	22.8	19.4	14.3	12.9	12.3	11.9	7.0	2.5	2.8
【性別】													
男性 (n=929)	43.4	45.9	35.7	37.1	23.7	20.1	12.4	13.8	14.0	10.4	6.5	3.2	2.3
女性 (n=1008)	50.0	40.3	40.0	31.0	21.9	18.8	16.1	12.1	10.8	13.2	7.4	1.9	3.3
【年齢別】													
18～19歳 (n=40)	32.7	52.3	6.4	52.8	10.5	18.9	24.1	25.8	0.0	25.5	5.8	1.5	0.0
20～29歳 (n=179)	46.0	56.7	29.5	48.0	19.1	27.2	7.2	7.6	7.7	10.6	5.8	3.0	2.8
30～39歳 (n=230)	46.9	48.5	37.0	42.7	25.0	31.4	11.5	4.8	12.1	17.7	5.3	2.3	0.7
40～49歳 (n=307)	45.0	35.4	42.4	42.5	25.2	28.0	13.0	9.1	11.5	8.8	6.8	5.4	0.1
50～59歳 (n=289)	47.2	43.7	43.0	28.0	21.6	16.8	14.4	16.7	10.9	11.3	5.1	4.4	1.2
60～69歳 (n=325)	51.3	42.8	42.4	26.6	25.6	16.2	18.3	14.7	13.4	11.6	8.4	1.3	2.1
70歳以上 (n=568)	46.3	39.6	35.8	27.1	21.5	10.7	15.4	16.0	15.4	11.0	8.3	0.7	6.6
【地域別】													
下越地域 (n=178)	51.3	46.5	35.1	35.0	25.0	15.2	15.4	11.4	11.0	10.1	5.9	2.5	3.8
新潟地域 (n=774)	46.0	41.6	38.5	35.1	23.8	19.6	14.5	13.4	12.9	12.6	6.2	2.4	2.3
中越地域 (n=570)	47.3	42.9	38.9	33.7	22.3	19.8	15.3	13.9	12.1	12.6	8.1	2.5	3.1
魚沼地域 (n=139)	42.7	47.8	32.5	32.1	23.6	19.4	11.3	10.0	14.0	7.7	8.4	3.1	4.4
上越地域 (n=228)	47.6	42.4	40.6	30.9	18.4	20.8	12.5	10.7	11.3	11.8	7.6	2.5	2.0
佐渡地域 (n=47)	47.6	41.7	31.6	32.6	21.6	21.0	11.9	15.6	12.1	9.7	3.1	2.9	3.5

(3) ①理想の子どもの数

問 8-3 あなたにとって、①理想の子どもの数は何人ですか。(〇は1つだけ)



【全体結果】

理想の子どもの数は、「3人」(46.6%)が最も高くなっている。以下、「2人」(39.7%)、「0人」(3.7%)と続いている。

【性別】

「2人」(男性41.2%、女性38.4%)の割合は男性の方が高く、「3人」(男性45.1%、女性48.0%)は女性の方がやや高くなっている。

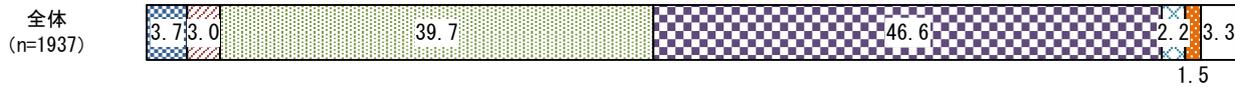
【年齢別】

多人数(3人以上)の割合は、高年齢層ほど高くなる傾向がみられる。

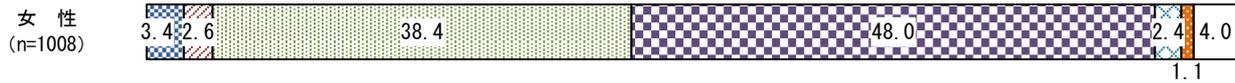
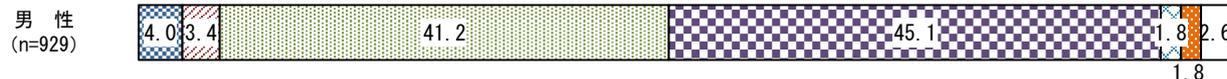
【地域別】

「3人」の割合は魚沼地域(50.5%)が最も高く、「2人」の割合は新潟地域、中越地域、上越地域(各40.9%)が最も高くなっている。

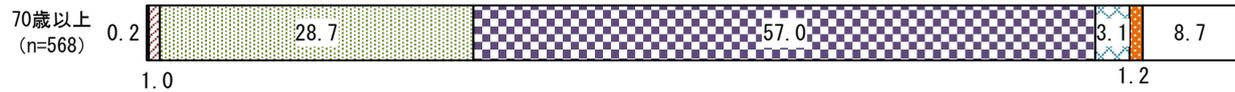
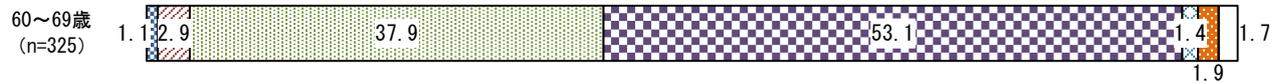
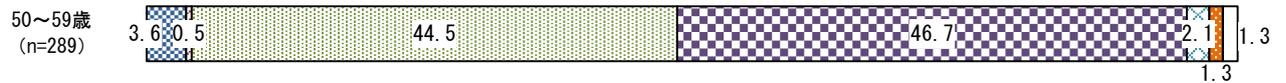
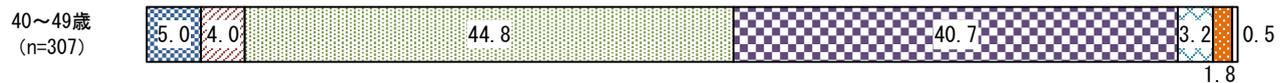
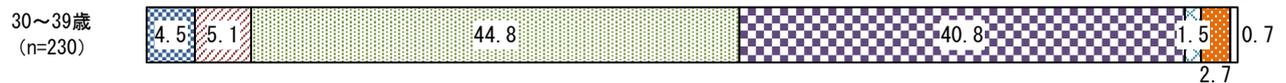
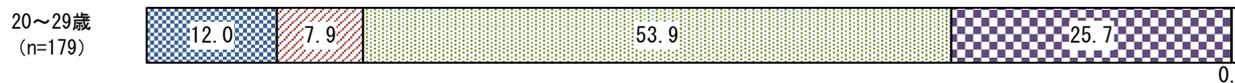
(3) ①理想の子どもの数（全体/属性別）



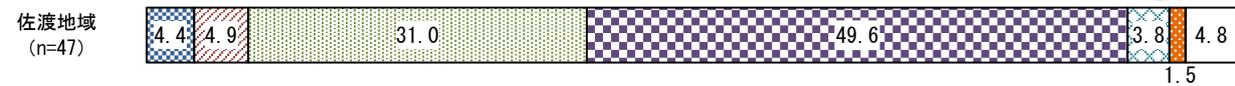
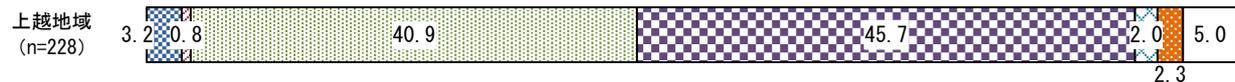
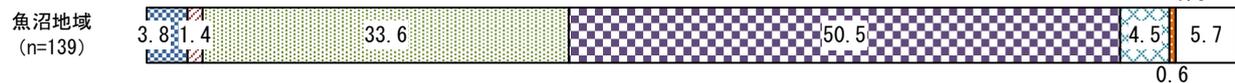
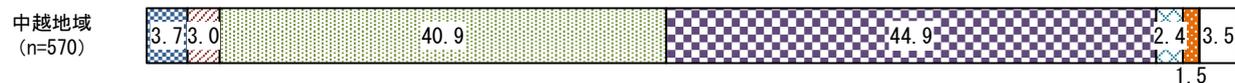
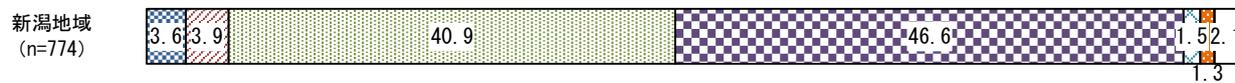
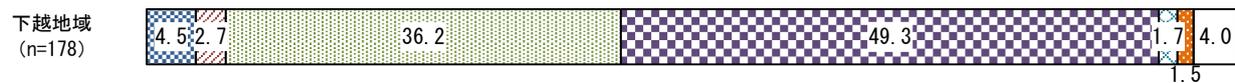
【性別】



【年齢別】

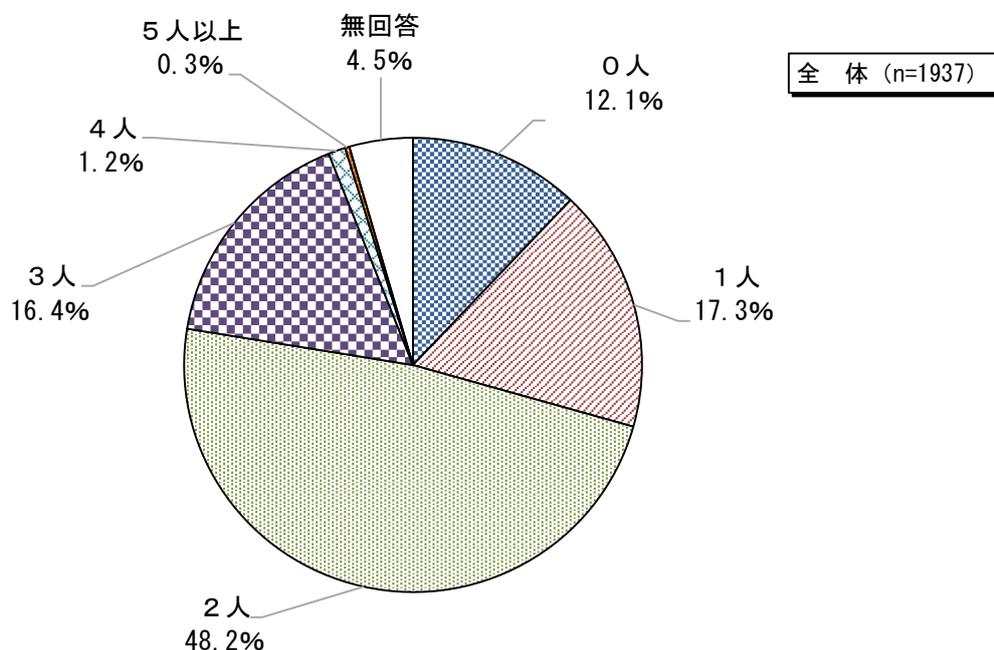


【地域別】



(3) ②現実的に考えた時の子どもの数

問 8-3 あなたにとって、②現実的に考えた時の子どもの数（現在の子ども数+予定子ども数）は何人ですか。（〇は1つだけ）



【全体結果】

現実的に考えた時の子どもの数は、「2人」（48.2%）が最も高くなっている。以下「1人」（17.3%）、「3人」（16.4%）と続いている。

【性別】

3人以上の割合は、女性の方がやや高い。

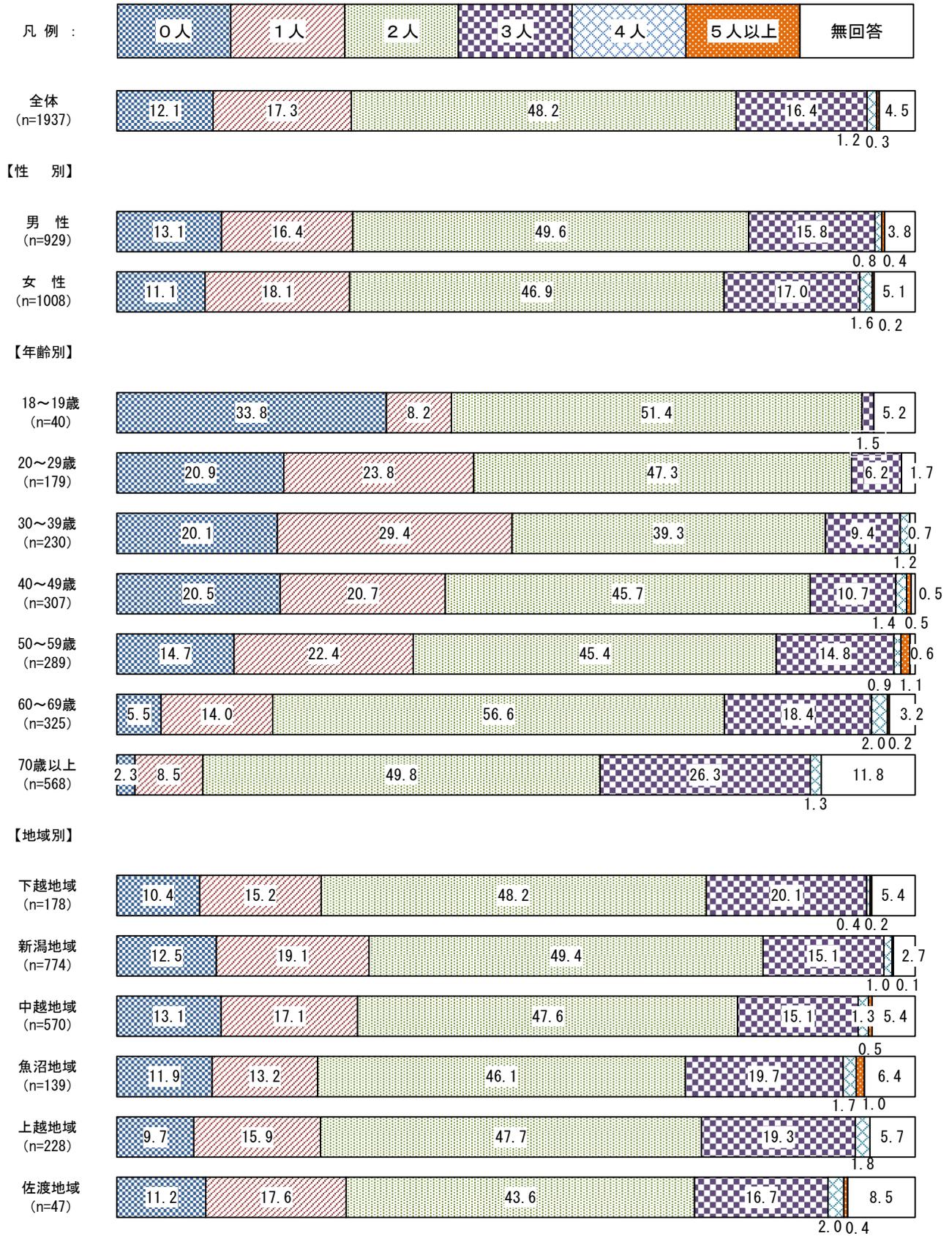
【年齢別】

3人以上の割合は、高年齢層ほど高くなる傾向がみられる。

【地域別】

「2人」の割合は新潟地域（49.4%）が最も高くなっている。また、「3人」の割合は下越地域（20.1%）が最も高くなっている。

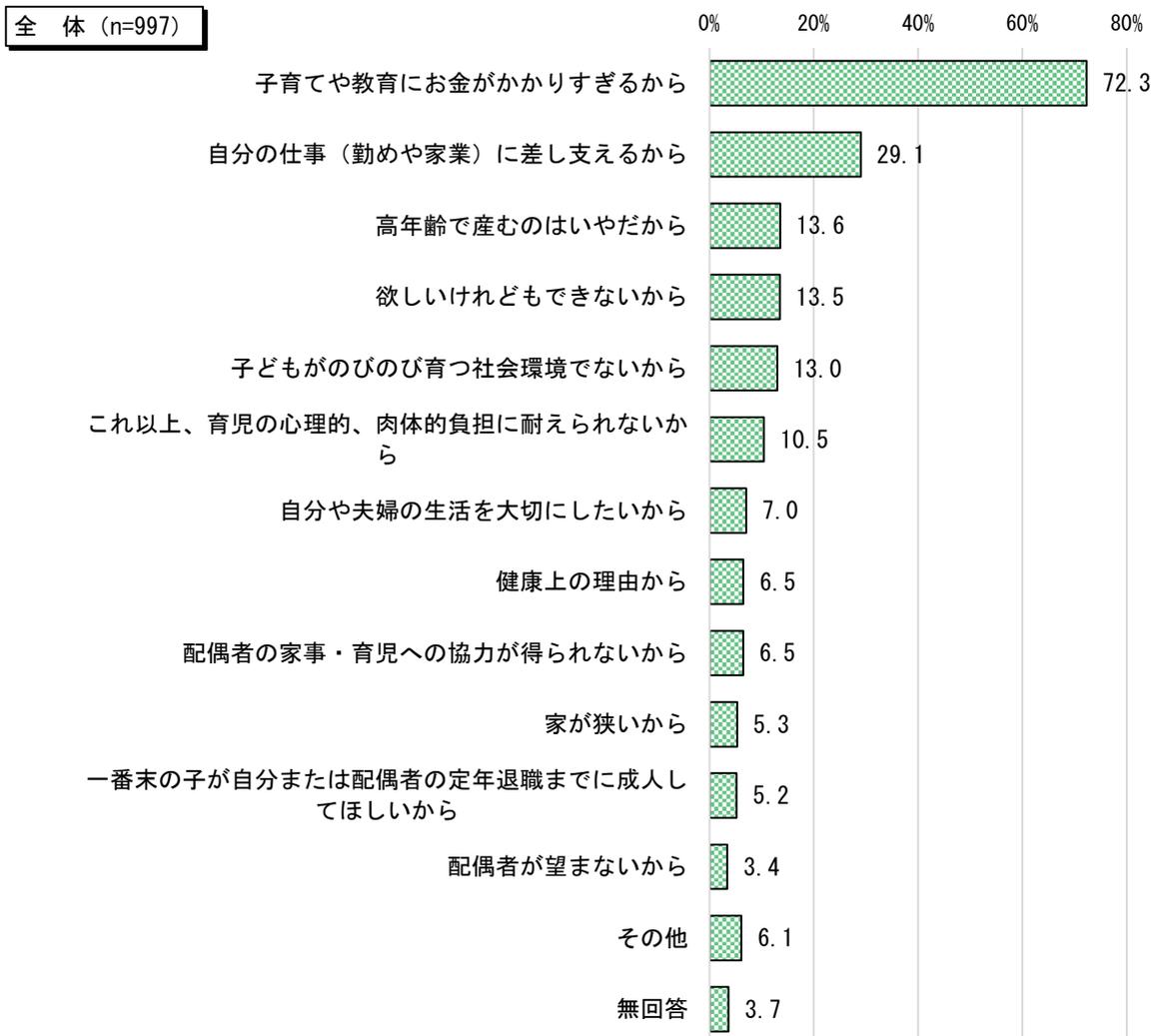
(3) ②現実的に考えた時の子どもの数（全体/属性別）



(4) 理想と現実の差が生じている理由

問 8-4 前問で、「②現実的に考えた時の子どもの数」の方が下回っている方だけにお聞きします。

差が生じている理由として、あなたのお考えに近いものを次の中から3つ選んでください。(〇は3つまで)



【全体結果】

「現実的に考えた時の子どもの数」が「理想の子どもの数」を下回っていると回答した方に、その差が生じている理由について尋ねたところ、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(72.3%)の割合が特に高く、7割を超えている。以下、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」(29.1%)、「高年齢で産むのはいやだから」(13.6%)、「欲しいけれどもできないから」(13.5%)、「子どもがのびのび育つ社会環境でないから」(13.0%)、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」(10.5%)と続いている。

【性別】

全体結果の上位2つの理由についてみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（男性 72.3%、女性 72.3%）、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」（男性 29.3%、女性 28.9%）どちらもほとんど差は見られなかった。

【年齢別】

同じく全体結果の上位2つの理由についてみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は20代（91.7%）の割合が最も高くなっている。「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」は、60代（36.5%）の割合が最も高くなっている。

【地域別】

すべての地域で、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が最も高くなっている。

(4) 理想と現実の差が生じている理由（全体／属性別）

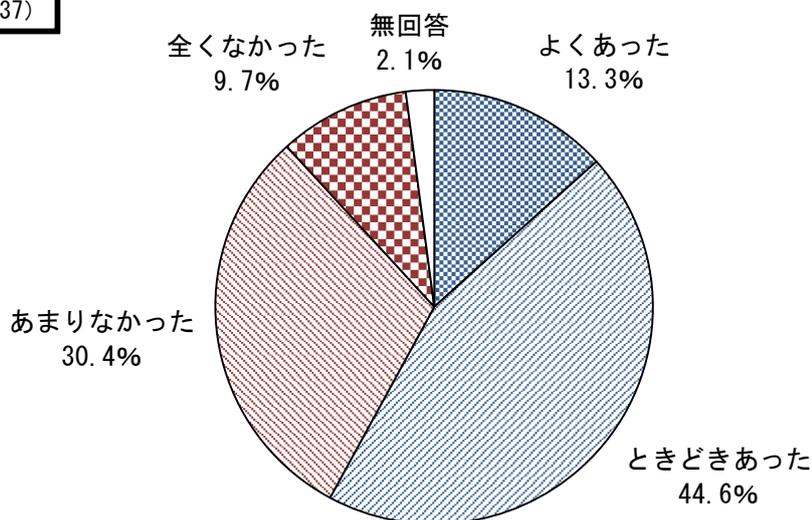
割合 (%)	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	高年齢で産むのはいやだから	欲しいけれどもできないから	子どもがのびのび育つ社会環境でないから	これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	健康上の理由から	配偶者の家事・育児への協力が得られないから	家が狭いから	一年一番末の子が自分または配偶者の定年退職までに成人してほしいから	配偶者が望まないから	その他	無回答
全体 (n=997)	72.3	29.1	13.6	13.5	13.0	10.5	7.0	6.5	6.5	5.3	5.2	3.4	6.1	3.7
【性別】														
男性 (n=472)	72.3	29.3	12.0	10.5	13.6	7.3	8.4	5.6	2.1	6.7	6.4	5.5	7.3	3.8
女性 (n=525)	72.3	28.9	14.9	16.1	12.5	13.3	5.7	7.3	10.3	4.0	4.1	1.5	5.1	3.6
【年齢別】														
18～19歳 (n=11)	80.8	21.7	0.0	0.0	18.8	0.0	14.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.0	0.0
20～29歳 (n=82)	91.7	28.2	3.0	6.3	20.7	11.9	14.5	2.1	0.0	3.0	0.0	0.0	12.1	0.0
30～39歳 (n=150)	67.8	30.8	20.9	16.1	15.1	11.1	10.8	8.5	5.1	4.9	2.8	2.6	7.7	0.5
40～49歳 (n=193)	70.7	29.6	26.0	14.3	10.3	13.2	9.7	8.1	4.5	7.7	5.5	5.1	5.2	1.3
50～59歳 (n=164)	63.5	24.6	16.7	23.5	9.7	10.0	5.0	9.5	6.6	2.4	7.0	3.0	6.3	1.0
60～69歳 (n=158)	77.4	36.5	7.7	11.6	11.8	7.7	2.3	3.8	8.4	8.8	6.8	4.6	7.6	3.2
70歳以上 (n=238)	71.9	26.2	4.9	8.6	14.0	9.9	4.1	5.5	10.0	4.3	6.3	3.4	1.7	11.2
【地域別】														
下越地域 (n=85)	65.8	27.6	14.6	16.1	10.3	14.3	9.6	7.2	6.9	2.5	2.0	5.7	7.8	5.9
新潟地域 (n=417)	68.9	27.7	11.8	12.2	10.5	10.3	7.4	7.3	8.4	6.4	3.9	3.2	6.4	3.5
中越地域 (n=297)	77.4	30.6	15.4	14.8	17.9	11.2	6.6	5.8	3.3	4.4	6.6	3.1	6.7	2.9
魚沼地域 (n=66)	73.6	33.4	18.1	11.7	9.7	10.7	8.0	3.4	7.0	3.0	5.6	3.0	3.9	3.5
上越地域 (n=108)	75.4	28.1	13.7	13.8	12.8	7.1	4.5	7.3	6.9	6.6	7.8	3.1	3.7	4.7
佐渡地域 (n=24)	71.6	30.7	5.6	12.9	15.2	4.8	6.1	2.9	7.0	7.8	8.5	6.5	6.2	3.9

9. 人権問題について

(1) 人権問題や人権侵害のニュースや報道が気になった経験の有無

問 9-1 あなたは、この2、3年の間、「人権問題」や「人権が侵害された」といったニュースや報道について、気になったことはありますか。(○は1つだけ)

全 体 (n=1937)



『あった』計……57.9%
『なかった』計……40.1%

【全体結果】

「よくあった」と「ときどきあった」を合計した『あった』計は 57.9%となり、5割半ばを占めている。

一方、「あまりなかった」と「全くなかった」を合計した『なかった』計 (40.1%) は約4割となっている。

【性別】

『あった』計の割合は、男性より女性の方が高くなっている。

【年齢別】

『あった』計の割合は、10代 (80.1%) が最も高くなっている。

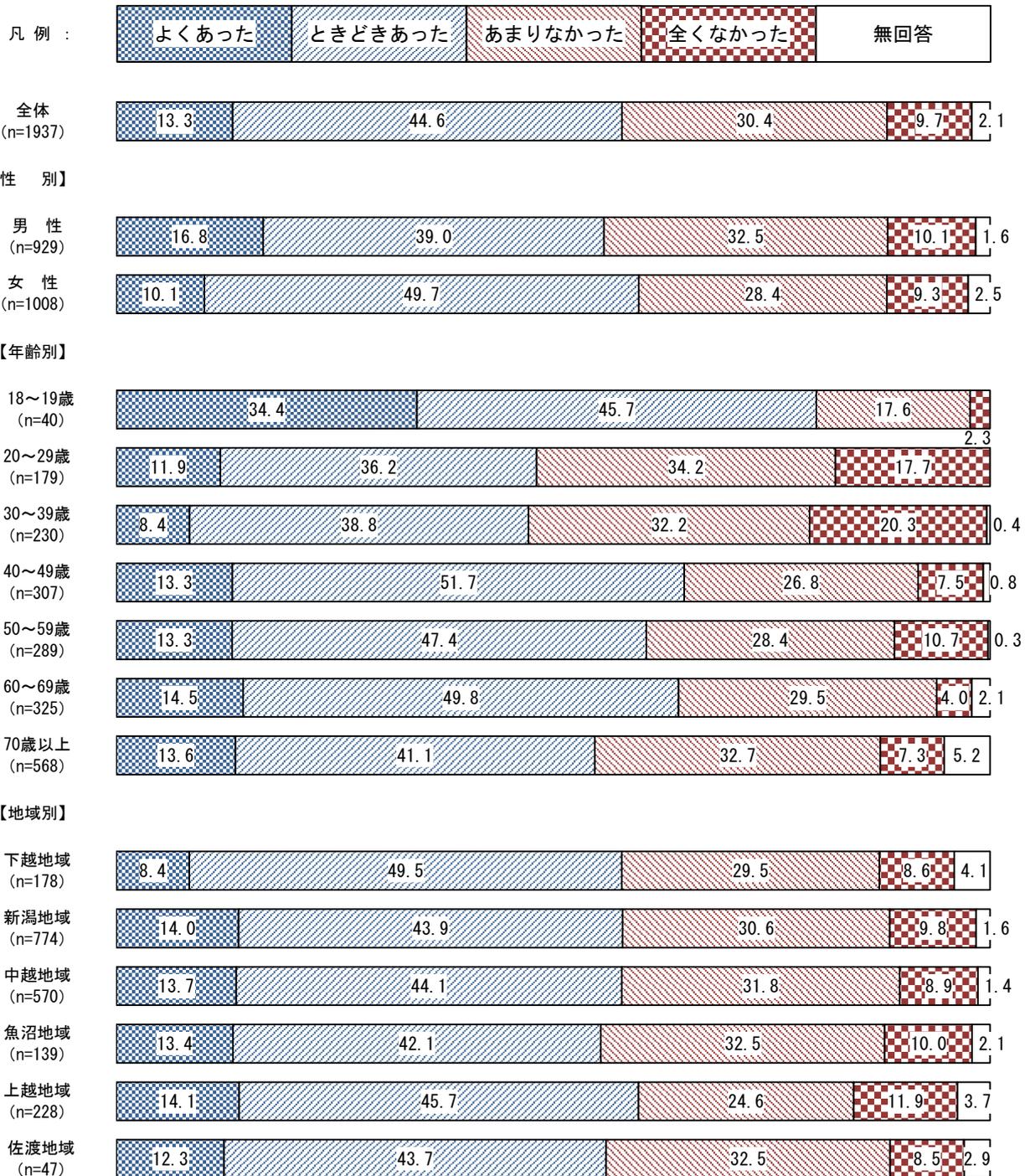
【地域別】

『あった』計の割合は、上越地域 (59.8%) が最も高くなっている。また、どの地域も5割半ば以上の割合となっている。

	『あった』 計	『なかった』 計
全体 (n=1937)	57.9%	40.0%
【性別】		
男性 (n=929)	55.8%	42.5%
女性 (n=1008)	59.8%	37.7%
【年齢別】		
18～19歳 (n=40)	80.1%	19.9%
20～29歳 (n=179)	48.1%	51.9%
30～39歳 (n=230)	47.2%	52.5%
40～49歳 (n=307)	65.0%	34.2%
50～59歳 (n=289)	60.7%	39.1%
60～69歳 (n=325)	64.4%	33.6%
70歳以上 (n=568)	54.8%	40.0%

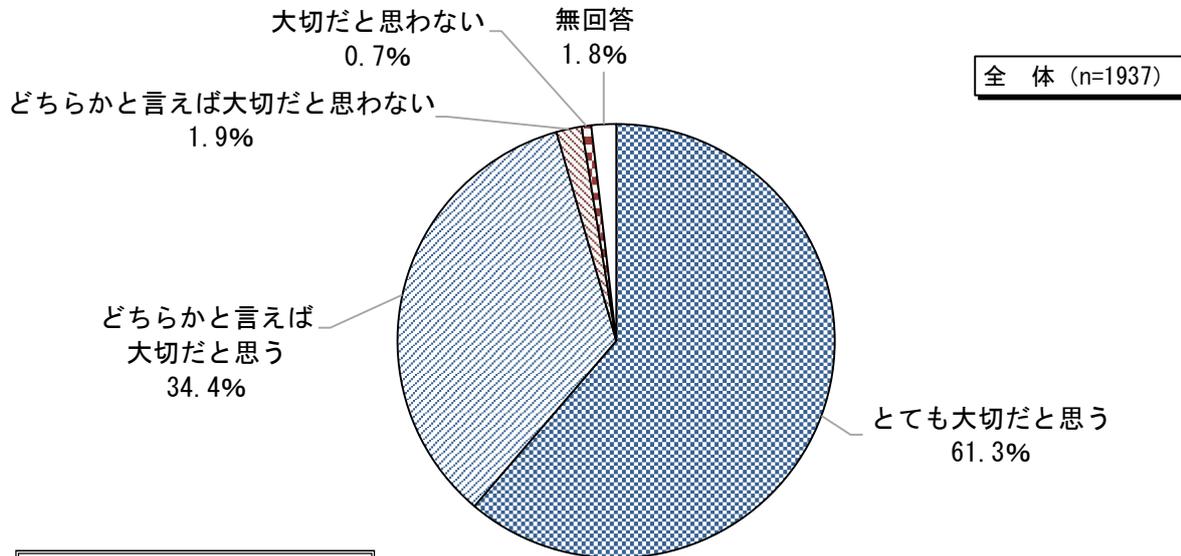
	『あった』 計	『なかった』 計
【地域別】		
下越地域 (n=178)	57.8%	38.1%
新潟地域 (n=774)	57.9%	40.5%
中越地域 (n=570)	57.8%	40.8%
魚沼地域 (n=139)	55.4%	42.5%
上越地域 (n=228)	59.8%	36.5%
佐渡地域 (n=47)	56.1%	41.0%

(1) 人権問題や人権侵害のニュースや報道が気になった経験の有無
(全体／属性別)



(2) 人権を尊重することに対する考え方

問 9-2 あなたは、人権を尊重することについて、どのように思っていますか。(○は1つだけ)



【全体結果】

「とても大切だと思う」と「どちらかと言えば大切だと思う」を合計した『思う』計は95.6%となり、大多数を占めている。

一方、「どちらかと言えば大切だと思わない」と「大切だと思わない」を合計した『思わない』計は2.6%にとどまっている。

【性別】

『思う』計の割合は、性別で大きな差はみられない。

【年齢別】

各年代とも『思う』計が大多数を占めている。

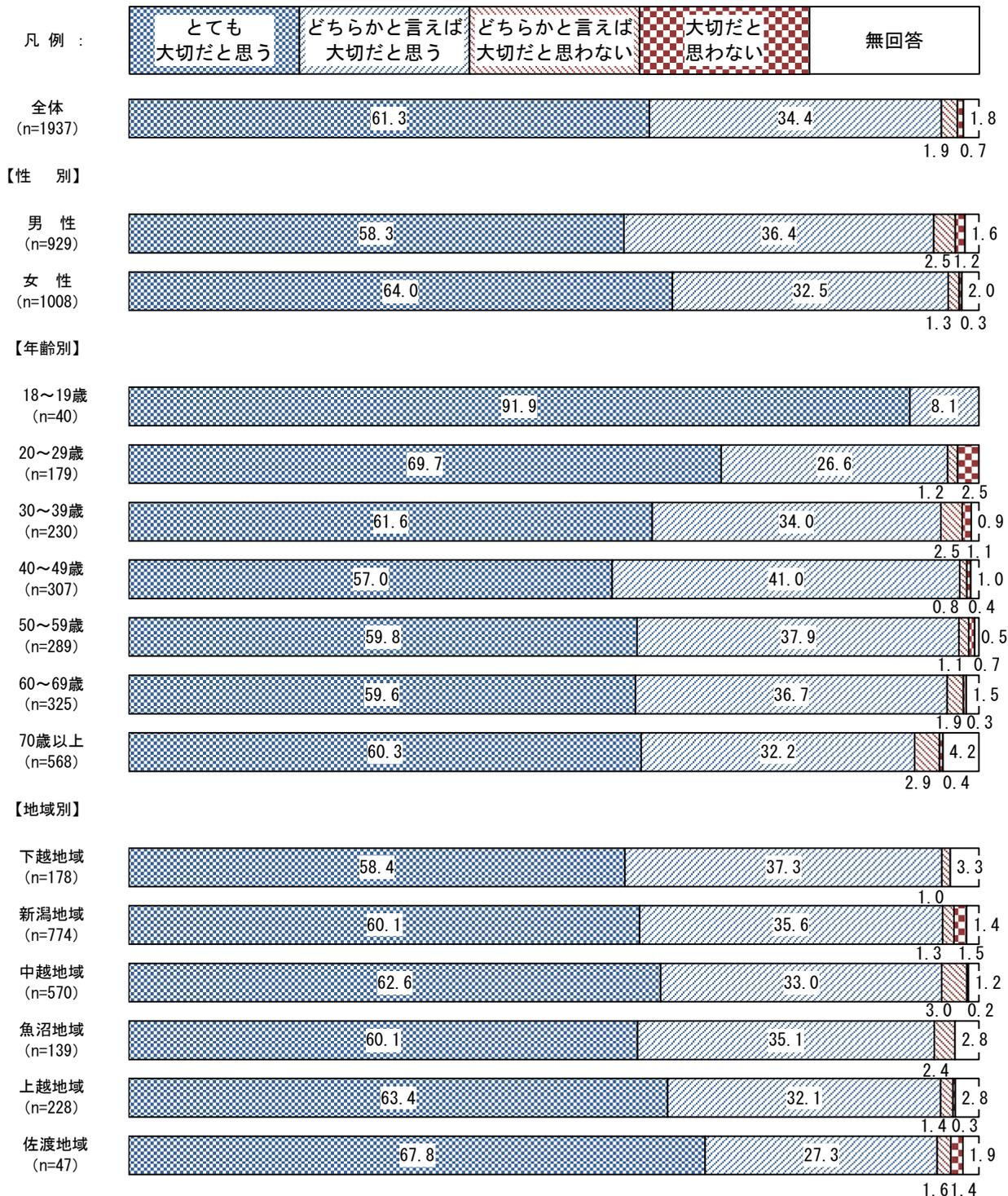
【地域別】

各地域とも『思う』計が大多数を占めている。

	『思う』 計	『思わない』 計
全体 (n=1937)	95.6%	2.6%
【性別】		
男性 (n=929)	94.7%	3.7%
女性 (n=1008)	96.5%	1.6%
【年齢別】		
18～19歳 (n=40)	100.0%	0.0%
20～29歳 (n=179)	96.3%	3.7%
30～39歳 (n=230)	95.5%	3.6%
40～49歳 (n=307)	98.0%	1.3%
50～59歳 (n=289)	97.7%	1.9%
60～69歳 (n=325)	96.3%	2.2%
70歳以上 (n=568)	92.4%	3.4%

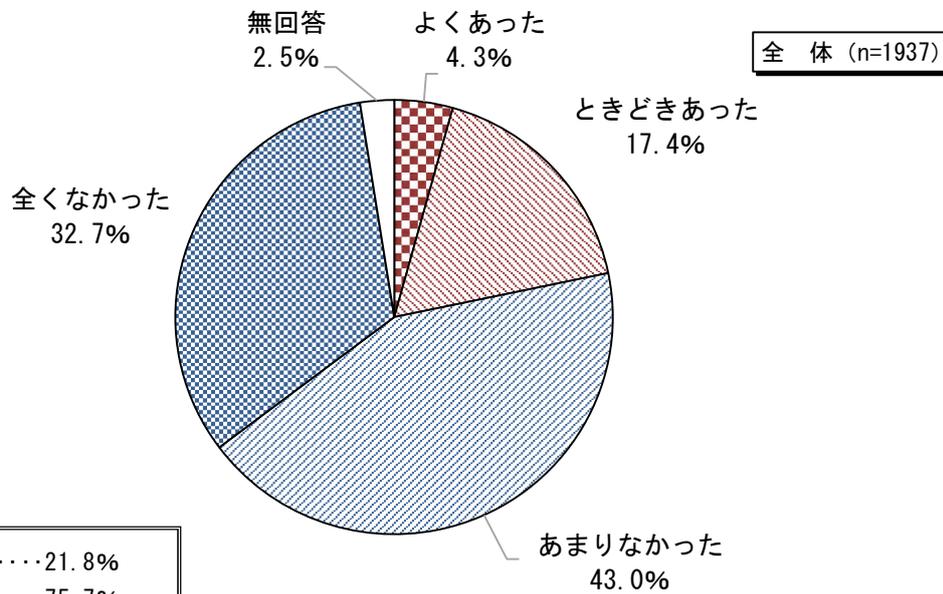
	『思う』 計	『思わない』 計
【地域別】		
下越地域 (n=178)	95.7%	1.0%
新潟地域 (n=774)	95.7%	2.8%
中越地域 (n=570)	95.6%	3.1%
魚沼地域 (n=139)	95.2%	2.4%
上越地域 (n=228)	95.5%	1.7%
佐渡地域 (n=47)	95.1%	3.0%

(2) 人権を尊重することに対する考え方 (全体/属性別)



(3) 人権問題を感じた経験の有無

問 9-3 この2、3年の間、あなたやあなたの身の回りで、「人権の問題がある」と思ったことはありますか。(○は1つだけ)



【全体結果】

人権の問題を感じたことが、「よくあった」と「ときどきあった」を合計した『あった』計は21.8%となっている。

一方、「あまりなかった」と「全くなかった」を合計した『なかった』計は7割半ば(75.7%)を占めている。

【性別】

『あった』計の割合は、性別で大きな差はみられない。

【年齢別】

『あった』計の割合は、10代(36.9%)で最も高くなっている。

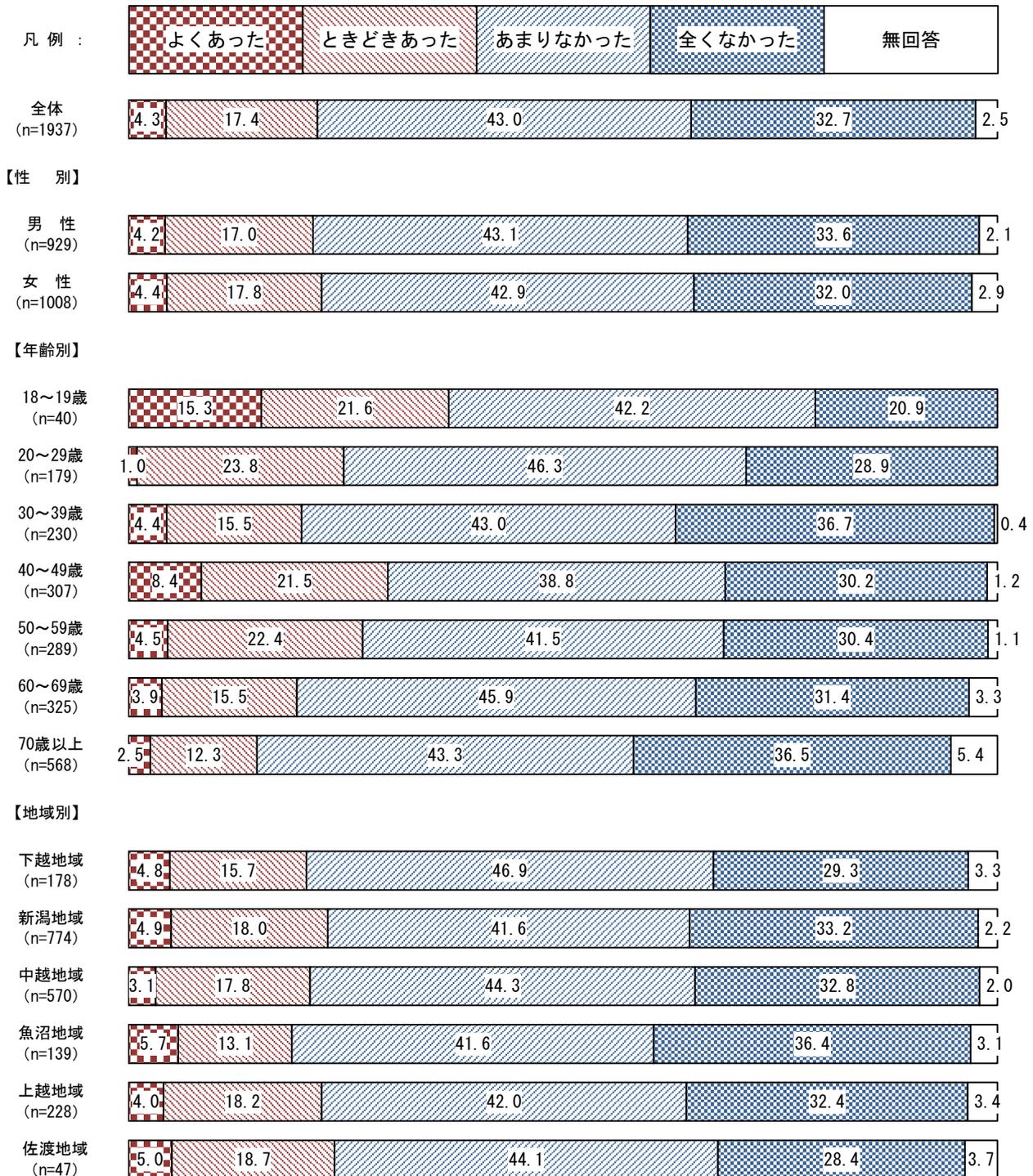
【地域別】

『あった』計の割合は、佐渡地域(23.7%)で最も高くなっている。

	『あった』 計	『なかった』 計
全体 (n=1937)	21.8%	75.7%
【性別】		
男性 (n=929)	21.2%	76.7%
女性 (n=1008)	22.2%	74.8%
【年齢別】		
18～19歳 (n=40)	36.9%	63.1%
20～29歳 (n=179)	24.8%	75.2%
30～39歳 (n=230)	19.9%	79.7%
40～49歳 (n=307)	29.9%	69.0%
50～59歳 (n=289)	27.0%	72.0%
60～69歳 (n=325)	19.4%	77.3%
70歳以上 (n=568)	14.8%	79.9%

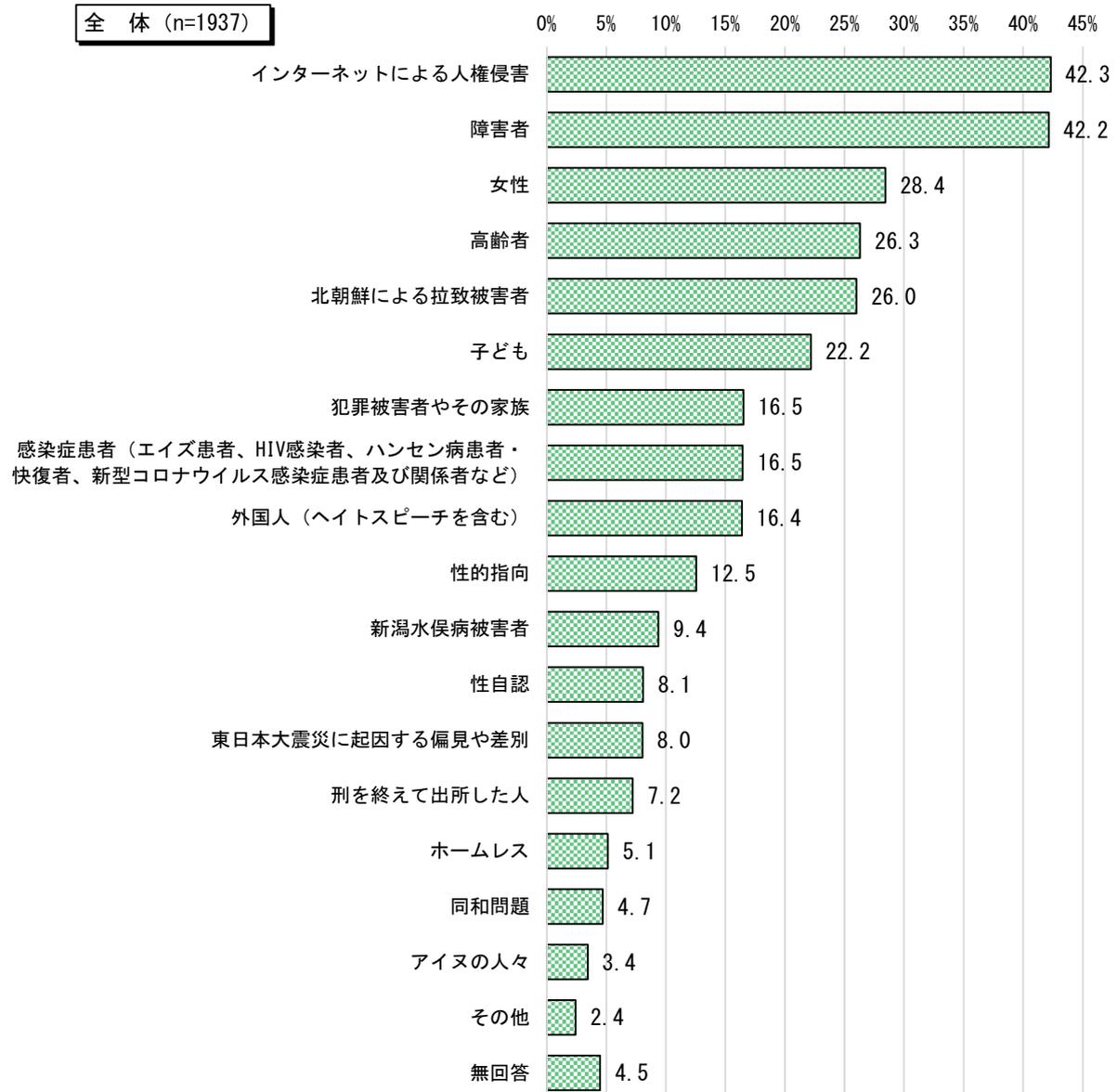
	『あった』 計	『なかった』 計
【地域別】		
下越地域 (n=178)	20.5%	76.2%
新潟地域 (n=774)	22.9%	74.8%
中越地域 (n=570)	20.9%	77.1%
魚沼地域 (n=139)	18.8%	78.1%
上越地域 (n=228)	22.2%	74.3%
佐渡地域 (n=47)	23.7%	72.6%

(3) 人権問題を感じた経験の有無 (全体/属性別)



(4) 人権の問題があると思う分野

問 9-4 あなたは、現在、どのような分野で「人権の問題がある」と思いますか。次の中からあてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)



【全体結果】

「インターネットによる人権侵害」(42.3%)が最も高くなっている。以下、「障害者」(42.2%)、「女性」(28.4%)、「高齢者」(26.3%)、「北朝鮮による拉致被害者」(26.0%)「子ども」(22.2%)が続いている。

【性別】

「インターネットによる人権侵害」(男性 42.4%、女性 42.2%)の割合は、性別で大きな差はみられない。「女性」(男性 23.5%、女性 33.0%)の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】

全体結果の上位3つの分野についてみると、「インターネットによる人権侵害」、の割合は50代（52.0%）、「障害者」の割合は60代（48.4%）、「女性」は10代（42.0%）がそれぞれ最も高くなっている。

【地域別】

「インターネットによる人権侵害」は佐渡地域（47.6%）が、「障害者」は魚沼地域（45.3%）が、「女性」は上越地域（30.7%）がそれぞれ最も高くなっている。

（4）人権の問題があると思う分野（全体／属性別）

割合 (%)	インターネットによる人権侵害	障害者	女性	高齢者	北朝鮮による拉致被害者	子ども	犯罪被害者やその家族	感染症患者（エイズ患者、新型コロナウイルス感染症及び関係者など）	外国人（ヘイトスピーチを含む）	性的指向 性的欲求や恋愛感情が向く対象がどのような相手なのかを示す概念です。	新潟水俣病被害者	性自認 自分の性まどのように認識しているのかを示す概念です。	東日本大震災に起因する偏見や差別	刑を終えて出所した人	ホームレス	同和問題	アイヌの人々	その他	無回答
全体 (n=1937)	42.3	42.2	28.4	26.3	26.0	22.2	16.5	16.5	16.4	12.5	9.4	8.1	8.0	7.2	5.1	4.7	3.4	2.4	4.5

【性別】

男性 (n=929)	42.4	41.8	23.5	23.4	26.0	21.4	16.0	16.6	19.9	11.5	9.9	7.9	8.1	7.8	5.7	5.1	3.9	2.5	3.8
女性 (n=1008)	42.2	42.5	33.0	29.0	26.0	22.9	17.0	16.3	13.1	13.5	8.9	8.3	8.0	6.7	4.7	4.4	3.1	2.4	5.2

【年齢別】

18～19歳 (n=40)	26.7	39.9	42.0	14.2	16.1	25.3	17.6	12.8	25.8	27.2	6.7	29.8	5.2	14.1	4.3	10.6	5.8	0.0	5.2
20～29歳 (n=179)	43.6	35.5	28.6	16.1	9.4	28.1	4.6	10.8	19.6	17.1	2.5	10.5	3.9	3.7	5.0	0.0	1.2	2.2	2.3
30～39歳 (n=230)	43.7	33.3	29.0	15.9	8.5	25.0	16.9	9.8	24.3	14.8	3.8	12.0	8.0	4.4	5.2	2.6	1.6	4.0	3.7
40～49歳 (n=307)	47.9	40.5	33.1	17.6	20.5	25.9	22.6	19.1	19.8	16.1	8.8	12.3	10.1	10.8	7.6	5.3	5.2	4.0	1.9
50～59歳 (n=289)	52.0	43.6	31.3	23.8	25.7	24.4	18.4	19.0	19.2	12.5	9.7	9.1	7.4	7.2	3.5	5.7	4.2	3.0	1.6
60～69歳 (n=325)	45.8	48.4	31.0	30.3	31.3	22.0	18.9	22.2	19.4	10.9	13.5	6.0	8.7	6.1	6.4	7.0	3.6	2.8	2.4
70歳以上 (n=568)	32.5	44.6	21.8	38.3	39.2	16.0	14.5	15.2	6.5	8.2	11.8	2.6	8.4	7.7	4.0	4.5	3.3	0.7	9.5

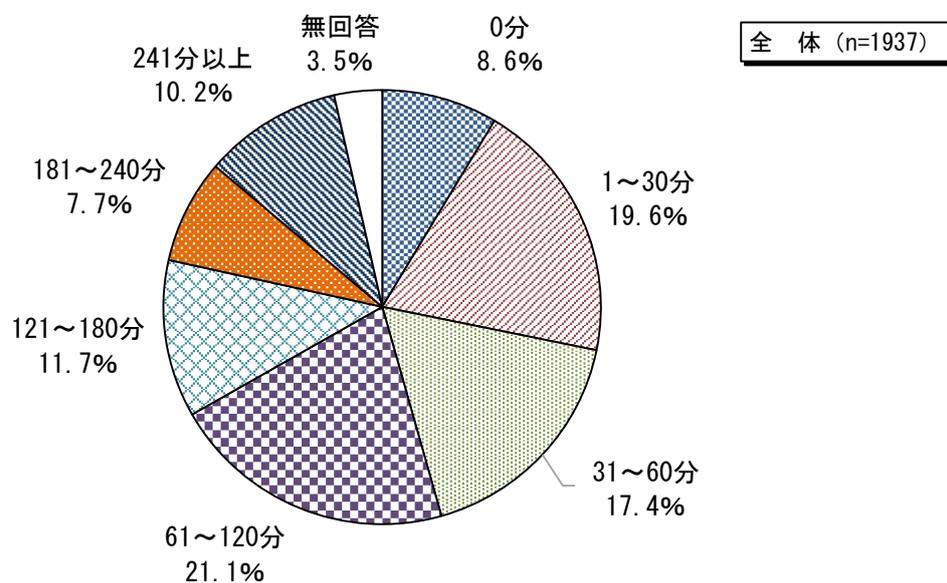
【地域別】

下越地域 (n=178)	43.4	44.0	27.4	30.1	23.0	20.8	15.1	17.7	12.0	12.0	9.6	8.9	5.0	8.1	4.6	7.7	1.8	2.3	8.0
新潟地域 (n=774)	43.1	40.2	30.1	24.9	25.2	24.8	16.2	16.4	15.8	11.8	9.6	8.6	8.5	6.4	5.8	3.0	3.8	2.0	3.0
中越地域 (n=570)	43.3	44.5	27.5	27.6	27.6	21.4	18.1	18.4	18.0	14.0	10.9	7.6	9.1	8.1	4.8	4.5	3.9	3.3	4.4
魚沼地域 (n=139)	37.8	45.3	22.3	23.6	23.3	16.4	18.4	15.1	17.8	13.6	6.8	9.1	6.0	7.5	5.5	5.9	4.0	2.2	6.3
上越地域 (n=228)	38.3	40.1	30.7	25.5	27.1	19.9	13.0	12.0	18.0	11.0	5.5	7.2	7.2	6.8	4.0	7.2	1.6	1.6	6.3
佐渡地域 (n=47)	47.6	40.0	24.5	30.9	34.4	22.1	19.3	15.4	11.3	14.2	12.4	4.6	8.7	7.9	5.1	7.9	4.5	3.8	3.4

10. 家事・育児等について

(1) 家事に費やす時間

問 10-1 あなたが家事に費やす時間は直近1か月で1日平均何分ですか。(家事をしていない場合は「0分」とお答えください)



【全体結果】

家事に費やす1日の平均時間は、「61~120分」(21.1%)が最も高くなっている。以下、「1~30分」(19.6%)、「31~60分」(17.4%)が続いている。0~120分の合計(66.8%)で6割半ばを占めている。

全体の1日平均時間は116.9分となっている。

【性別】

男性は、「1~30分」(31.7%)の割合が最も高く、「0分」(13.3%)と合わせた30分以内(45.0%)で4割半ばを占めている。女性は「61~120分」(22.9%)の割合が最も高くなっている。女性は121分以上と答えた割合も高く、121分以上の合計(48.8%)で約5割を占めている。

平均時間は、男性の63.1分に対し女性は167.1分で、男性は女性の37.8%となっている。

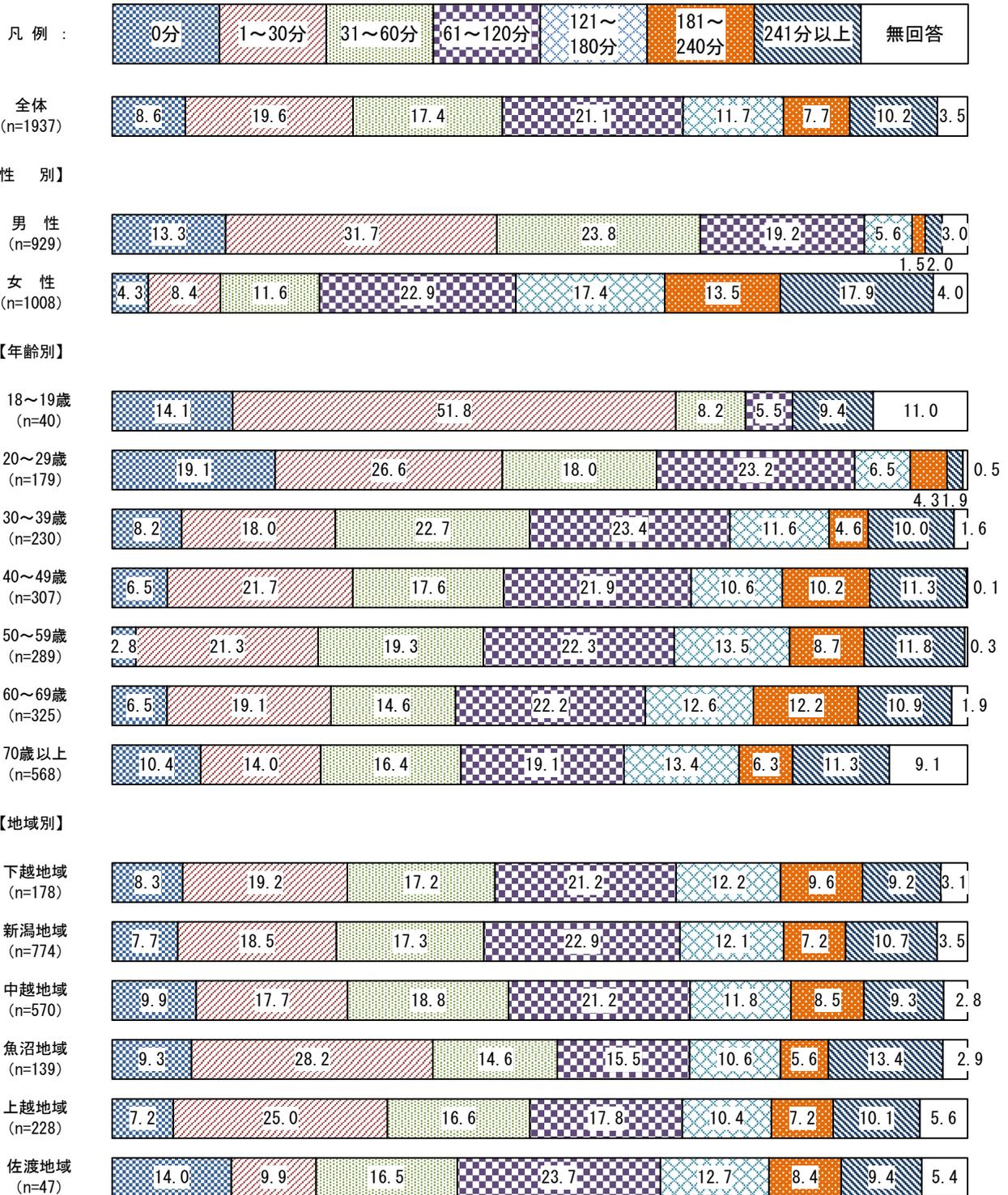
【年齢別】

61分以上と答えた割合は、60代(58.0%)が最も高く、10代(14.9%)が最も低くなっている。

【地域別】

61分以上と答えた割合は、佐渡地域(54.3%)で最も高くなっている。

(1) 家事に費やす時間 (全体/属性別)



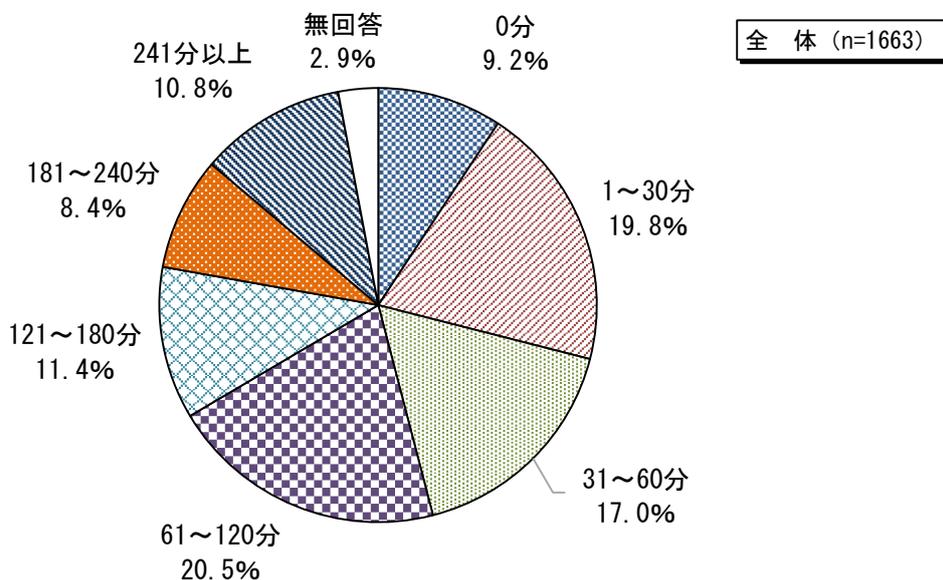
(1) 家事に費やす時間 (平均時間)

	n (男/女)	平均値			男性の平均値 ÷女性の平均値
		計	男性	女性	
全 体 (n=1937)	929名/1008名	116.9分	63.1分	167.1分	37.8%
18~19歳 (n=40)	21名/19名	72.8分	29.2分	56.3分	51.8%
20~29歳 (n=179)	92名/86名	68.6分	24.2分	54.9分	44.0%
30~39歳 (n=230)	118名/112名	110.2分	49.2分	115.6分	42.6%
40~49歳 (n=307)	157名/151名	125.2分	54.7分	176.3分	31.0%
50~59歳 (n=289)	145名/143名	125.7分	69.0分	233.9分	29.5%
60~69歳 (n=325)	160名/164名	128.6分	67.8分	233.1分	29.1%
70歳以上 (n=568)	236名/332名	122.5分	68.2分	156.6分	43.5%

※回答があった人のみの平均値。

(2) 家事に費やす時間／一人暮らしを除く

問 10-1 あなたが家事に費やす時間は直近1か月で1日平均何分ですか。(家事をしていない場合は「0分」とお答えください)



【全体結果】

一人暮らしを除いた家事に費やす1日の平均時間は、「61~120分」(20.5%)が最も高くなっている。以下、「1~30分」(19.8%)、「31~60分」(17.0%)が続いている。0~120分の合計(66.5%)で6割半ばを占めている。

全体の1日平均時間は117.3分となっている。

【性別】

男性は、「1~30分」(33.5%)の割合が最も高く、「0分」(14.5%)と合わせた30分以内(48.0%)で5割近くを占めている。女性は「61~120分」(22.6%)の割合が最も高くなっている。また、女性は121分以上と答えた割合も高く、121分以上の合計(51.0%)で約5割を占めている。

平均時間は、男性の54.4分に対し女性は174.0分で、男性は女性の31.3%となっている。

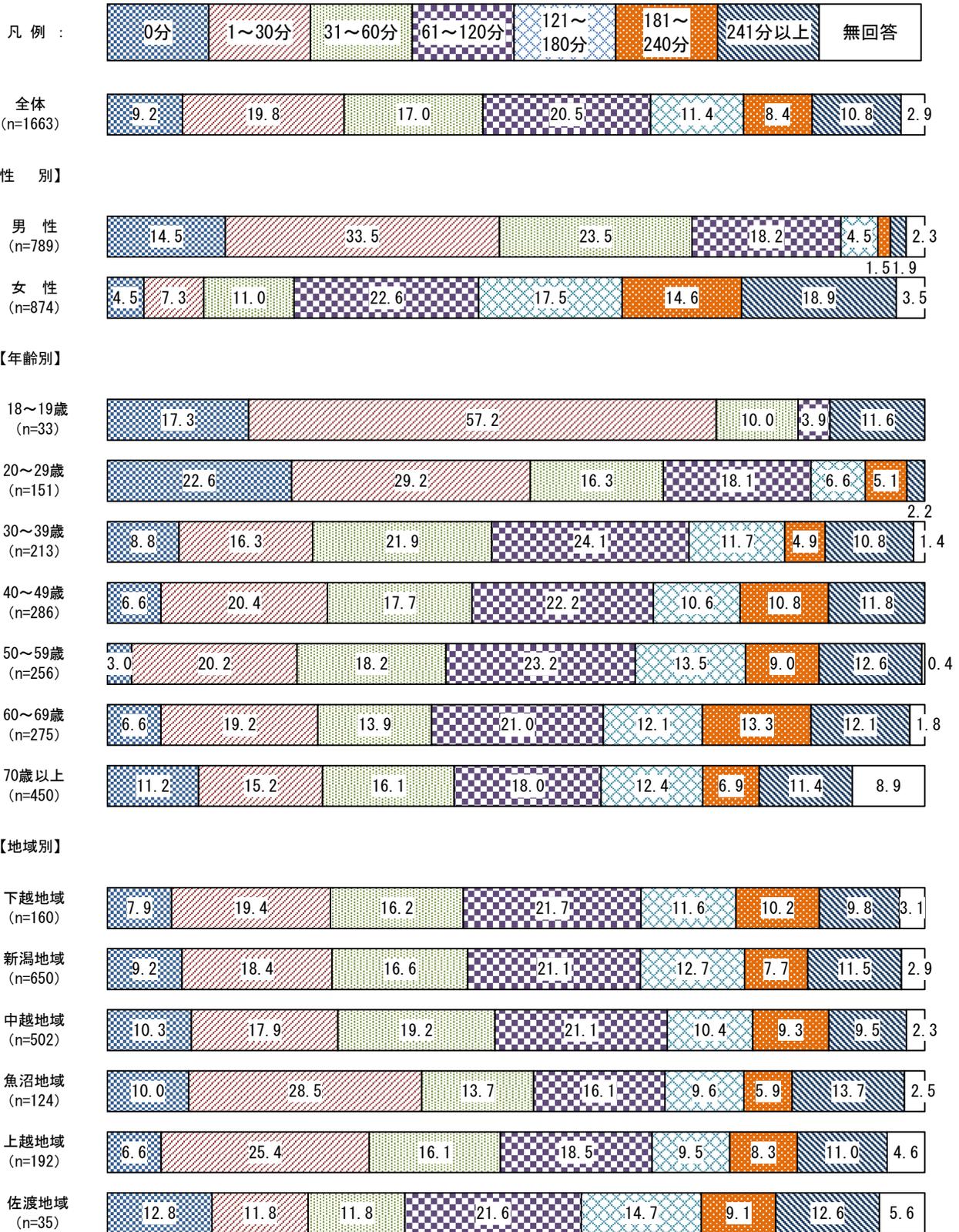
【年齢別】

61分以上と答えた割合は、60代(58.5%)が最も高く、10代(15.5%)が最も低くなっている。

【地域別】

61分以上と答えた割合は、佐渡地域(58.0%)で最も高くなっている。

(2) 家事に費やす時間／一人暮らしを除く (全体／属性別)



(2) 家事に費やす時間／一人暮らしを除く (平均時間)

	n (男／女)	平均値			男性の平均値 ÷女性の平均値
		計	男性	女性	
全 体 (n=1663)	789 名／874 名	117.3 分	54.4 分	174.0 分	31.3 %
18～19 歳 (n=33)	17 名／16 名	45.1 分	36.9 分	53.6 分	68.9 %
20～29 歳 (n=151)	73 名／78 名	38.7 分	21.5 分	55.0 分	39.1 %
30～39 歳 (n=213)	110 名／103 名	84.2 分	48.6 分	122.6 分	39.6 %
40～49 歳 (n=286)	144 名／142 名	117.4 分	56.2 分	179.1 分	31.4 %
50～59 歳 (n=256)	125 名／131 名	154.5 分	67.8 分	237.0 分	28.6 %
60～69 歳 (n=275)	130 名／145 名	157.6 分	64.4 分	240.8 分	26.7 %
70 歳以上 (n=450)	191 名／259 名	118.6 分	55.1 分	165.3 分	33.4 %

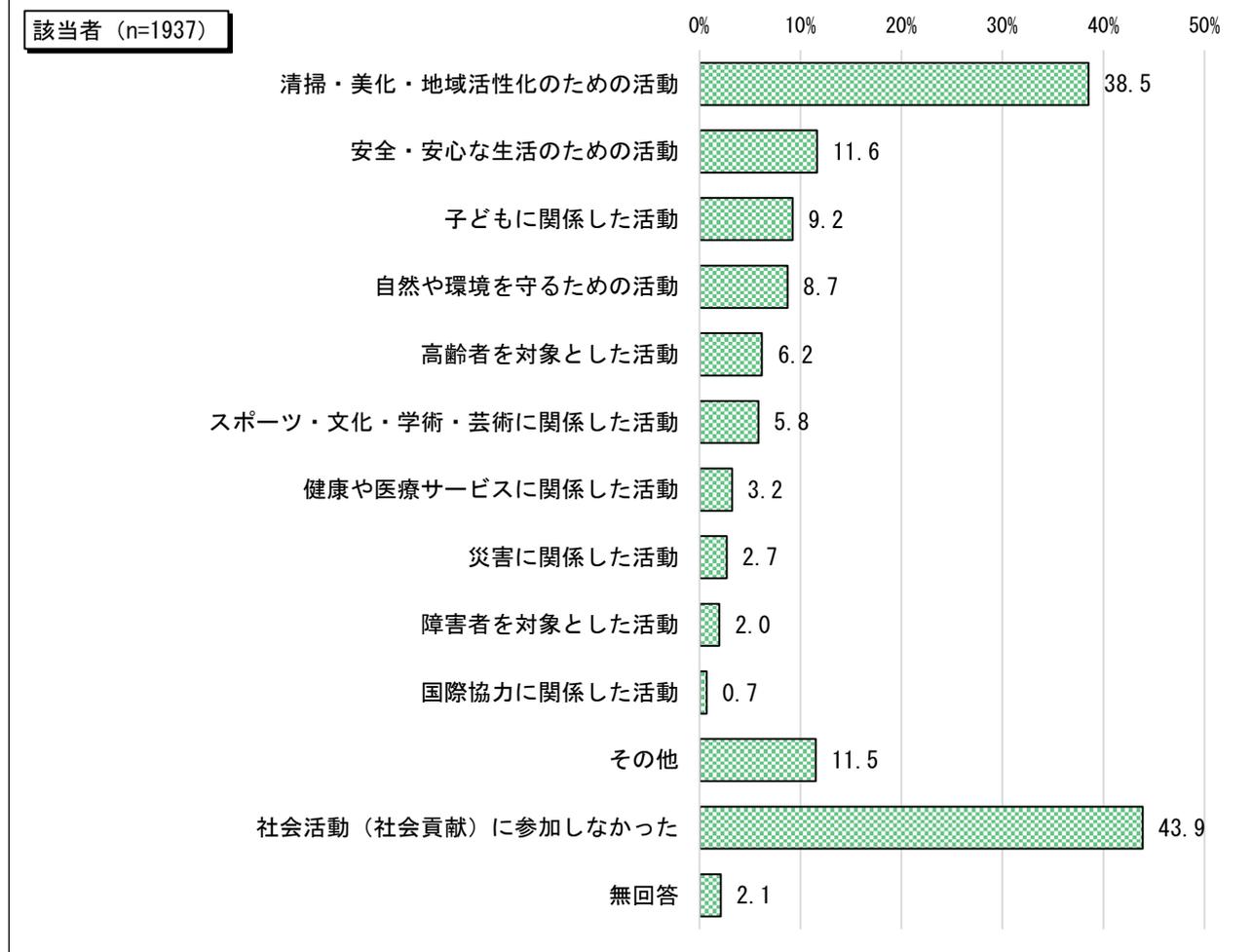
※回答があった人のみの平均値。

1.1. 社会活動（社会貢献）について

(1) 社会活動（社会貢献）への参加状況

問 11-1 あなたは、過去1年間に、次の社会活動（社会貢献）に参加しましたか。
参加したものをすべてお選びください。

（○はいくつでも。ただし、参加していない場合、○は「社会活動（社会貢献）に参加しなかった」のみ）



【全体結果】

「清掃・美化・地域活性化のための活動」（38.5%）が最も高くなっている。以下、「安全・安心な生活のための活動」（11.6%）、「子どもに関係した活動」（9.2%）、「自然や環境を守るための活動」（8.7%）などとなっている。

一方、「社会活動（社会貢献）に参加しなかった」は 43.9%、無回答は 2.1%、この2項目を差し引いた、何らかの社会活動（社会貢献）に参加した人（54.0%）は5割以上となっている。

【性別】

全体結果で最も割合が高い「清掃・美化・地域活性化のための活動」（男性 45.3%、女性 32.3%）は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

高齢層ほど何らかの社会活動（社会貢献）に参加する割合が高くなる傾向にある。

【地域別】

下越地域・上越地域以外は、社会活動（社会貢献）に参加しなかった方が4割以上となっている。

(1) 社会活動（社会貢献）への参加状況（全体／属性別）

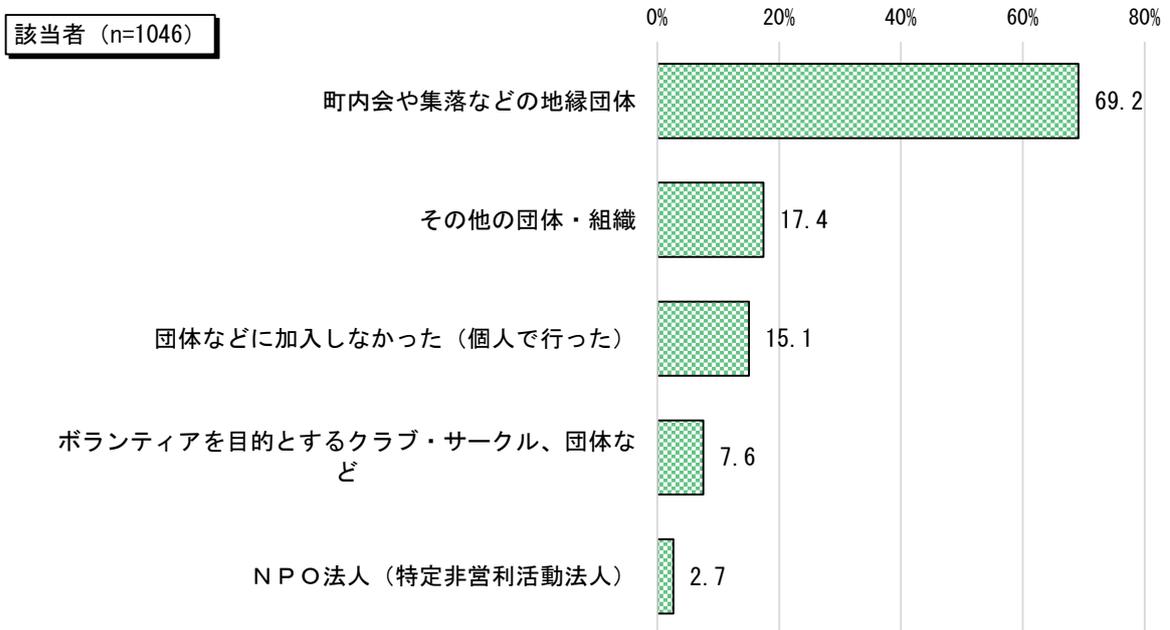
割合 (%)	清掃・美化・地域活性化のための活動	安全・安心な生活のための活動	子どもに関係した活動	自然や環境を守るための活動	高齢者を対象とした活動	スポーツ・文化・学術・芸術に関係した活動	健康や医療サービスに関係した活動	災害に関係した活動	障害者を対象とした活動	国際協力に関係した活動	その他	社会活動（社会貢献）に参加しなかった	無回答
全体 (n=1937)	38.5	11.6	9.2	8.7	6.2	5.8	3.2	2.7	2.0	0.7	11.5	43.9	2.1
【性別】													
男性 (n=929)	45.3	16.2	8.8	9.2	5.9	7.3	4.1	3.8	2.2	0.6	10.4	41.5	1.2
女性 (n=1008)	32.3	7.5	9.6	8.3	6.5	4.5	2.5	1.8	1.8	0.8	12.6	46.1	2.9
【年齢別】													
18～19歳 (n=40)	33.2	4.3	7.4	13.7	9.4	9.0	0.0	0.0	4.3	0.0	10.8	55.0	0.0
20～29歳 (n=179)	22.0	6.8	5.0	3.6	4.2	1.0	5.3	0.5	0.0	0.0	4.3	61.0	0.0
30～39歳 (n=230)	27.3	10.6	13.2	6.9	1.3	6.9	0.9	2.3	0.7	0.0	8.4	55.3	0.9
40～49歳 (n=307)	32.7	13.8	20.5	5.9	2.8	7.6	5.4	2.0	2.0	1.0	12.7	44.0	0.1
50～59歳 (n=289)	45.3	13.5	6.5	9.7	3.0	4.5	4.2	2.1	2.0	0.2	14.4	40.6	0.0
60～69歳 (n=325)	48.9	13.0	6.4	12.1	6.7	6.0	2.9	2.9	1.7	1.6	15.6	34.6	0.9
70歳以上 (n=568)	42.5	11.2	5.9	9.8	11.8	6.3	2.4	4.4	3.1	0.9	10.7	40.1	6.3
【地域別】													
下越地域 (n=178)	43.2	18.4	8.8	10.4	4.2	5.9	5.3	2.3	0.9	0.4	11.8	38.9	2.5
新潟地域 (n=774)	33.9	8.8	9.8	7.2	5.4	4.1	2.8	1.4	2.7	0.7	9.6	47.9	2.1
中越地域 (n=570)	37.3	10.5	8.2	7.9	5.5	5.6	3.2	2.8	0.9	1.0	13.5	44.9	1.9
魚沼地域 (n=139)	46.5	18.0	7.0	9.9	6.0	5.8	2.7	1.6	1.3	0.0	11.2	42.7	1.5
上越地域 (n=228)	47.6	15.1	10.6	14.3	11.8	11.1	3.9	8.0	3.5	0.7	13.3	33.1	2.4
佐渡地域 (n=47)	43.5	12.2	14.5	6.9	8.3	11.0	2.4	2.8	2.8	1.0	11.3	41.0	3.8

(2) 団体などへの加入状況

(前問で社会活動(社会貢献)に参加したと回答した方への該当質問)

問 11-2 団体などに参加して社会活動(社会貢献)を行ないましたか。

(〇はいくつでも)



【全体結果】

過去1年間で社会活動(社会貢献)に参加したと回答した方に団体などへの加入状況について尋ねたところ、「町内会や集落などの地縁団体」(69.2%)が最も高く、約7割となっている。以下「その他の団体・組織」(17.4%)、「団体などに加入しなかった(個人で行った)」(15.1%)「ボランティアを目的とするクラブ・サークル、団体など」(7.6%)が続いている。

【性別】

「町内会や集落などの地縁団体」(男性74.2%、女性64.0%)、「その他の団体・組織」(男性20.7%、女性14.1%)の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

「町内会や集落などの地縁団体」の割合は、60代(75.8%)が最も高く、7割半ばとなっている。

【地域別】

「町内会や集落などの地縁団体」の割合は、魚沼地域(75.4%)が最も高く、7割半ばとなっている。

(2) 団体などへの加入状況（全体／属性別）

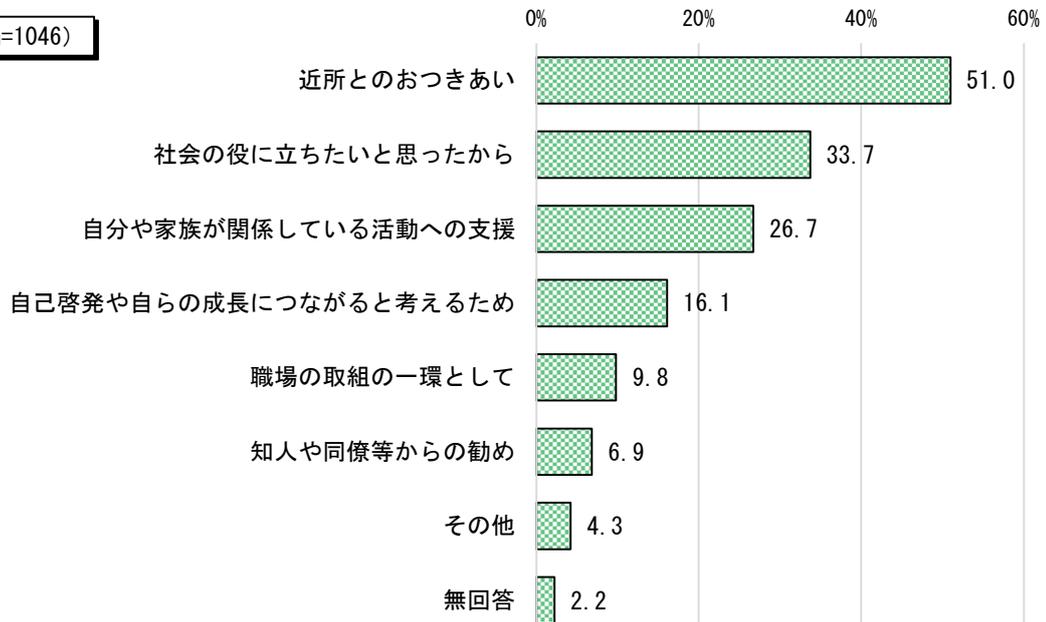
割合 (%)	町内会や集落などの地縁団体	その他の団体・組織	団体などに加入しなかった（個人で行った）	ボランティアを目的とするクラブ・サークル、団体など	NPO法人（特定非営利活動法人）	無回答
全体 (n=1046)	69.2	17.4	15.1	7.6	2.7	2.1
【性別】						
男性 (n=533)	74.2	20.7	11.5	7.5	2.7	1.2
女性 (n=513)	64.0	14.1	18.8	7.6	2.6	2.9
【年齢別】						
18～19歳 (n=18)	42.6	45.9	21.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=70)	40.4	25.5	27.8	6.4	0.0	0.0
30～39歳 (n=101)	63.7	11.8	22.5	7.7	3.6	0.9
40～49歳 (n=172)	64.8	22.6	17.0	7.0	3.0	0.1
50～59歳 (n=172)	71.7	22.9	14.6	6.6	4.2	0.0
60～69歳 (n=209)	75.8	13.9	12.1	7.7	2.1	0.9
70歳以上 (n=304)	75.6	12.2	10.5	9.0	2.5	6.3
【地域別】						
下越地域 (n=105)	73.2	21.1	12.3	7.7	4.9	2.5
新潟地域 (n=387)	63.5	15.2	18.1	8.7	2.3	2.1
中越地域 (n=304)	73.5	15.4	15.6	5.4	1.3	1.9
魚沼地域 (n=77)	75.4	16.7	11.6	8.7	0.6	1.5
上越地域 (n=147)	69.2	24.0	10.6	7.0	6.1	2.4
佐渡地域 (n=26)	67.8	25.8	9.6	16.1	1.9	3.8

(3) 社会活動（社会貢献）に参加した理由

（前問で社会活動（社会貢献）に参加したと回答した方への該当質問）

問 11-3 社会活動（社会貢献）に参加した理由は何ですか。（〇はいくつでも）

該当者（n=1046）



【全体結果】

過去1年間で社会活動（社会貢献）に参加したと回答した方に対して参加した理由を尋ねたところ、「近所とのおつきあい」（51.0%）が最も高く、約5割となっている。以下、「社会の役に立ちたいと思ったから」（33.7%）、「自分や家族が関係している活動への支援」（26.7%）が続いている。

【性別】

全体結果の上位3つの理由についてみると、「近所とのおつきあい」（男性 53.4%、女性 48.5%）は、男性の方が高くなっている。

「社会の役に立ちたいと思ったから」（男性 35.2%、女性 32.2%）と「自分や家族が関係している活動への支援」（男性 26.3%、女性 27.2%）の割合は、性別で大きな差はみられない。

【年齢別】

「近所とのおつきあい」の割合は、60歳以上（58.6%）が最も高くなっている。

【地域別】

「近所とのおつきあい」の割合は、中越地域（56.0%）が最も高くなっている。

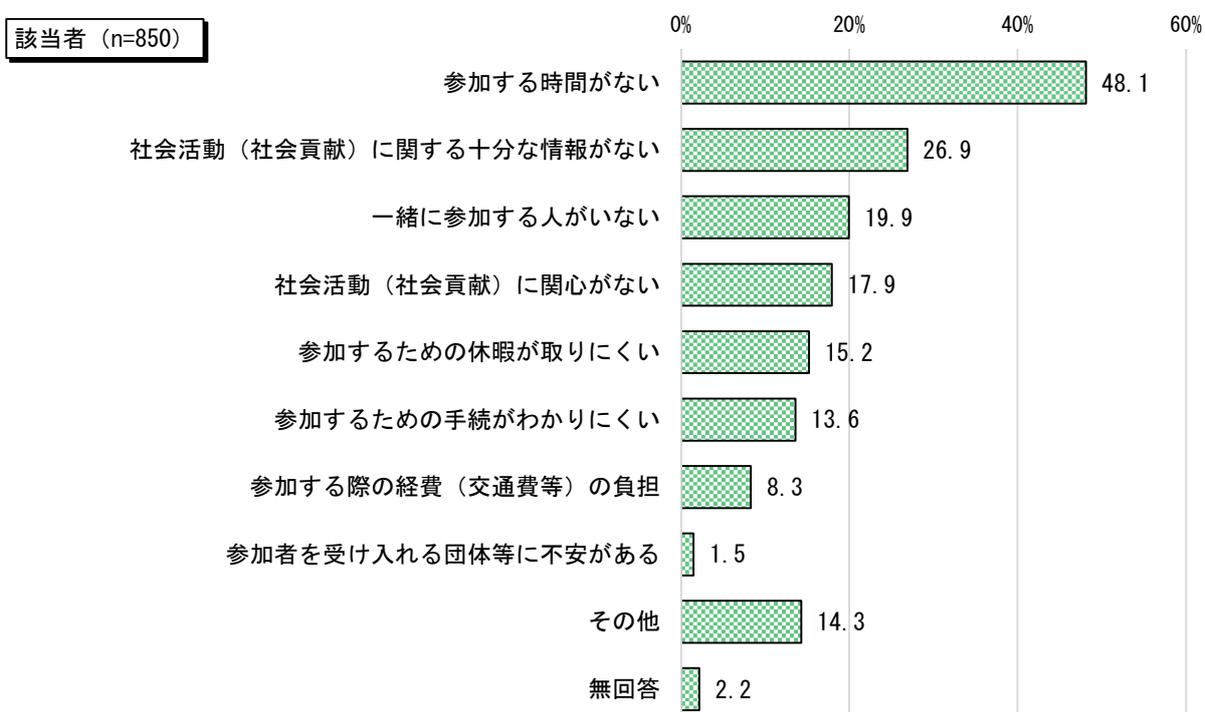
(3) 社会活動（社会貢献）に参加した理由（全体／属性別）

割合（％）	近所とのおつきあい	社会の役に立ちたいと思ったから	支援 自分や家族が関係している活動への	自己啓発や自らの成長につながるため	職場の取組の一環として	知人や同僚等からの勧め	その他	無回答
全体 (n=1046)	51.0	33.7	26.7	16.1	9.8	6.9	4.3	2.2
【性別】								
男性 (n=533)	53.4	35.2	26.3	15.3	10.8	7.1	5.2	1.4
女性 (n=513)	48.5	32.2	27.2	17.0	8.9	6.6	3.3	3.1
【年齢別】								
18～19歳 (n=18)	11.3	63.4	21.0	45.9	1.8	9.5	14.8	0.0
20～29歳 (n=70)	24.1	34.4	19.2	27.1	15.3	1.4	5.8	0.0
30～39歳 (n=101)	47.7	23.2	35.4	13.3	12.6	5.6	3.7	1.7
40～49歳 (n=172)	46.4	26.4	37.1	10.5	13.8	4.9	5.5	0.7
50～59歳 (n=172)	53.3	33.4	25.1	12.4	18.6	2.8	4.1	0.4
60～69歳 (n=209)	58.6	33.2	23.4	16.1	8.0	5.2	3.8	1.2
70歳以上 (n=304)	56.7	40.0	23.2	18.0	2.2	12.9	3.1	5.7
【地域別】								
下越地域 (n=105)	51.0	32.3	28.5	18.4	13.0	5.1	4.6	1.6
新潟地域 (n=387)	48.0	37.0	23.7	16.5	6.5	5.5	4.7	2.0
中越地域 (n=304)	56.0	32.4	28.6	12.4	9.2	8.2	3.8	2.2
魚沼地域 (n=77)	55.2	26.3	26.2	15.3	8.4	8.8	2.1	4.4
上越地域 (n=147)	47.4	33.8	28.2	21.2	16.8	7.9	4.9	2.2
佐渡地域 (n=26)	44.1	29.4	37.2	18.8	18.8	6.7	5.5	3.5

(4) 社会活動（社会貢献）に参加しなかった理由

(前問で「社会活動（社会貢献）に参加しなかった」と回答した方への該当質問)

問 11-4 社会活動（社会貢献）に参加しなかった理由は何ですか。(〇は3つまで)



【全体結果】

過去1年間で社会活動（社会貢献）に参加しなかったと回答した方にその理由を尋ねたところ、「参加する時間がない」（48.1%）の割合が特に高く、4割を超えている。以下、「社会活動（社会貢献）に関する十分な情報がない」（26.9%）、「一緒に参加する人がいない」（19.9%）と続いている。

【性別】

全体結果の上位3つの理由についてみると、「参加する時間がない」（男性 49.9%、女性 46.6%）は男性の方が高くなっている。一方、「一緒に参加する人がいない」（男性 17.5%、女性 21.9%）の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】

同じく全体結果の上位3つの理由についてみると、「参加する時間がない」の割合は30代（67.6%）で最も高くなっている。「社会活動（社会貢献）に関する十分な情報がない」の割合は60代（40.8%）で最も高くなっている。「一緒に参加する人がいない」は20代（29.9%）でそれぞれ高くなっている。

【地域別】

地域別による若干の差はあるが、該当者数が少ない地域もあるため図表のみとする。

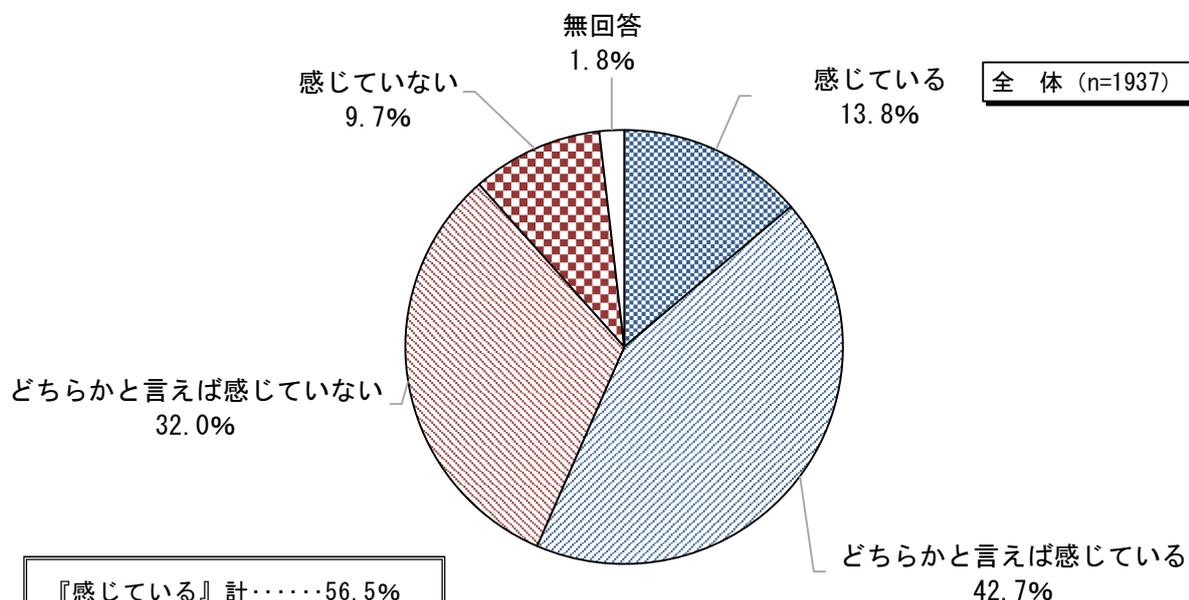
(4) 社会活動（社会貢献）に参加しなかった理由

割合 (%)	参加する時間がない	社会活動（社会貢献）に関する十分な情報が無い	一緒に参加する人がいない	社会活動（社会貢献）に関心がない	参加するための休暇が取りにくい	参加するための手続がわかりにくい	担参加する際の経費（交通費等）の負担	参加者を受け入れる団体等に不安がある	その他	無回答
全体 (n=850)	48.1	26.9	19.9	17.9	15.2	13.6	8.3	1.5	14.3	2.2
【性別】										
男性 (n=385)	49.9	25.8	17.5	17.6	18.4	11.2	9.1	1.0	15.5	1.4
女性 (n=465)	46.6	27.8	21.9	18.2	12.6	15.6	7.6	1.9	13.3	2.9
【年齢別】										
18～19歳 (n=22)	57.9	18.4	15.3	41.5	0.0	9.4	9.4	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=109)	58.6	34.5	29.9	18.5	19.5	9.9	9.0	0.0	5.8	0.0
30～39歳 (n=127)	67.6	16.2	10.1	26.4	21.5	10.2	9.7	1.0	6.9	0.0
40～49歳 (n=135)	61.7	21.1	23.0	17.3	24.4	5.4	9.6	0.5	8.4	1.5
50～59歳 (n=117)	64.1	31.9	16.2	16.3	25.1	15.6	6.6	0.2	2.7	1.5
60～69歳 (n=112)	41.1	40.8	28.5	16.1	10.3	25.4	10.1	4.2	8.9	2.0
70歳以上 (n=227)	18.5	24.0	17.0	12.7	2.9	15.7	6.3	2.5	36.0	5.5
【地域別】										
下越地域 (n=69)	45.9	22.9	15.2	24.2	10.1	10.5	7.1	1.0	14.5	4.3
新潟地域 (n=371)	49.7	32.4	21.5	16.1	18.1	15.2	6.8	1.3	11.6	1.5
中越地域 (n=256)	49.3	24.7	20.6	19.3	13.9	11.7	12.8	1.7	15.0	2.1
魚沼地域 (n=59)	44.6	17.6	10.5	14.1	15.3	14.6	2.2	3.1	18.5	1.4
上越地域 (n=76)	44.0	20.6	23.2	17.4	9.5	13.2	6.2	0.0	19.6	4.4
佐渡地域 (n=19)	36.4	18.2	14.6	25.3	16.0	16.5	9.0	3.7	22.8	1.9

1 2. 魅力的な生活環境の創出に向けたまちづくりについて

(1) 居住市区町村の魅力

問 12-1 あなたは、現在お住まいのまち（市区町村）は魅力的だと感じていますか。
（○は1つだけ）



【全体結果】

現在お住まいのまち（市町村）について、魅力的だと「感じている」と「どちらかと言えば感じている」を合計した『感じている』計の割合は 56.5%となり、5割半ばを占めている。

一方、「感じていない」と「どちらかと言えば感じていない」を合計した『感じていない』計は 41.7%で4割強を占めている。

【性別】

『感じている』計（男性 59.7%、女性 53.6%）の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

『感じている』計の割合は、10代（79.4%）が最も高くなっている。

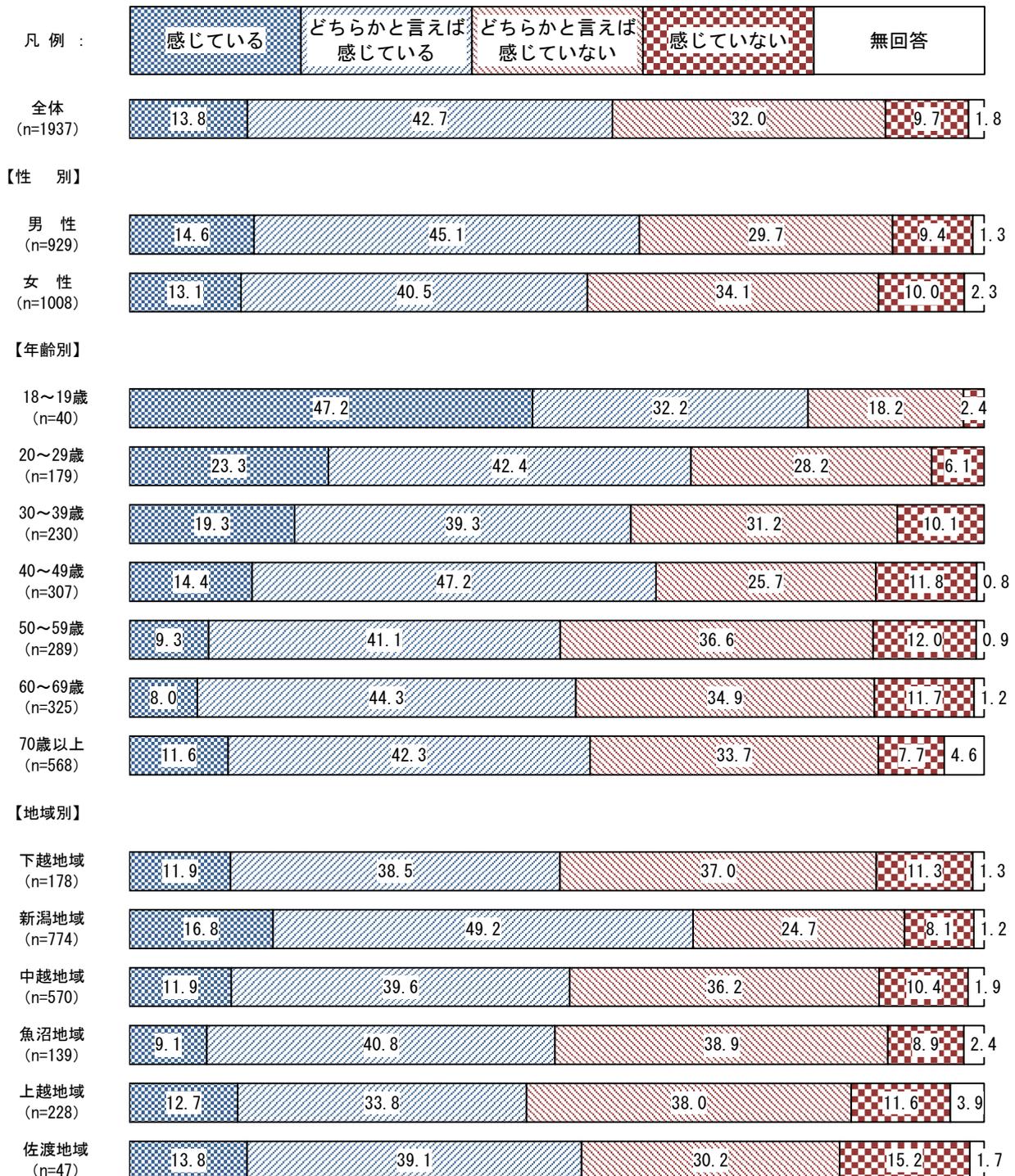
【地域別】

『感じている』計の割合は、新潟地域（66.0%）が最も高くなっている。

	『感じて いる』計	『感じて いない』計
全体 (n=1937)	56.5%	41.7%
【性別】		
男性 (n=929)	59.7%	39.0%
女性 (n=1008)	53.6%	44.1%
【年齢別】		
18～19歳 (n=40)	79.4%	20.6%
20～29歳 (n=179)	65.7%	34.3%
30～39歳 (n=230)	58.7%	41.3%
40～49歳 (n=307)	61.6%	37.5%
50～59歳 (n=289)	50.4%	48.7%
60～69歳 (n=325)	52.2%	46.6%
70歳以上 (n=568)	53.9%	41.5%

	『感じて いる』計	『感じて いない』計
【地域別】		
下越地域 (n=178)	50.4%	48.3%
新潟地域 (n=774)	66.0%	32.8%
中越地域 (n=570)	51.5%	46.6%
魚沼地域 (n=139)	49.8%	47.8%
上越地域 (n=228)	46.5%	49.6%
佐渡地域 (n=47)	52.9%	45.4%

(1) 居住市区町村の魅力 (全体／属性別)

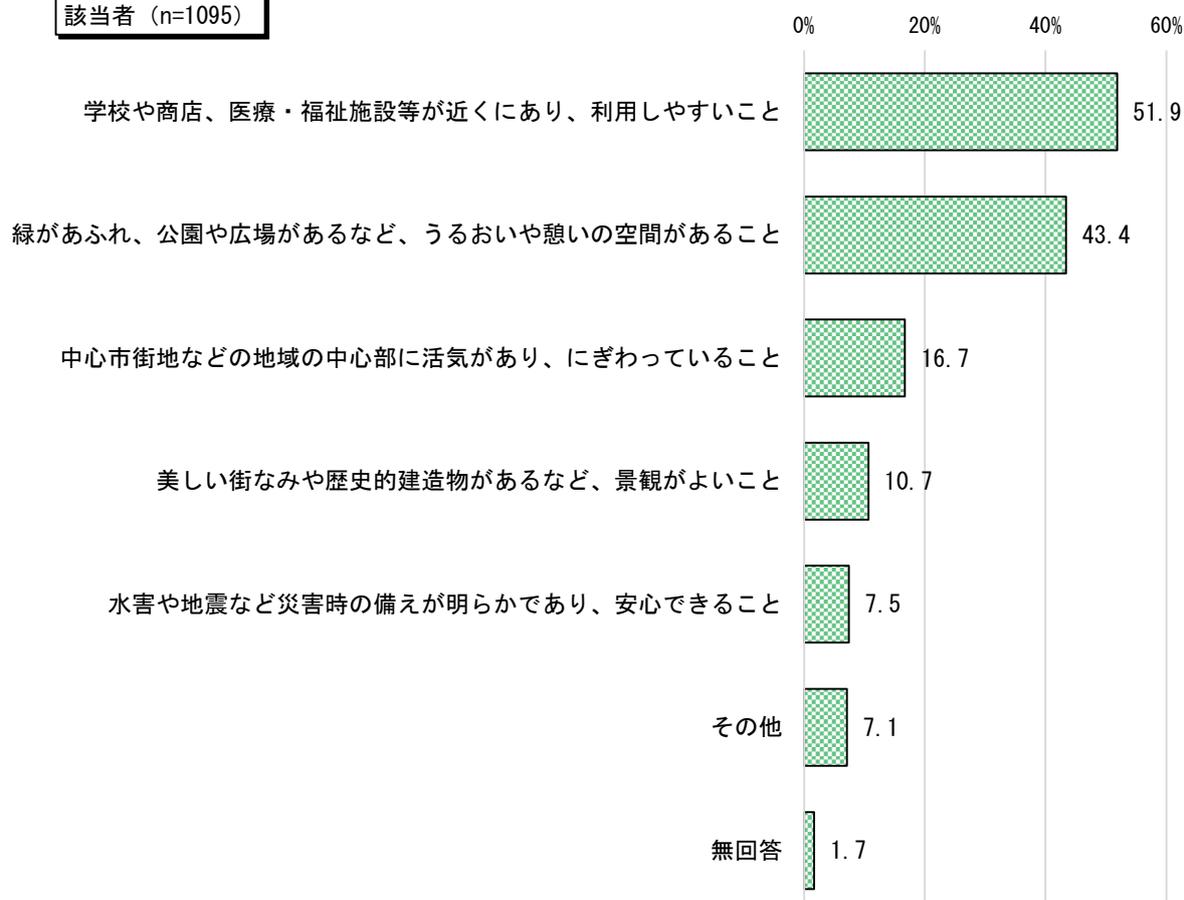


(2) 居住市町村の魅力を感じるどころ

(問 12-1 で 1・2 に○をつけた方だけにお聞きします。)

問 12-2 あなたは、現在お住まいのまち(市区町村)の魅力をどんなところで感じますか。(○は2つまで)

該当者 (n=1095)



【全体結果】

「学校や商店、医療・福祉施設等が近くにあり、利用しやすいこと」(51.9%)の割合が最も高く5割を超えた。以下「緑があふれ、公園や広場があるなど、うるおいや憩いの空間があること」(43.4%)、「中心市街地などの地域の中心部に活気があり、にぎわっていること」(16.7%)と続いている。

【性別】

「学校や商店、医療・福祉施設等が近くにあり、利用しやすいこと」(男性 49.5%、女性 54.3%)の割合は、男性の方が高くなっている。「緑があふれ、公園や広場があるなど、うるおいや憩いの空間があること」(男性 45.0%、女性 41.8%)の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】

「学校や商店、医療・福祉施設等が近くにあり、利用しやすいこと」は60代(60.2%)が、「緑があふれ、公園や広場があるなど、うるおいや憩いの空間があること」は40代(46.4%)が最も高くなっている。

【地域別】

「学校や商店、医療・福祉施設等が近くにあり、利用しやすいこと」は新潟地域

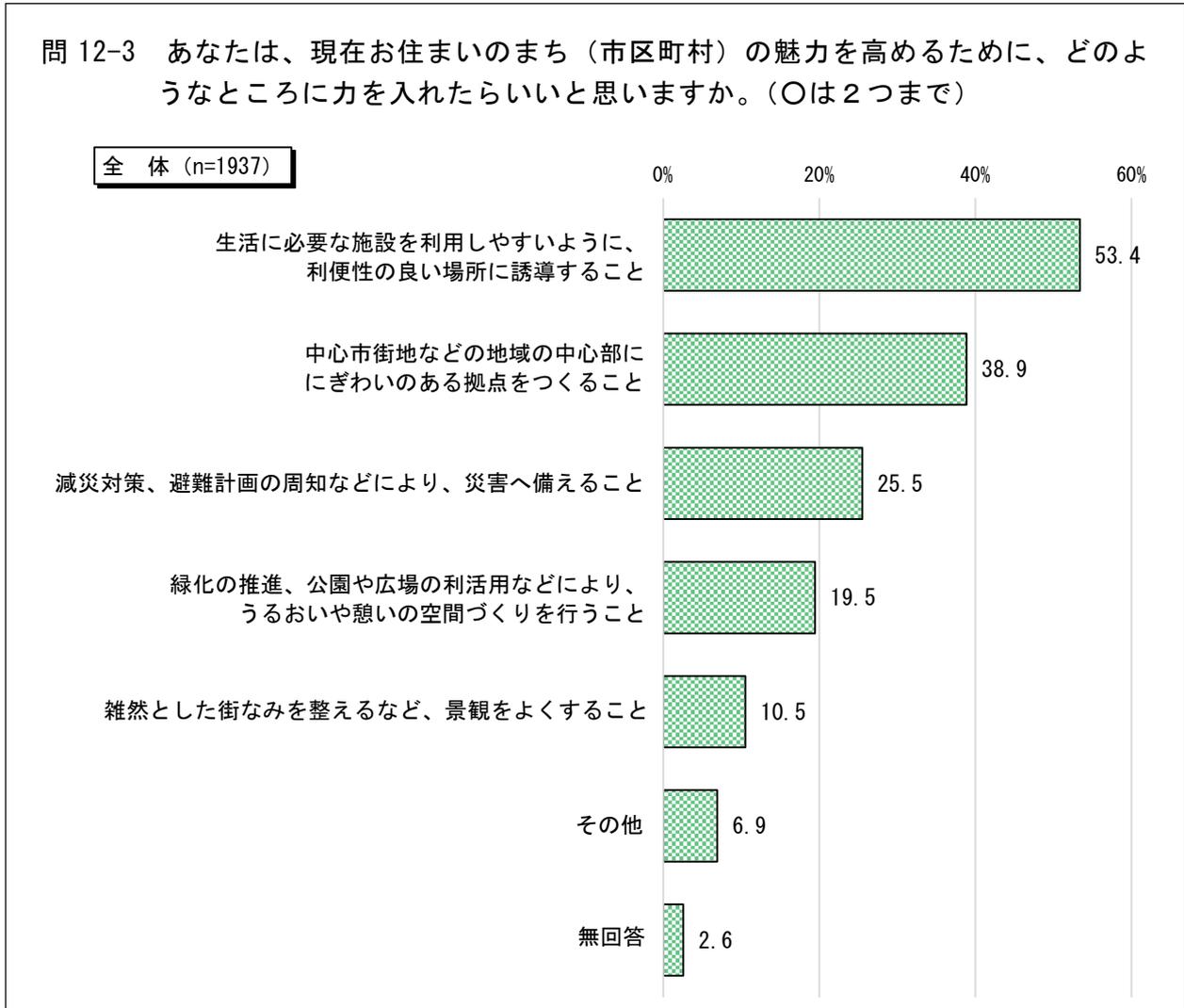
(59.1%) が、「緑があふれ、公園や広場があるなど、うるおいや憩いの空間があること」は上越地域 (58.5%) が最も高くなっている。

(2) 居住市町村の魅力を感じる場所 (全体/属性別)

割合 (%)	学校や商店、利用しやすきこと	緑があふれ、公園や広場があること	中心市街地などの地域の中心部に活気があり、にぎわっていること	美しい街なみや歴史的建造物があること	水害や地震など災害時の備えが明らかであり、安心できること	その他	無回答
全体 (n=1095)	51.9	43.4	16.7	10.7	7.5	7.1	1.7
【性別】							
男性 (n=554)	49.5	45.0	16.5	12.5	7.9	8.6	1.8
女性 (n=540)	54.3	41.8	16.9	8.9	7.0	5.6	1.5
【年齢別】							
18～19歳 (n=32)	29.9	33.9	27.7	15.9	14.0	13.1	0.0
20～29歳 (n=117)	37.3	44.0	27.8	17.1	0.4	6.1	0.0
30～39歳 (n=135)	57.6	43.4	24.2	8.3	3.9	6.7	2.4
40～49歳 (n=189)	51.6	46.4	18.0	9.8	3.2	7.3	0.7
50～59歳 (n=146)	45.5	39.9	12.0	16.8	4.3	12.9	0.0
60～69歳 (n=170)	60.2	43.4	15.3	6.6	6.7	7.2	2.2
70歳以上 (n=306)	55.8	44.0	10.1	8.6	15.6	4.1	3.3
【地域別】							
下越地域 (n=90)	47.4	52.0	4.1	16.6	13.3	7.9	1.8
新潟地域 (n=511)	59.1	37.3	20.9	8.3	4.9	5.5	1.1
中越地域 (n=294)	50.0	44.1	20.1	10.2	8.0	7.0	2.2
魚沼地域 (n=69)	31.4	50.8	5.8	12.5	13.6	13.8	5.1
上越地域 (n=106)	42.9	58.5	7.2	12.9	8.8	9.7	0.0
佐渡地域 (n=25)	38.5	45.3	7.6	29.2	8.9	9.5	5.3

(3) 居住市町村の魅力を高めるために力を入れるべきこと

問 12-3 あなたは、現在お住まいのまち（市区町村）の魅力を高めるために、どのよ
うなところに力を入れたらいいと思いますか。（○は2つまで）



【全体結果】

「生活に必要な施設を利用しやすいように、利便性の良い場所に誘導すること」（53.4%）が5割半ばで最も割合が高くなっている。以下「中心市街地などの地域の中心部ににぎわいのある拠点をつくること」（38.9%）、「減災対策、避難計画の周知などにより、災害へ備えること」（25.5%）、「緑化の推進、公園や広場の利活用などにより、うるおいや憩いの空間づくりを行うこと」（19.5%）と続いている。

【性別】

「生活に必要な施設を利用しやすいように、利便性の良い場所に誘導すること」（男性 50.9%、女性 55.7%）の割合は女性の方が高くなっている。「中心市街地などの地域の中心部ににぎわいのある拠点をつくること」（男性 41.2%、女性 36.8%）の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

「生活に必要な施設を利用しやすいように、利便性の良い場所に誘導すること」の割合は、60代（56.5%）が最も高くなっている。「中心市街地などの地域の中心部ににぎわいのある拠点をつくること」の割合は、20代（57.7%）が最も高くなっている。

【地域別】

「生活に必要な施設を利用しやすいように、利便性の良い場所に誘導すること」の割合は、魚沼地域（57.0%）が最も高くなっている。「中心市街地などの地域の中心部ににぎわいのある拠点をつくること」の割合は、上越地域（46.1%）が最も高くなっている。

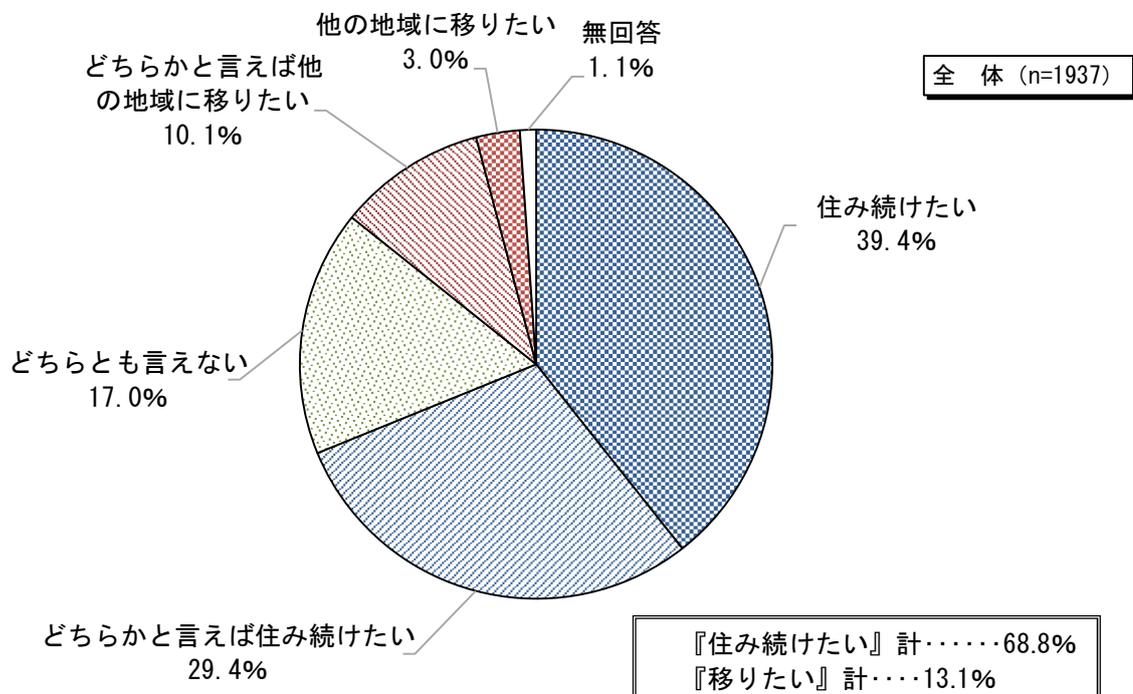
（3）居住市町村の魅力を高めるために力を入れるべきこと（全体／属性別）

割合（%）	生活に必要な施設の場所以誘導しやすい	中心市街地などの地域の中心部に	減災対策、避難計画の周知などによ	緑化の推進、公園や憩いの利活用な	雑然とした街なみを整えるなど、景	その他	無回答
全体 (n=1937)	53.4	38.9	25.5	19.5	10.5	6.9	2.6
【性別】							
男性 (n=929)	50.9	41.2	23.7	20.2	11.4	7.8	2.0
女性 (n=1008)	55.7	36.8	27.2	18.8	9.7	6.1	3.1
【年齢別】							
18～19歳 (n=40)	38.6	51.7	21.7	17.8	16.4	8.9	0.0
20～29歳 (n=179)	55.2	57.7	10.7	15.9	9.8	8.2	0.3
30～39歳 (n=230)	55.1	46.4	21.1	18.5	9.7	11.9	0.0
40～49歳 (n=307)	54.5	42.7	20.9	21.1	12.1	7.3	1.8
50～59歳 (n=289)	56.4	41.6	23.7	15.4	8.6	6.6	1.2
60～69歳 (n=325)	56.5	31.5	30.2	21.9	10.5	5.5	2.9
70歳以上 (n=568)	49.3	29.8	33.0	20.9	10.8	5.2	5.5
【地域別】							
下越地域 (n=178)	54.3	37.2	20.3	20.8	12.0	9.9	3.3
新潟地域 (n=774)	51.1	37.4	25.9	21.0	11.6	8.1	1.3
中越地域 (n=570)	55.2	39.7	28.0	18.9	9.3	5.6	2.9
魚沼地域 (n=139)	57.0	34.2	20.9	16.8	6.9	7.6	3.2
上越地域 (n=228)	55.9	46.1	24.5	15.4	10.3	3.7	4.9
佐渡地域 (n=47)	43.8	38.0	26.9	24.7	13.5	6.1	3.9

13. 定住意向について

(1) 現居住地域への定住意向

問 13-1 あなたは、現在住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

現在住んでいる地域に「住み続けたい」と「どちらかと言えば住み続けたい」を合計した『住み続けたい』計は68.8%となり、約7割を占めている。

一方、「他の地域に移りたい」と「どちらかと言えば他の地域に移りたい」を合計した『移りたい』計は1割強(13.1%)となっている。

【性別】

『住み続けたい』計の割合(男性70.7%、女性67.1%)は、女性より男性の方が高くなっている。

【年齢別】

『住み続けたい』計の割合は、70歳以上(80.4%)が最も高くなっている。

【地域別】

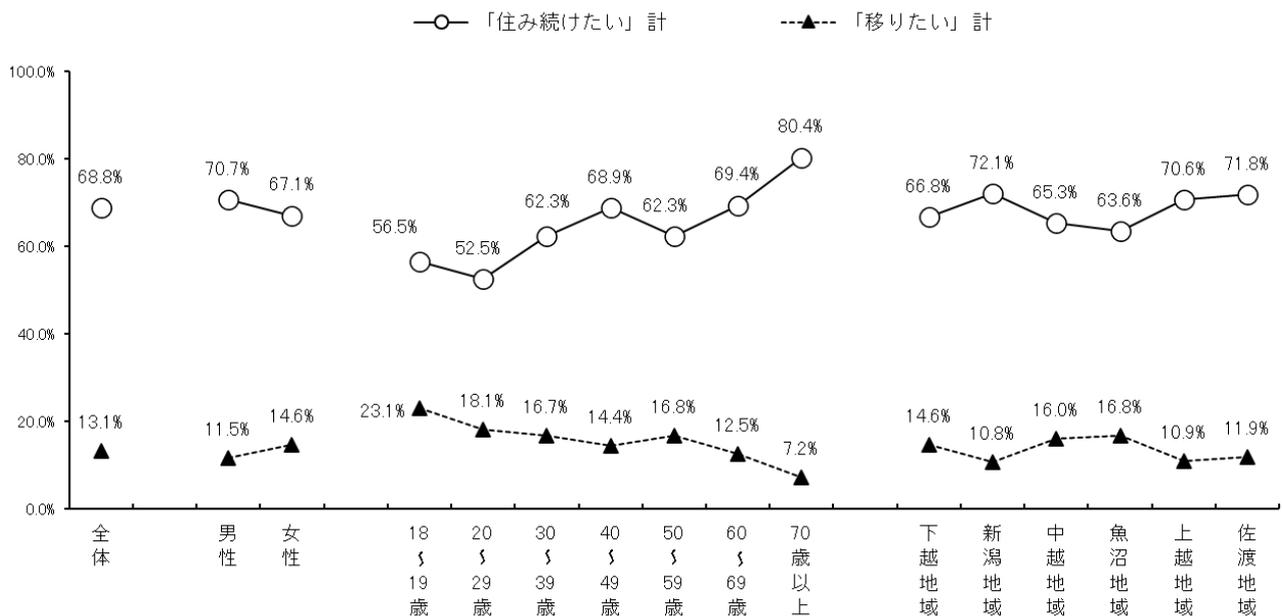
『住み続けたい』計の割合は、新潟地域(72.1%)が最も高くなっている。

(1) 現居住地への定住意向（全体/属性別）

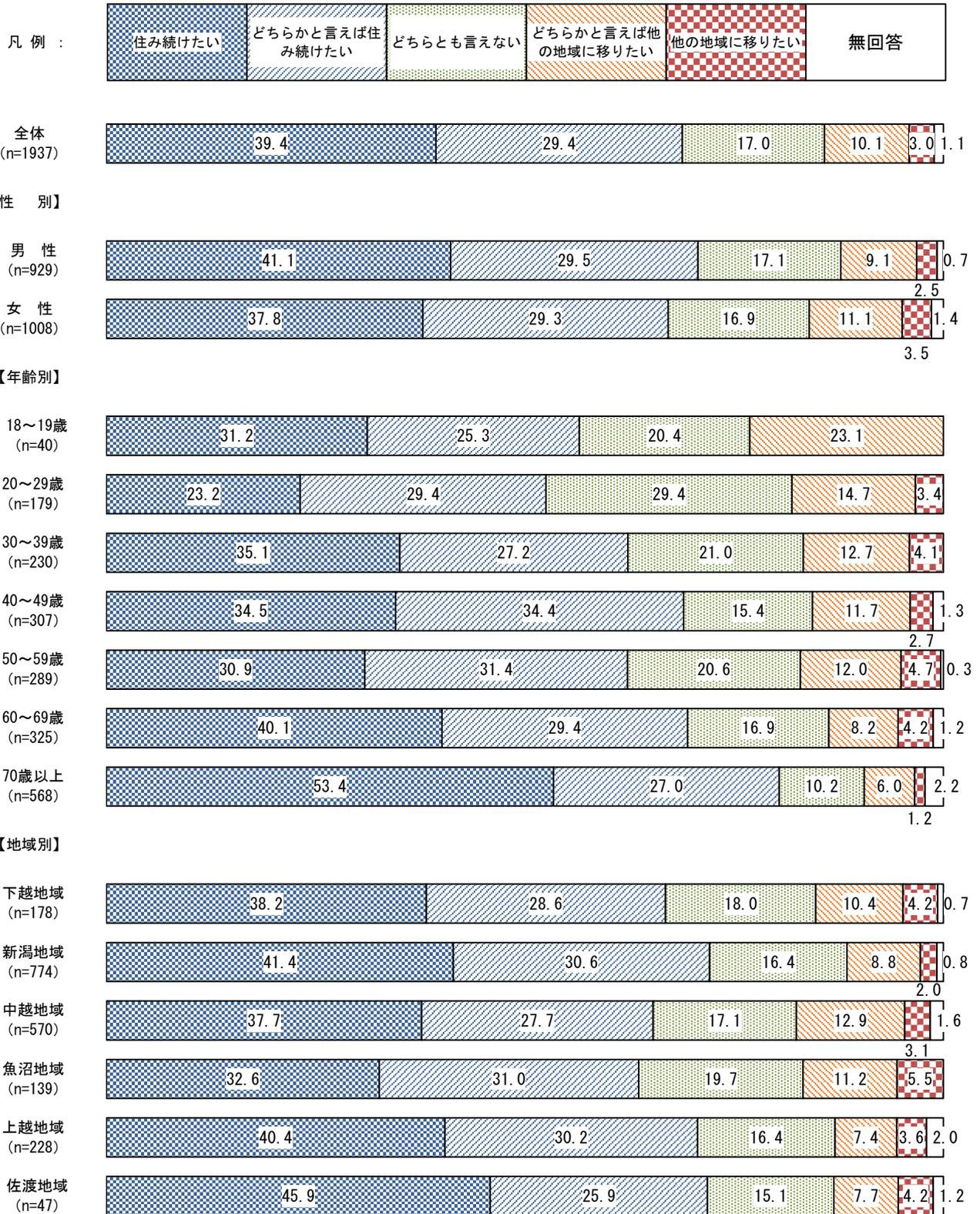
	『住み続けたい』計	『移りたい』計		『住み続けたい』計	『移りたい』計	
全体 (n=1937)	68.8%	13.1%	【地域別】	下越地域 (n=178)	66.8%	14.6%
【性別】 男性 (n=929)	70.7%	11.5%		新潟地域 (n=774)	72.1%	10.8%
女性 (n=1008)	67.1%	14.6%		中越地域 (n=570)	65.3%	16.0%
【年齢別】 18～19歳 (n=40)	56.5%	23.1%		魚沼地域 (n=139)	63.6%	16.8%
20～29歳 (n=179)	52.5%	18.1%		上越地域 (n=228)	70.6%	10.9%
30～39歳 (n=230)	62.3%	16.7%		佐渡地域 (n=47)	71.8%	11.9%
40～49歳 (n=307)	68.9%	14.4%				
50～59歳 (n=289)	62.3%	16.8%				
60～69歳 (n=325)	69.4%	12.5%				
70歳以上 (n=568)	80.4%	7.2%				

【全体結果】

「住み続けたい」計と「移りたい」計の割合

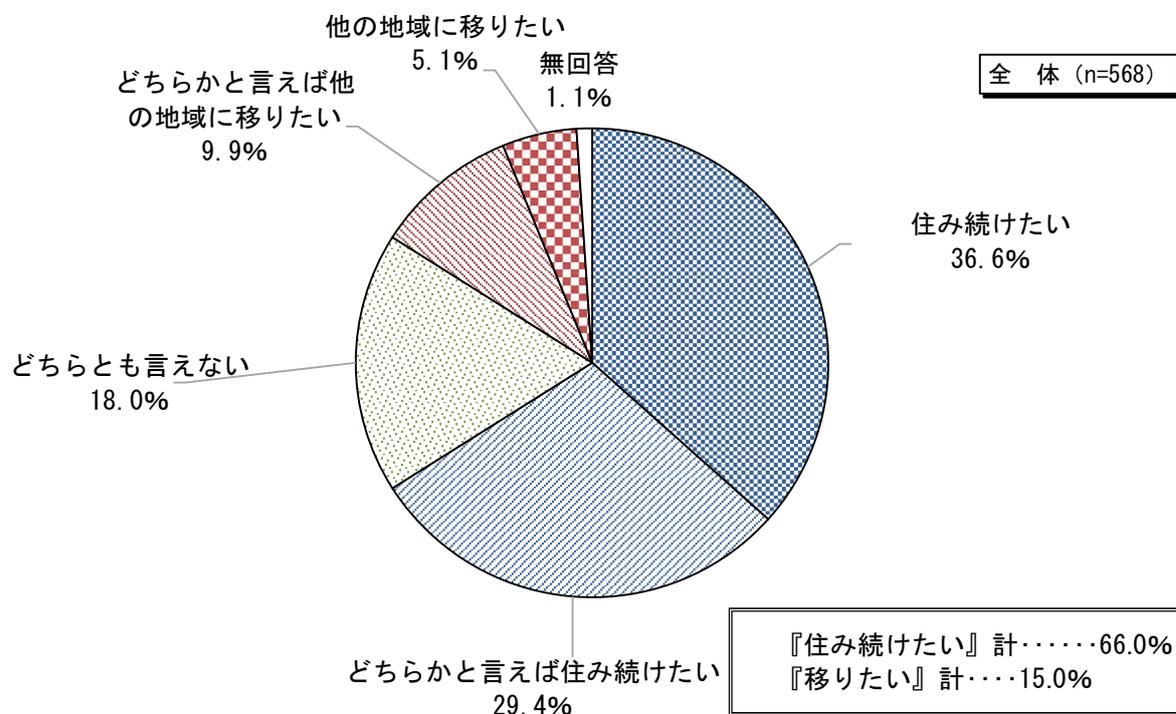


(1) 現居住地への定住意向 (全体/属性別)



(2) 現居住地への定住意向 (条件不利地域)

(条件不利地域※に居住する回答者について集計 (集計ウェイトによる規正なし))
問 13-1 あなたは、現在住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。
(○は1つだけ)



※条件不利地域とは、「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」に基づく過疎地域を指しています。

【全体結果】

条件不利地域に居住する回答者に定住意向を尋ねたところ、現在住んでいる地域に「住み続けたい」と「どちらかと言えば住み続けたい」を合計した『住み続けたい』計は66.0%となり、6割台半ばを占めている。

一方、「他の地域に移りたい」と「どちらかと言えば他の地域に移りたい」を合計した『移りたい』計は1割台半ば(15.0%)となっている。

【性別】

『住み続けたい』計の割合(男性69.2%、女性63.3%)は、男性で高くなっている。

【年齢別】

『住み続けたい』計の割合は、70歳以上(77.3%)で最も高くなっている。

【地域別】

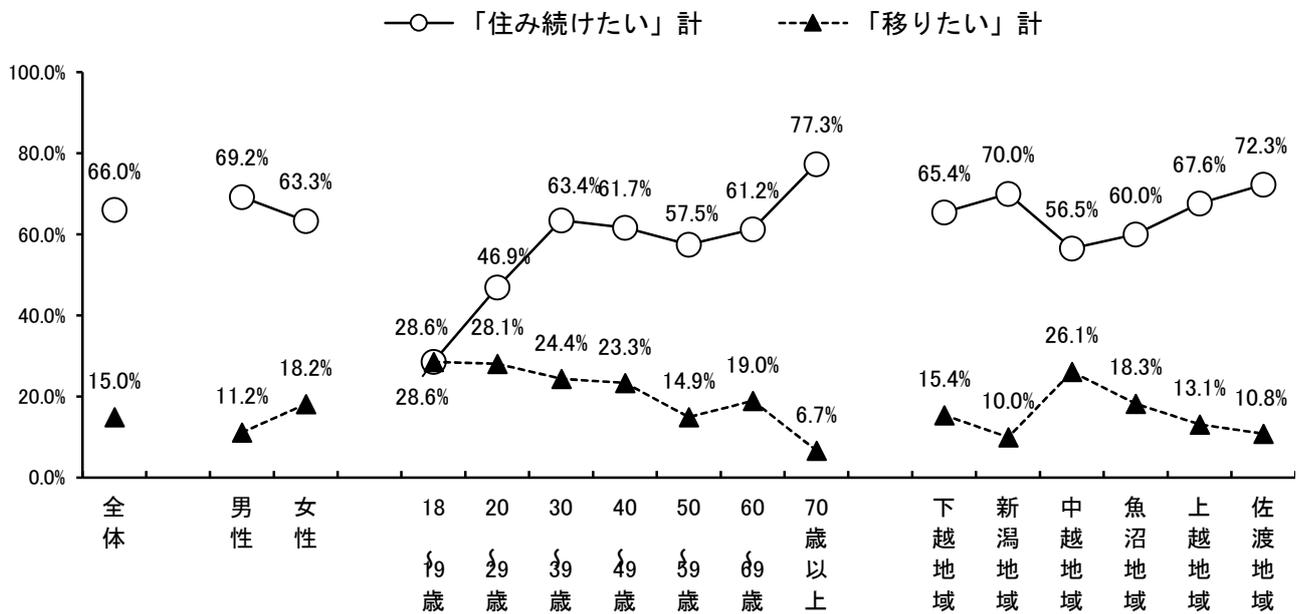
『住み続けたい』計の割合は、佐渡地域(72.3%)で最も高くなっている。

(2) 現居住地への定住意向（条件不利地域）（全体/属性別）

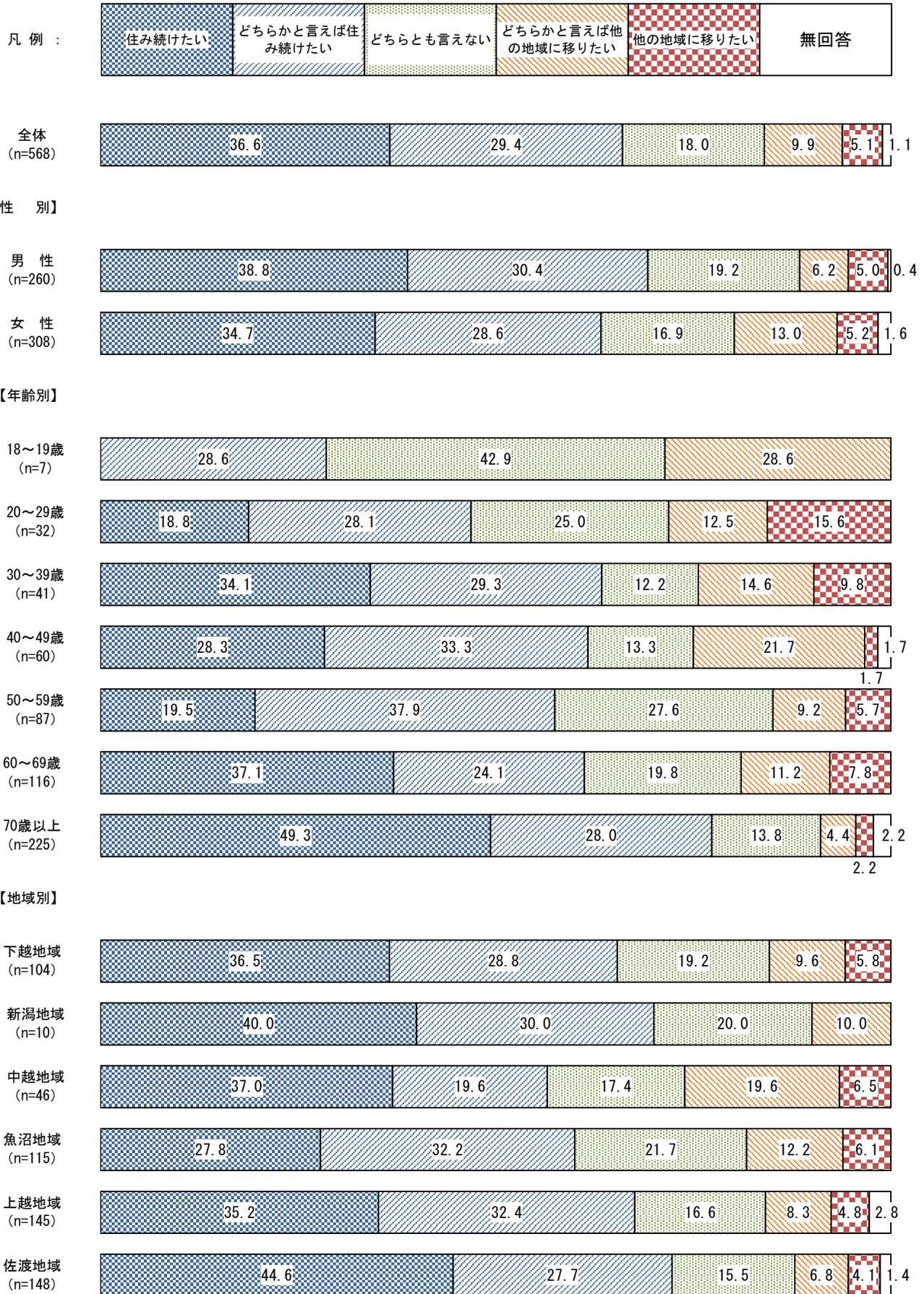
	『住み続けたい』計	『移りたい』計		『住み続けたい』計	『移りたい』計
全体 (n=568)	66.0%	15.0%	【地域別】 下越地域 (n=104)	65.4%	15.4%
【性別】 男性 (n=260)	69.2%	11.2%	新潟地域 (n=10)	70.0%	10.0%
女性 (n=308)	63.3%	18.2%	中越地域 (n=46)	56.5%	26.1%
【年齢別】 18～19歳 (n=7)	28.6%	28.6%	魚沼地域 (n=115)	60.0%	18.3%
20～29歳 (n=32)	46.9%	28.1%	上越地域 (n=145)	67.6%	13.1%
30～39歳 (n=41)	63.4%	24.4%	佐渡地域 (n=148)	72.3%	10.8%
40～49歳 (n=60)	61.7%	23.3%			
50～59歳 (n=87)	57.5%	14.9%			
60～69歳 (n=116)	61.2%	19.0%			
70歳以上 (n=225)	77.3%	6.7%			

【全体結果】

「住み続けたい」計と「移りたい」計の割合



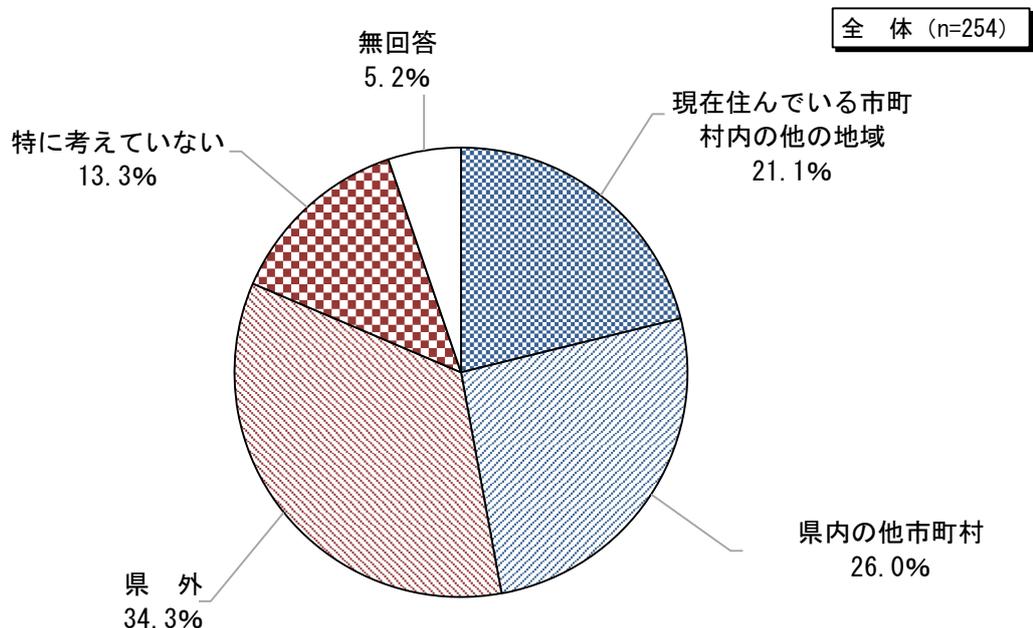
(2) 現居住地への定住意向 (条件不利地域) (全体/属性別)



(3) 移りたい地域

(前問で「どちらかと言えば他の地域に移りたい」「他の地域に移りたい」と回答した方への該当質問)

問 13-2 移りたいと思う地域はどこですか。(○は1つだけ)



【全体結果】

現居住地への定住意向について、「どちらかと言えば他の地域に移りたい」または「他の地域に移りたい」と回答した方に移りたい地域を尋ねたところ、「県外」が 34.3% と最も高くなっている。以下、「県内の他市町村」(26.0%)、「現在住んでいる市町村内の他の地域」(21.1%) などと続いている。

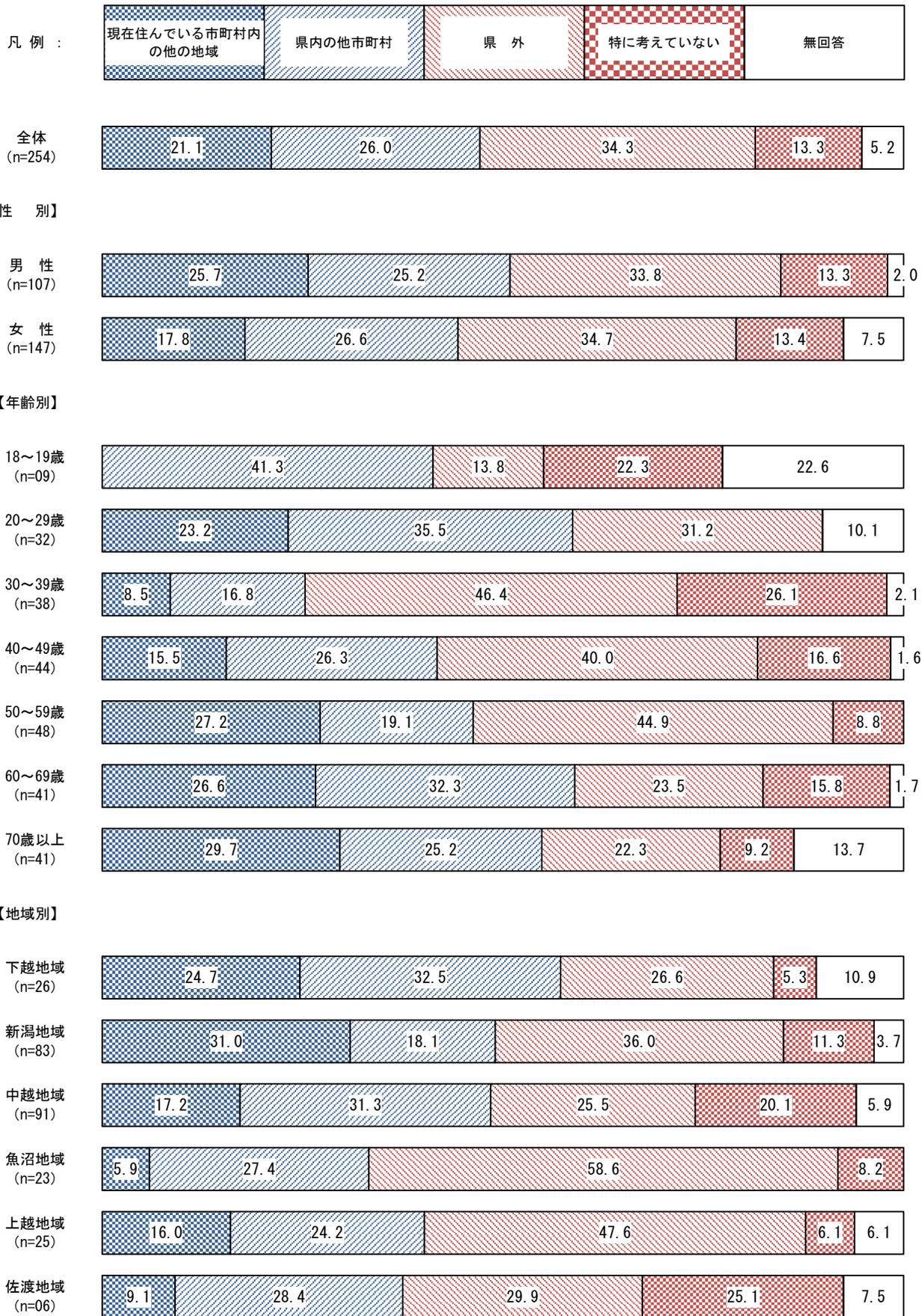
【性別】

「現在住んでいる市町村内の他の地域」(男性 25.7%、女性 17.8%) の割合では、男性の方が高くなっている。

【年齢別】【地域別】

各区分の該当者数が少ないため、図表のみの掲載とする。

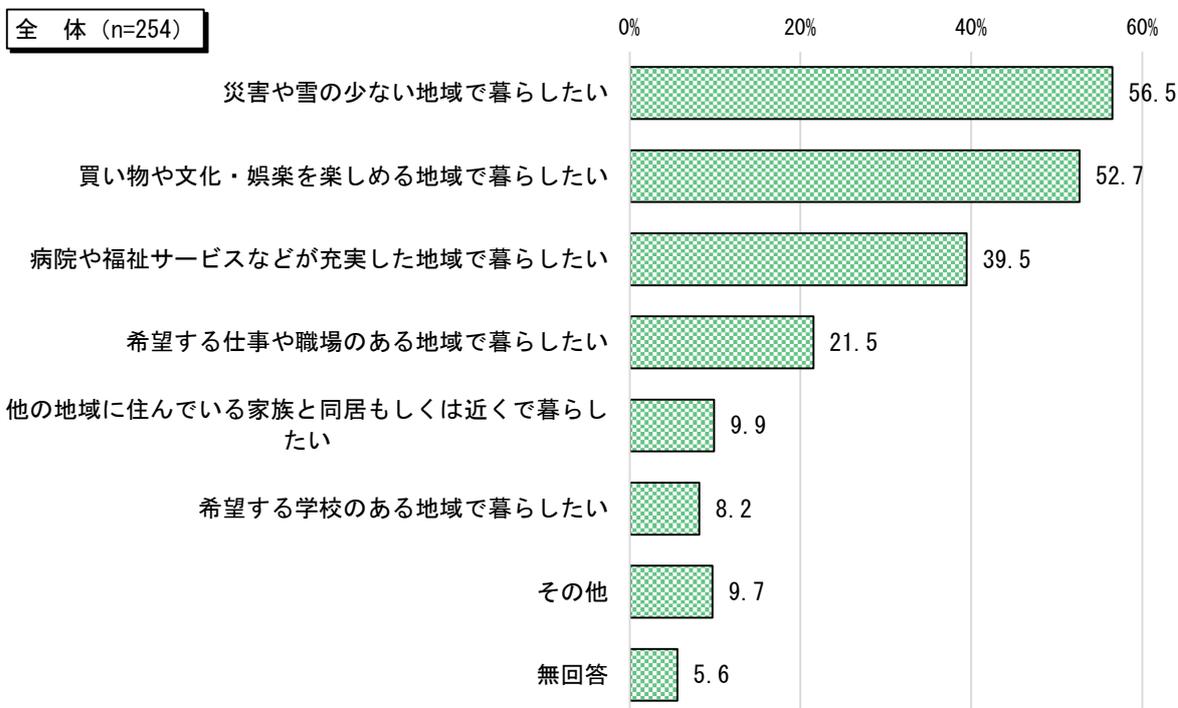
(3) 移りたい地域 (全体/属性別)



(4) 移りたい理由

(前問で「どちらかと言えば他の地域に移りたい」「他の地域に移りたい」と回答した方への該当質問)

問 13-3 移りたいと思う理由は何ですか。(〇は3つまで)



【全体結果】

現居住地域への定住意向について、「どちらかと言えば他の地域に移りたい」または「他の地域に移りたい」と回答した方に移りたい理由を尋ねたところ、「災害や雪の少ない地域で暮らしたい」(56.5%)の割合が高く、5割半ばを占めている。以下、「買い物や文化・娯楽を楽しめる地域で暮らしたい」(52.7%)、「病院や福祉サービスなどが充実した地域で暮らしたい」(39.5%)と続いている。

【性別】

全体結果の上位3つの理由についてみると、「災害や雪の少ない地域で暮らしたい」(男性61.5%、女性52.9%)の割合は男性の方が高くなっている。一方、「買い物や文化・娯楽を楽しめる地域で暮らしたい」(男性44.8%、女性58.4%)「病院や福祉サービスなどが充実した地域で暮らしたい」(男性32.4%、女性44.6%)の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】【地域別】

各区分の該当者数が少ないため、図表のみの掲載とする。

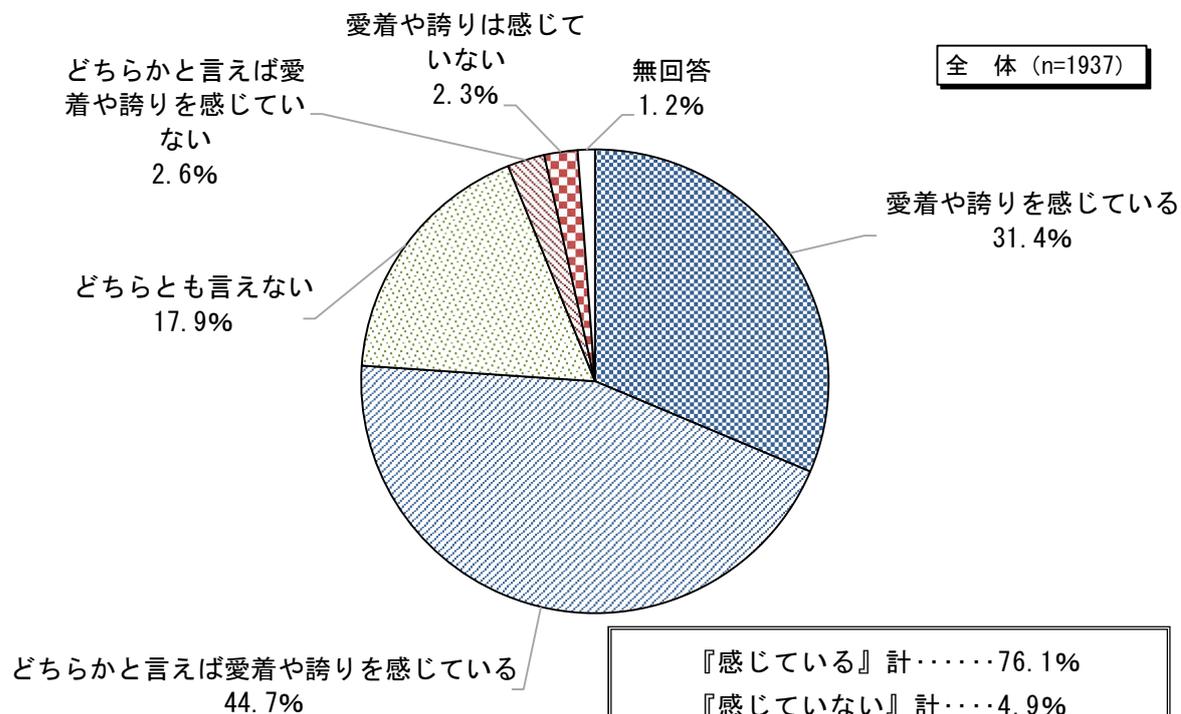
(4) 移りたい理由 (全体/属性別)

割合 (%)	災害や雪の少ない地域で暮らしたい	買い物や文化・娯楽を楽しめる地域で暮らしたい	病院や福祉サービスなどが充実した地域で暮らしたい	希望する仕事や職場のある地域で暮らしたい	他の地域に住んでいる家族と同居もしくは近くで暮らしたい	希望する学校のある地域で暮らしたい	その他	無回答
全体 (n=254)	56.5	52.7	39.5	21.5	9.9	8.2	9.7	5.6
【性別】								
男性 (n=107)	61.5	44.8	32.4	18.5	9.6	4.5	9.6	6.5
女性 (n=147)	52.9	58.4	44.6	23.7	10.1	10.9	9.8	5.0
【年齢別】								
18~19歳 (n=09)	38.7	63.9	0.0	83.6	0.0	41.1	0.0	0.0
20~29歳 (n=32)	44.9	70.0	10.7	47.5	6.5	4.7	1.0	8.3
30~39歳 (n=38)	50.5	56.9	49.3	31.6	7.9	13.8	11.4	0.0
40~49歳 (n=44)	65.2	56.9	41.3	16.0	16.6	15.8	21.0	2.9
50~59歳 (n=48)	65.8	50.3	35.0	12.4	8.2	4.4	9.7	7.6
60~69歳 (n=41)	51.5	54.0	48.1	7.8	12.1	2.6	7.2	13.6
70歳以上 (n=41)	59.9	29.5	56.6	7.8	9.1	0.0	7.6	2.8
【地域別】								
下越地域 (n=26)	35.2	43.3	44.5	8.1	19.6	7.0	10.6	19.3
新潟地域 (n=83)	53.4	52.1	39.3	27.3	8.6	9.4	8.5	1.5
中越地域 (n=91)	62.0	58.5	36.3	25.3	7.1	9.2	9.3	4.7
魚沼地域 (n=23)	71.9	35.7	39.5	13.7	19.1	5.5	11.0	4.0
上越地域 (n=25)	62.5	56.9	42.2	9.4	5.4	6.1	8.2	9.7
佐渡地域 (n=06)	20.9	62.4	57.8	23.3	10.3	0.0	31.8	6.6

(5) 新潟県への愛着や誇り

問 13-4 あなたは、新潟県に愛着や誇りを感じていますか。

(○は1つだけ)



【全体結果】

「愛着や誇りを感じている」と「どちらかと言えば愛着や誇りを感じている」を合計した『感じている』計は76.1%となり、7割台半ばを占めている。

一方、「どちらかと言えば愛着や誇りを感じていない」と「愛着や誇りを感じていない」を合計した『感じていない』計は4.9%にとどまっている。

【性別】

『感じている』計（男性 75.7%、女性 76.4%）の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】

『感じている』計の割合は、20代（80.0%）が最も高くなっている。

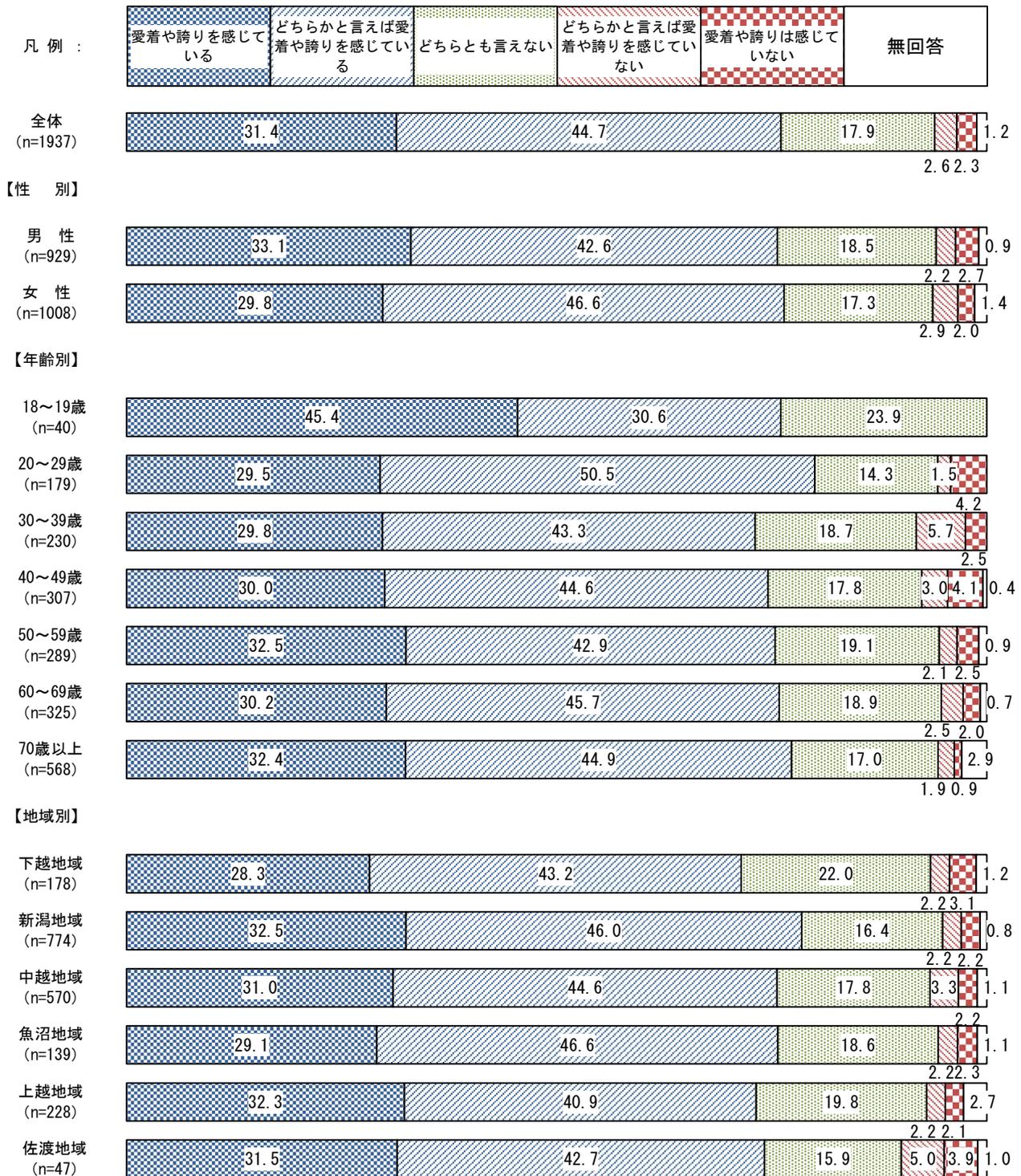
【地域別】

『感じている』計の割合は、新潟地域（78.5%）が最も高くなっている。

(5) 新潟県への愛着や誇り（全体/属性別）

	『感じて いる』計	『感じて いない』計
全体 (n=1937)	76.1%	4.9%
【性別】 男性 (n=929)	75.7%	4.9%
女性 (n=1008)	76.4%	4.9%
【年齢別】 18～19歳 (n=40)	76.1%	0.0%
20～29歳 (n=179)	80.0%	5.7%
30～39歳 (n=230)	73.1%	8.2%
40～49歳 (n=307)	74.6%	7.1%
50～59歳 (n=289)	75.4%	4.6%
60～69歳 (n=325)	75.9%	4.5%
70歳以上 (n=568)	77.3%	2.8%

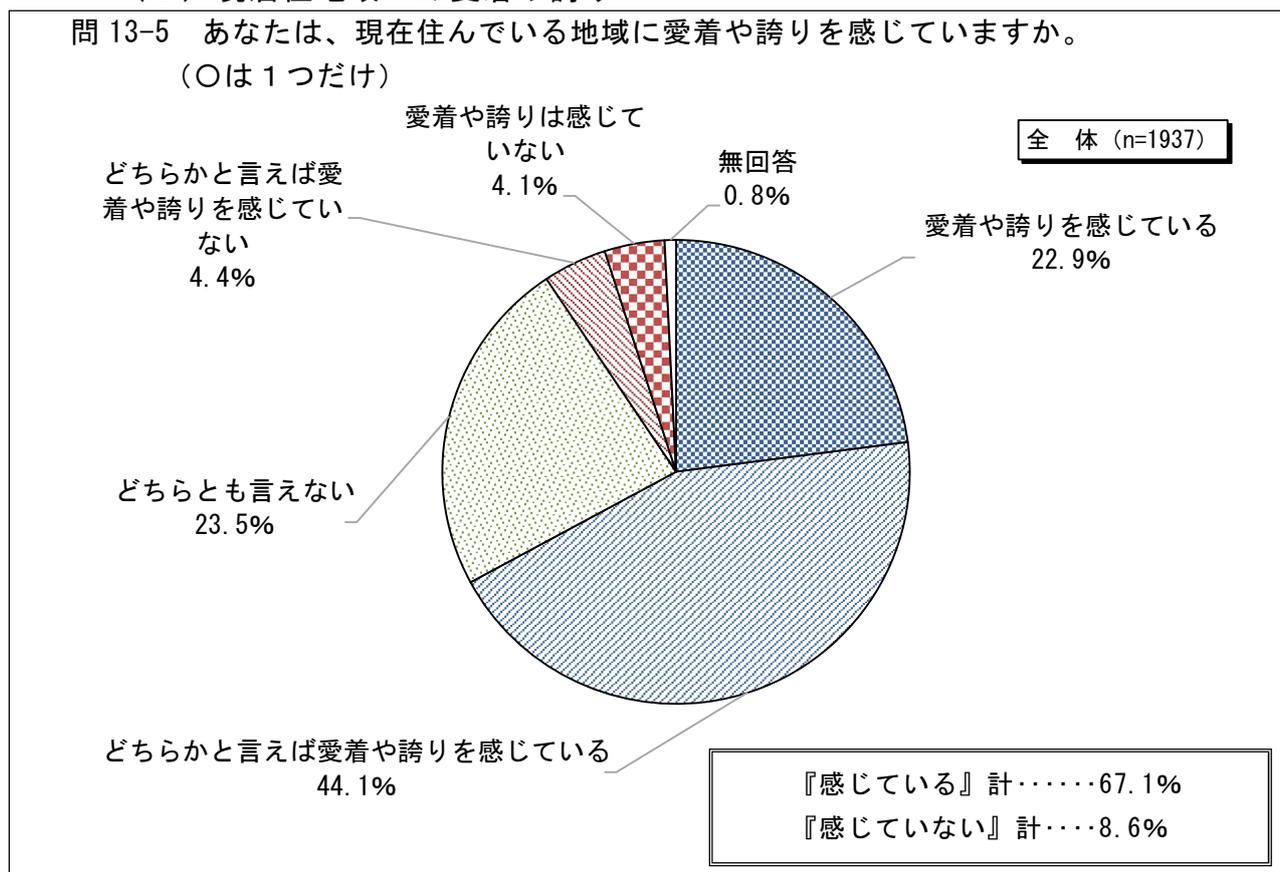
	『感じて いる』計	『感じて いない』計
【地域別】 下越地域 (n=178)	71.5%	5.3%
新潟地域 (n=774)	78.5%	4.4%
中越地域 (n=570)	75.6%	5.5%
魚沼地域 (n=139)	75.7%	4.5%
上越地域 (n=228)	73.2%	4.3%
佐渡地域 (n=47)	74.2%	8.9%



(6) 現居住地への愛着や誇り

問 13-5 あなたは、現在住んでいる地域に愛着や誇りを感じていますか。

(○は1つだけ)



【全体結果】

「愛着や誇りを感じている」と「どちらかと言えば愛着や誇りを感じている」を合計した『感じている』計は67.1%となり、6割半ばを占めている。

一方、「どちらかと言えば愛着や誇りを感じていない」と「愛着や誇りを感じていない」を合計した『感じていない』計は8.6%となっている。

【性別】

『感じている』計（男性 70.0%、女性 64.4%）の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

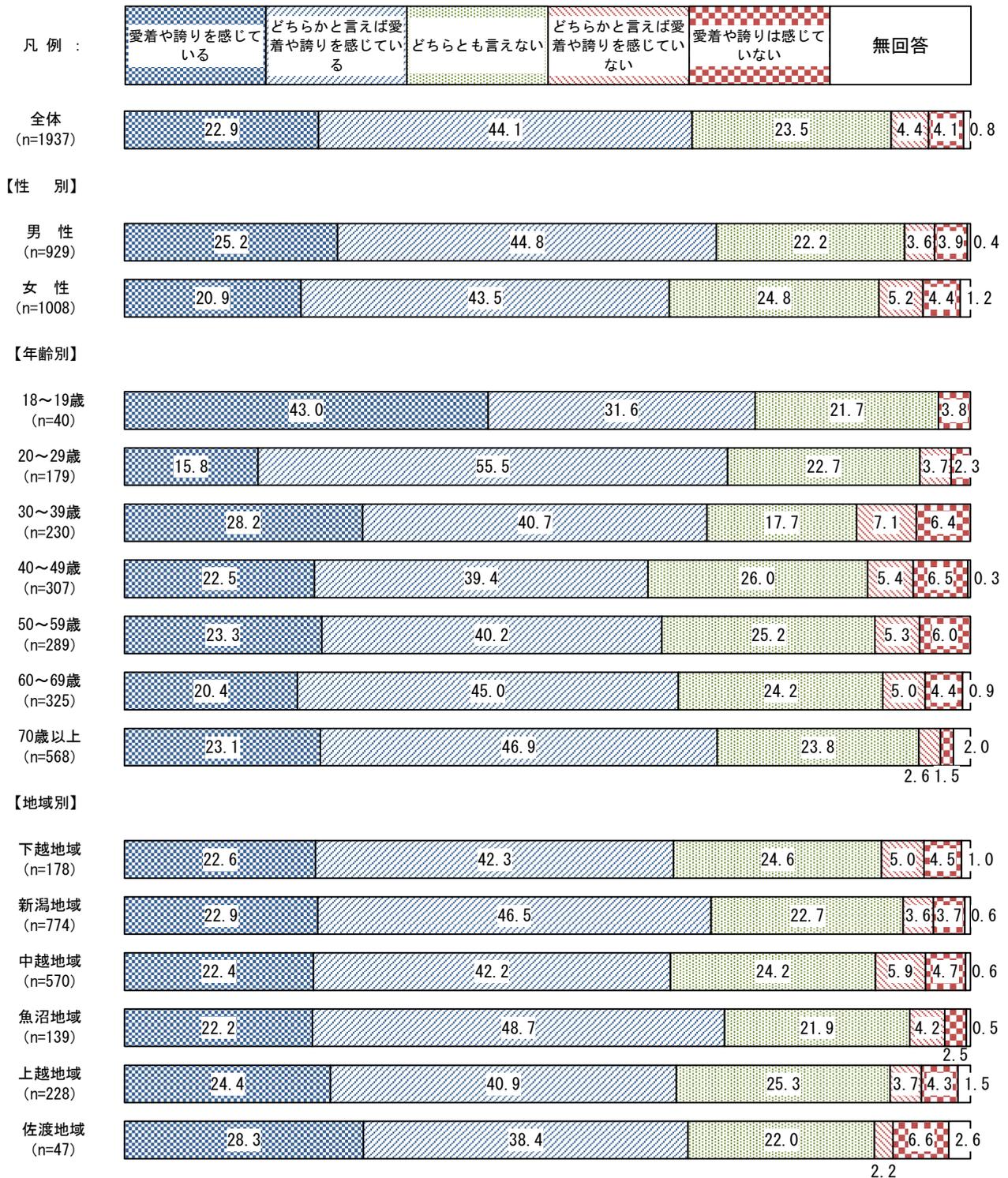
『感じている』計の割合は、10代（74.6%）が最も高くなっている。

【地域別】

『感じている』計の割合は、魚沼地域（71.0%）が最も高くなっている。

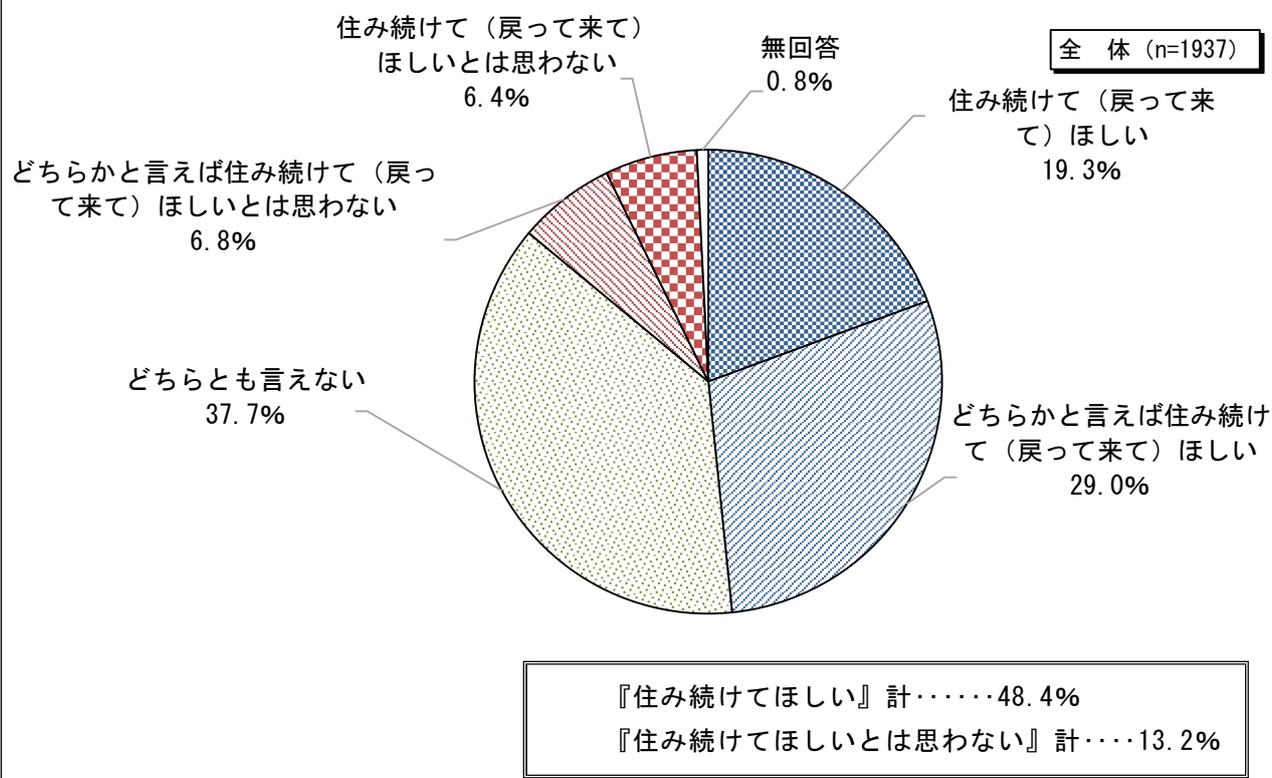
(6) 現居住地への愛着や誇り (全体/属性別)

	『感じて いる』計	『感じて いない』計		『感じて いる』計	『感じて いない』計
全体 (n=1937)	67.1%	8.6%	【地域別】 下越地域 (n=178)	64.9%	9.5%
【性別】 男性 (n=929)	70.0%	7.4%	新潟地域 (n=774)	69.4%	7.3%
女性 (n=1008)	64.4%	9.6%	中越地域 (n=570)	64.6%	10.7%
【年齢別】 18~19歳 (n=40)	74.6%	3.8%	魚沼地域 (n=139)	71.0%	6.7%
20~29歳 (n=179)	71.3%	6.0%	上越地域 (n=228)	65.2%	8.0%
30~39歳 (n=230)	68.9%	13.4%	佐渡地域 (n=47)	66.6%	8.8%
40~49歳 (n=307)	61.9%	11.9%			
50~59歳 (n=289)	63.5%	11.3%			
60~69歳 (n=325)	65.5%	9.4%			
70歳以上 (n=568)	70.1%	4.1%			



(7) 現居住地への若者の定住希望

問 13-6 あなたは、現在住んでいる地域に自分の子どもなど若者に住み続けてほしいと思いますか。(進学等で地域を離れている場合、戻って来てほしいと思いますか。)
(○は1つだけ)



【全体結果】

「住み続けて(戻って来て)ほしい」と「どちらかと言えば住み続けて(戻って来て)ほしい」を合計した『住み続けてほしい』計は48.4%となり、5割弱を占めている。

一方、「どちらかと言えば住み続けて(戻って来て)ほしいとは思わない」と「住み続けて(戻って来て)ほしいとは思わない」を合計した『住み続けてほしいとは思わない』計は1割半ば(13.2%)となっている。

【性別】

『住み続けてほしい』計(男性52.6%、女性44.5%)の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

『住み続けてほしい』計の割合は、70歳以上(53.9%)が最も高くなっている。

【地域別】

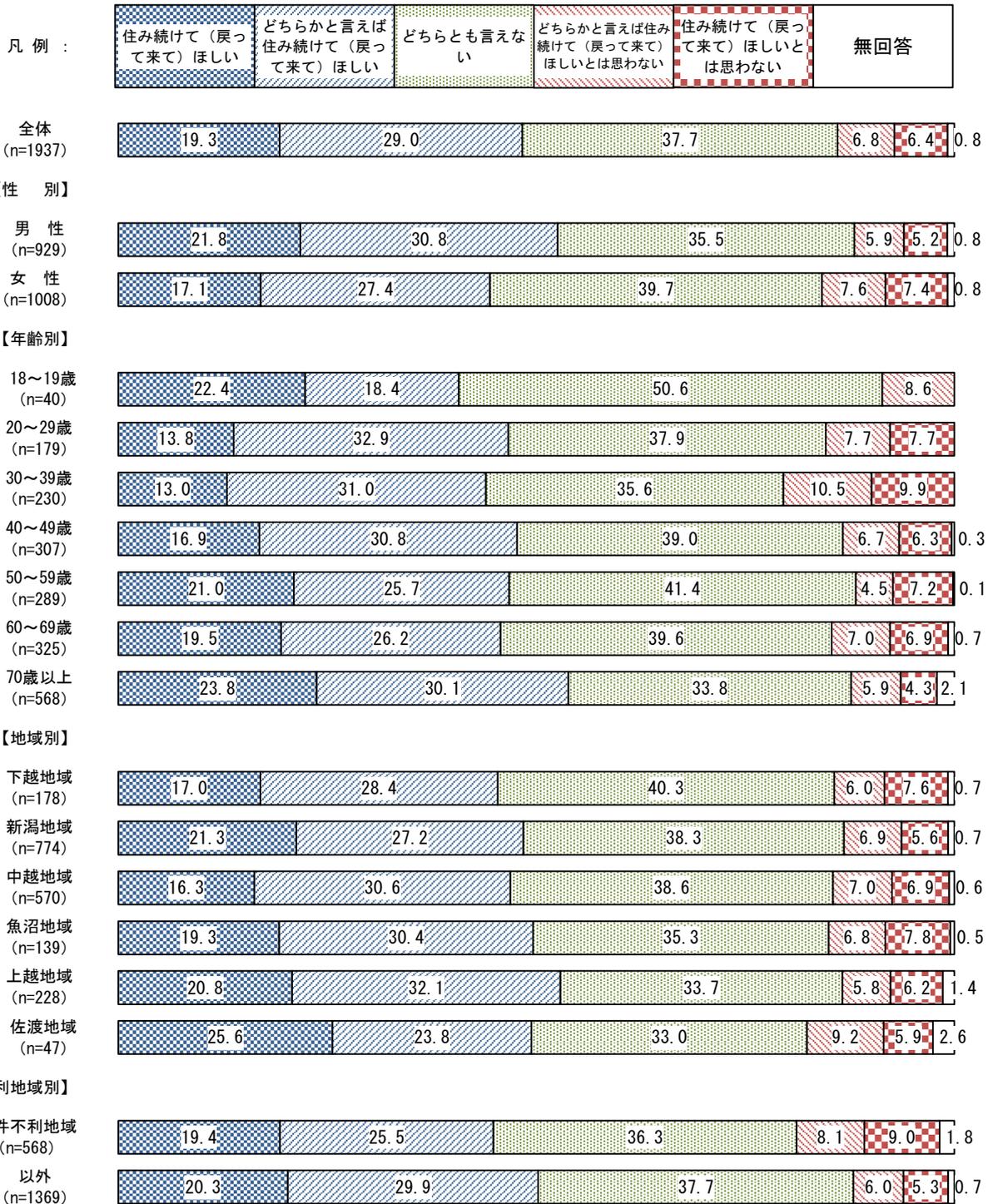
『住み続けてほしい』計の割合は、上越地域(52.9%)が最も高くなっている。

【条件不利地域別】(集計ウェイトによる規正なし)

『住み続けてほしい』計の割合は、(条件不利地域50.3%、条件不利地域以外44.9%)の割合は、条件不利地域以外の方が高くなっている。

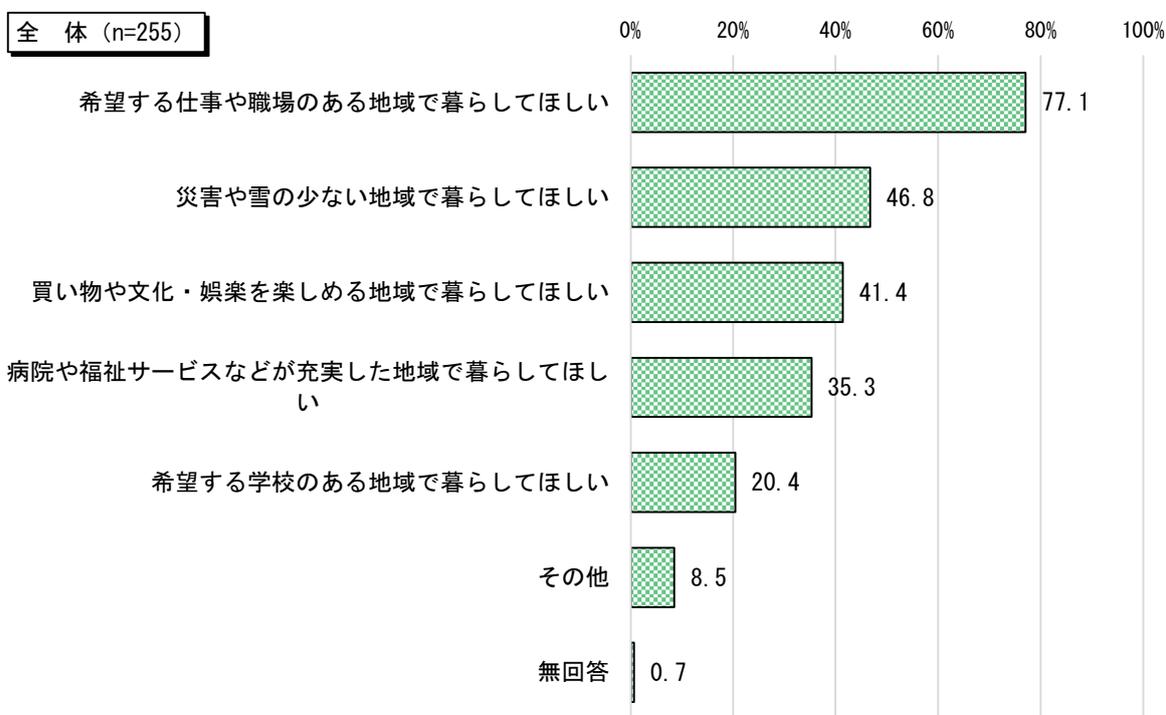
(7) 現居住地への若者の定住希望 (全体/属性別)

	『住み続けてほしい』計	『住み続けてほしいと思わない』計		『住み続けてほしい』計	『住み続けてほしいと思わない』計	
全体 (n=1937)	48.4%	13.2%	【地域別】	下越地域 (n=178)	45.4%	13.6%
【性別】				新潟地域 (n=774)	48.5%	12.5%
男性 (n=929)	52.6%	11.1%		中越地域 (n=570)	46.9%	13.9%
女性 (n=1008)	44.5%	15.0%		魚沼地域 (n=139)	49.7%	14.6%
【年齢別】				上越地域 (n=228)	52.9%	12.0%
18～19歳 (n=40)	40.7%	8.6%		佐渡地域 (n=47)	49.4%	15.0%
20～29歳 (n=179)	46.7%	15.4%	【条件不利地域別】	条件不利地域 (n=568)	44.9%	17.1%
30～39歳 (n=230)	44.0%	20.4%		以外 (n=1369)	50.3%	11.3%
40～49歳 (n=307)	47.7%	13.0%				
50～59歳 (n=289)	46.8%	11.6%				
60～69歳 (n=325)	45.8%	13.9%				
70歳以上 (n=568)	53.9%	10.2%				



(8) 住み続けて（戻って来て）ほしいとは思わない理由

（前問で「どちらかと言えば住み続けて（戻って来て）ほしいとは思わない」
「住み続けて（戻って来て）ほしいとは思わない」と回答した方への該当質問）
問 13-7 住み続けて（戻って来て）ほしいとは思わない理由は何ですか。
（○は3つまで）



【全体結果】

現居住地域への若者の定住希望について、「どちらかと言えば住み続けて（戻って来て）ほしいとは思わない」または「住み続けて（戻って来て）ほしいとは思わない」と回答した方に住み続けて（戻って来て）ほしいとは思わない理由を尋ねたところ、「希望する仕事や職場のある地域で暮らしてほしい」（77.1%）の割合が高く、7割半ばを占めている。以下「災害や雪の少ない地域で暮らしてほしい」（46.8%）、「買い物や文化・娯楽を楽しめる地域で暮らしてほしい」（41.4%）、「病院や福祉サービスなどが充実した地域で暮らしてほしい」（35.3%）と続いている。

【性別】

「希望する仕事や職場のある地域で暮らしてほしい」（男性 74.6%、女性 78.8%）、「災害や雪の少ない地域で暮らしてほしい」（男性 45.1%、女性 47.9%）、「買い物や文化・娯楽を楽しめる地域で暮らしてほしい」（男性 40.8%、女性 41.9%）の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】【地域別】

各区分の該当者数が少ないため、図表のみの掲載とする。

【条件不利地域】（集計ウェイトによる規正なし）

「希望する仕事や職場のある地域で暮らしてほしい」（条件不利地域 82.5%、条件不利地域以外 78.1%）、「病院や福祉サービスなどが充実した地域で暮らしてほしい」（条件不利地域 44.3%、条件不利地域以外 33.5%）の割合は条件不利地域の方が高く、「希望する学校のある地域で暮らしてほしい」（条件不利地域 10.3%、条件不利地域以外 22.6%）の割合は、条件不利地域以外の方が高くなっている。

（８） 住み続けて（戻って来て）ほしいとは思わない理由（全体/属性別）

割合（％）	希望する仕事や職場のある地域で暮らしてほしい	災害や雪の少ない地域で暮らしてほしい	買物や文化・娯楽施設が充実している地域で暮らしてほしい	病院や福祉サービスが充実している地域で暮らしてほしい	希望する学校のある地域で暮らしてほしい	その他	無回答
全体 (n=255)	77.1	46.8	41.4	35.3	20.4	8.5	0.7

【性別】

男性 (n=103)	74.6	45.1	40.8	33.1	20.8	13.9	1.1
女性 (n=151)	78.8	47.9	41.9	36.8	20.2	4.9	0.5

【年齢別】

18～19歳 (n=03)	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=27)	59.3	55.2	53.5	8.5	45.0	0.0	0.0
30～39歳 (n=47)	76.3	32.6	44.1	24.8	27.0	24.8	0.0
40～49歳 (n=40)	77.4	57.1	29.2	39.1	18.9	8.4	2.8
50～59歳 (n=34)	91.3	51.0	54.7	38.4	16.3	0.0	0.0
60～69歳 (n=45)	78.8	45.4	34.1	43.1	8.2	5.2	1.5
70歳以上 (n=58)	75.0	48.4	36.5	48.2	11.8	7.6	0.0

【地域別】

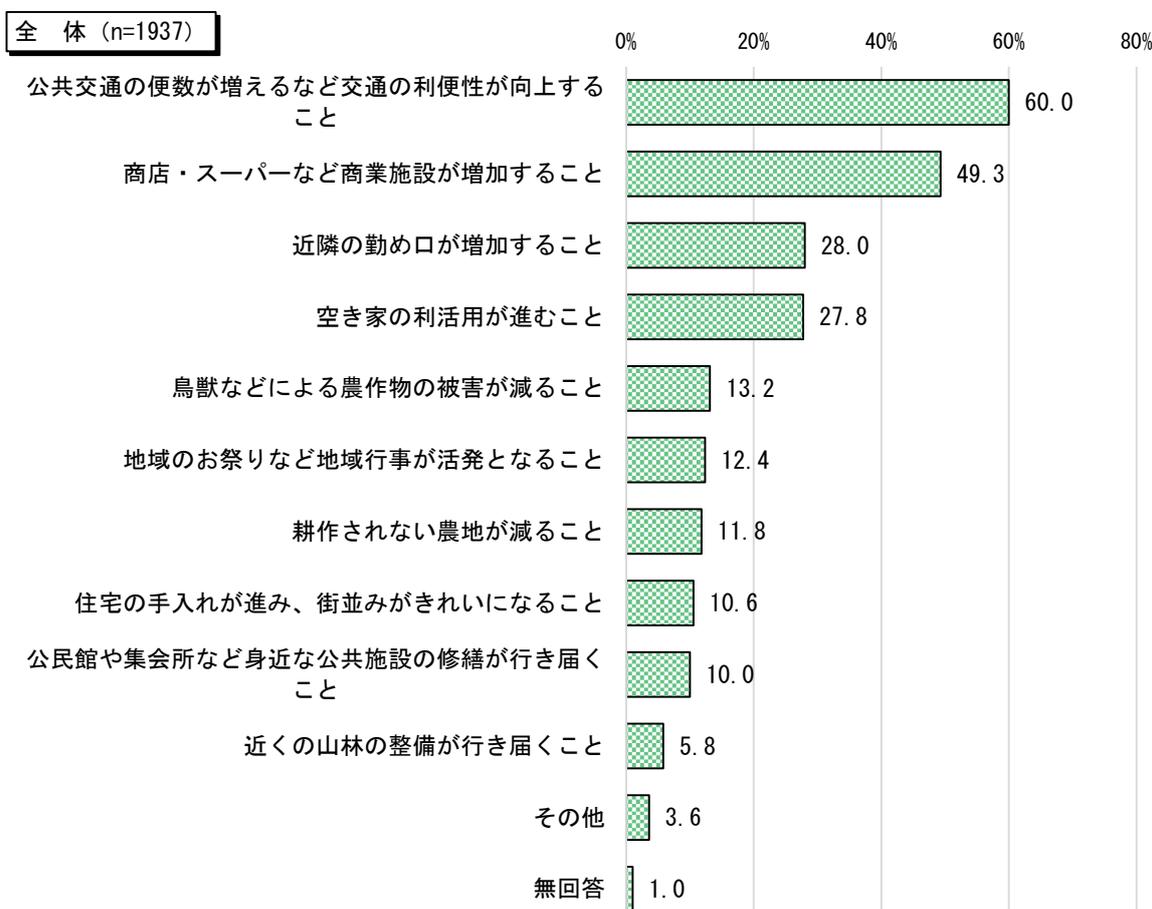
下越地域 (n=24)	87.5	33.9	48.0	38.3	24.6	2.6	7.5
新潟地域 (n=97)	80.0	46.3	35.1	28.5	26.9	8.4	0.0
中越地域 (n=79)	70.1	43.2	52.2	39.8	17.4	14.0	0.0
魚沼地域 (n=20)	83.9	74.9	21.6	38.7	10.2	5.0	0.0
上越地域 (n=27)	71.1	51.8	37.9	37.3	11.0	2.4	0.0
佐渡地域 (n=07)	84.6	36.0	54.5	51.1	17.9	3.0	0.0

【条件不利地域別】

条件不利地域 (n=97)	82.5	46.4	42.3	44.3	10.3	3.1	1.0
以外 (n=155)	78.1	47.1	40.6	35.5	22.6	9.0	0.6

(9) 現居住地において改善してほしいこと

問 13-8 現在お住まいの地域で、改善されると良いと考えていることは何ですか。
(○は3つまで)



【全体結果】

「公共交通の便数が増えるなど交通の利便性が向上すること」(60.0%)が6割台と、最も高くなっている。以下、「商店・スーパーなど商業施設が増加すること」(49.3%)、「近隣の勤め口が増加すること」(28.0%)、「空き家の利活用が進むこと」(27.8%)と続いている。

【性別】

全体結果の上位3つの項目についてみると、「公共交通の便数が増えるなど交通の利便性が向上すること」(男性 56.4%、女性 63.4%)は、女性の方が高くなっている。

一方、「商店・スーパーなど商業施設が増加すること」(男性 49.6%、女性 49.0%)と「近隣の勤め口が増加すること」(男性 31.4%、女性 24.9%)は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

全体結果の上位3つの項目についてみると、「公共交通の便数が増えるなど交通の利便性が向上すること」は10代(66.7%)で最も高く、6割半ばを占めている。また、「商店・スーパーなど商業施設が増加すること」は20代(61.4%)が最も高く、約6割を占めている。「近隣の勤め口が増加すること」は30代(34.5%)が最も高くなっている。

【地域別】

全体結果の上位3つの項目についてみると、「公共交通の便数が増えるなど交通の利便性が向上すること」と「商店・スーパーなど商業施設が増加すること」は、中越地域（各62.6%、51.1%）が最も高くなっている。「近隣の勤め口が増加すること」は上越地域（39.4%）が最も高くなっている。

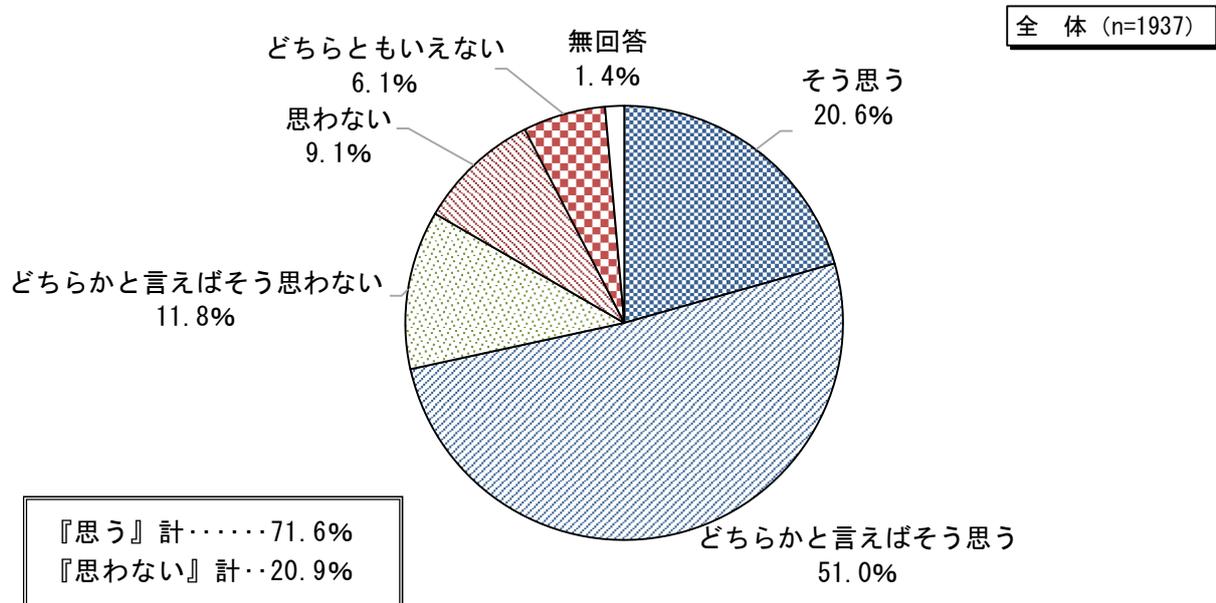
(9) 現居住地において改善してほしいこと（全体/属性別）

割合 (%)	公共交通の便数が増えるなど交通の利便性が向上すること	商店・スーパーなど商業施設が増加すること	近隣の勤め口が増加すること	空き家の利活用が進むこと	鳥獣などによる農作物の被害が減ること	地域のお祭りなど地域行事が活発となること	耕作されない農地が減ること	住宅の手入れが進み、街並みがきれいになること	公民館や集会所など身近な公共施設の修繕が行き届くこと	近くの山林の整備が行き届くこと	その他	無回答
全体 (n=1937)	60.0	49.3	28.0	27.8	13.2	12.4	11.8	10.6	10.0	5.8	3.6	1.0
【性別】												
男性 (n=929)	56.4	49.6	31.4	28.9	11.6	15.4	13.1	11.2	10.0	5.9	3.7	1.0
女性 (n=1008)	63.4	49.0	24.9	26.7	14.6	9.5	10.7	10.0	10.0	5.8	3.5	1.1
【年齢別】												
18～19歳 (n=40)	66.7	59.5	28.0	22.7	4.7	14.4	0.0	17.6	12.6	2.4	0.0	0.0
20～29歳 (n=179)	63.3	61.4	21.7	22.4	11.4	21.3	5.5	9.8	7.8	2.4	1.2	0.0
30～39歳 (n=230)	59.8	56.9	34.5	26.9	5.3	15.3	7.0	16.3	6.6	6.0	4.8	0.0
40～49歳 (n=307)	58.5	48.1	30.3	31.5	12.1	15.3	11.5	11.7	11.4	6.2	6.6	0.7
50～59歳 (n=289)	63.8	53.7	31.1	24.9	10.8	8.4	9.7	11.0	6.7	4.4	5.3	0.5
60～69歳 (n=325)	57.1	48.6	29.9	29.6	16.6	6.9	15.5	9.9	12.5	6.9	3.5	1.1
70歳以上 (n=568)	59.2	40.6	23.5	28.6	17.3	11.8	15.8	7.6	11.4	7.0	1.6	2.3
【地域別】												
下越地域 (n=178)	54.0	48.7	31.9	27.9	22.4	12.8	12.3	8.0	6.5	8.3	3.4	0.3
新潟地域 (n=774)	61.3	50.3	21.9	25.2	5.5	15.1	8.6	12.3	11.0	3.9	3.6	0.9
中越地域 (n=570)	62.6	51.1	28.7	28.6	15.9	9.6	13.8	11.1	10.9	7.0	4.5	1.0
魚沼地域 (n=139)	58.9	43.8	33.1	27.8	31.1	9.4	13.4	6.2	9.2	10.2	2.8	1.6
上越地域 (n=228)	57.7	47.0	39.4	31.7	16.0	11.5	13.9	8.3	7.6	4.0	2.0	1.9
佐渡地域 (n=47)	44.8	41.0	35.4	40.2	3.5	11.9	26.2	10.3	10.6	10.9	3.3	1.4

14. 積雪時の対応について

(1) 積雪時の安心感

問 14-1 あなたは、積雪時でも、家族や地域内の助け合い、行政による支援（道路交通の確保、除雪経費の補助、安全対策の啓発等）などにより安心して暮らせていると感じますか。（〇は1つだけ）



【全体結果】

「思う」と「どちらかと言えば思う」を合計した『思う』計の割合は 71.6% となり、7割強を占めている。

一方、「思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」を合計した『思わない』計 (20.9%) は2割強を占めている。

【性別】

『思う』計（男性 74.3%、女性 69.1%）の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

『思う』計の割合は、10代（87.1%）が最も高くなっている。

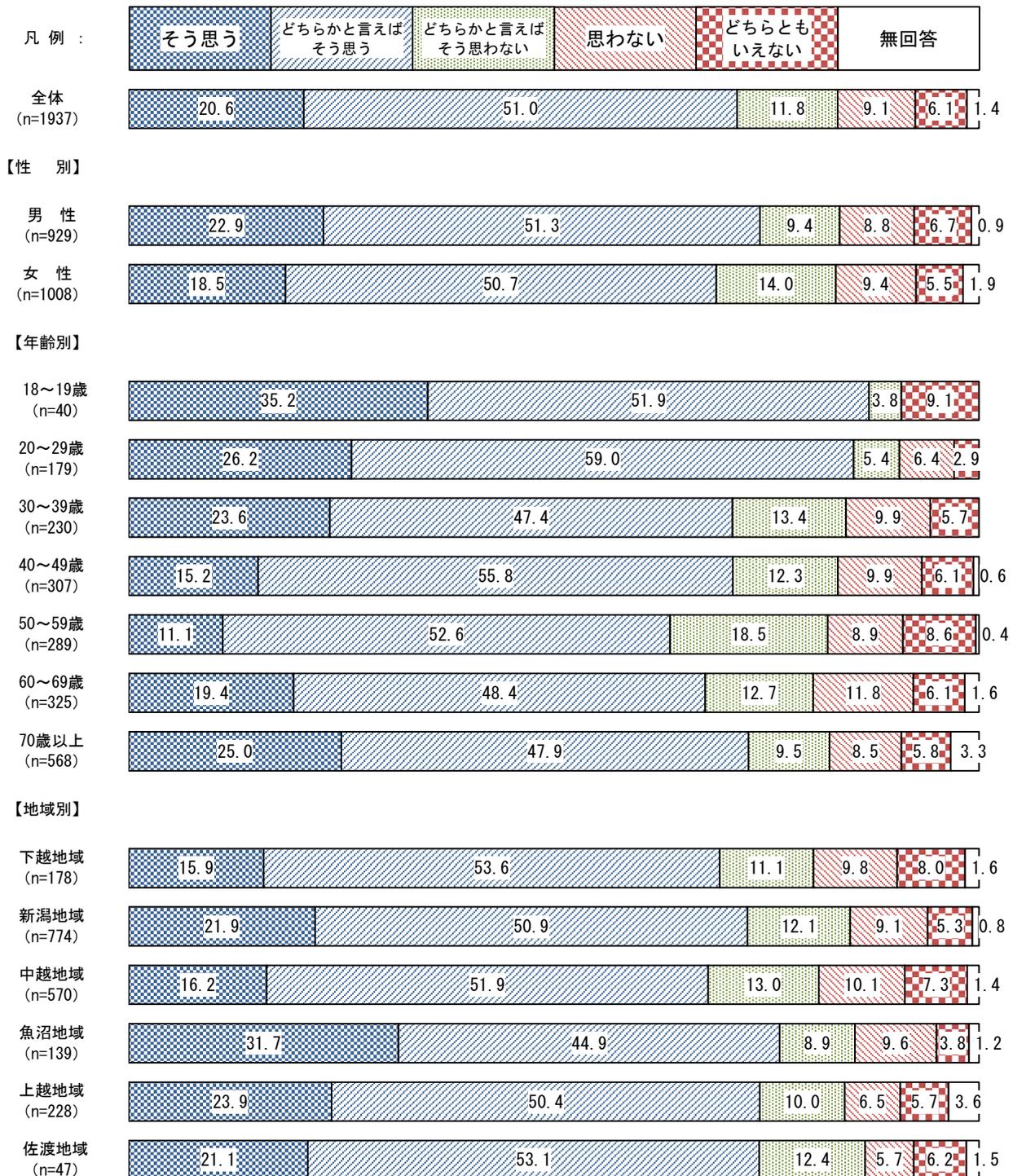
【地域別】

『思う』計の割合は、魚沼地域（76.6%）が最も高く、中越地域（68.1%）が最も低くなっている。

	『思う』 計	『思わない』 計
全体 (n=1937)	71.6%	20.9%
【性別】		
男性 (n=929)	74.3%	18.1%
女性 (n=1008)	69.1%	23.5%
【年齢別】		
18～19歳 (n=40)	87.1%	3.8%
20～29歳 (n=179)	85.3%	11.8%
30～39歳 (n=230)	71.0%	23.3%
40～49歳 (n=307)	71.1%	22.2%
50～59歳 (n=289)	63.7%	27.4%
60～69歳 (n=325)	67.8%	24.5%
70歳以上 (n=568)	72.9%	18.0%

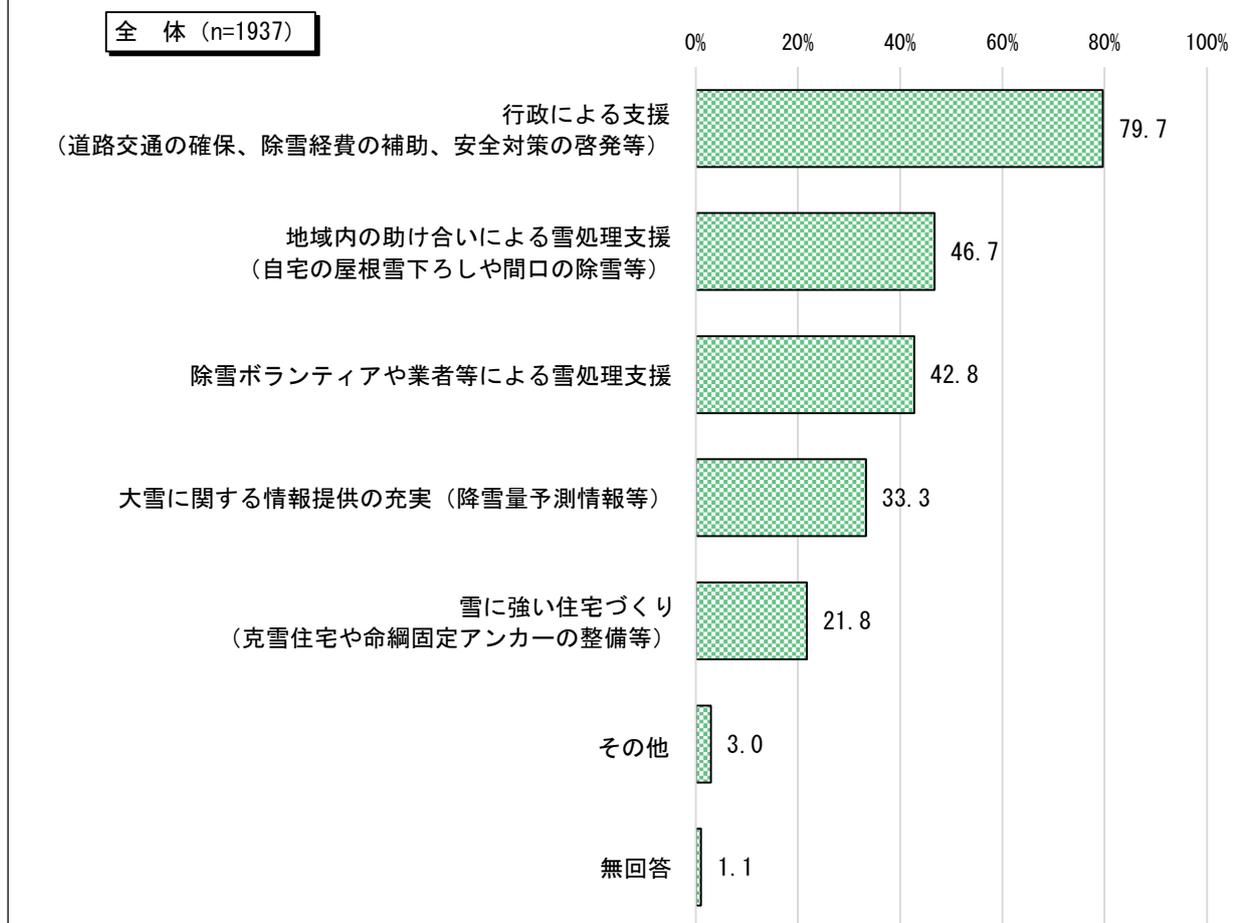
	『思う』 計	『思わない』 計
【地域別】		
下越地域 (n=178)	69.5%	20.9%
新潟地域 (n=774)	72.8%	21.2%
中越地域 (n=570)	68.1%	23.1%
魚沼地域 (n=139)	76.6%	18.4%
上越地域 (n=228)	74.2%	16.5%
佐渡地域 (n=47)	74.2%	18.1%

(1) 積雪時の安心感 (全体/属性別)



(2) 積雪時でも、より安心に暮らすために必要な取り組み

問 14-2 積雪時でも、より安心に暮らすことができるようにするためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



【全体結果】

「行政による支援 (道路交通の確保、除雪経費の補助、安全対策の啓発等)」(79.7%) が約8割で最も割合が高くなっている。以下「地域内の助け合いによる雪処理支援 (自宅の屋根雪下ろしや間口の除雪等)」(46.7%)、「除雪ボランティアや業者等による雪処理支援」(42.8%)、「大雪に関する情報提供の充実 (降雪量予測情報等)」(33.3%)、「雪に強い住宅づくり (克雪住宅や命綱固定アンカーの整備等)」(21.8%) と続いている。

【性別】

性別で大きな差は見られない。

【年齢別】

「行政による支援 (道路交通の確保、除雪経費の補助、安全対策の啓発等)」の割合は、50代 (83.7%) が最も高くなっている。「地域内の助け合いによる雪処理支援 (自宅の屋根雪下ろしや間口の除雪等)」は70歳以上 (54.8%) が最も高くなっている。

【地域別】

「行政による支援 (道路交通の確保、除雪経費の補助、安全対策の啓発等)」の割合は、新潟地域 (82.5%) が最も高くなっている。「地域内の助け合いによる雪処理支援 (自宅

の屋根雪下ろしや間口の除雪等)」と「除雪ボランティアや業者等による雪処理支援」は、上越地域（各 54.7%、48.4%）が最も高くなっている。

(2) 積雪時でも、より安心して暮らすために必要な取り組み（全体／属性別）

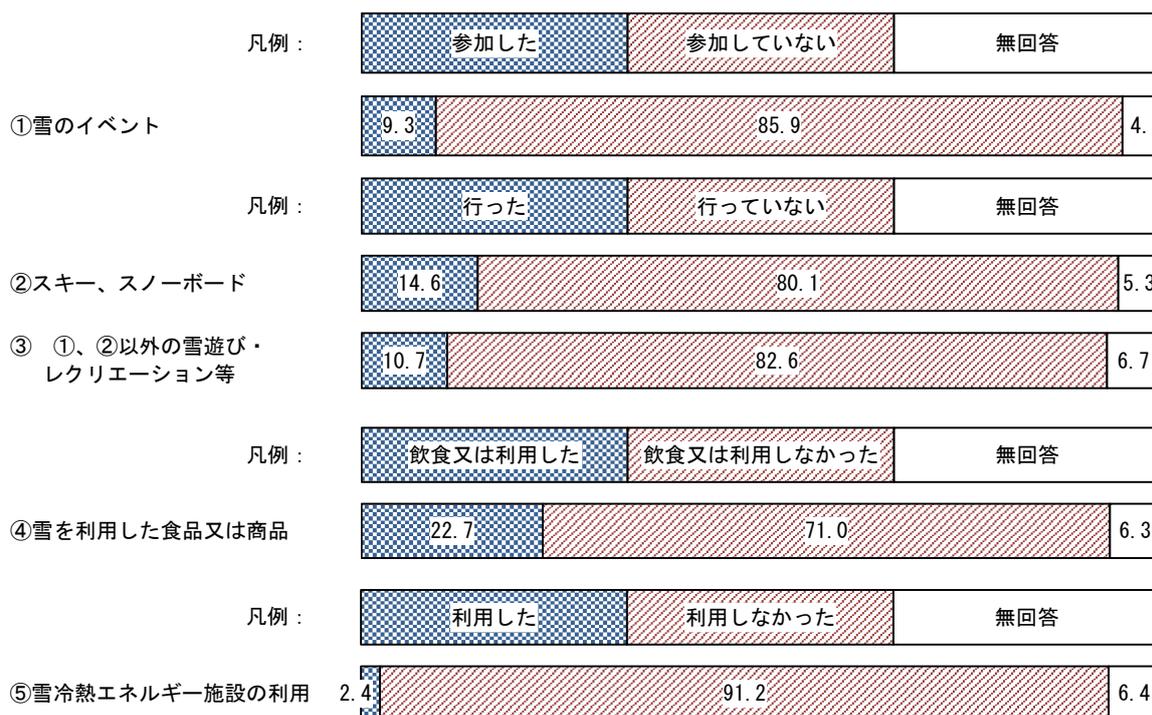
割合 (%)	行政による支援（道路交通の確保、除雪経費の補助、安全対策の啓発等）	地域内の助け合いによる雪処理支援（自宅の屋根雪下ろしや間口の除雪等）	除雪ボランティアや業者等による雪処理支援	大雪に関する情報提供の充実（降雪量予測情報等）	雪に強い住宅づくり（ク雪住宅※1や命綱固定アンカー※2の整備等）	その他	無回答
全体 (n=1937)	79.7	46.7	42.8	33.3	21.8	3.0	1.1
【性別】							
男性 (n=929)	79.2	46.1	37.9	34.1	23.5	3.7	0.6
女性 (n=1008)	80.1	47.4	47.3	32.7	20.2	2.4	1.5
【年齢別】							
18～19歳 (n=40)	62.7	52.8	41.7	29.9	26.5	6.7	0.0
20～29歳 (n=179)	76.0	45.4	36.1	43.1	34.6	2.7	0.0
30～39歳 (n=230)	83.4	43.4	38.9	39.4	31.7	1.3	0.4
40～49歳 (n=307)	83.3	40.3	41.2	41.6	24.9	6.1	0.3
50～59歳 (n=289)	83.7	42.1	41.8	32.4	21.6	3.4	0.0
60～69歳 (n=325)	82.7	45.2	42.0	29.9	17.2	2.5	1.2
70歳以上 (n=568)	74.7	54.8	48.3	26.1	14.4	2.0	2.7
【地域別】							
下越地域 (n=178)	73.9	45.6	45.1	29.9	21.2	2.5	2.9
新潟地域 (n=774)	82.5	46.0	38.5	36.9	16.1	2.9	0.3
中越地域 (n=570)	80.2	44.7	46.9	33.5	27.3	3.7	0.8
魚沼地域 (n=139)	71.0	48.1	39.6	24.6	27.0	2.6	3.4
上越地域 (n=228)	79.2	54.7	48.4	31.9	26.4	1.7	1.3
佐渡地域 (n=47)	76.2	45.3	38.2	18.4	12.9	5.5	2.4

15. 雪イベント等について

(1) 雪イベント等の参加・利用状況

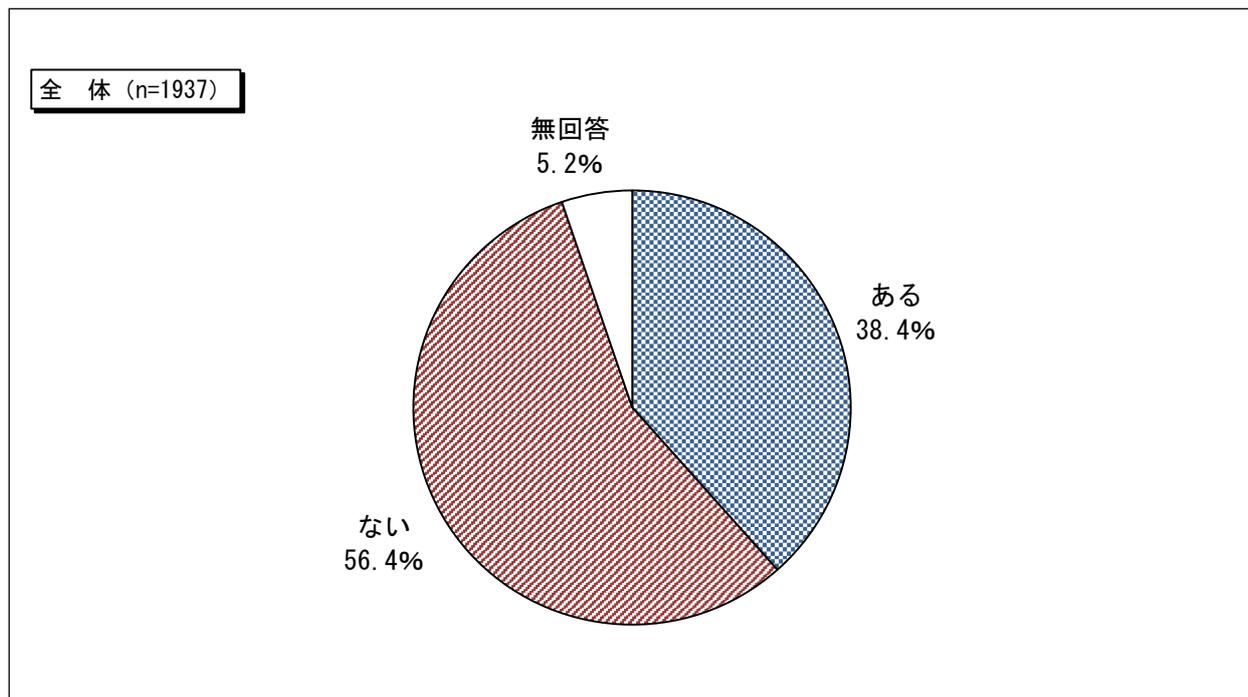
問 15-1 あなたやあなたの家族は、この1年間、雪に親しんだり、雪を活用した品物や施設に触れた機会がありましたか、それぞれの項目ごとに参加（行った、飲食した、利用した）の有無をお答えください。（①～⑤それぞれに○は1つだけ）

全体 (n=1685)



この1年間に、① 雪のイベントに「参加した」と答えた割合は 9.3%、② スキー、スノーボードに「行った」と答えた割合は 14.6%、③ ①、②以外の雪遊び・レクリエーション等に「行った」と答えた割合は 10.7%、④ 雪を利用した食品又は商品を「飲食又は利用した」と答えた割合は 22.7%、⑤ 雪冷熱エネルギー施設の利用を「利用した」と答えた割合は 2.4%となっている。

①～⑤のいずれか1つでも経験がある割合



【全体結果】

①～⑤のいずれか1つでも経験が「ある」(38.4%)と答えた割合は4割弱となっている。

【性別】

「ある」(男性 39.7%、女性 37.3%)の割合は、男性が高くなっている。

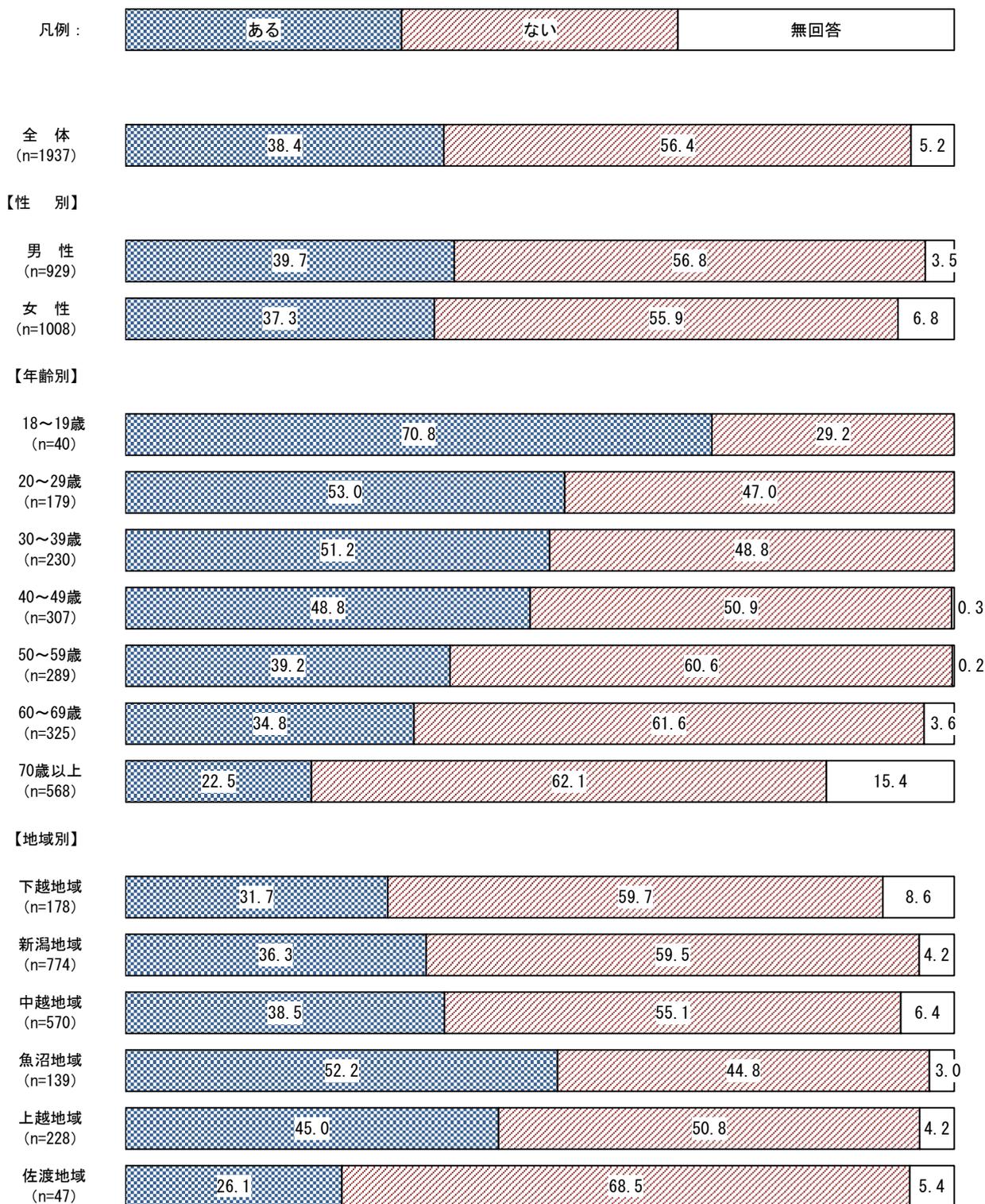
【年齢別】

「ある」の割合は、10代(70.8%)が最も高く、約7割となっている。

【地域別】

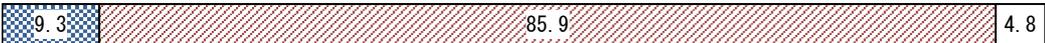
「ある」の割合は、魚沼地域(52.2%)、上越地域(45.0%)、中越地域(38.5%)の順に高くなっている。

①～⑤のいずれか1つでも経験がある割合（全体／属性別）



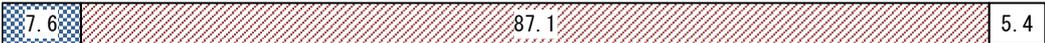
① 雪のイベント

凡例：

全体 (n=1937) 

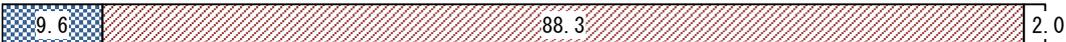
【性別】

男性 (n=929) 

女性 (n=1008) 

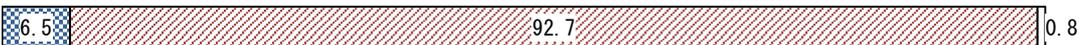
【年齢別】

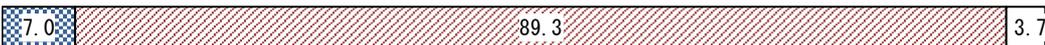
18～19歳 (n=40) 

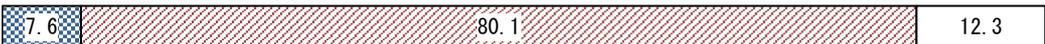
20～29歳 (n=179) 

30～39歳 (n=230) 

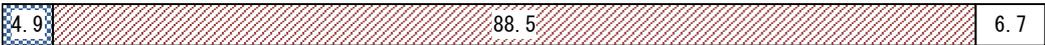
40～49歳 (n=307) 

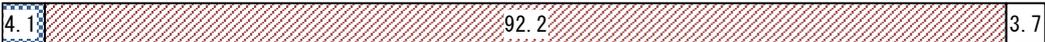
50～59歳 (n=289) 

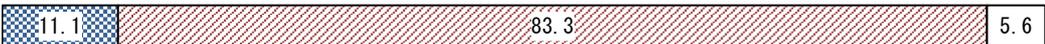
60～69歳 (n=325) 

70歳以上 (n=568) 

【地域別】

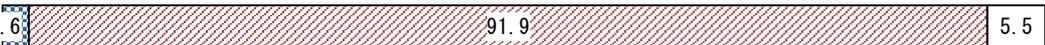
下越地域 (n=178) 

新潟地域 (n=774) 

中越地域 (n=570) 

魚沼地域 (n=139) 

上越地域 (n=228) 

佐渡地域 (n=47) 

【全体結果】

「参加した」(9.3%) と答えた割合は1割弱となっている。

【性別】

「参加した」(男性 11.2%、女性 7.6%) の割合は、男性が高くなっている。

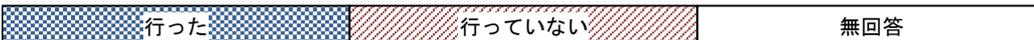
【年齢別】

「ある」の割合は、10代(22.2%)が最も高くなっている。

【地域別】

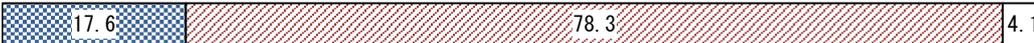
「ある」の割合は、魚沼地域(30.4%)、上越地域(14.5%)、中越地域(11.1%)の順に高くなっている。

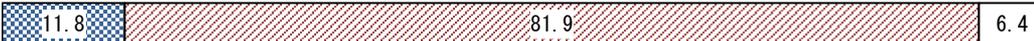
② スキー、スノーボード

凡例：

全体 (n=1937) 

【性別】

男性 (n=929) 

女性 (n=1008) 

【年齢別】

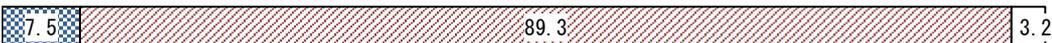
18～19歳 (n=40) 

20～29歳 (n=179) 

30～39歳 (n=230) 

40～49歳 (n=307) 

50～59歳 (n=289) 

60～69歳 (n=325) 

70歳以上 (n=568) 

【地域別】

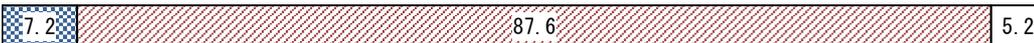
下越地域 (n=178) 

新潟地域 (n=774) 

中越地域 (n=570) 

魚沼地域 (n=139) 

上越地域 (n=228) 

佐渡地域 (n=47) 

【全体結果】

「行った」(14.6%) と答えた割合は1割半ばを占めている。

【性別】

「行った」(男性17.6%、女性11.8%)の割合は男性の方が高くなっている。

【年齢別】

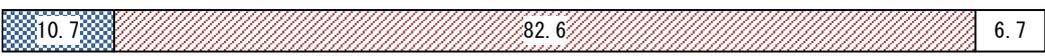
「行った」の割合は、10代(44.5%)、20代(27.3%)、40代(25.6%)の順に高くなっている。

【地域別】

「行った」の割合は、魚沼地域(19.9%)、上越地域(18.4%)、下越地域(15.9%)の順に高くなっている。

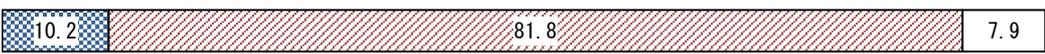
③ ①、②以外の雪遊び・レクリエーション等

凡例：

全体 (n=1937) 

【性別】

男性 (n=929) 

女性 (n=1008) 

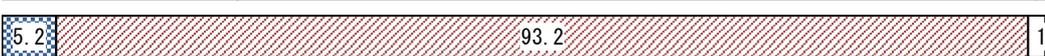
【年齢別】

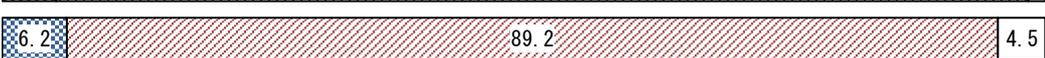
18～19歳 (n=40) 

20～29歳 (n=179) 

30～39歳 (n=230) 

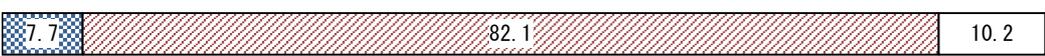
40～49歳 (n=307) 

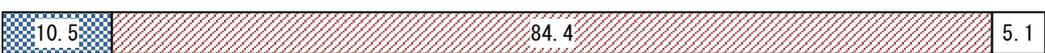
50～59歳 (n=289) 

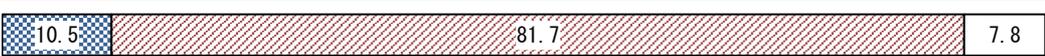
60～69歳 (n=325) 

70歳以上 (n=568) 

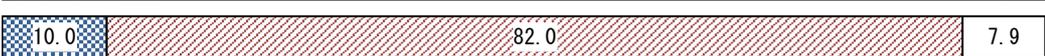
【地域別】

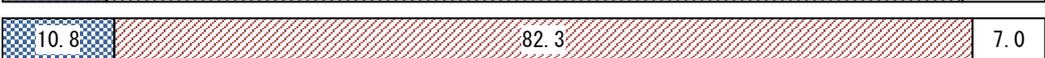
下越地域 (n=178) 

新潟地域 (n=774) 

中越地域 (n=570) 

魚沼地域 (n=139) 

上越地域 (n=228) 

佐渡地域 (n=47) 

【全体結果】

「行った」(10.7%)と答えた割合は約1割となっている。

【性別】

性別での大きな差はみられない。

【年齢別】

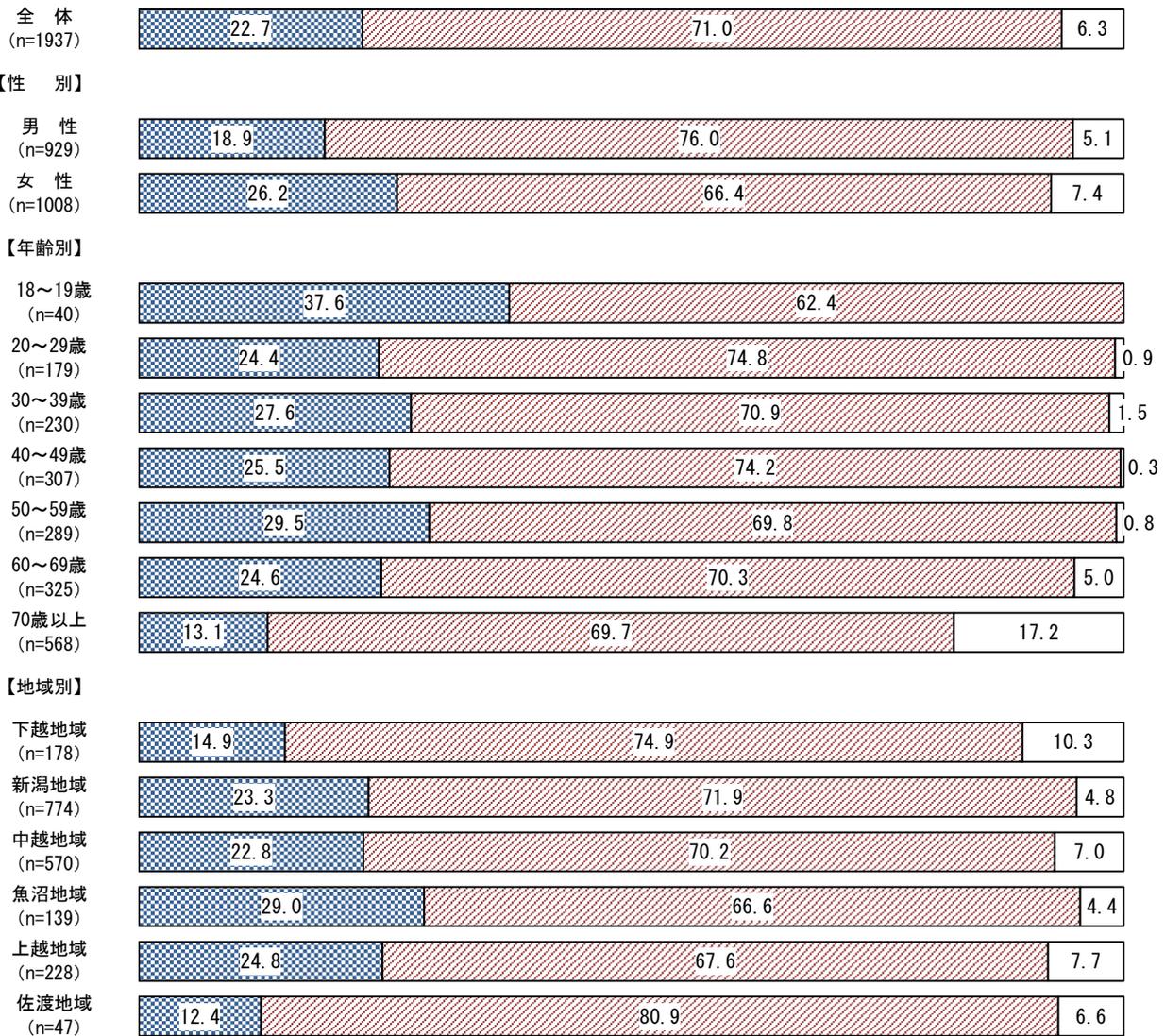
「行った」の割合は、10代(37.2%)、40代(22.6%)、30代(20.5%)の順に高くなっている。

【地域別】

「行った」の割合は、魚沼地域(17.8%)、佐渡地域(10.8%)、新潟地域・中越地域(いずれも10.5%)の順に高くなっている。

④ 雪を利用した食品又は商品

凡例：

【全体結果】

「飲食又は利用した」(22.7%)と答えた割合は約2割となっている。

【性別】

「飲食又は利用した」(男性18.9%、女性26.2%)の割合は、女性が高くなっている。

【年齢別】

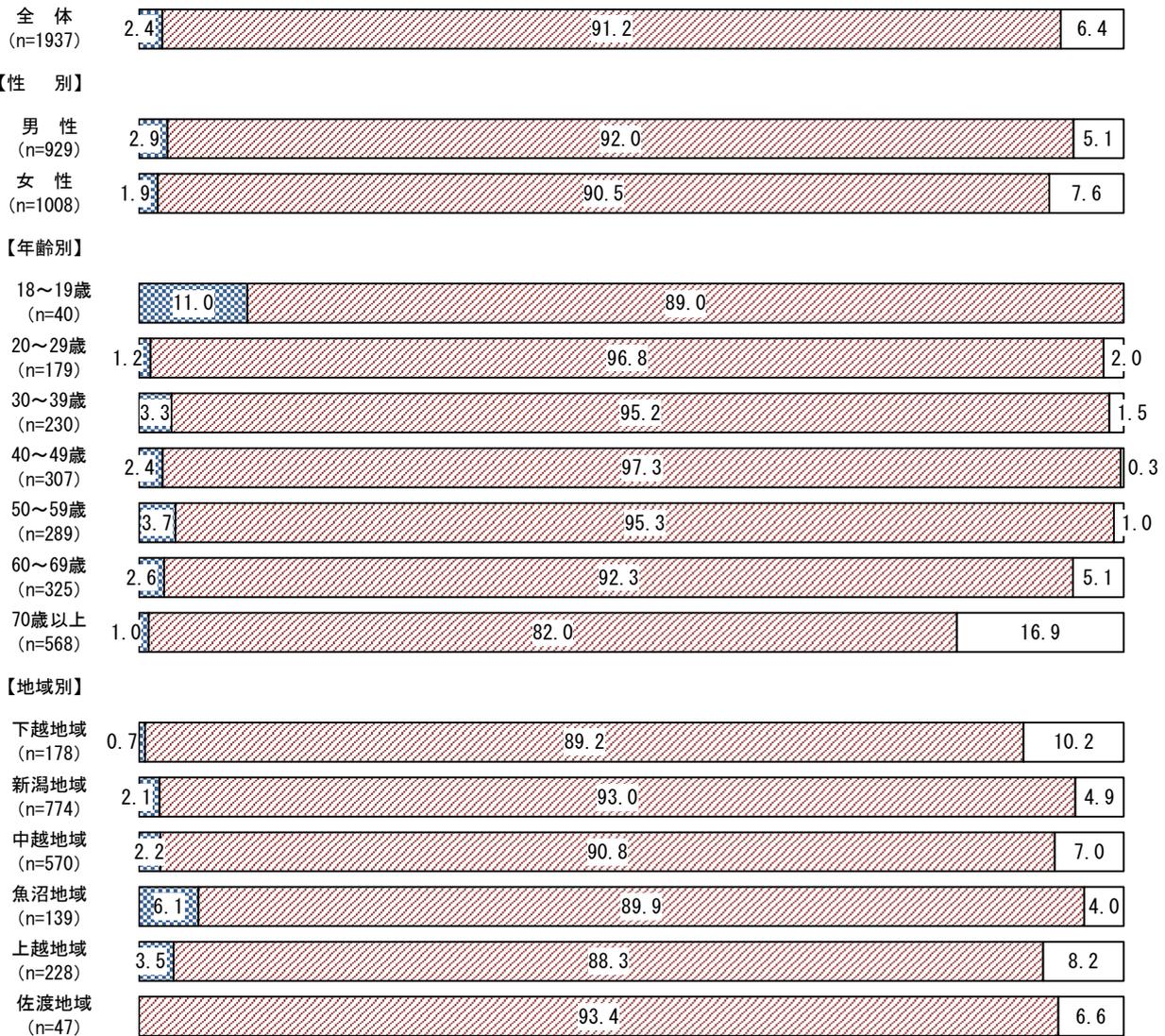
「飲食又は利用した」の割合は、10代(37.6%)、50代(29.5%)、30代(27.6%)の順に高くなっている。

【地域別】

「飲食又は利用した」の割合は、魚沼地域(29.0%)、上越地域(24.8%)、新潟地域(23.3%)の順に高くなっている。

⑤ 雪冷熱エネルギー施設の利用

凡例：



【全体結果】

「利用した」と答えた割合は2.4%となっている。

【性別】

性別での大きな差はみられない。

【年齢別】

「行った」の割合は、10代(11.0%)、50代(3.7%)、30代(3.3%)の順に高くなっている。

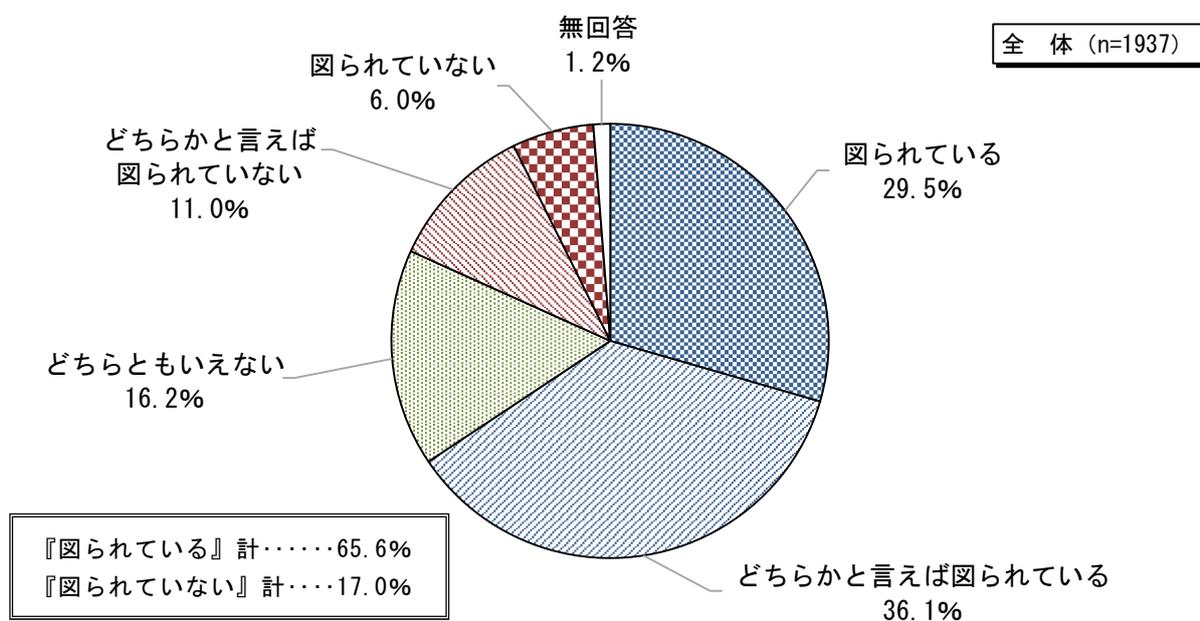
【地域別】

「行った」の割合は、魚沼地域(6.1%)、上越地域(3.5%)、中越地域(2.2%)の順に高くなっている。

16. 移動手段の確保について

(1) 移動手段の確保状況

問 16-1 あなたは、職場や学校、病院、観光など県内での移動において、自家用車や公共交通機関（鉄道やバス、タクシーなど）により、移動手段の確保が図られていると感じますか。（○は1つだけ）



【全体結果】

「図られている」と「どちらかと言えば図られている」を合計した『図られている』計の割合は65.6%となり、6割半ばを占めている。

一方、「図られていない」と「どちらかと言えば図られていない」を合計した『図られていない』計（17.0%）は1割半ばを占めている。

【性別】

『図られている』計（男性 63.3%、女性 67.7%）の割合は、男性より女性の方が高くなっている。

【年齢別】

『図られている』計の割合は、40代（69.5%）が最も高くなっている。

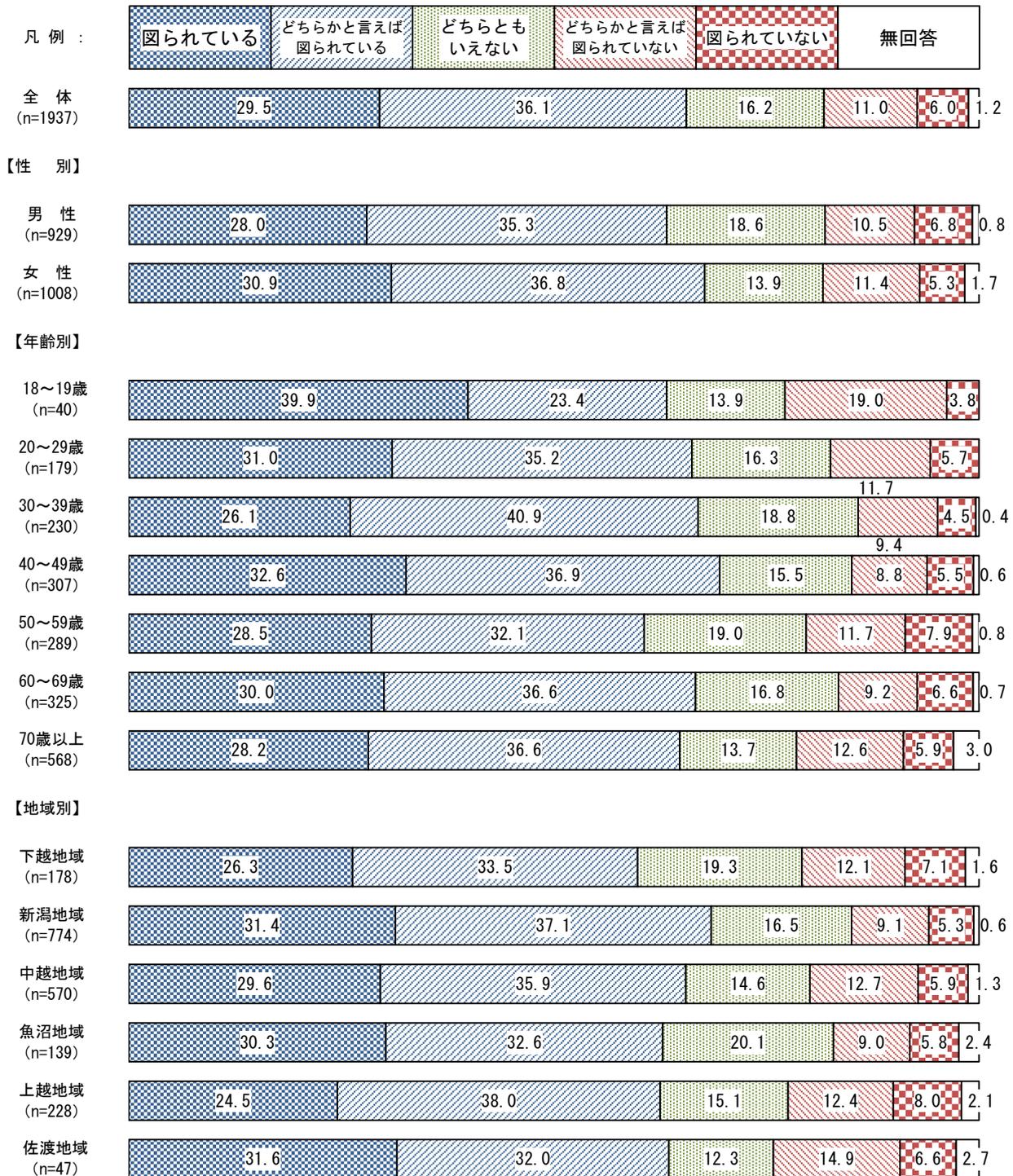
【地域別】

『図られている』計の割合は、新潟地域（68.5%）が最も高く、下越地域（59.8%）が最も低くなっている。

	『図られている』計	『図られていない』計
全体 (n=1937)	65.6%	17.0%
【性別】		
男性 (n=929)	63.3%	17.3%
女性 (n=1008)	67.7%	16.7%
【年齢別】		
18～19歳 (n=40)	63.3%	22.8%
20～29歳 (n=179)	66.2%	17.4%
30～39歳 (n=230)	67.0%	13.9%
40～49歳 (n=307)	69.5%	14.3%
50～59歳 (n=289)	60.6%	19.6%
60～69歳 (n=325)	66.7%	15.9%
70歳以上 (n=568)	64.8%	18.5%

	『図られている』計	『図られていない』計
【地域別】		
下越地域 (n=178)	59.8%	19.2%
新潟地域 (n=774)	68.5%	14.4%
中越地域 (n=570)	65.5%	18.6%
魚沼地域 (n=139)	62.8%	14.7%
上越地域 (n=228)	62.5%	20.4%
佐渡地域 (n=47)	63.5%	21.5%

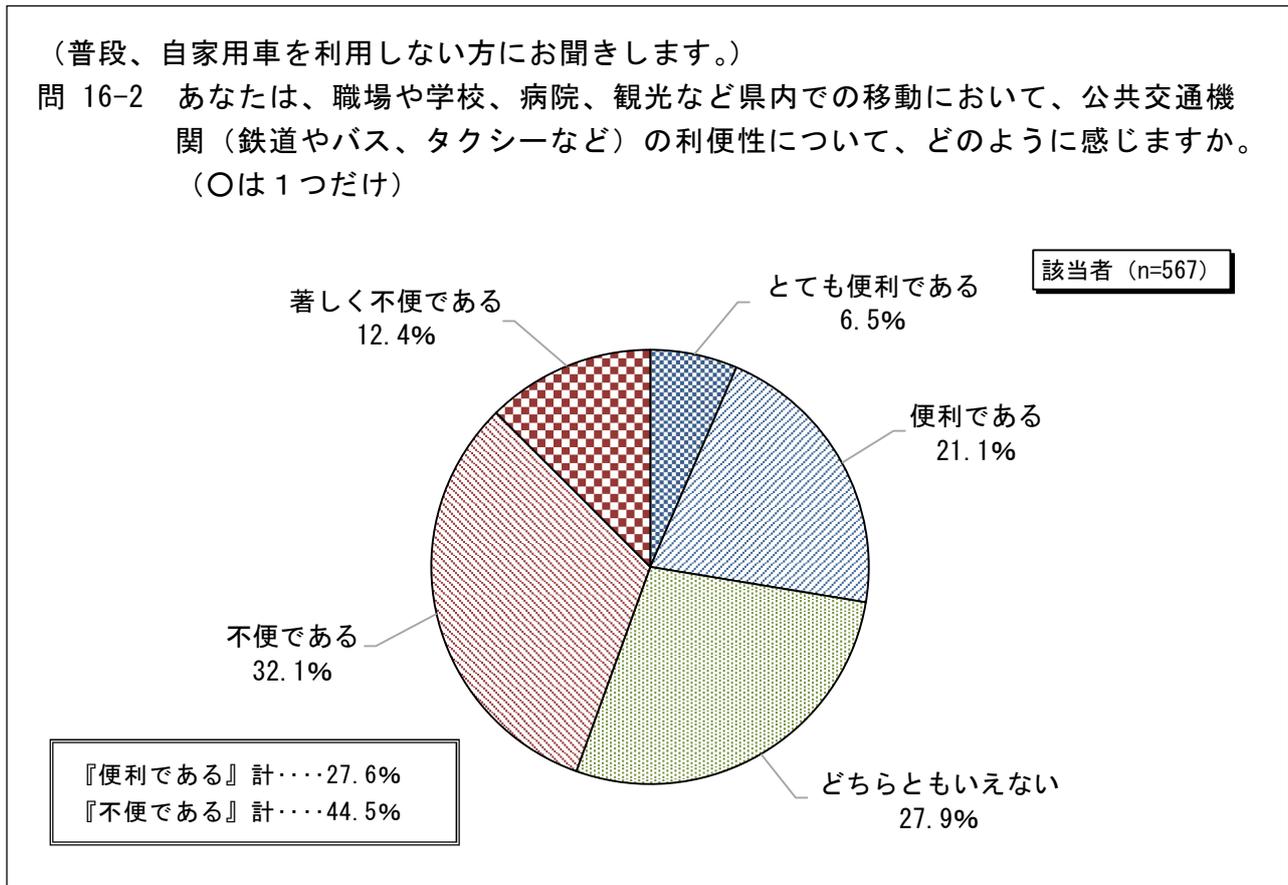
(1) 移動手段の確保状況 (全体/属性別)



(2) 公共交通機関の利便性

(普段、自家用車を利用しない方にお聞きします。)

問 16-2 あなたは、職場や学校、病院、観光など県内での移動において、公共交通機関(鉄道やバス、タクシーなど)の利便性について、どのように感じますか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

「とても便利である」と「便利である」を合計した『便利である』計の割合は 27.6% となり、3割弱を占めている。

一方、「不便である」と「著しく不便である」を合計した『不便である』計 (44.5%) は4割半ばを占め、『便利である』を上回っている。

【性別】

『便利である』計 (男性 25.3%、女性 29.6%) の割合は、女性が高くなっている。

【年齢別】

該当者数が少ないため、図表のみの掲載とする。

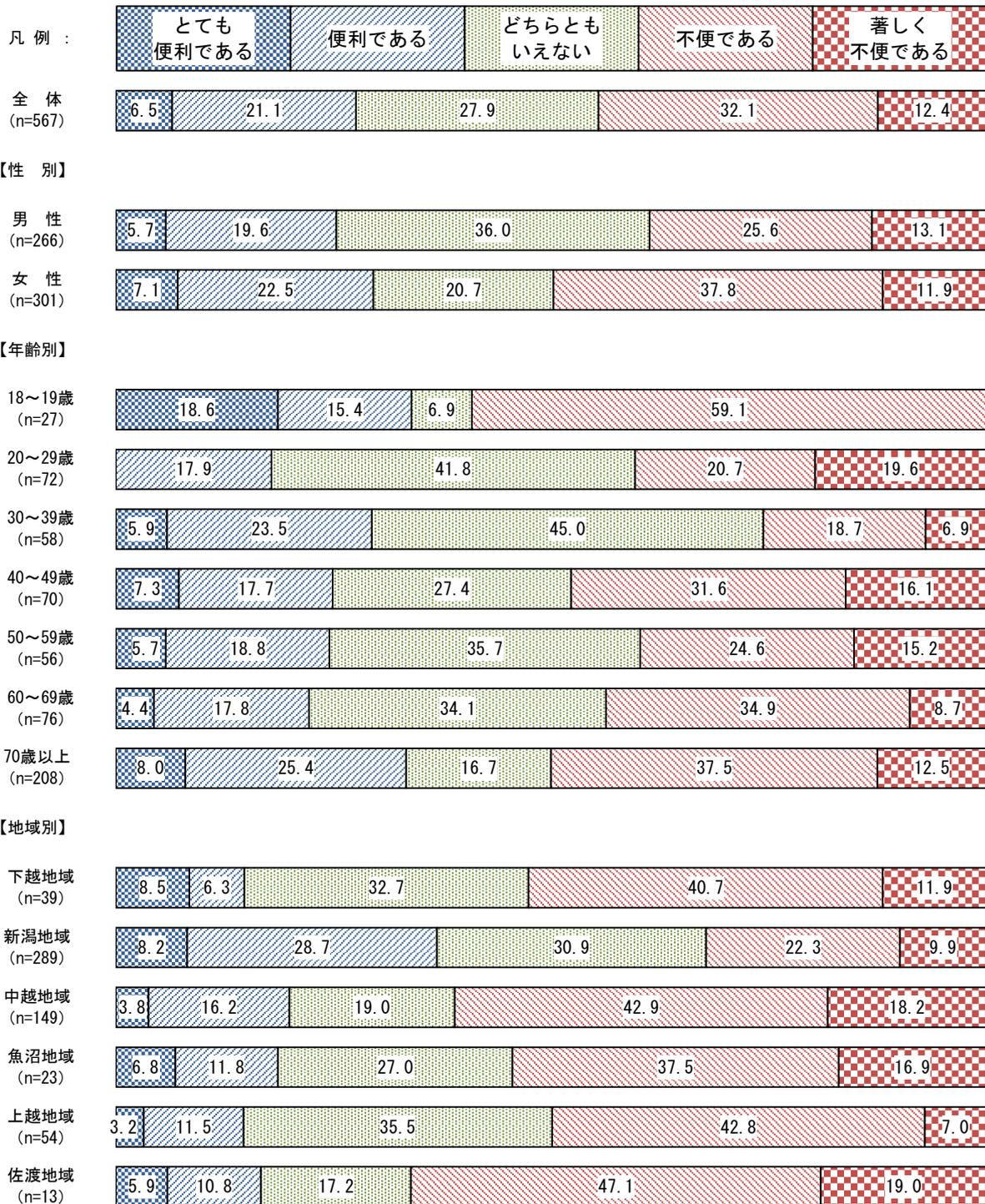
【地域別】

該当者数が少ないため、図表のみの掲載とする。

	『便利である』計	『不便である』計
全体 (n=567)	27.6%	44.5%
【性別】		
男性 (n=266)	25.3%	38.7%
女性 (n=301)	29.6%	49.7%
【年齢別】		
18～19歳 (n=27)	34.0%	59.1%
20～29歳 (n=72)	17.9%	40.3%
30～39歳 (n=58)	29.4%	25.6%
40～49歳 (n=70)	24.9%	47.7%
50～59歳 (n=56)	24.5%	39.7%
60～69歳 (n=76)	22.2%	43.6%
70歳以上 (n=208)	33.4%	50.0%

	『便利である』計	『不便である』計
【地域別】		
下越地域 (n=39)	14.8%	52.6%
新潟地域 (n=289)	36.9%	32.2%
中越地域 (n=149)	20.0%	61.0%
魚沼地域 (n=23)	18.6%	54.4%
上越地域 (n=54)	14.7%	49.9%
佐渡地域 (n=13)	16.7%	66.1%

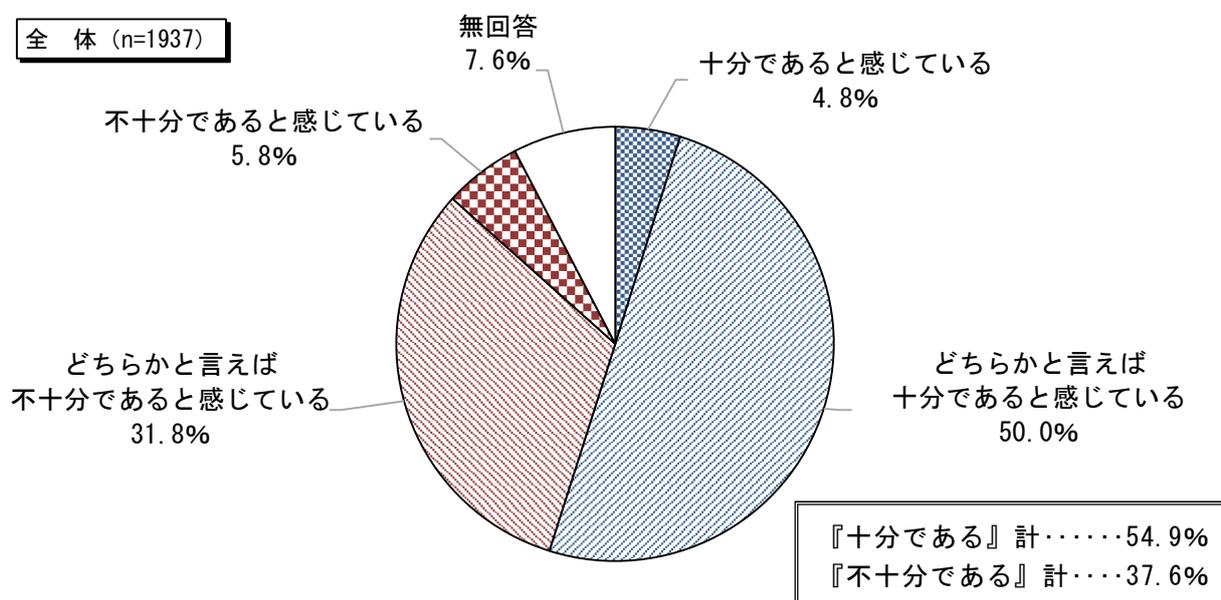
(2) 公共交通機関の利便性 (全体/属性別)



17. 教育について

(1) 「一人一人の個性や能力を伸ばす教育」に関する取組について

問 17-1 あなたは、こどもたちの確かな学力の育成や魅力ある学校づくりなど、「一人一人の個性や能力を伸ばす教育」に関する取組について、どのように感じていますか。(〇は1つだけ)



※ 「一人一人の個性や能力を伸ばす教育」の推進に向けた県の主な取組

県教育委員会では、「一人一人の個性や能力を伸ばす教育」として、次のような取組を行っています。

- ①こどもたちの確かな学力の育成、②教員確保の取組、③学びにおける ICT の活用、
- ④教員の資質能力の向上、⑤魅力ある学校づくり、⑥グローバル社会に対応した教育の推進、
- ⑦私学教育の振興、⑧キャリア教育（自分の将来を設計し自立して生きていく力等の育成）の推進

【全体結果】

「十分であると感じている」と「どちらかと言えば十分であると感じている」を合計した『十分である』計の割合は 54.9%と、5割半ばを占めている。

一方、「不十分であると感じている」と「どちらかと言えば不十分であると感じている」を合計した「不十分である」計は 37.6%と、4割弱を占めている。

【性別】

性別での大きな差はみられない。

【年齢別】

『十分である』計の割合は、10代（67.8%）が最も高くなっている。

【地域別】

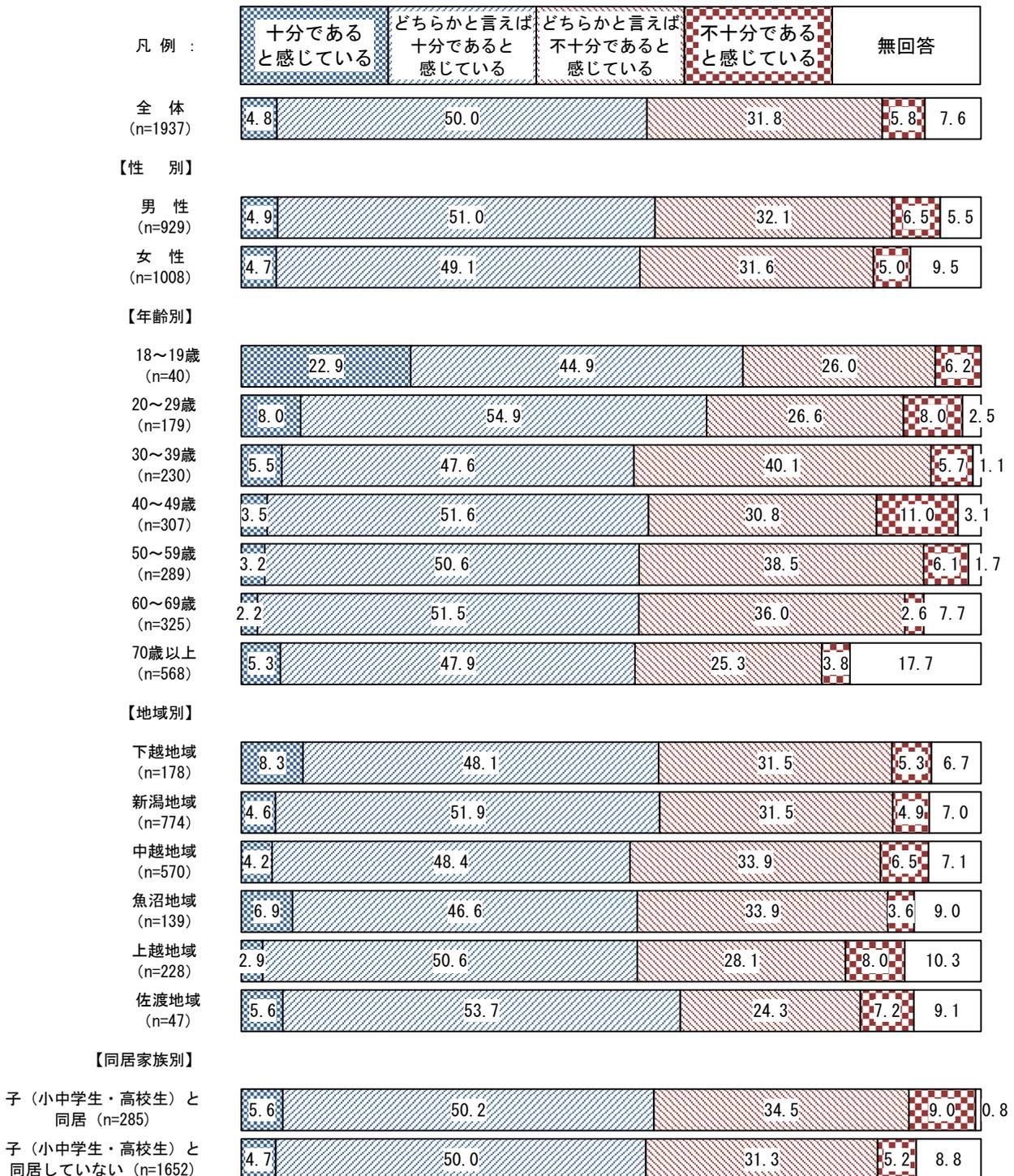
『十分である』計の割合は、佐渡地域（59.3%）が最も高くなっている。

【同居家族別】

『十分である』計の割合は、子（小中学生・高校生）と同居している人（55.8%）と同居していない人（54.7%）での大きな差はみられない。

		『十分である』計	『不十分である』計			『十分である』計	『不十分である』計
全体 (n=1937)		54.9%	37.6%	【地域別】	下越地域 (n=178)	56.4%	36.9%
【性別】	男性 (n=929)	55.9%	38.6%		新潟地域 (n=774)	56.5%	36.5%
	女性 (n=1008)	53.9%	36.6%		中越地域 (n=570)	52.5%	40.4%
【年齢別】	18～19歳 (n=40)	67.8%	32.2%	魚沼地域 (n=139)	53.5%	37.4%	
	20～29歳 (n=179)	62.9%	34.6%	上越地域 (n=228)	53.5%	36.1%	
	30～39歳 (n=230)	53.1%	45.8%	佐渡地域 (n=47)	59.3%	31.6%	
	40～49歳 (n=307)	55.0%	41.8%	【同居家族別】	子(小中学生・高校生)と同居 (n=285)	55.8%	43.5%
	50～59歳 (n=289)	53.8%	44.5%		子(小中学生・高校生)と同居していない (n=1652)	54.7%	36.5%
	60～69歳 (n=325)	53.7%	38.5%				
	70歳以上 (n=568)	53.2%	29.1%				

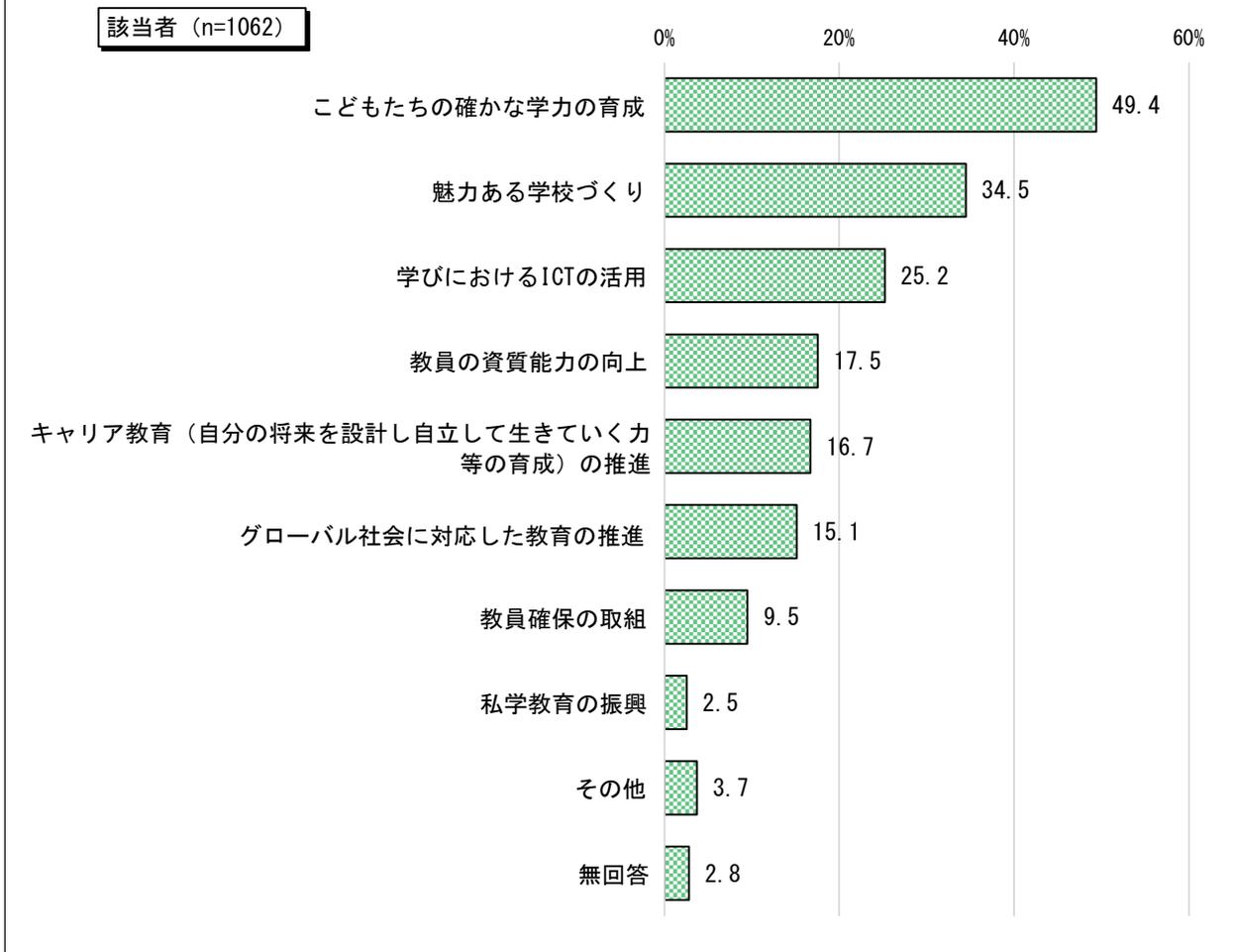
(1) 「一人一人の個性や能力を伸ばす教育」に関する取組について (全体/属性別)



(2) 十分であると感じた取組

(問 17-1 で「1 十分であると感じている」又は「2 どちらかと言えば十分であると感じている」に○をつけた方だけにお聞きします。)

問 17-2 十分であると感じた取組は、どの取組ですか。(○はいくつでも)



【全体結果】

「こどもたちの確かな学力の育成」(49.4%)の割合が最も高く約5割となった。以下「魅力ある学校づくり」(34.5%)、「学びにおけるICTの活用」(25.2%)と続いている。

【性別】

「魅力ある学校づくり」(男性 39.9%、女性 29.3%)の割合は、男性の方が高くなっている。

【年齢別】

全体結果の上位3つの項目についてみると、「こどもたちの確かな学力の育成」、「魅力ある学校づくり」は70歳以上(各58.6%、44.0%)が、「学びにおけるICTの活用」は10代(52.2%)が最も割合が高くなっている。

【地域別】

同じく全体結果の上位3つの項目についてみると、「こどもたちの確かな学力の育成」、「学びにおけるICTの活用」は中越地域（各 54.2%、27.0%）が、「魅力ある学校づくり」は佐渡地域（46.8%）が最も高くなっている。

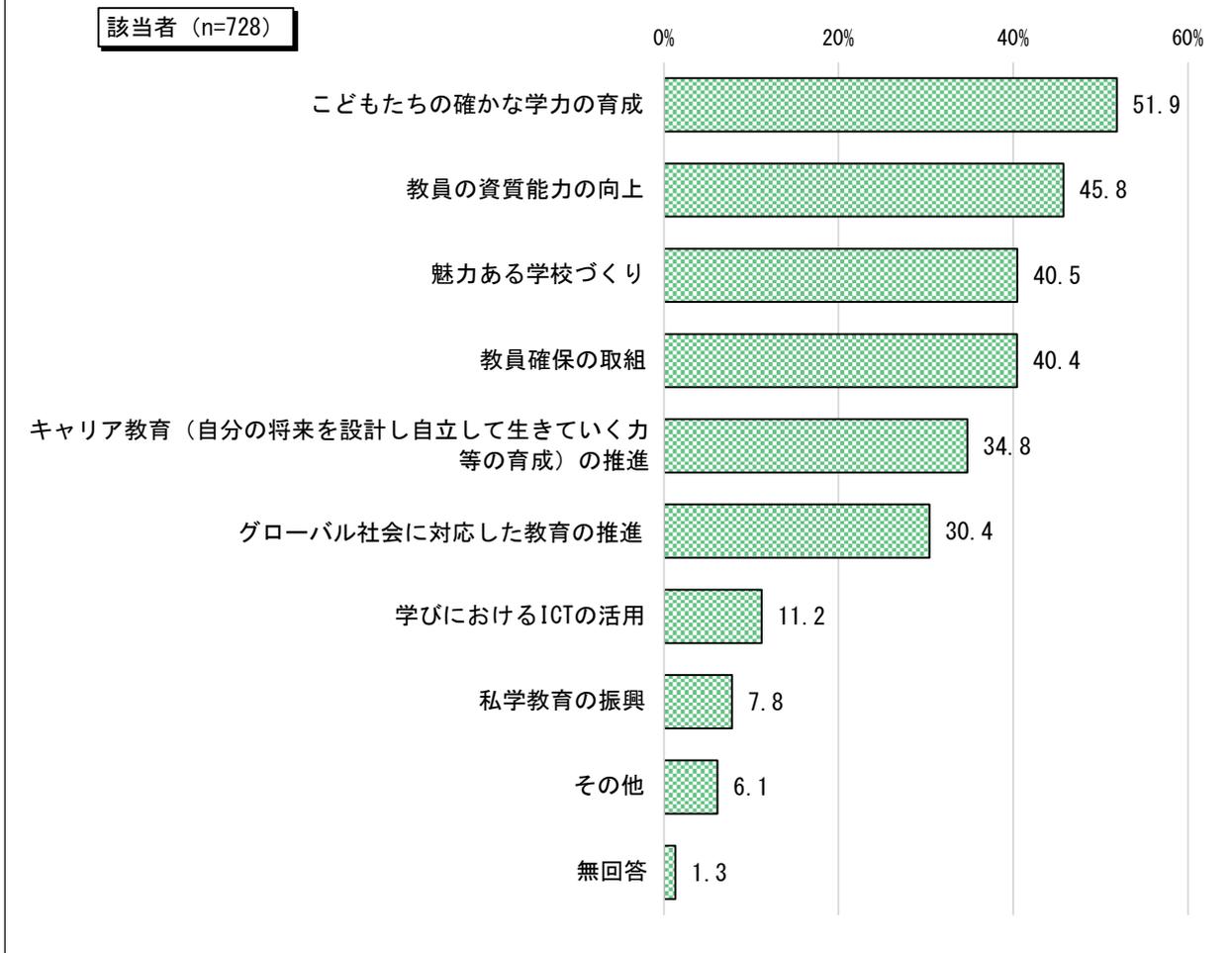
(2) 十分であると感じた取組（全体／属性別）

割合 (%)	こどもたちの確かな学力の育成	魅力ある学校づくり	学びにおけるICTの活用	教員の資質能力の向上	推進 自立して生きていく力の将来を設計し	進 グローバル社会に対応した教育の推	教員確保の取組	私学教育の振興	その他	無回答
全体 (n=1062)	49.4	34.5	25.2	17.5	16.7	15.1	9.5	2.5	3.7	2.8
【性別】										
男性 (n=520)	50.0	39.9	26.1	19.3	17.3	14.2	10.0	2.5	3.2	2.5
女性 (n=543)	48.8	29.3	24.4	15.8	16.1	16.0	9.0	2.6	4.2	3.0
【年齢別】										
18～19歳 (n=27)	56.1	22.4	52.2	7.6	31.4	20.8	8.5	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=112)	39.3	31.6	27.6	3.7	20.2	11.8	5.2	1.4	0.0	0.5
30～39歳 (n=122)	41.0	23.8	22.3	13.7	13.8	13.5	5.6	0.0	9.3	0.0
40～49歳 (n=169)	43.5	24.7	30.3	16.9	15.1	14.4	7.4	0.9	4.6	2.3
50～59歳 (n=155)	45.6	32.8	25.4	12.4	15.0	18.8	8.1	1.3	5.6	2.6
60～69歳 (n=175)	54.0	40.4	22.6	18.9	17.5	15.8	9.7	5.0	2.2	1.1
70歳以上 (n=302)	58.6	44.0	21.6	27.3	16.5	14.6	14.5	4.3	2.6	6.4
【地域別】										
下越地域 (n=101)	51.8	30.4	24.0	22.3	10.5	16.2	13.0	2.1	5.2	2.1
新潟地域 (n=438)	46.5	32.5	26.4	15.9	16.9	15.3	8.1	2.0	4.3	3.2
中越地域 (n=300)	54.2	35.1	27.0	18.5	15.4	14.8	8.9	3.2	2.5	1.1
魚沼地域 (n=74)	43.5	37.9	19.4	19.5	20.9	18.7	15.5	1.3	3.6	5.0
上越地域 (n=122)	50.2	38.8	22.2	15.1	21.7	13.0	8.7	4.1	3.7	4.7
佐渡地域 (n=28)	46.9	46.8	21.1	20.9	17.7	11.1	13.1	1.0	2.2	2.8

(3) 不十分であると感じた取組

(問 17-1 で「3 どちらかと言えば不十分と感じている」又は「4 不十分であると感じている」に○をつけた方だけにお聞きします。)

問 17-3 不十分であると感じた取組は、どの取組ですか。(○はいくつでも)



【全体結果】

「こどもたちの確かな学力の育成」(51.9%)の割合が最も高く約5割となった。以下「教員の資質能力の向上」(45.8%)、「魅力ある学校づくり」(40.5%)、「教員確保の取組」(40.4%)と続いている。

【性別】

「こどもたちの確かな学力の育成」(男性 53.7%、女性 50.1%)の割合は、男性の方が高くなっている。一方、「教員の資質能力の向上」(男性 42.6%、女性 48.9%)と「魅力ある学校づくり」(男性 38.4%、女性 42.5%)の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】

「こどもたちの確かな学力の育成」の割合は、10代(65.2%)が最も高くなっている。「教員の資質能力の向上」は70歳以上(52.5%)、「魅力ある学校づくり」は60代(48.8%)が最も割合が高くなっている。

【地域別】

全体結果の上位3つの項目についてみると、「こどもたちの確かな学力の育成」は、下越地域（61.0%）、「教員の資質能力の向上」は、新潟地域（50.7%）、「魅力ある学校づくり」は魚沼地域（46.1%）が最も割合が高くなっている。

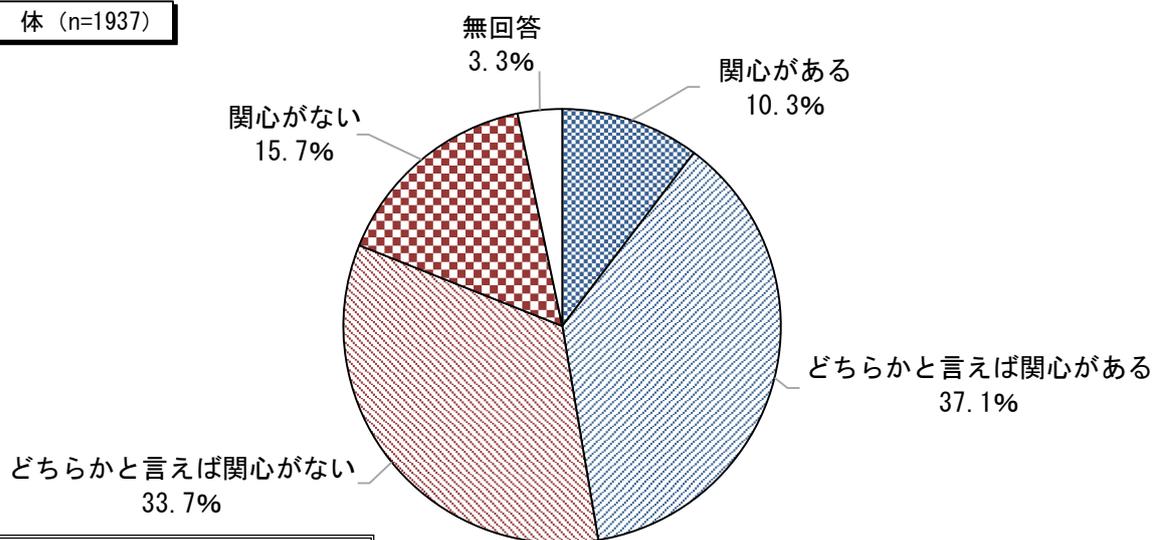
（3）不十分であると感じた取組（全体／属性別）

割合（%）	こどもたちの確かな学力の育成	教員の資質能力の向上	魅力ある学校づくり	教員確保の取組	推進 自立して生きていく力の育成（自分の将来を設計し キャリア教育（自らの将来を設計し 進グローバル社会に対応した教育の推 学びにおけるICTの活用	私学教育の振興	その他	無回答		
全体 (n=728)	51.9	45.8	40.5	40.4	34.8	30.4	11.2	7.8	6.1	1.3
【性別】										
男性 (n=359)	53.7	42.6	38.4	37.0	34.4	29.7	13.1	8.2	7.8	2.1
女性 (n=369)	50.1	48.9	42.5	43.8	35.1	31.2	9.3	7.4	4.5	0.5
【年齢別】										
18～19歳 (n=13)	65.2	32.5	46.5	4.6	36.9	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=62)	51.5	26.8	33.4	38.1	36.9	35.4	12.5	10.0	10.6	0.0
30～39歳 (n=105)	53.1	41.7	39.9	47.9	39.0	26.0	10.2	0.7	3.8	0.0
40～49歳 (n=128)	58.0	42.0	30.2	38.4	38.8	36.2	17.2	8.9	6.8	3.2
50～59歳 (n=129)	48.8	51.4	46.3	41.9	29.6	29.2	12.5	10.2	5.3	0.6
60～69歳 (n=125)	46.4	49.1	48.8	41.1	32.4	34.4	10.4	8.8	8.9	0.2
70歳以上 (n=165)	52.0	52.5	40.2	39.3	33.8	26.0	7.1	8.6	4.5	2.8
【地域別】										
下越地域 (n=66)	61.0	42.0	43.9	40.2	41.0	29.0	11.7	3.7	1.6	1.1
新潟地域 (n=282)	56.0	50.7	36.2	38.1	34.1	32.7	13.2	10.7	5.3	0.7
中越地域 (n=230)	48.7	46.2	45.5	42.8	29.9	27.7	8.3	6.8	9.0	2.3
魚沼地域 (n=52)	50.4	34.6	46.1	36.6	40.0	27.3	9.2	4.5	3.6	1.5
上越地域 (n=83)	41.9	37.7	36.5	44.2	43.5	35.9	12.3	6.0	5.0	0.0
佐渡地域 (n=15)	43.8	46.2	31.7	42.1	27.9	16.4	16.6	7.2	12.5	6.3

(4) 教育に関する取組への関心

問 17-4 あなたは、新潟県教育委員会や各学校が行う教育に関する取組に関心はありますか。(○は1つだけ)

全 体 (n=1937)



『関心がある』計……47.4%

『関心がない』計……49.4%

【全体結果】

「関心がある」と「どちらかと言えば関心がある」を合計した『関心がある』計の割合は 47.4%、「関心がない」と「どちらかと言えば関心がない」を合計した「関心がない」計は 49.4%と、ほとんど差がなく、いずれも約5割を占めている。

【性別】

性別での大きな差はみられない。

【年齢別】

『関心がある』計の割合は、40代（54.5%）が最も高くなっている。

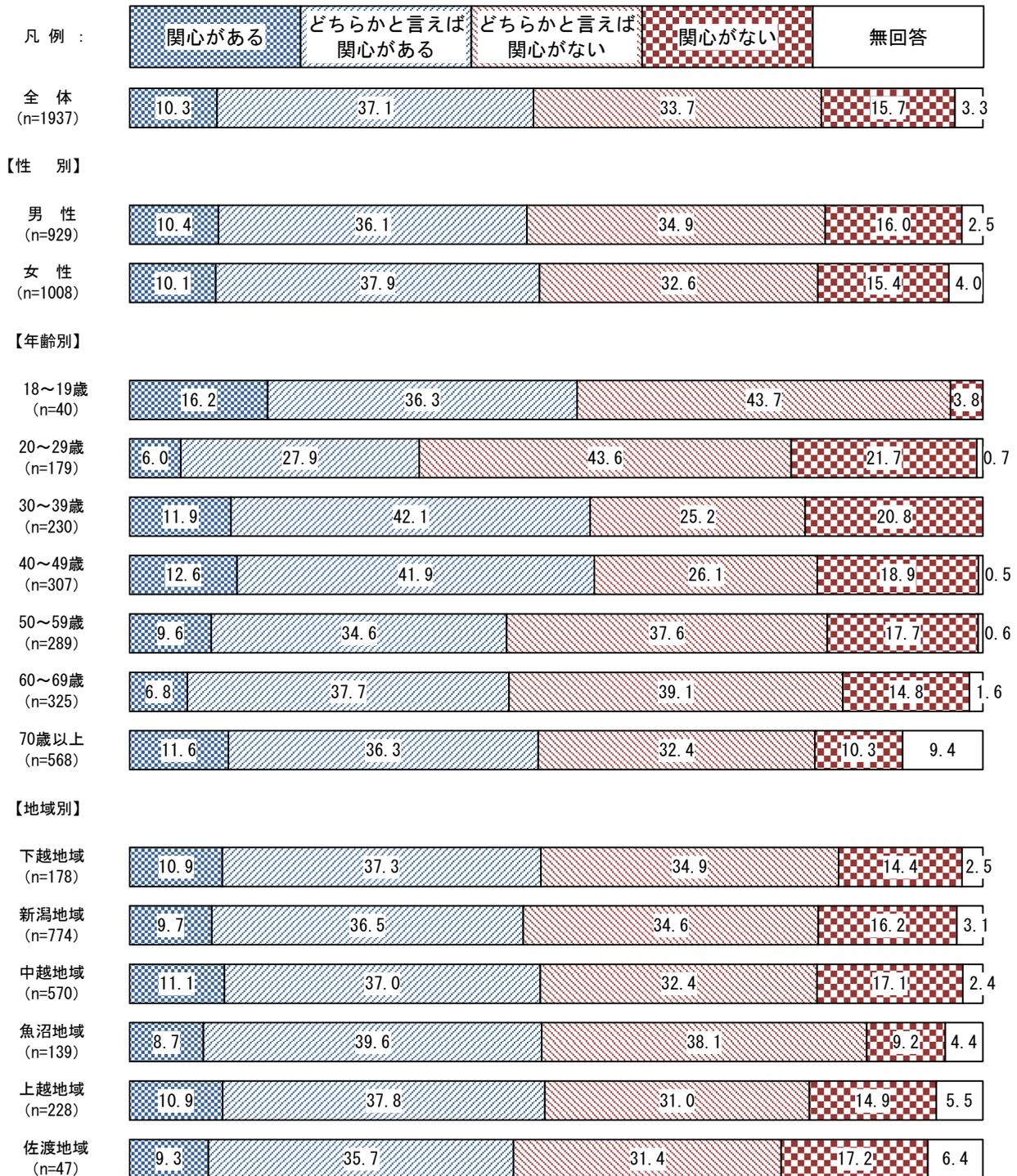
【地域別】

『関心がある』計の割合は、上越地域（48.7%）が最も高くなっている。

	『関心がある』計	『関心がない』計
全体 (n=1937)	47.4%	49.4%
【性別】		
男性 (n=929)	46.6%	51.0%
女性 (n=1008)	48.1%	47.9%
【年齢別】		
18～19歳 (n=40)	52.5%	47.5%
20～29歳 (n=179)	34.0%	65.3%
30～39歳 (n=230)	54.0%	46.0%
40～49歳 (n=307)	54.5%	45.0%
50～59歳 (n=289)	44.2%	55.2%
60～69歳 (n=325)	44.5%	54.0%
70歳以上 (n=568)	47.9%	42.7%

	『関心がある』計	『関心がない』計
【地域別】		
下越地域 (n=178)	48.2%	49.3%
新潟地域 (n=774)	46.1%	50.8%
中越地域 (n=570)	48.2%	49.5%
魚沼地域 (n=139)	48.3%	47.3%
上越地域 (n=228)	48.7%	45.8%
佐渡地域 (n=47)	45.0%	48.5%

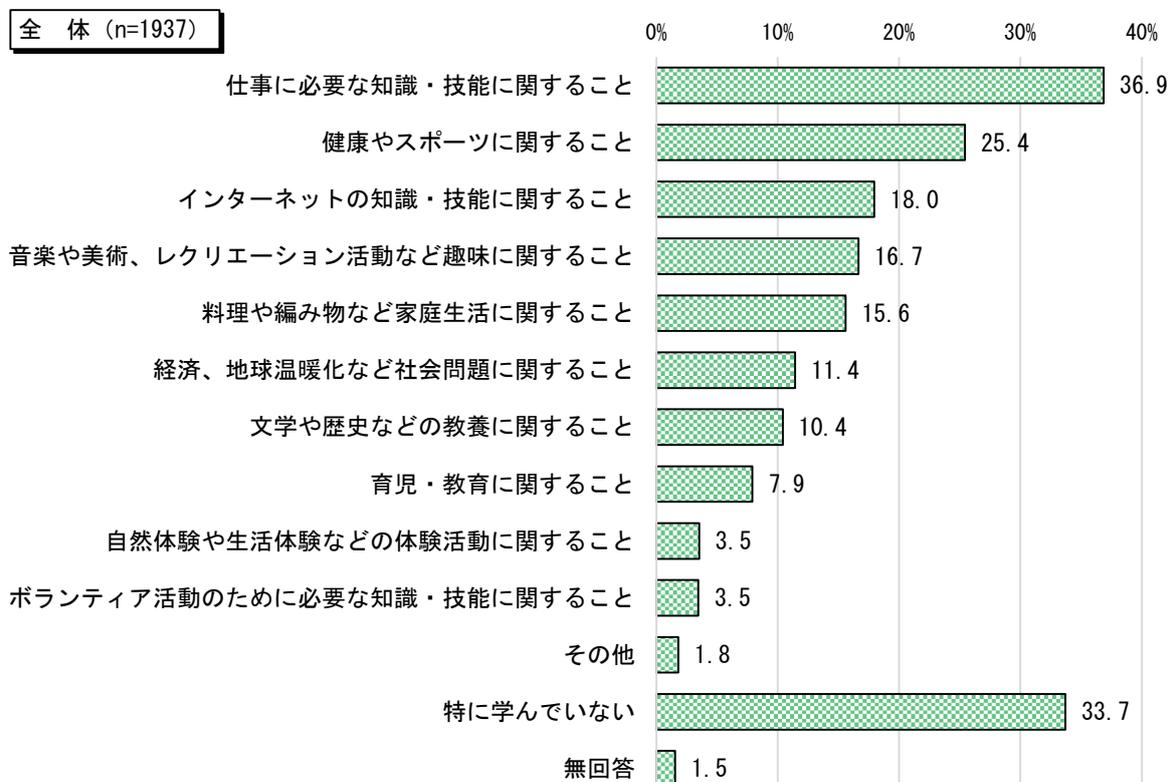
(4) 教育に関する取組への関心 (全体／属性別)



18. 生涯学習について

(1) この1年間の学習状況

問 18-1 あなたは、この1年間に、月に1回以上どのようなことを学びましたか。
(○はいくつでも。ただし、特に学んでいない場合、○は12のみ)



【全体結果】

「仕事に必要な知識・技能に関すること」(36.9%)の割合が最も高く3割半ばとなった。以下、「特に学んでいない」(33.7%)、「健康やスポーツに関すること」(25.4%)、「インターネットの知識・技能に関すること」(18.0%)、「音楽や美術、レクリエーション活動など趣味に関すること」(16.7%)、「料理や編み物など家庭生活に関すること」(15.6%)と続いている。

【性別】

「特に学んでいない」を除く、全体結果の上位3つの項目についてみると、「仕事に必要な知識・技能に関すること」(男性47.0%、女性27.5%)、「健康やスポーツに関すること」(男性27.1%、女性23.9%)、「インターネットの知識・技能に関すること」(男性24.7%、女性11.8%)の3項目すべての割合は、女性より男性の方が高くなっている。

【年齢別】

「特に学んでいない」を除く、全体結果の上位3つの項目についてみると、「仕事に必要な知識・技能に関すること」は20代(66.2%)、「健康やスポーツに関すること」と「インターネットの知識・技術に関すること」は10代(各43.6%、37.9%)が最も割合が高くなっている。「特に学んでいない」は70歳以上で高く4割を超えている。

【地域別】

「特に学んでいない」を除く、全体結果の上位3つの項目についてみると、「仕事に必要な知識・技能に関すること」、「インターネットの知識・技能に関すること」は中越地域（各 38.4%、19.7%）、「健康やスポーツに関すること」は新潟地域（26.6%）が最も割合が高くなっている。「特に学んでいない」は魚沼地域（42.0%）が最も割合が高くなっている。

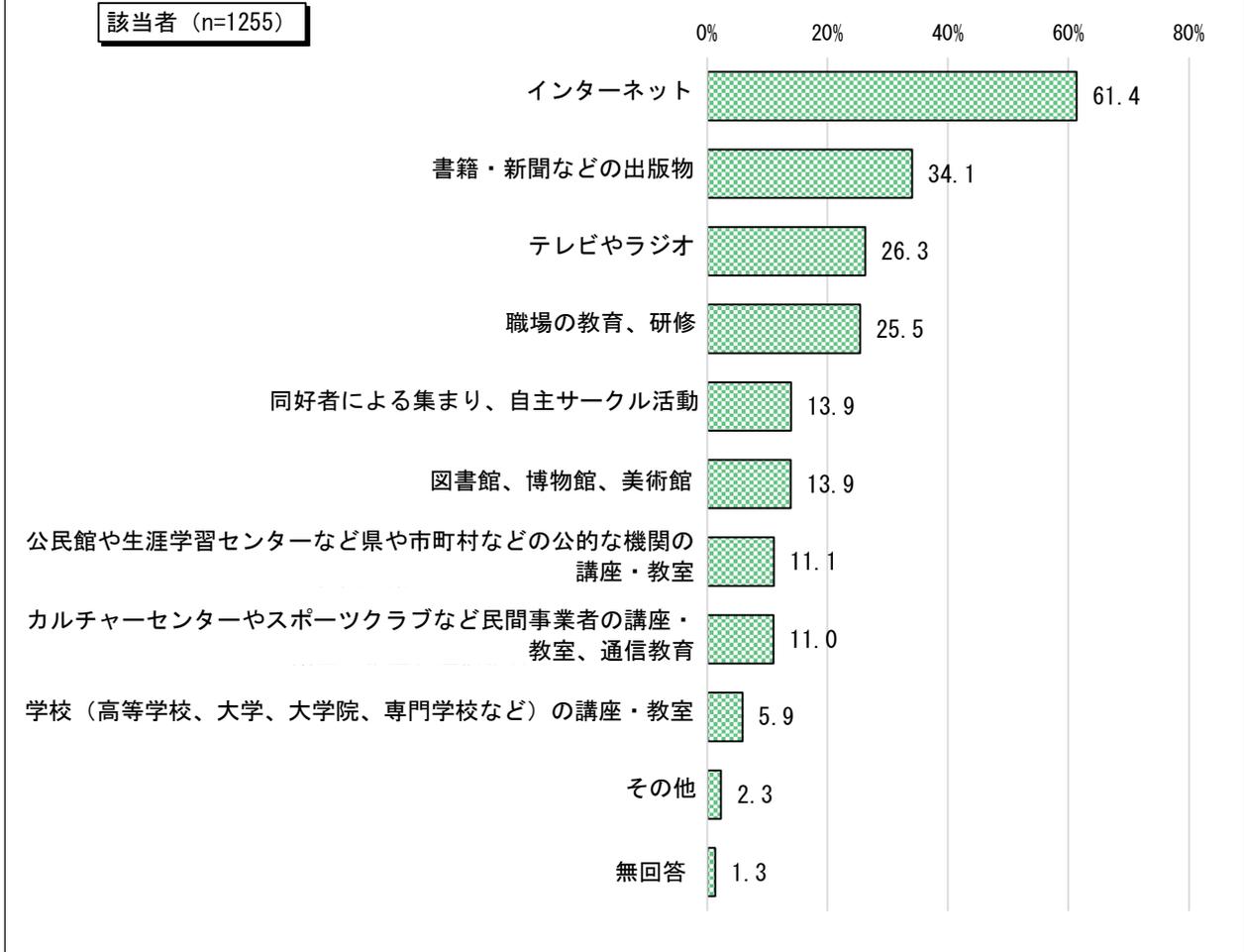
(1) この1年間の学習状況（全体／属性別）

割合 (%)	仕事に必要な知識・技能に関すること	健康やスポーツに関すること	インターネットの知識・技能に関すること	音楽や美術、レクリエーション活動など趣味に関すること	料理や編み物など家庭生活に関すること	経済、地球温暖化など社会問題に関すること	文学や歴史などの教養に関すること	育児・教育に関すること	自然体験や生活体験などの体験活動に関すること	ボランティア活動のために必要な知識・技能に関すること	その他	特に学んでいない	無回答
全体 (n=1937)	36.9	25.4	18.0	16.7	15.6	11.4	10.4	7.9	3.5	3.5	1.8	33.7	1.5
【性別】													
男性 (n=929)	47.0	27.1	24.7	13.7	8.7	14.3	11.3	4.3	4.4	4.4	1.3	31.0	1.5
女性 (n=1008)	27.5	23.9	11.8	19.3	22.0	8.8	9.6	11.2	2.7	2.6	2.3	36.2	1.5
【年齢別】													
18～19歳 (n=40)	59.3	43.6	37.9	20.5	23.2	38.1	18.3	16.1	12.7	6.7	7.1	0.0	0.0
20～29歳 (n=179)	66.2	20.7	27.5	20.4	21.3	15.0	6.5	11.0	3.3	1.0	1.9	18.4	0.2
30～39歳 (n=230)	59.4	31.2	25.5	19.0	18.6	13.7	11.9	20.0	4.8	0.8	0.9	18.9	0.0
40～49歳 (n=307)	52.8	26.8	22.0	19.1	16.6	12.2	10.6	16.5	3.8	2.3	2.4	26.6	0.1
50～59歳 (n=289)	46.5	23.5	18.6	15.9	11.4	8.3	12.5	4.6	4.2	2.3	1.3	34.4	0.2
60～69歳 (n=325)	27.1	22.6	15.2	14.9	15.9	8.4	10.3	2.3	0.5	4.5	2.5	39.1	0.7
70歳以上 (n=568)	9.0	25.1	9.5	14.3	13.5	10.5	9.4	1.7	3.7	5.7	1.3	47.3	4.6
【地域別】													
下越地域 (n=178)	30.6	23.2	14.0	13.0	10.3	13.1	10.1	6.7	1.7	4.1	2.8	40.9	1.9
新潟地域 (n=774)	38.2	26.6	18.4	17.7	17.2	12.4	10.3	8.4	3.6	3.6	1.5	29.7	1.4
中越地域 (n=570)	38.4	25.2	19.7	18.3	16.2	11.8	11.5	6.9	3.6	2.4	1.5	34.6	1.2
魚沼地域 (n=139)	32.9	23.4	13.4	8.5	13.7	10.3	12.0	6.8	4.4	2.7	3.8	42.0	1.1
上越地域 (n=228)	36.8	25.0	18.2	15.7	13.2	5.9	7.1	10.0	3.4	5.6	1.5	34.1	2.7
佐渡地域 (n=47)	31.6	26.2	16.9	21.9	19.6	15.1	11.5	11.3	6.8	3.4	2.2	34.7	2.6

(2) 学習した場所・形態

(問 18-1 で、1 から 11 に○をつけた方だけにお聞きします。)

問 18-2 この1年間に、主にどのような場所や形態で学びましたか。(○はいくつでも)



【全体結果】

「インターネット」(61.4%)の割合が最も高く約6割となった。以下、「書籍・新聞などの出版物」(34.1%)、「テレビやラジオ」(26.3%)、「職場の教育、研修」(25.5%)と続いている。

【性別】

全体結果の上位3つの項目についてみると、「インターネット」(男性 69.9%、女性 52.8%)、「書籍・新聞などの出版物」(男性 36.4%、女性 31.7%)の割合は男性の方が、高くなっている。一方、「テレビやラジオ」(男性 25.1%、女性 27.4%)の割合は、女性の方が高くなっている。

【年齢別】

全体結果の上位3つの項目について、「インターネット」は30代(80.5%)が最も割合が高く、70歳以上(28.0%)で最も割合が低くなっている。「書籍・新聞などの出版物」、「テレビやラジオ」は70歳以上(各42.4%、42.8%)が最も割合が高くなっている。

【地域別】

同じく全体結果の上位3つの項目についてみると、「インターネット」は中越地域（63.3%）、「書籍・新聞などの出版物」と「テレビやラジオ」は佐渡地域（各 38.2%、39.2%）の割合が最も高くなっている。

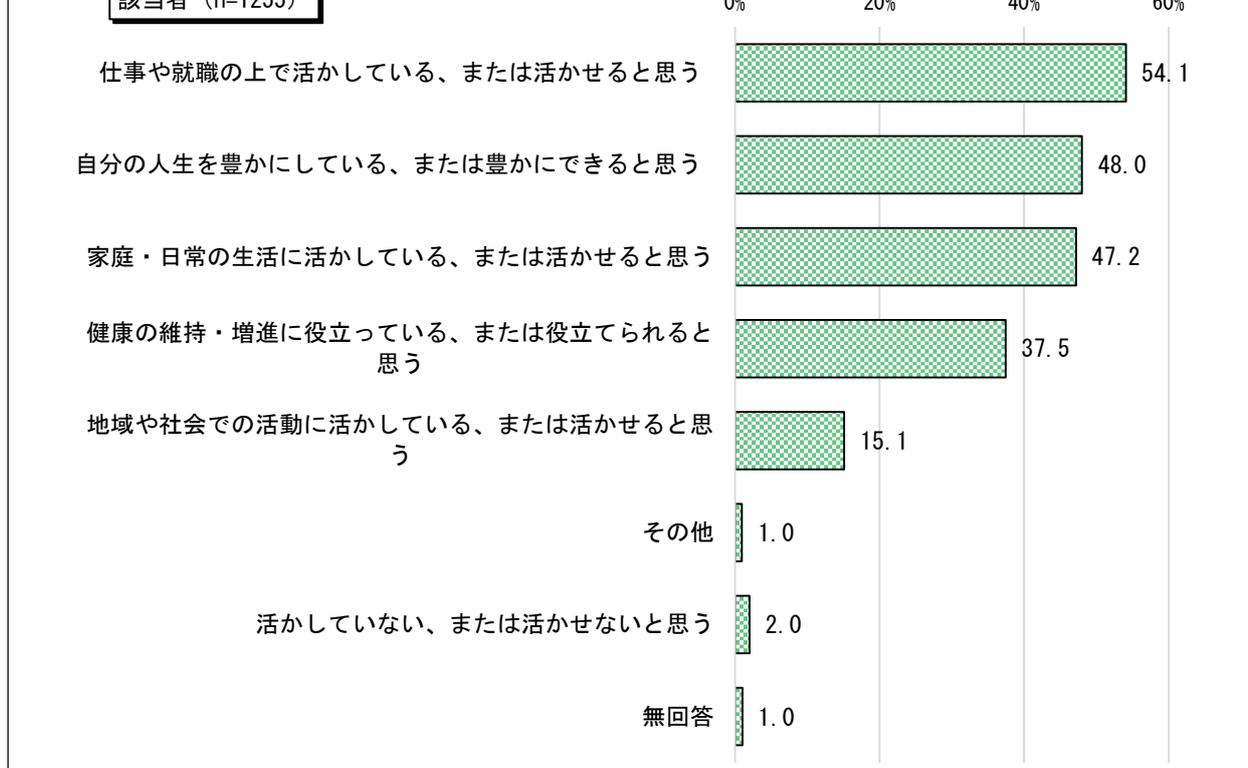
（2）学習した場所・形態（全体／属性別）

割合 (%)	インターネット	書籍・新聞などの出版物	テレビやラジオ	職場の教育、研修	活動 同好者による集まり、自主サークル	図書館、博物館、美術館	市民館や生涯学習センターなどの公的な機関の講座・教室・講座・教室・講座・教室・講座・教室	公民館や生涯学習センターなどの講座・教室・講座・教室	カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間事業者の講座・教室・講座・教室	信教育	学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の講座・教室	その他	無回答
全体 (n=1255)	61.4	34.1	26.3	25.5	13.9	13.9	11.1	11.0	5.9	2.3	1.3		
【性別】													
男性 (n=627)	69.9	36.4	25.1	27.2	10.1	10.8	9.6	6.8	5.1	2.2	1.4		
女性 (n=628)	52.8	31.7	27.4	23.7	17.8	17.0	12.6	15.2	6.7	2.5	1.3		
【年齢別】													
18～19歳 (n=40)	63.3	14.7	13.8	3.8	0.0	6.7	4.3	5.2	71.9	0.0	0.0		
20～29歳 (n=145)	72.0	25.7	10.7	40.0	7.2	11.6	5.8	2.3	18.3	4.3	0.0		
30～39歳 (n=186)	80.5	33.3	21.8	31.9	6.3	9.5	5.8	6.6	2.7	5.1	0.0		
40～49歳 (n=225)	74.7	30.7	20.3	35.7	8.4	15.2	5.9	7.6	3.2	0.9	1.6		
50～59歳 (n=189)	76.3	32.7	21.5	33.0	10.0	13.3	5.8	13.6	1.6	1.0	0.6		
60～69歳 (n=195)	51.8	38.6	33.2	24.0	12.9	22.5	10.5	14.2	0.7	2.9	1.8		
70歳以上 (n=273)	28.0	42.4	42.8	3.8	32.8	12.5	26.9	18.3	0.7	1.4	3.1		
【地域別】													
下越地域 (n=102)	58.3	30.5	28.2	23.1	15.4	14.1	13.3	11.4	10.2	0.7	0.6		
新潟地域 (n=534)	61.9	34.5	25.7	24.8	14.0	13.5	9.2	12.7	4.0	3.4	1.5		
中越地域 (n=366)	63.3	36.2	26.2	25.2	14.5	14.6	12.0	10.0	8.0	2.1	1.3		
魚沼地域 (n=79)	60.2	36.7	27.5	30.9	9.6	14.0	10.8	6.7	7.3	2.2	1.5		
上越地域 (n=144)	57.3	27.4	23.9	27.4	11.9	13.0	13.3	10.1	4.3	0.5	1.7		
佐渡地域 (n=29)	61.7	38.2	39.2	24.5	22.2	16.4	16.3	8.4	3.4	1.7	0.0		

(3) 学習成果の活用状況

(問 18-1 で、1 から 11 に○をつけた方だけにお聞きします。)

問 18-3 学んだ成果をどのように活かしている、または活かせると思いますか。(○はいくつでも)



【全体結果】

「仕事や就職の上で活かしている、または活かせると思う」(54.1%)の割合が最も高く、5割半ばとなっている。以下、「自分の人生を豊かにしている、または豊かにできると思う」(48.0%)、「家庭・日常の生活に活かしている、または活かせると思う」(47.2%)、「健康の維持・増進に役立っている、または役立てられると思う」(37.5%)、「地域や社会での活動に活かしている、または活かせると思う」(15.1%)と続いている。

【性別】

全体結果の上位3つの項目についてみると、「仕事や就職の上で活かしている、または活かせると思う」(男性 64.0%、女性 44.2%)は男性の方が、「自分の人生を豊かにしている、または豊かにできると思う」(男性 42.5%、女性 53.5%)、「家庭・日常の生活に活かしている、または活かせると思う」(男性 42.2%、女性 52.3%)は、女性の方が割合が高くなっている。

【年齢別】

全体結果の上位3つの項目についてみると、「仕事や就職の上で活かしている、または活かせると思う」は20代(80.8%)が、「自分の人生を豊かにしている、または豊かにできると思う」は70歳以上(59.6%)が、「家庭・日常の生活に活かしている、または活かせると思う」は10代(59.7%)が最も割合が高くなっている。

【地域別】

全体結果の上位3つの項目についてみると、「仕事や就職の上で活かしている、または活かせると思う」は魚沼地域（56.9%）が、「自分の人生を豊かにしている、または豊かにできると思う」は佐渡地域（54.2%）が、「家庭・日常の生活に活かしている、または活かせると思う」は下越地域（54.7%）が最も割合が高くなっている。

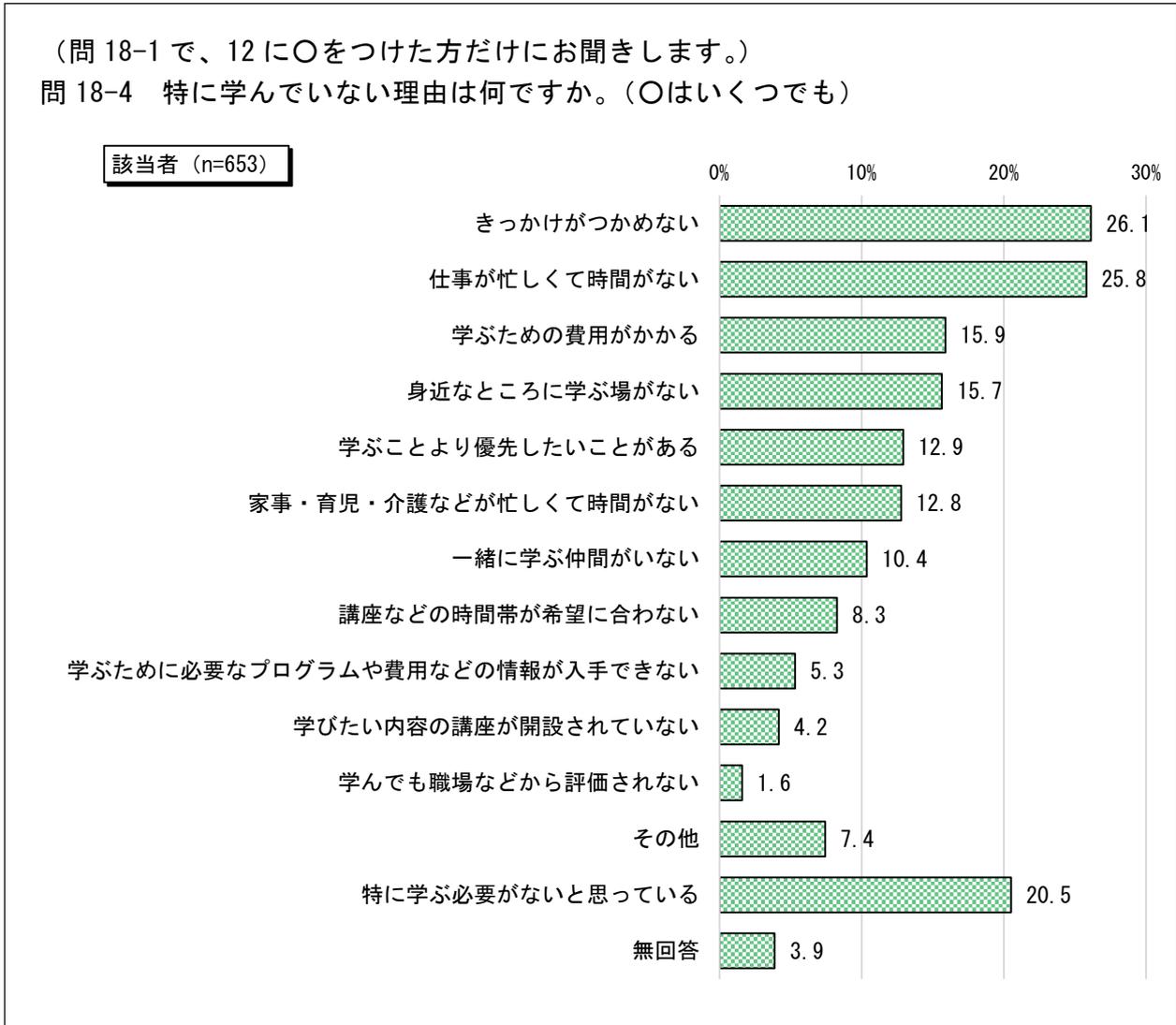
(3) 学習成果の活用状況（全体／属性別）

割合 (%)	仕事や就職の上で活かしている、または活かせると思う	自分の人生を豊かにしている、または豊かにできると思う	家庭・日常の生活に活かしている、または活かせると思う	健康の維持・増進に役立っている、または役立てられると思う	地域や社会での活動に活かしている、または活かせると思う	その他	活かしていない、または活かさないと思う	無回答
全体 (n=1255)	54.1	48.0	47.2	37.5	15.1	1.0	2.0	1.0
【性別】								
男性 (n=627)	64.0	42.5	42.2	34.0	19.3	1.1	2.4	1.1
女性 (n=628)	44.2	53.5	52.3	40.9	11.0	0.9	1.7	1.0
【年齢別】								
18～19歳 (n=40)	60.1	45.3	59.7	17.0	29.6	5.2	4.3	2.4
20～29歳 (n=145)	80.8	42.3	40.3	17.3	11.6	3.1	1.2	0.0
30～39歳 (n=186)	72.9	41.8	51.9	26.1	10.2	0.0	1.1	0.0
40～49歳 (n=225)	69.1	41.0	43.5	30.7	12.8	1.0	5.5	0.0
50～59歳 (n=189)	68.7	44.4	42.2	37.2	12.5	1.3	0.6	0.0
60～69歳 (n=195)	43.9	54.2	50.1	43.0	14.6	0.0	1.1	1.3
70歳以上 (n=273)	11.1	59.6	50.3	60.8	22.4	0.4	1.5	3.5
【地域別】								
下越地域 (n=102)	46.4	52.0	54.7	35.8	16.1	0.0	2.4	1.8
新潟地域 (n=534)	56.2	46.5	45.7	39.4	14.3	0.8	2.1	0.7
中越地域 (n=366)	52.4	48.5	50.8	36.4	15.2	1.3	2.2	1.1
魚沼地域 (n=79)	56.9	50.7	48.5	32.4	14.1	1.7	0.0	0.0
上越地域 (n=144)	54.8	46.8	37.5	36.3	18.6	0.9	1.9	2.5
佐渡地域 (n=29)	53.6	54.2	47.9	40.0	11.4	1.0	1.4	0.0

(4) 学んでいない理由

(問 18-1 で、12 に○をつけた方だけにお聞きします。)

問 18-4 特に学んでいない理由は何ですか。(○はいくつでも)



【全体結果】

「きっかけがつかめない」(26.1%)の割合が最も高く2割半ばとなっている。以下、「仕事が忙しくて時間がない」(25.8%)、「学ぶための費用がかかる」(15.9%)、「身近なところに学ぶ場がない」(15.7%)、「学ぶことより優先したいことがある」(12.9%)と続いている。

【性別】

「仕事が忙しくて時間がない」(男性 28.6%、女性 23.6%)の割合は男性の方が高くなっている。

【年齢別】

全体結果の上位3つの項目についてみると、「きっかけがつかめない」は60代(35.7%)が、「仕事が忙しくて時間がない」は30代(55.6%)が、「学ぶための費用がかかる」は20代(28.5%)が最も割合が高くなっている。

【地域別】

全体結果の上位3つの項目についてみると、「きっかけがつかめない」は下越地域(29.3%)が、「仕事が忙しくて時間がない」、「学ぶための費用がかかる」は中越地域(各31.3%、21.5%)が最も割合が高くなっている。

(4) 学んでいない理由(全体/属性別)

割合(%)	きっかけがつかめない	仕事が忙しくて時間がない	学ぶための費用がかかる	身近なところに学ぶ場がない	学ぶことより優先したいことがある	家事・育児・介護などが忙しくて時間がない	一緒に学ぶ仲間がない	講座などの時間帯が希望に合わない	学ぶために必要なプログラムや費用などの情報が入手できない	学びたい内容の講座が開設されていない	学んでも職場などから評価されない	その他	特に学ぶ必要がないと思っている	無回答
全体 (n=653)	26.1	25.8	15.9	15.7	12.9	12.8	10.4	8.3	5.3	4.2	1.6	7.4	20.5	3.9
【性別】														
男性 (n=288)	24.7	28.6	15.8	15.4	16.4	7.3	8.7	5.2	6.0	4.9	3.0	7.2	22.9	2.2
女性 (n=365)	27.2	23.6	16.0	15.8	10.2	17.1	11.7	10.7	4.8	3.6	0.5	7.6	18.6	5.2
【年齢別】														
18～19歳 (n=00)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20～29歳 (n=33)	14.4	33.5	28.5	0.0	33.2	4.6	17.9	0.0	9.1	6.3	0.0	3.9	9.2	0.0
30～39歳 (n=43)	19.5	55.6	25.0	22.6	15.9	40.0	11.5	19.3	5.5	3.9	1.7	6.8	13.3	0.0
40～49歳 (n=82)	27.1	48.7	25.6	11.7	10.1	25.7	5.8	11.4	1.9	3.8	5.4	1.7	12.6	2.7
50～59歳 (n=99)	28.6	43.3	20.2	19.1	13.2	20.7	9.9	10.4	8.7	4.4	1.7	1.2	13.3	0.0
60～69歳 (n=127)	35.7	25.6	19.4	17.3	16.4	10.7	10.4	11.2	8.6	5.1	1.7	4.1	15.8	2.1
70歳以上 (n=268)	22.9	6.7	6.7	15.6	9.1	3.4	10.8	4.4	3.0	3.5	0.5	13.6	30.4	7.7
【地域別】														
下越地域 (n=73)	29.3	24.2	13.8	17.6	9.4	15.8	12.1	6.2	8.1	6.4	0.0	5.3	19.1	3.9
新潟地域 (n=230)	26.1	24.1	16.0	13.8	10.4	9.8	9.7	5.8	5.1	3.0	1.2	7.1	22.0	4.9
中越地域 (n=197)	27.4	31.3	21.5	18.6	18.7	14.4	12.4	11.2	6.4	6.0	2.9	8.2	15.9	1.7
魚沼地域 (n=58)	23.8	25.7	10.9	16.7	10.0	16.1	10.9	7.9	1.9	3.7	1.2	5.6	20.2	7.6
上越地域 (n=78)	23.3	21.2	9.2	11.3	12.1	13.3	5.5	11.1	3.0	1.7	0.9	7.4	27.4	4.7
佐渡地域 (n=16)	20.2	12.7	5.9	14.9	9.0	6.8	9.9	5.1	6.8	2.2	2.6	19.3	30.2	0.0

《これまでの居住の状況等についてお聞きします》

問 2-1 あなたのこれまでの居住の状況について、次の中から当てはまるものを選んでください。(○は1つだけ)

- 1 新潟県出身であり、これまで県外で暮らしたことはない
- 2 新潟県出身であり、転勤や家族の都合などの理由で一時的に県外に住んだこともあるが、基本的には新潟県内で暮らしてきた
- 3 新潟県出身であり、進学や就職のため県外に住んでいたことはあるが、新潟県に U ターンした
- 4 県外出身であり、進学や転勤、家族の都合などの理由で一時的に新潟県に住んでいるが、卒業や次の転勤などのタイミングで出身地又は新潟県以外の地域に移る予定
- 5 県外出身であり、進学のため新潟県内に住んでいるが、卒業後も住み続ける予定
- 6 県外出身であり、新潟県以外で暮らしてきたが、就職のタイミング又は社会人になった後で新潟県に移住 (I ターン) した
- 7 その他 ()

問 2-2 問 2-1 で、選択肢「3」「5」「6」と回答した方だけにお聞きします。新潟県に U・I ターンした(予定する)理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|-------------------------------------|
| 1 自分(又は親・祖父母)の出身地だから | 9 広い家で生活したかったから |
| 2 家業(家)を継ぐため | 10 就職・転職を考えるタイミングと合致したから |
| 3 子育てのため | 11 テレワークによる働き方が可能になったから |
| 4 家族の介護のため | 12 新型コロナウイルス感染症の流行があったから(感染リスクを避けて) |
| 5 結婚相手が新潟県民だから | 13 家族や友人から勧められたから |
| 6 田舎暮らしへのあこがれ | 14 自らの意思ではない(家族の都合等) |
| 7 ゆとりがある生活を求めて | 15 その他 () |
| 8 都会の生活に疲れたから | |

問 2-3 問 2-1 で、選択肢「3」「5」「6」と回答した方だけにお聞きします。新潟県に転入した時点の年齢を教えてください。

() 歳

問 2-4 問 2-1 で、選択肢「3」「5」「6」と回答した方だけにお聞きします。新潟県へ転入する直前にお住まいだった都道府県を教えてください。

都道府県名 () ・ 国 外

※ 国外からの転入の場合は「国外」に○を付けてください。

《本県の危機管理体制についてお聞きします》

問3-1 令和4年4月以降、現在までに発生した県民の生命・身体・財産にとって重大と思われる災害・危機^{*}に際して、被災者救助、避難所運営、応急復旧、県民への情報提供など、本県の対応は的確に行われていたと思いますか。 (○は1つだけ)

※ 風水害・土砂災害、地震、雪害等の自然災害のほか、大規模な事故・火災等、弾道ミサイル・テロ、感染症（新型コロナウイルス感染症、新型インフルエンザ等）等を含む

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 的確だった | 4 どちらかと言うと的確でなかった |
| 2 どちらかと言うと的確だった | 5 的確でなかった |
| 3 どちらとも言えない | |

問3-2 問3-1で、主にどのような情報をもとに、そのように感じましたか。次の中から最もあてはまるものを選んでください。 (○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 自分や家族の経験から | 4 ツイッター・SNSなどから |
| 2 周囲の人の経験談等を聞いて | 5 県がホームページ等で発表した情報から |
| 3 テレビ・ラジオ・新聞等の報道から | 6 その他 () |

問3-3 問3-1で「4 どちらかと言うと的確でなかった」、「5 的確でなかった」と回答した方だけにお聞きします。

的確に行われていなかったと思うのはどのような事案についてですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1 風水害・土砂災害 | 5 弾道ミサイル・テロ等 |
| 2 地震 | 6 感染症（新型コロナウイルス感染症等） |
| 3 雪害 | 7 暑熱・熱中症 |
| 4 大規模な事故・火災等 | 8 その他 () |

問3-4 問3-1で「4 どちらかと言うと的確でなかった」、「5 的確でなかった」と回答した方だけにお聞きします。

的確に行われていなかったのはどの部分だと思いますか。 (○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| 1 避難や身を守る行動を促す情報発信 | 7 電気、電話、水道等の復旧 |
| 2 被災者の救助 | 8 道路、鉄道等の復旧 |
| 3 自ら避難することが困難な人への支援 | 9 仮設住宅等の応急住宅対策 |
| 4 道路等の被害状況の情報提供 | 10 感染症（新型コロナウイルス感染症等）に関する情報発信 |
| 5 避難所の運営 | |
| 6 自衛隊等の災害派遣 | 11 その他 () |

《災害や危機への備えについてお聞きします》

問4-1 あなたは、災害や危機に対して何か対策を講じていますか。（○は1つだけ）

1 講じている	2 多少講じている	3 講じていない
↓		↓
問4-2へ進んでください。		問4-3へ進んでください。

問4-2 問4-1で「1 講じている」、「2 多少講じている」と回答した方だけにお聞きします。

具体的にどのような対策を講じていますか。

（○はいくつでも）

1 食料・飲料水の備蓄 最低3日分（ご飯・レトルト食品等、飲料水1人当たり1日3ℓ）	7 地震・風水害などの保険・共済への加入
2 非常用の携帯トイレの備蓄 最低3日分（大人1人当たり1日5回分）	8 ハザードマップによる災害リスクの確認
3 非常時持出品の用意 飲料水、懐中電灯、ラジオの用意等	9 避難所、避難ルート、連絡場所の事前確認 避難先、安否確認の方法等を家族で確認する等
4 家具等の転倒・落下による被害の防止 転倒しやすい家具等の近くを避けた場所での就寝、家具等の固定等	10 地域での防災活動への参加 防災訓練や防災講演会などへの参加等
5 ブロック塀・植木鉢等の倒壊・落下の防止 ブロック塀の補強・撤去、植木鉢等を落下しやすい場所に置かない等	11 防災に関する情報をスマートフォン・携帯電話で容易に入手できるようにしている スマートフォンアプリ（新潟県防災ナビ、Yahoo!防災速報 等）の利用、市町村の防災メールサービス登録、防災に関するSNSのフォロー等
6 住宅の耐震化	12 その他（ ）

《消費者被害についてお聞きします》

問5-1 あなたは、この1年以内に、商品・サービスの購入（店舗販売、インターネット販売等、販売形態は問わない）について次のような経験がありますか。

（ア）～（ク）のそれぞれについて、当てはまるものをお選びください。

（ア）～（ク）それぞれに○は1つだけ

（ア）	商品の機能・品質やサービスの質が期待よりかなり劣っていた	1 ある	2 ない
（イ）	表示・広告と実際の商品・サービスの内容がかなり違っていた	1 ある	2 ない
（ウ）	けが、病気をする等、安全性や衛生面に問題があった	1 ある	2 ない
（エ）	思っていたよりかなり高い金額を請求された	1 ある	2 ない
（オ）	問題のある販売手口やセールストークにより契約・購入した	1 ある	2 ない
（カ）	契約・解約時のトラブルにより被害に遭った	1 ある	2 ない
（キ）	詐欺によって事業者にお金を払った（又はその約束をした）	1 ある	2 ない
（ク）	その他の消費者被害の経験	1 ある	2 ない

問5-2 あなたは、消費生活に関して被害やトラブルに遭ったとき、どう対処しますか。

（○はいくつでも）

1 身近な人（家族、友人、同僚等）に相談する	4 事業者にお問い合わせたり、交渉する
2 行政窓口（県、市町村の消費生活センター（消費相談窓口）、警察等）	5 その他 ()
3 SNSやインターネットを利用して解決策を探る	6 特になにもしない

問5-3 あなたは、県消費生活センターもしくは市町村の消費生活センター（市町村の消費相談窓口を含む）※を知っていますか。

※消費生活に関するトラブルなどの相談窓口であり、専門相談員や行政職員が相談に応じるほか、事業者間のあっせん（交渉）、啓発講座なども行うことがあります。
（○は1つだけ）

1 名前も活動内容も知っている
2 名前は聞いたことがある
3 まったく知らない

《環境についてお聞きします》

問6-1 あなたは、現在住んでいる地域の環境に関する次の①から③の項目について、満足していますか、それとも不満ですか。それぞれの項目ごとに一番近いものを選びください。
(①～③それぞれに○は1つだけ)

	満足している	ほぼ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である
① 自然環境 ^{※1}	1	2	3	4	5
② 身近な生活環境 ^{※2}	1	2	3	4	5
③ 資源を大切に作る社会 ^{※3}	1	2	3	4	5

※1「自然環境」とは、海、河川、湖沼などの豊かさや、山、森林の豊かさ、動植物の多様さ、自然との親しみやすさ、自然景観の美しさなどを指しています。

※2「身近な生活環境」とは、空気や水(海、河川、湖沼)のきれいさ、お住まいの地域の静けさや清潔さ、不快なおいのなさ、地盤沈下のなさ、身近な公園などの緑の豊富さなどを指しています。

※3「資源を大切に作る社会」とは、日常生活や産業活動の中で、ごみをできるだけ出さず、もの(資源)を繰り返し使用したり、分別してリサイクルを進めたりする状況を指しています。

問6-2 問6-1の「①自然環境」において、「1 満足している」、「2 ほぼ満足している」と回答した方だけにお聞きします。
特に満足している理由は何ですか。(○は2つまで)

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 1 開発などが少なく、豊かな自然が守られているから | 5 自然公園や遊歩道などの整備が進んでいるから |
| 2 希少野生動植物の保護対策が進んでいるから | 6 野生鳥獣による被害が少ないから |
| 3 外来種などが生態系に影響を与えている事例が少ないから | 7 地域での自然環境の保全活動が進んでいるから |
| 4 自然公園など自然と親しみやすい場所が多く、アウトドア活動を楽しめるから | 8 他の地域の自然環境と比べ自然が豊かだから |
| | 9 その他 () |

問6-3 問6-1の「①自然環境」において、「3どちらとも言えない」、「4やや不満である」または「5 不満である」と回答した方だけにお聞きします。
特に満足していない理由は何ですか。 (○は2つまで)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 開発などにより豊かな自然が損なわれているから | 5 自然公園や遊歩道などの整備が進んでいないから |
| 2 希少野生動植物の保護対策が進んでいないから | 6 野生鳥獣による被害が多いから |
| 3 外来種などが生態系に影響を与えているから | 7 地域での自然環境の保全活動が進んでいないから |
| 4 自然公園など自然と親しみやすい場所が少ないから | 8 他の地域の自然環境とあまり変わらないから |
| | 9 その他 () |

問6-4 問6-1の「②身近な生活環境」において、「1満足している」、「2ほぼ満足している」と回答した方だけにお聞きします。
満足しているとした理由は何ですか。 (○は2つまで)

- | | |
|--------------------------------------------|-----------------------------|
| 1 排出ガスや煙などの影響が少なく、空気がきれいだから | 6 地下水利用などによる地盤沈下が感じられないから |
| 2 工場排水や生活排水の汚れが少なく、水（海、河川、湖沼、地下水など）がきれいだから | 7 身近な公園などの緑が豊かだから |
| 3 工場や事業所などの騒音・振動が少なく、静かだから | 8 工場や事業所などからの油流出などの事故が少ないから |
| 4 自動車や公共交通機関などの騒音・振動が少なく、静かだから | 9 特に不満を感じていないから |
| 5 工場や事業所などからの不快なおいがないから | 10 その他 () |

問6-5 問6-1の「②身近な生活環境」において、「3どちらとも言えない」、「4やや不満である」または「5 不満である」と回答した方だけにお聞きします。
満足していないとした理由は何ですか。 (○は2つまで)

- | | |
|-------------------------------------------|----------------------------|
| 1 排出ガスや煙などの影響が多く、空気がきたないから | 6 地下水利用などによる地盤沈下が気になるから |
| 2 工場排水や生活排水の汚れが多く、水（海、河川、湖沼、地下水など）がきたないから | 7 身近な公園などの緑が少ないから |
| 3 工場や事業所などの騒音・振動が大きく、うるさいから | 8 工場や事業所などからの油流出などの事故が多いから |
| 4 自動車や公共交通機関などの騒音・振動が大きく、うるさいから | 9 その他 () |
| 5 工場や事業所などからの不快なおいがあるから | |

問 6 - 6 **すべての方にお聞きします。**

あなたが気になる気候変動の影響は何ですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| 1 農林水産物への影響 | 7 雪の降り方の変化、雪害 |
| 2 水質の悪化 | 8 海面上昇による被害 |
| 3 水不足 | 9 熱中症による健康への影響 |
| 4 桜の開花時期など周囲の植物の変化 | 10 観光・レジャーへの影響 |
| 5 鳥・獣・魚・昆虫の種類・生息域など
周囲の動物の変化 | 11 その他 () |
| 6 巨大な台風や豪雨による被害 | 12 特になし |

問 6 - 7 **すべての方にお聞きします。**

本県の豊かな環境を将来世代に引き継ぐために、行政の役割として重要だと思うことは何ですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 1 森林、河川、海、里山などの多様な自然環境の保全 | 7 大型風力発電やメガソーラー施設等の導入にあたっての、自然・生活環境への適切な配慮の促進 |
| 2 希少野生動植物の保護や外来種（アライグマ、ヒアリなど）の対策 | 8 使い捨てプラスチックの使用削減、食品ロス削減など 3 R の取組の推進 |
| 3 クマやイノシシ、ニホンザルなどの有害鳥獣対策 | 9 廃棄物の適正な処理の促進、不法投棄防止対策 |
| 4 自然公園など自然と親しめる場所の適切な整備・維持 | 10 風水害、雪害、暑熱、農業被害など気候変動による被害への対策 |
| 5 水・大気・土壌の汚染防止対策など生活環境の保全 | 11 環境教育や普及啓発の推進 |
| 6 省エネや省資源、再生可能エネルギーの地産地消など地球温暖化防止活動の促進 | 12 その他 () |

《拉致問題についてお聞きします》

政府認定の拉致被害者は現在 17 名。そのうち 2002 年に 5 名が帰国しましたが、12 名は安否不明（本県関係者は 2 名）であり、今日まで目に見える進展はありません。その間、拉致被害者もそのご家族もご高齢となり、拉致問題の解決には一刻の猶予も許されない状況です。また、北朝鮮による拉致の疑いのあるいわゆる特定失踪者（本県関係者は 6 名）も含め、拉致の疑いが排除できない方々も多数おられます。

拉致問題は政府の外交交渉により解決が図られるものですが、私たち県民が拉致問題に関心を持ち、理解を深め、解決を求める世論を高めることが、問題の解決に向けた政府の取組の力強い後押しとなります。

問 7 - 1 あなたは、拉致問題について、どの程度関心をお持ちですか。

(○は1つだけ)

- 1 大いに関心がある
- 2 少しは関心がある
- 3 あまり関心がない
- 4 まったく関心がない

問 7 - 2 政府では、拉致問題啓発のために「国民の集い」の開催やパンフレット・ポスターの作成配布など様々な取組を行っていますが、このような政府の取組をどのように思いますか。

(○は1つだけ)

- 1 たいへん評価できる
- 2 まあ評価できる
- 3 どちらとも言えない
- 4 あまり評価できない
- 5 まったく評価できない
- 6 政府の取組について、まったく知らない

問 7 - 3 県では、拉致問題啓発のために次のような取組を行っていますが、知っているものをお選びください。

(○はいくつでも)

- 1 拉致問題への関心を持続けるための「忘れるな拉致 県民集会」の開催
- 2 大学生、PTA、小・中学生、高校生を対象とした「拉致問題啓発セミナー」の開催
- 3 拉致問題を考えるパネル展の開催
- 4 映画「めぐみー引き裂かれた家族の 30 年」、「めぐみへの誓い」の映写会の開催
- 5 拉致問題啓発のパンフレットの作成・配布
- 6 県ホームページでの広報
- 7 新潟県拉致問題の X (旧 Twitter) による広報
- 8 テレビ、ラジオ放送による広報
- 9 県が定める「新潟県拉致問題等啓発月間 (毎年 11 月)」
- 10 まったく知らない

問7-4 拉致問題啓発のために県が実施している取組（問7-3参照）について、どのように思いますか。

（○は1つだけ）

- 1 たいへん評価できる
- 2 まあ評価できる
- 3 どちらとも言えない
- 4 あまり評価できない
- 5 まったく評価できない

《子育て環境についてお聞きします》

問8-1 あなたは、現在住んでいる地域の子育て環境について、どのように思っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 とても子育てがしやすいと思う | 4 どちらかと言えば子育てがしやすいと思わない |
| 2 どちらかと言えば子育てがしやすいと思う | 5 子育てがしやすいと思わない |
| 3 どちらとも言えない | |

問8-2 伸び伸びと子どもを生き育てられる環境の実現に向け、あなたが特に力を入れてほしいものを、次の中から3つ選んでください。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------------------|
| 1 妊娠から出産、子育てに及ぶ母子保健サービスや医療体制の充実 | 7 男性が子育てや家事に関わるための意識啓発 |
| 2 延長保育、病児保育、放課後児童クラブなど、子育て支援の充実 | 8 虐待や貧困問題、施設や里親家庭で暮らす子どもなど、きめ細かな対応が必要な子どもへの支援 |
| 3 保育施設の整備、保育人材の確保など、保育環境の充実 | 9 ひとり親家庭の自立支援 |
| 4 子どもが集える施設等の整備・充実 | 10 子育て家庭の経済的負担の軽減 |
| 5 地域における子育ての情報提供や相談体制の整備 | 11 社会全体で子育てを応援する気運の醸成 |
| 6 子育てしながら働き続けられる職場環境づくり | 12 その他 () |

問8-3 あなたにとって、①理想の子どもの数は何人ですか。また、②現実的に考えた時の子どもの数(現在の子どもの数+予定子どもの数)は何人ですか。それぞれの項目の人数に○をつけてください。(①、②それぞれに○は1つだけ)

① 理想の子どもの数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上
② 現実的に考えた時の子どもの数 (現在の子どもの数+予定子どもの数)	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上

問8-4 問8-3で「②現実的に考えた時の子どもの数」の方が下回っている方だけにお聞きします。

差が生じている理由として、あなたのお考えに近いものを次の中から3つ選んでください。(○は3つまで)

- | | |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1 子育てや教育にお金がかかりすぎるから | 8 配偶者の家事・育児への協力が得られないから |
| 2 自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから | 9 一番末の子が自分または配偶者の定年退職までに成人してほしいから |
| 3 家が狭いから | 10 配偶者が望まないから |
| 4 高年齢で産むのはいやだから | 11 子どもがのびのび育つ社会環境でないから |
| 5 欲しいけれどもできないから | 12 自分や夫婦の生活を大切にしたいから |
| 6 健康上の理由から | 13 その他 |
| 7 これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから | () |

《人権問題についてお聞きします》

問9-1 あなたは、この2、3年の間、「人権問題」や「人権が侵害された」といったニュースや報道について、気になったことはありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 よくあった | 3 あまりなかった |
| 2 ときどきあった | 4 全くなかった |

問9-2 あなたは、人権を尊重することについて、どのように思っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 とても大切だと思う | 3 どちらかと言えば大切だと思わない |
| 2 どちらかと言えば大切だと思う | 4 大切だと思わない |

問9-3 この2、3年の間、あなたやあなたの身の回りで、「人権の問題がある」と思ったことはありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 よくあった | 3 あまりなかった |
| 2 ときどきあった | 4 全くなかった |

問9-4 あなたは、現在、どのような分野で「人権の問題がある」と思いますか。次の中からあてはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 1 女性 | 12 性的指向
性的欲求や恋愛感情が向く対象がどのような相手なのかを示す概念です。 |
| 2 子ども | 13 性自認
自分の性をどのように認識しているのかを示す概念です。 |
| 3 高齢者 | 14 アイヌの人々 |
| 4 障害者 | 15 ホームレス |
| 5 同和問題 | 16 東日本大震災に起因する偏見や差別 |
| 6 外国人（ヘイトスピーチを含む） | 17 インターネットによる人権侵害 |
| 7 感染症患者（エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病患者・快復者、新型コロナウイルス感染症患者及び関係者など） | 18 その他
() |
| 8 新潟水俣病被害者 | |
| 9 北朝鮮による拉致被害者 | |
| 10 犯罪被害者やその家族 | |
| 11 刑を終えて出所した人 | |

《家事・育児等についてお聞きします》

問 10 あなたが家事^{※1}に費やす時間は直近1か月で1日平均何分ですか。
(家事をしていない場合は「0分」とお答えください)

() 分

※家事の例：食料品や日用品の買い出し、食事の用意（調理）、食事の後片付け（食器洗い）、部屋の掃除や片付け、風呂の掃除、洗濯物干し、洗濯物のとりこみ・たたむ、ゴミ出し など

《社会活動（社会貢献）[※]についてお聞きします》

※「社会活動（社会貢献）」

ここでは、町内会や集落における地域活動、ボランティア活動、NPO活動など、広く社会貢献となる活動を指しています。ただし、職業として行っているものは除きます。

問 11-1 あなたは、過去1年間に、1～11の社会活動（社会貢献）に参加しましたか。
参加したものをすべてお選びください。

(○はいくつでも。ただし、参加していない場合、○は12のみ)

- | | | |
|----|----------------------|------------------------------------------------------------|
| 1 | 清掃・美化・地域活性化のための活動 | … 地域の清掃活動、地域のお祭りなどの行事の運営・協力、海岸清掃、植栽などの美化活動、まちおこし など |
| 2 | 安全・安心な生活のための活動 | … 交通安全運動、消防団活動、防災活動、防犯活動、除雪ボランティア など |
| 3 | 自然や環境を守るための活動 | … 森林や緑を守る活動、リサイクル活動、食品ロス削減 など |
| 4 | スポーツ・文化・学術・芸術に関係した活動 | … スポーツの指導、ボランティアガイド、地域文化の保存活動 など |
| 5 | 子どもに関係した活動 | … 子ども会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝い、子ども食堂の運営・協力、子どもの見守り活動など |
| 6 | 健康や医療サービスに関係した活動 | … 献血、入院患者の話し相手 など |
| 7 | 高齢者を対象とした活動 | … 日常生活の手助けや見守り、高齢者福祉施設でのレクリエーションなど |
| 8 | 障害者を対象とした活動 | … 手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力 など |
| 9 | 災害に関係した活動 | … 被災地への救援物資の提供、被災地でのボランティア活動 など |
| 10 | 国際協力に関係した活動 | … 海外支援協力、日本にいる外国人への支援活動 など |
| 11 | その他 | … 募金への協力、寄附（洋服や不用品、公益団体等への寄附、フードバンクへの食品の提供等）、人権を守るための活動 など |
| 12 | 社会活動（社会貢献）に参加しなかった | …▶ 問 11-4へ進んでください。 |

問 11-2 問 11-1 で 1～11 と回答した方だけにお聞きします。

どこかの団体などに加入して社会活動（社会貢献）を行いましたか。

（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 町内会や集落などの地縁団体 | 4 その他の団体・組織 |
| 2 ボランティアを目的とするクラブ・サークル、団体など | 5 団体などに加入しなかった（個人で行った） |
| 3 NPO法人（特定非営利活動法人） | |

問 11-3 問 11-1 で 1～11 と回答した方だけにお聞きします。

社会活動（社会貢献）に参加した理由は何ですか。

（○はいくつでも）

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1 社会の役に立ちたいと思ったから | 4 職場の取組の一環として |
| 2 自己啓発や自らの成長につながると考えるため | 5 知人や同僚等からの勧め |
| 3 自分や家族が関係している活動への支援 | 6 近所とのおつきあい |
| | 7 その他（ ） |

問 11-4 問 11-1 で「12 社会活動（社会貢献）に参加しなかった」と回答した方だけにお聞きします。

社会活動（社会貢献）に参加しなかった理由は何ですか。

（○は3つまで）

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1 参加する時間がない | 6 参加者を受け入れる団体等に不安がある |
| 2 参加するための休暇が取りにくい | 7 一緒に参加する人がいない |
| 3 社会活動（社会貢献）に関する十分な情報がない | 8 社会活動（社会貢献）に関心がない |
| 4 参加するための手続きがわかりにくい | 9 その他（ ） |
| 5 参加する際の経費（交通費等）の負担 | |

《魅力的な生活環境の創出に向けたまちづくりについてお聞きします》

問 12-1 あなたは、現在お住まいのまち（市区町村）は魅力的だと感じていますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 感じている | 3 どちらかと言えば感じていない |
| 2 どちらかと言えば感じている | 4 感じていない |

問 12-2 問 12-1で「1 感じている」、「2 どちらかと言えば感じている」と回答した方だけにお聞きします。

あなたは、現在お住まいのまち（市区町村）の魅力をどんなところで感じますか。
(○は2つまで)

- | |
|------------------------------------|
| 1 中心市街地などの地域の中心部に活気があり、にぎわっていること |
| 2 学校や商店、医療・福祉施設等が近くにあり、利用しやすいこと |
| 3 美しい街なみや歴史的建造物があるなど、景観がよいこと |
| 4 緑があふれ、公園や広場があるなど、うるおいや憩いの空間があること |
| 5 水害や地震など災害時の備えが明らかであり、安心できること |
| 6 その他 () |

問 12-3 すべての方にお聞きします。

あなたは、現在お住まいのまち（市区町村）の魅力を高めるために、どのようなところに力を入れたいと思いますか。
(○は2つまで)

- | |
|-------------------------------------------|
| 1 中心市街地などの地域の中心部ににぎわいのある拠点をつくること |
| 2 生活に必要な施設を利用しやすいように、利便性の良い場所に誘導すること |
| 3 雑然とした街なみを整えるなど、景観をよくすること |
| 4 緑化の推進、公園や広場の利活用などにより、うるおいや憩いの空間づくりを行うこと |
| 5 減災対策、避難計画の周知などにより、災害へ備えること |
| 6 その他 () |

《定住意向についてお聞きします》

問 13-1 あなたは、現在住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。
(○は1つだけ)

- 1 住み続けたい
- 2 どちらかと言えば住み続けたい
- 3 どちらとも言えない

問 13-4 へ進んでください。

- 4 どちらかと言えば他の地域に移りたい
- 5 他の地域に移りたい

問 13-2 以下へ進んでください。

問 13-2 問 13-1 で「4 どちらかと言えば他の地域に移りたい」、「5 他の地域に移りたい」と回答した方だけにお聞きします。
移りたいと思う地域はどこですか。(○は1つだけ)

- 1 現在住んでいる市町村内の他の地域
- 2 県内の他市町村
- 3 県外
- 4 特に考えていない

問 13-3 問 13-1 で「4 どちらかと言えば他の地域に移りたい」、「5 他の地域に移りたい」と回答した方だけにお聞きします。
移りたいと思う理由は何ですか。(○は3つまで)

- 1 希望する仕事や職場のある地域で暮らしたい
- 2 希望する学校のある地域で暮らしたい
- 3 買い物や文化・娯楽を楽しめる地域で暮らしたい
- 4 病院や福祉サービスなどが充実した地域で暮らしたい
- 5 災害や雪の少ない地域で暮らしたい
- 6 他の地域に住んでいる家族と同居もしくは近くで暮らしたい
- 7 その他 ()

問 13-4 すべての方にお聞きします。
あなたは、新潟県に愛着や誇りを感じていますか。(○は1つだけ)

- 1 愛着や誇りを感じている
- 2 どちらかと言えば愛着や誇りを感じている
- 3 どちらとも言えない
- 4 どちらかと言えば愛着や誇りを感じていない
- 5 愛着や誇りは感じていない

問 13-5 すべての方にお聞きします。

あなたは、現在住んでいる地域に愛着や誇りを感じていますか。

(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 愛着や誇りを感じている | 4 どちらかと言えば愛着や誇りを感じていない |
| 2 どちらかと言えば愛着や誇りを感じている | 5 愛着や誇りは感じていない |
| 3 どちらとも言えない | |

問 13-6 すべての方にお聞きします。

あなたは、現在住んでいる地域に自分の子どもなど若者に住み続けてほしいと思えますか。(進学等で地域を離れている場合、戻って来てほしいと思えますか。)

(○は1つだけ)

- | |
|---------------------------------|
| 1 住み続けて(戻って来て)ほしい |
| 2 どちらかと言えば住み続けて(戻って来て)ほしい |
| 3 どちらとも言えない |
| 4 どちらかと言えば住み続けて(戻って来て)ほしいとは思わない |
| 5 住み続けて(戻って来て)ほしいとは思わない |

問 13-7 問 13-6で「4 どちらかと言えば住み続けて(戻って来て)ほしいとは思わない」、「5 住み続けて(戻って来て)ほしいとは思わない」と回答した方だけにお聞きします。

住み続けて(戻って来て)ほしいとは思わない理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 希望する仕事や職場のある地域で暮らしてほしい | 4 病院や福祉サービスなどが充実した地域で暮らしてほしい |
| 2 希望する学校のある地域で暮らしてほしい | 5 災害や雪の少ない地域で暮らしてほしい |
| 3 買い物や文化・娯楽を楽しめる地域で暮らしてほしい | 6 その他() |

問 13-8 すべての方にお聞きします。

現在お住まいの地域で、改善されると良いと考えていることは何ですか。

(○は3つまで)

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 商店・スーパーなど商業施設が増加すること | 6 近くの山林の整備が行き届くこと |
| 2 公共交通の便数が増えるなど交通の利便性が向上すること | 7 近隣の勤め口が増加すること |
| 3 空き家の利活用が進むこと | 8 耕作されない農地が減ること |
| 4 地域のお祭りなど地域行事が活発となること | 9 住宅の手入れが進み、街並みがきれいになること |
| 5 鳥獣などによる農作物の被害が減ること | 10 公民館や集会所など身近な公共施設の修繕が行き届くこと |
| | 11 その他() |

《積雪時の対応についてお聞きします》

問 14-1 あなたは、積雪時でも、家族や地域内の助け合い、行政による支援（道路交通の確保、除雪経費の補助、安全対策の啓発等）などにより安心に暮らせていると感じますか。 (〇は1つだけ)

1 そう思う	4 思わない
2 どちらかと言えばそう思う	5 どちらともいえない
3 どちらかと言えばそう思わない	

問 14-2 積雪時でも、より安心に暮らすことができるようにするためには、どのような取組みが必要だと思えますか。 (〇はいくつでも)

1 地域内の助け合いによる雪処理支援（自宅の屋根雪下ろしや間口の除雪等）
2 行政による支援（道路交通の確保、除雪経費の補助、安全対策の啓発等）
3 雪に強い住宅づくり（克雪住宅 ^{※1} や命綱固定アンカー ^{※2} の整備等）
4 除雪ボランティアや業者等による雪処理支援
5 大雪に関する情報提供の充実（降雪量予測情報等）
6 その他（ ）

※1：人力による屋根雪下ろしの必要がないように工夫された住宅。

※2：命綱の一端を固定するために建築物の屋根に堅固に固定された金具その他これに類する設備

《雪イベント等についてお聞きします》

問 15-1 あなたやあなたの家族は、この1年間、雪に親しんだり、雪を活用した品物や施設に触れた機会はありましたか、それぞれの項目ごとに参加（行った、飲食した、利用した）の有無をお答えください。(①～⑤それぞれに〇は1つだけ)

① 雪のイベント ^{※1}	1 参加した	2 参加していない
② スキー、スノーボード	1 行った	2 行っていない
③ ①、②以外の雪遊び・レクリエーション等 ^{※2}	1 行った	2 行っていない
④ 雪を利用した食品又は商品 ^{※3}	1 飲食又は利用した	2 飲食又は利用しなかった
⑤ 雪冷熱エネルギー施設の利用 ^{※4}	1 利用した	2 利用しなかった

※1：「雪のイベント」とは、県内で行われる雪まつり、雪上花火大会等のほか、夏場の雪まつりなど、県、市町村、観光協会、町内会等が行う雪を使ったイベント全般を指しています。

※2：「①、②以外の雪遊び、レクリエーション等」とは、県内で家族や友人とのそり遊びや雪合戦、雪だるまやかまくらづくり、冬山トレッキングなど、①、②以外の雪を使った個人的な遊びや伝統文化、レクリエーション全般を指しています。（スケートなどの氷を活用したスポーツ等は含みません。）

※3：雪室で熟成させた食品（コーヒー、お茶、肉など）や雪下ニンジン、かんずり（伝統食品）など、熟成、保存に雪を利用した食品や小千谷縮（織りあげられた反物の地を白くするために雪にさらされる「雪さらし」）の着物、小物などの商品。

※4：雪冷房システム（空気調和設備の冷熱源として雪を活用したシステム）を導入した、住宅、倉庫や貯蔵施設など。

《移動手段の確保についてお聞きします》

問 16-1 あなたは、職場や学校、病院、観光など県内での移動において、自家用車や公共交通機関（鉄道やバス、タクシーなど）により、移動手段の確保が図られていると感じますか。（○は1つだけ）

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 図られている | 4 どちらかと言えば図られていない |
| 2 どちらかと言えば図られている | 5 図られていない |
| 3 どちらともいえない | |

問 16-2 普段、自家用車を利用しない方にお聞きします。

あなたは、職場や学校、病院、観光など県内での移動において、公共交通機関（鉄道やバス、タクシーなど）の利便性について、どのように感じますか。（○は1つだけ）

- | | |
|-------------|------------|
| 1 とても便利である | 4 不便である |
| 2 便利である | 5 著しく不便である |
| 3 どちらともいえない | |

《教育についてお聞きします》

問 17-1 あなたは、こどもたちの確かな学力の育成や魅力ある学校づくりなど、「一人一人の個性や能力を伸ばす教育[※]」に関する取組について、どのように感じていますか。(○は1つだけ)

- 1 十分であると感じている
- 2 どちらかと言えば十分であると感じている
- 3 どちらかと言えば不十分であると感じている
- 4 不十分であると感じている

※県教育委員会では、「一人一人の個性や能力を伸ばす教育」として、次のような取組を行っています。

- ①こどもたちの確かな学力の育成、②教員確保の取組、③学びにおける ICT の活用、④教員の資質能力の向上、⑤魅力ある学校づくり、⑥グローバル社会に対応した教育の推進、⑦私学教育の振興、⑧キャリア教育(自分の将来を設計し自立して生きていく力等の育成)の推進

問 17-2 問 17-1 で「1 十分であると感じている」又は「2 どちらかと言えば十分であると感じている」と回答した方だけにお聞きします。

十分であると感じた取組は、どの取組ですか。(○はいくつでも)

- 1 こどもたちの確かな学力の育成
- 2 教員の資質能力の向上
- 3 学びにおける ICT の活用
- 4 キャリア教育(自分の将来を設計し自立して生きていく力等の育成)の推進
- 5 グローバル社会に対応した教育の推進
- 6 教員確保の取組
- 7 魅力ある学校づくり
- 8 私学教育の振興
- 9 その他 ()

問 17-3 問 17-1 で「3 どちらかと言えば不十分と感じている」又は「4 不十分であると感じている」と回答した方だけにお聞きします。

不十分であると感じた取組は、どの取組ですか。(○はいくつでも)

- 1 こどもたちの確かな学力の育成
- 2 教員の資質能力の向上
- 3 学びにおける ICT の活用
- 4 キャリア教育(自分の将来を設計し自立して生きていく力等の育成)の推進
- 5 グローバル社会に対応した教育の推進
- 6 教員確保の取組
- 7 魅力ある学校づくり
- 8 私学教育の振興
- 9 その他 ()

問 17-4 **すべての方にお聞きします。**

あなたは、新潟県教育委員会や各学校が行う教育に関する取組に関心はありますか。(○は1つだけ)

- 1 関心がある
- 2 どちらかと言えば関心がある
- 3 どちらかと言えば関心がない
- 4 関心がない

《生涯にわたる学びについてお聞きします》

問 18-1 あなたは、この1年間に、月に1回以上どのようなことを学びましたか。

(○はいくつでも。ただし、特に学んでいない場合、○は12のみ)

- 1 仕事に必要な知識・技能に関すること
- 2 インターネットの知識・技能に関すること
- 3 ボランティア活動のために必要な知識・技能に関すること
- 4 自然体験や生活体験などの体験活動に関すること
- 5 経済、地球温暖化など社会問題に関すること
- 6 健康やスポーツに関すること
- 7 料理や編み物など家庭生活に関すること
- 8 育児・教育に関すること
- 9 音楽や美術、レクリエーション活動など趣味に関すること
- 10 文学や歴史などの教養に関すること
- 11 その他 ()
- 12 特に学んでいない

問 18-2 **問 18-1で、1から11と回答した方だけにお聞きします。**

この1年間に、主にどのような場所や形態で学びましたか。

(○はいくつでも)

- 1 インターネット
- 2 公民館や生涯学習センターなど県や市町村などの公的な機関の講座・教室
- 3 カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間事業者の講座・教室、通信教育
- 4 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の講座・教室
- 5 同好者による集まり、自主サークル活動
- 6 職場の教育、研修
- 7 図書館、博物館、美術館
- 8 テレビやラジオ
- 9 書籍・新聞などの出版物
- 10 その他 ()

問 18-3 問 18-1で、1から 11 と回答した方だけにお聞きします。

学んだ成果をどのように活かしている、または活かせると思いますか。

(○はいくつでも)

- 1 仕事や就職の上で活かしている、または活かせると思う
- 2 地域や社会での活動に活かしている、または活かせると思う
- 3 家庭・日常の生活に活かしている、または活かせると思う
- 4 健康の維持・増進に役立っている、または役立てられると思う
- 5 自分の人生を豊かにしている、または豊かにできると思う
- 6 その他 ()
- 7 活かしていない、または活かせないと思う

問 18-4 問 18-1で、「12 特に学んでいない」と回答した方だけにお聞きします。

特に学んでいない理由は何ですか。

(○はいくつでも)

- 1 仕事が忙しくて時間がない
- 2 家事・育児・介護などが忙しくて時間がない
- 3 学ぶことより優先したいことがある
- 4 講座などの時間帯が希望に合わない
- 5 一緒に学ぶ仲間がいない
- 6 身近なところに学ぶ場がない
- 7 学ぶための費用がかかる
- 8 学びたい内容の講座が開設されていない
- 9 学んでも職場などから評価されない
- 10 学ぶために必要なプログラムや費用などの情報が入手できない
- 11 きっかけがつかめない
- 12 その他 ()
- 13 特に学ぶ必要がないと思っている

お答えいただきました内容を統計的に分析するため、あなたご自身のことをもう少しお聞かせください。

なお、この情報はアンケート集計以外には利用いたしません。

問 19-1 あなたの性別をお答えください。

(○は1つだけ)

1 男性

2 女性

問 19-2 あなたの年代をお答えください。

(○は1つだけ)

1 18～19歳(10代)

5 50～59歳(50代)

2 20～29歳(20代)

6 60～69歳(60代)

3 30～39歳(30代)

7 70歳以上

4 40～49歳(40代)

問 19-3 あなたのご職業をお答えください。

(○は1つだけ)

1 農林水産業(家族従事者を含む)

5 専業主婦・主夫

2 自営業・自由業(家族従事者を含む)

6 学生

3 企業、役所、団体などの正規職員

7 無職(定年退職者を含む)

4 パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など

8 その他()

問 19-4 あなたのお住まいはどちらですか。該当する番号に○をつけてください。
(○は1つだけ)

新潟市	1 北区	小千谷市	30 本庁(31以外)	上越市	54 本庁(55~87以外)	魚沼市	82 本庁(小出) (83~87以外)
	2 東区		31 片貝支所		55 安塚区		83 堀之内庁舎
	3 中央区		加茂市		32 加茂市		56 浦川原区
	4 江南区	33 本庁(34~37以外)			57 大島区		85 広神市民SC
	5 秋葉区	十日町市	34 川西支所		58 牧区		86 北部庁舎(寺岡)
	6 南区		35 中里支所		59 柿崎区		87 入広瀬会館
	7 西区		36 松代支所		60 大潟区		SC:サ-ビ°スコナー
	8 西蒲区		37 松之山支所		61 頸城区	南魚沼市	88 本庁 (89・90以外)
長岡市	9 本庁(10~19以外)	見附市	38 本庁(39以外)	62 吉川区	89 大和庁舎		
	10 中之島支所		39 今町出張所	63 中郷区	90 塩沢庁舎		
	11 越路支所	村上市	40 本庁(41~44以外)	64 板倉区	胎内市	91 本庁(92以外)	
	12 三島支所		41 荒川支所	65 清里区		92 黒川支所	
	13 山古志支所		42 神林支所	66 三和区	93 聖籠町		
	14 小国支所		43 朝日支所	67 名立区	94 弥彦村		
	15 和島支所		44 山北支所	阿賀野市	68 本庁(69~71以外)	95 田上町	
	16 寺泊支所	燕市	45 燕市		阿賀町	96 本庁 (97~99以外)	
	17 栃尾支所		46 本庁(47・48以外)			97 鹿瀬支所	
	三条市	20 本庁(21・22以外)	糸魚川市	47 能生事務所	70 京ヶ瀬支所	98 上川支所	
		21 栄サ-ビ°センター		48 青海事務所	71 笹神支所	99 三川支所	
22 下田サ-ビ°センター		49 本庁(50・51以外)		佐渡市	72 本庁(73~81以外)	100 出雲崎町	
柏崎市	23 本庁(24・25以外)	50 妙高高原支所	73 両津支所		101 湯沢町		
	24 高柳町事務所	51 妙高支所	74 相川支所		102 津南町		
	25 西山町事務所	52 本庁(53以外)	75 羽茂支所		103 刈羽村		
新発田市	26 本庁(27~29以外)	五泉市	53 村松支所		76 佐和田行政 SC	104 関川村	
	27 豊浦支所		新発田市	77 新徳行政 SC	105 粟島浦村		
	28 紫雲寺支所	78 畑野行政 SC					
	29 加治川支所	79 真野行政 SC					
	80 小木行政 SC						
	81 赤泊行政 SC	SC:サ-ビ°センター					

問 19-5 あなたは、新潟県外に1年以上住んだことはありますか。 (○は1つだけ)

1 ある ⇒ () 年 2 ない

問 19-6 あなたは、新潟県に何年住んでいますか。過去からの居住年数をすべて足した年数を、次の中から1つだけお選びください。 (○は1つだけ)

1 1年未満 2 1～5年未満 3 5～10年未満 4 10年以上

問 19-7 同居しているご家族の人数は、あなたも含めて全部で何人ですか。 (○は1つだけ)

1 1人暮らし 2 2人 3 3人 4 4人
5 5人 6 6人 7 7人以上

問 19-8 問 19-7で、「2」から「7」と回答した方だけにお聞きします。
現在、どなたと同居されていますか。あてはまるものをすべてお選びください。
(○はいくつでも)

1 配偶者	7 親
2 子 (小学校入学前の乳幼児)	8 孫
3 子 (小学生)	9 祖父・祖母
4 子 (中学生)	10 兄弟・姉妹
5 子 (高校生)	11 親族
6 子 (上記2～5以外)	12 その他 ()

最後に、県政に対してのご意見がありましたらご自由にお書きください。



回答へのご協力ありがとうございました。
ご記入いただいた調査票は 12月3日(水)までに
同封の返信用封筒に入れ、ポストへ投函ください。
(切手は不要です)